

REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA 2017

米国三大学獣医学部夏季研修レポート 2017



はじめに

1993 年、獣医学科における教育研究への効果を期待して国際交流の活性化のために国際交流検討委員会が設立された。その後 2 年の間に米国 5 大学を現地訪問する等、交渉を重ね検討を行った。最終的には米国三大学(パデュー大学、テネシー大学、ジョージア大学)と学術交流協定を締結し、1995 年 8 月に 1 回目の学生・教員の派遣が行われた。協定には 1) 獣医学科の学生に米国の臨床教育を体験する機会を設ける(参加学生には単位認定が与えられる)。2) 教員を招聘し、学生・教員に講義やセミナーをして頂く。3) 北里大学の教員の海外研修の機会を増やす。の主たる目的がある。これまでの積み重ねが今ある姿であると思いますが、受け入れ先がさらなる発展を示されていることに感謝しております。

23 年目を迎える研修も無事に終わり、同行された 3 人の先生(パデュー大学: 富岡美千子先生、テネシー大学: 角田勤先生、ジョージア大学: 石野寛和先生)には大変ご足労をおかけしました。今年度で三大学に研修された 23 人の学生(パデュー大学: 10 名、テネシー大学: 7 名、ジョージア大学: 6 名)を加えると延べ 508 名の研修生となり、記念に残る研修となった。無論長い歴史の中で各

人の体験は個々のものであるが、この歴史を肌で感じることもあったのではなかろうか。研修の目的は米国での臨床現場を体験することであるが、多くの方々のもてなしを受け、さらなる視野が拓けたことと思う。

今年度はテネシー大学から招聘教員として Jerugen Schumacher 教授、研修学生として Hana Henry (3 年生) さん、パデュー大からは研修生として Cristi Crow (2 年生) が来学された。また、パデュー大から Jan Hawkins 教授を招聘する予定である。招聘教員や研修学生には学生や教員との交流ばかりでなく、少しばかり日本の文化にも親しんで頂いている。

この報告書は 23 回目を迎えることになるが、学生一人ひとりの貴重な体験ばかりでなく、この交流の歴史を紡ぐ一助になって欲しいと切に願います。最後になりますが、学生諸君の今後の発展を願うと共に、この交流が今後も学生達に大きな「夢」と「希望」を与え続けることができることを期待して巻頭の言葉とさせていただきます。

2017 年 9 月 20 日

獣医学科国際交流委員長 折野宏一

これまでの米国 3 大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997. 6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998. 6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999. 9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000. 6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001. 10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
	(Cancelled due to 9.11 terror)		
2002. 11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003. 11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004. 6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005. 11	Dr. Sophie A. Lelièvre	Associate Professor (2010)	Basic Medical Sciences
	Amanda Cole(2005.7)	Student	
2006. 5	Maria Littles	Student	
2007. 10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008. 11	Dr. Abdelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences
			Director of International Program
	Dr. Shulma I Mohammed	Associate Professor	Cancer Biology
2009. 5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009. 10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010. 7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery
2011. 11	Dr. Sophie Lelievre	Associate Director	Discovery Groups
	Joshua Taylor(2011.7)	Student	
2012. 10	Dr. Daniel Hogan	Associate Professor	Cardiology
2012. 10	Dr. Norie Parnell	Clinical Associate Professor	Small Animal Internal Medicine
2013. 11	Dr. Annette Lister	Associate Professor	Veterinary Clinical Science
2014. 11	Dr. Tomohito Inoue	Clinical Associate Professor	Anesthesiology
2015. 6	Dr. Joanne Messick	Professor	Veterinary Clinical Pathology
2016. 10	Dr. Paula Johnson	Clinical Assistant Professor	Emergency Clinical Care
2017. 6	Kristi Crow	Student	

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995. 9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996. 11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997. 11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998. 6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999. 6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000. 6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Internal Medicine
2001. 6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003. 1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
	(Cancelled due to Iraq war)		
2004. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2005. 11	Dr. Sarel R Van Amstel	Professor	
2010. 6	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology
2011. 10	Dr. Edward Ramsay	Professor	Avian & Zoological Medicine
2017. 6	Dr. Juergen Schumacher	Professor, Head(Small Animal Clinical Sciences)	Avian & Zoological Medicine
			Emergency Clinical Care
2017. 5	Hana Mariko Henry	Student	

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997. 5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease
1999. 1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000. 11	Dr. Margarethe Hoenig	Professor	Physiology and Pharmacology
2001. 12	Dr. Raghubir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003. 1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004. 1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005. 1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006. 6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006. 6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007. 9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008. 9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008. 11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009. 10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010. 2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011
			+CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)
2014. 7	Dr. Mary Hondalus	Associate Professor	Infectious Disease

米国三大学研修参加者および同行教員

年度	Purdue			Tennessee			Georgia		
	Students		Faculty	Students		Faculty	Students		Faculty
	男 M	女 F		男 M	女 F		男 M	女 F	
1995	2	3	I. Hashimoto	5	5	K. Watanabe	3	0	K. Temma
1996	0	6	T. Ogasawara	3	11	Y. Hikasa	0	5	K. Takehara
1997	1	4	To. Oyamada	0	7	Y. Ohnami	3	2	H. Madarame
1998	2	4	S. Ueno	2	6	Nobu. Itoh	2	4	S. Okano
1999	2	5	H. Itoh	1	7	S. Kawamura	3	4	S. Kurusu
2000	1	8	Y. Hara	3	5	M. Uechi	3	4	N. Maehara
2001	7	5	F. Hoshi	4	4	N. Susa	2	5	K. Mutoh
2002	2	8	I. Sakonju	2	2	S. Takai	2	5	K. Orino
2003	3	6	N. Hoshi	2	5	S. Higuchi	1	4	M. Kawaminami
2004	3	5	U. Fukushima	3	4	M. Natsuhori	2	5	H. Ikadai
2005	6	3	K. Taniguchi	4	5	T. Sano	2	5	O. Hashimoto
2006	6	3	K. Watanabe	1	6	C. Baku	3	5	T. Andoh
2007	3	4	M. Oikawa	0	8	T. Kakuda	0	8	M. Okamura
2008	3	4	Nao. Itoh	2	4	Y. Hara	3	3	K. Takehara
2009	4	3	T. Yonezawa	5	3	To. Oyamada	3	5	Y. Ohnami
2010	2	4	Y. Yoshikawa	4	3	T. Kashimoto	0	8	T. Kakizaki
2011	3	4	T. Taoda	3	5	T. Takano	4	4	T. Tanabe
2012	5	3	Y. Shimamoto	5	2	Y. Hori	6	2	K. Yoshioka
2013	4	5	M. Okada	4	3	S. Kurusu	3	5	K. Orino
2014	3	2	S. Iwai	2	4	S. Chikazawa	2	2	M. Natsuhori
2015	6	2	K. Maeda	4	4	Y. Maeda	7	2	N. Sasaki
2016	4	4	R. Terashima	3	4	R. Kamata	3	6	S. Wada
2017	5	5	M. Tomioka	3	4	T. Kakuda	1	5	H. Ishino

Purdue University Veterinary Medicine 2017. 8. 12 - 26



Dr. Tomioka, Ms. Fukuzawa, Ms. Miyauchi, Ms. Hayashi,
Ms. Yokoya, Ms. Oku, Dr. Salisbury, Mr. Iwatsuki,
Mr. Masuko, Mr. Kusashima, Mr. Mori, Mr. Asakawa

参加者一覧

同行教員：富岡美千子 MICHIKO TOMIOKA

氏名	Name	所属研究室
浅川 晃士	KOJI ASAKAWA	獣医生理学
岩月 照忠	TERUNARI IWATSUKI	大動物臨床学
奥 美帆	MIHO OKU	獣医解剖学
林 奈名子	NANAKO HAYASHI	獣医臨床繁殖学
福澤 真由子	MAYUKO FUKUZAWA	獣医放射線学
宮内 宏美	HIROMI MIYAUCHI	人獣共通感染症学
森 賢佑	KENSUKE MORI	小動物第一内科学
横家 舞	MAI YOKOYA	獣医薬理学
草嶋 悠介	YUSUKE KUSAJIMA	獣医内科学
増子 隆康	TAKAYASU MASUKO	大動物臨床学

浅川 晃士 Koji ASAKAWA

8月12日(土)

前日に岩月と空港近くのホテルに宿泊していたので、朝から空港内を散策した。日本円を必要な分だけアメリカドルに換金した後、出発前の最後の日本食を探した。迷った挙句、ラーメンを食べ、集合場所へ向かった。手続きを済ませて搭乗し、16時にいよいよワシントンDCへ向けて日本を発った。ワシントンでは、乗り換え時間が少ないにもかかわらず、入国手続きに行列に並ばなければならなかった。ようやく入国できると今度は次の便の搭乗口まで長い距離を走らなければならなかった。そのため、空港内の様子をゆっくりと見る時間もなく、アメリカに來たんだと実感する間もなくインディアナポリスに到着した。空港では、トモ先生とウィルが迎えに来てくれていた。荷物が届かなかった人がいたので、着替えなど必要なものをスーパーで買ってからアパートへ向かった。

8月13日(日)

朝食は用意してもらっていたマフィンとフルーツだった。まだアメリカ食に慣れていない自分には、この甘すぎるマフィンを朝から食べなければならぬ状況は割と辛かった。大学周辺のダウントウンを少し案内してもらった後、Colombian Park Zooに行った。ここは入場料無料の小さな動物園だった。ヤギと触れ合えるコーナーがあり、かわいい子ヤギたちにエサをあげたりすることができた。昼食はFive Guy'sというハンバーガー屋でとることにした。ここでは中に挟むものを自分で選べるようになっていた。本場のハンバーガーはとてもおいしかった。この後、Walmartというスーパーで1週間分の朝食と昼食の買い出しをした。夕食はWelcome Dinnerということで学部長や病院長など先生方とステーキハウスで食事をした。ここで驚きだったのは塩味の効いたピーナッツがおいてあり、殻を床に落とすんだと教えられたことだった。日本ではまずありえないこの状況にカルチャーショックを受けたが、慣れないながらも恐る恐る殻を落としながらおいしいステーキを食べた。

8月14日(月)

病院でプログラムの説明を受けながら朝食をとった。その後まず、病院内の案内をもらった。病院内は増築を繰り返したらしく、1回説明されただけでは全く覚えられないほど複雑なつくりになっていた。ひと通り案内が終わったら、ウィルが本日の

ローテーションの場所へ一人ずつ連れてってくれた。

今日は神経科を見学した。神経科では神経学的検査や歩行を行うときに動物が滑ってけがをしないよう、床が滑りにくい素材になっている廊下で主に診断を行っていた。最初に斜頸と歩行異常のみられるコーギーの神経学的検査の様子を見学した。検査は主に学生が行い、所見をまとめてからドクターと相談して今後の治療方針を決めていた。次に、歩様異常のあるダルメシアンの子犬の診察を見学した。リンパ節腫大がみられ、心音は正常であった。この日は診察時間の終わり近くにこの症例が来たため、血液検査のために採血だけ行い後日CTとMRIの検査を行うとのことだった。

8月15日(火)

本日も神経科を見学する予定であったが、10時から始まるということで時間まで行動科の見学をした。行動科では朝、その日診察する症例について話し合ったり、レジデンスが治療のポイントとなることをジャンル別にまとめて学生に紹介したりする。これが終わると午前の診察が始まるという流れで行われていた。今日の話題はこの日の症例のひとつについて、問題点や鑑別診断を整理しどのような治療を行うかを議論していた。

時間になって神経科へ行くと、まず勉強会が行われた。今日の話題は主な神経疾患にはどのようなものがあるかというものであった。学生が思いつくものを自由に発言し、それを先生が中枢神経疾患と末梢神経疾患に分けてまとめていっていた。わからない病名が少なくなかったが、一通り授業でも習っていたためわかる単語から推測して日本語名で理解できたものもあり、授業の復習にもなった。ICUには交通事故で四肢が動かなくなってしまった犬がいた。この犬はリハビリをしていたのだが、ここで少し驚いたのはリハビリ用のスペースが屋外にあったことである。そこは、柵で6、7個のスペースに分けてあり、地面は一面芝生となっていた。このような場所でリハビリする理由としては、歩けないとずっと狭いICUで1日過ごさなければならないので、リフレッシュさせるのができるということだった。

8月16日(水)

麻酔科の見学をした。行くとまずPDAの犬の麻酔準備をしていた。心音を聞かせてもらおうと、連続性雑音を聴取することができた。見学を続けていると、トモ先生がラマの症例を見せてくれるということで、まずどのような症例なのか説明してくれた。トモ先生もすべて英語だったが、理解できるまで丁

寧に説明してくれた。鼻出血が続いており CT 検査の必要があるが、出血量が多く PCV が 15% と極端に低いので麻酔をかけられるかどうか微妙なところであった。プロトコルは担当の学生が決めていたが、不備があったらしく特に注意しなければならない症例なので先生に厳しく注意されていた。プロトコルが決まるといよいよ麻酔をかけ、CT 検査を行った。この間のバギングを手伝わせてもらった。CT の結果、出血はおそらく右側の歯が感染した結果穴が開き副鼻腔に食渣がたまって炎症が起きた原因であると分かった。そのため、すぐに抜歯と食渣の除去が行われた。

夜はトモ先生やウィルたちとユニオンでボウリングをして楽しんだ。

8月17日(木)

一日行動科の見学だった。朝のカンファレンスでは行動治療の助けとなるような処方薬以外のサプリメントやスプレーなどの特徴や使い方の紹介をしていた。

午前の症例は再診のカレリアンベアドッグであった。この犬種は地元でクマ追い用の犬として利用されており馴染みがあったので、オーナーにこのことを話すと普段ペットとして飼っているのが大変驚きであると言っていた。午後の症例は猫で、おしっこをトイレでしてくれないということだった。トイレの位置を変えてみても治らず、粗相は決まって同じエリアにされているということだった。治療としてはまずいつも粗相をする場所にテープで囲いを作り、もしその範囲内でトイレを続けるのならば囲いの中に様々な床材を敷いてお気に入りの素材を見つけてあげるということで決まった。

午前も午後診察の後に緒方先生が日本語で質問に答えてくださり、わからなかったことや診察とは関係なくても今まで疑問に思っていたことが解決できた。

8月18日(金)

麻酔科の見学二日目。釧路先生が麻酔をしていた。この犬は OCD で、肘の関節鏡による手術を行うということだった。肘に神経ブロックを行っていたが、rumm block という神経ブロックだった。これは橈骨神経、尺骨神経、正中神経、筋皮神経のそれぞれをブロックする方法で、これらの頭文字をとって rumm という名前だと教えてもらった。この部位には腋下神経ブロックを行うことが多かったが、rumm block のほうが合併症が少なく安全に行えるということで最近はこちらのほうがよく行われるということだった。

お昼には用意していただいたピザを食べながらトンプソン先生のセミナーを聞いた。内容は、先生の

趣味であるハンティングや野生動物保護の話であった。先生の娘さんもハンティングが好きで小さいころからよく一緒に行っていたという話があり、文化の違い非常に驚かされた。野生動物のことは、トンプソン先生がエキゾチックアニマルの専門ということもあり、様々な野生動物の保護した経緯から麻酔方法や手術の様子など詳しい話を聞くことができた。日本ではなかなか聞くことのできない内容ばかりだったのでとても貴重な経験になったと思う。

8月19日(土)

State Fair という州のお祭りに連れてってもらった。道中はトモ先生の双子のお子さんと同じ車で、とてもなついてくれて仲良くなれたと思う。会場はとても広く、農業から工業分野など様々な分野の展示やショーが行われていた。馬の品評会で見た馬はとても大きい種類の馬で、あんなに大きいのは初めて見たので驚いた。バイクとトラックのショーでは、迫力のあるパフォーマンスと耳が聞こえなくなりそうなくらい大きな音を経験した。屋台もたくさんあって甘いジュースやカロリー満点のハンバーガーや揚げ物に舌鼓を打った。アーチェリーのできる屋台があり、5本で10ドルと日本の屋台に比べればかなり高かったが記念にやってみることにした。的がゆらゆらと動いていたので3本目までは狙いが絞れなかったが、慣れてきた4、5本目は中てることができた景品をもらえた。

夜はみんなで飲み会をした。調子に乗って人生初のテキーラを飲みすぎて、今までにないくらい酔いつぶれてしまった。死ぬほど気持ち悪かった…

8月20日(日)

昨日飲みすぎたせいでひどい二日酔いのまま1日がスタートした。今日は1番楽しみにしていたインディアナポリス動物園に行く日だったのに朝から最悪の気分、前日のことを非常に後悔していた。到着したらまず、動物園のバックヤードを見せてもらえた。動物園の手術室や検査室は初めて見る事ができた。手術室には、イルカ専用の麻酔マスクや吹き矢、麻酔銃など様々な麻酔器具が置いてあった。ほかにも今までに手術した様々な動物のレントゲン写真も見せてもらえた。どれもめったに來れないバックヤードでなければ見る事のできない貴重なものばかりで、とてもいい経験ができた。次に以前トモ先生が手術で麻酔をかけたというサイを見せてもらえた。とてもおとなしくて触ることもできた。バックヤードからはゾウも見せてもらえた。クリッカートレーニングがされているらしく、合図で足を上げたりとしつけされていた。ゾウの歯の標本があり触ることができた。

バックヤードを出たら、イルカショーを見た後自由行動となったので男子5人で動物園内を回った。日本の動物園と全く違うということもなかったが、どの展示施設もできるだけそれぞれの動物の野生環境に近い施設になるよう工夫されているように思えた。

8月21日(月)

今日から3日間は小動物内科の見学となった。初めに比べて多少は耳も慣れ、聞きたいことを質問できるようになってきた気がした。

ICUには慢性嘔吐の猫がいた。セレンアを服用しており、症状が落ち着いてきて栄養チューブを抜いていた。内科からは検査のためにほかの科に患者を連れていくこともあり、循環器科に行った症例を見れた。拡張型心筋症の猫で、エコーはあまりよく理解できなかったが心音を聞いてみるとギャロップ音が聴取できた。午後には診察を見せてもらえた。問診は学生が行っていた。二次診療なので、学生は前の病院での情報などをもとに問診の準備をしていた。

夕方、ショッピングモールに連れて行ってもらった。雰囲気は十和田イオンのような感じだった。スポーツ用品店の一角にライフルやボウガンなどハント用品があり、ここでもアメリカを感じる事ができた。

8月22日(火)

内科でも勉強会が行われていた。この日は腎不全の症例についての情報が渡され、その場で学生が治療や輸液について考え、意見を出し合っていた。学生のレベルが高いと感じた。今日の診察では心雑音のグレードVがある犬が来た。スリルがはっきりと感じられた。この症例にはほかの学生たちも興味津々であった。ICUに行くとグレートピレニーズがいた。鼻出血がありCT撮影とバイオプシーをした後で、酸素吸入のために鼻カテの挿入をしていた。

8月23日(水)

内科最終日。血液検査で肝酵素、ヘマトクリット、PCVが低下しており、レプトスピラの感染が疑われる犬がいた。処置の際は、グローブとガウンを着用して感染に対して細心の注意が払われていた。診察には慢性の咳とグレードIVの心雑音がみられ気管虚脱もある狆が来た。発咳テストは陽性であった。狆は英語でJapanese ChinというらしくJapaneseという割には日本ではマイナーな犬種だと、学生に話すとともに不思議がっていた。

夜はトモさんとウィルがBBQの準備をしてくれた。日本人の先生や台湾のレジデントがたくさん来

てくれ、病院で話せなかった人ともゆっくり雑談することができた。また、一緒にゲームもでき交流を深められた。

8月24日(木)

今日は本来神経科の見学の日であったが、以前緒方先生がもし見たければいつでも見学に来ていいとおっしゃってくださったので変更してもらい、行動科を見学させてもらった。今日は緒方先生が2件診察をしていた。どちらのケースも外の音に過敏に反応したり、散歩中にほかの犬に対して飛び上がったり攻撃性を見せるといった症状であった。診察は通常行動科専用の部屋で行うが、この日はそれに加えて問題行動が起こる様子を観察するために外に出て観察をしていた。この時に、犬の模型を使ってほかの犬が散歩している場面を作り出して、どのような反応をするのか観察していた。模型を使う利点として、本物の犬を使ったときにその犬にストレスがかかるというリスクがないといった動物福祉的な点が大きいということがあるらしかった。

8月25日(金)

とうとうローテーション最終日となってしまった。午前中に少しだけ神経科の見学をした。ICUにいた神経線維腫の術後の犬を見せてもらえた。摘出はC4-5での背側椎弓切除術によって行われたらしかった。

farwell ceremonyに出席した。終了証やマグカップ、Tシャツなどの記念品をたくさんいただいた。前に出て一人一言話さなければならなかったのだが、ただでさえ緊張するのになぜか目の前にボイスレコーダーが置かれており、さらに緊張して途中で考えていたことを忘れてしまった。式の後には軽食を頂きながら、話す機会のなかったトンプソン先生とも少し話すことができた。

アパートに戻って荷造りと掃除を終えたら、トモ先生家族とウィルたちとメキシコ料理を食べに行った。この時に、昨日作った記念のスライドショーをトモ先生たちに渡した。

8月26日(土)

朝7時にアパートを出発し、空港へ向かった。来る前には楽しみよりも不安のほうが大きく、アメリカに行くことを少し後悔すらしていたが、この時には2週間があつという間で物足りなかったと感じていた。

8月12日 Sat

成田空港に一緒に行く自分を含めた10人の学生と富岡先生と1時に集合した後、荷物の預り、荷物検査、身体検査などをすませ、16時発のワシントンD.C行きのユナイテッド航空に乗った。

飛行機の中は結構狭くて、普通にしていれば特に問題はないが、荷物をとるとき、トイレに行くときなどに非常にめんどくさく、大変だったが、機内サービスは充実しており、ワシントンに着くのはあっという間に感じた。

アメリカに行くのは高1以来だが、英語に普段から触れていない分今回の方が不安に感じていた。

ワシントンでの乗り継ぎの際、入国審査に時間をとられ、危うく飛行機に間に合わないと思われたが、なんとか航空会社の働きで飛行機にのせてもらうことができ、インディアナポリスに到着したのは夜の8時過ぎだった。ここで1つ問題が起こった。預けた荷物が届かない人が6人もいて、話によるとワシントンにあるとのことだった。幸いローテーションは月曜日からなので、それには間に合うので、大事にいたらずにすんだ。空港にはウィルさんと麻酔科のとも先生が待っていて、大学近くのアパートまで運転してくれた。アパートまでは2時間くらいあり、途中でmeijnerというスーパーによってからアパートに着いた。部屋は2人1部屋で、とても広かった。部屋には夜ご飯が用意されていて、それを食べてお風呂に入り、12時頃にねた。

8月13日 Sun

朝少し遅めに起きて、10時にウィルさんからのオリエンテーションを受けた後、学内を少し散策した。この時、ソフィアさんと初めて会い、行動を共にした。大学はとても大きくて、大学が1つの町を形成しているような雰囲気、信号機、建物、もちろん表記が英語なのを含めアメリカにきた実感が一気にわいてきた。その後、Colombian Park Zooにいった。大きさはさほどなかったものの、地球儀のモニュメントや蝶、ウサギや山羊などの小中型動物をみることができた。昼御飯には、FIVE GUYSというハンバーガー屋さんで食べた。大きさは日本よりはるかに大きいサイズでポテトも紙コップに並々入れられとても多かったがすごくおいしかった。その後、Walmartに行き、食料品を買い込んで、レストランでWelcome Dinnerが開かれ、ステーキを食べた。学部長と病院長などのお話があった後簡単な自己紹介をし、関係者とお話をしたが、英語が聞き取れず、困る場面に多々でくわした。家に帰り、明日からのローテーションに備え軽く準備をしてか

らねた。

8月14日 Mon

7時前に起きて、7時40分にアパート前に集合し、歩いて動物病院へ行き、8時から用意してもらった朝食を食べながら、病院説明会と保険の加入、MRIの動画をみて、病院内を軽く紹介してもらった。病院内はサークル状でとても広く、小動物と大動物で床の色が変わっていた。10時頃から大動物病棟にウィルに案内してもらって、クリニカルローテーションを始めた。今日は内科をみて回る予定だったが、案内してもらったのは外科の生徒さんで、場所の説明と入院棟の患畜を見せてもらった。その後に見た初めての症例は、2歳のOCDを併発している直腸膣瘻の馬で、尾椎麻酔をした後、直腸と膣の間に壁を作る手術を行っていた。その後、2週間前からの跛行の馬の跛行診断で、左後ろの跛行を確認し、骨折だと診断された。

ご飯を食べた後、ようやく内科の診察に行くことができた。大動物の病院は外科と内科で先生と生徒はわかれているものの同じ空間にいるため区別がつきにくかった。この時初めて内科の先生であるDr.Talor先生とDr.Gillian先生と挨拶した。問診は外科と内科で共通のことだが、まず生徒が飼い主にたいして問診した後、先生のところに行って説明してこの患畜の病気と処置について意見を述べ、先生と議論をして、最終的に先生が飼い主に説明するという流れだった。今回はラマで、左の鼻から膿が出ており、歯も溶けていた。すべてが終了したらパソコンに入力して終了となる。この日は14時半ごろにローテーションは終了し、15時頃からキャンパスツアーにいった。日曜日にも一部は通ったが構内はとっても広く、大学内にたくさんのお店や施設、Amazonまで入っていてアメリカのスケールを感じた。特にアームストロングさんがパデュー出身だったことには特に驚いた。その後、夜ご飯はpanda expressで中華料理を食べ、グッズショップで買い物をしてアパートに帰り、就寝した。

8月15日 Tue

今日は8時半から大動物病院全体のミーティングが行われた。患畜の牛がサルモネラ菌を保有しているとのことで、対処方法についての議論が行われた。その結果、道の制限と患畜の隔離、WARD4の原則立ち入り禁止とWARD1の立ち入り制限、また入るときはスプレーとシューズカバーの装着が義務化された。内科の診察が無い間、患畜のラマのADRのチェックと牛のチェックを行った。10時頃に跛行、神経症状ありの馬が来院し、4歳の雄で右後ろに跛行がみられた。EPMテストをあらかじめして

いて、最初に跛行診断を行った。跛行診断では広いところに出て、普通に歩く、Trot、八の字、回る目や皮膚などの神経テストを行った結果、EPM(馬原虫性脳脊髄炎)、Lyme(ライム病)が疑われるとのことで、血液検査と脊髄液の採取、頭の傷の治療をした。次に昨日から疝痛の馬をみて、ガスがたまっているのを確認した。最後に見たのは歯が悪い1歳の馬で、ワクチン接種と一緒に治療を行った。この時、自分も触らせていただいて、階状歯と斜状歯を確認できた。

夜ご飯はウィルさんとその家族と一緒にウィルさんの妻がつくってくれたご飯をアパートで食べた。ご飯はとても美味しくて、パスタやピザ風味のグラタンのようなものは最高だった。また、ウィルさんの子供がめちゃくちゃ可愛かった。その後、初のフルローテーションで非常に疲れたのと、次の日が往診で7時15分集合ということもあって早くねた。

8月16日 Wed

今日から3日間は往診で、7時15分にWARD3の奥の往診室にいった。僕が行く往診は牛の往診で、まず始めに大学が監修している乳牛の牧場に行った。道中はコーン畑ばかりで、それが永遠と続くような果てしない視界に圧倒された。ここにいる豚と牛は医学の研究に使われているらしく、シカゴとインディアナに提供していることを知った。乳牛の数はとても数えきれず、牧場内は病棟エリアが別にある、年によって区分し、飼育方も2パターンに分けて飼育していた。妊娠診断を数十頭行ったが、超音波の映像がタブレットと連携しており僕も一緒にみることができた。また、シダーを使っていた。次にいったのは大学所有の肉牛の牧場で、200頭以上の妊娠診断を1頭あたり30秒~1分ほどで行っており、また妊娠何日かを言っていた。自分にはとてもできないようなスピーディーさと正確さにとても感銘を受けた。その後に蹄病の牛にたいしてフルニキシメグルミンと抗生剤を投与した。お昼ご飯を簡単に済ませた後、別の一般家庭の農場にて鼓脹症の牛を診察し、正中尾静脈からの採血と套管針によるガス抜き、Mgを混入させたミネラルオイルの注入を行った。

夕方はスタバによった後、パピネーターという巨大ハンバーガーを食べ、ウィルさんとソフィアさんとともに一緒にみんなでボウリングを行った。その後、帰り道に寄った太陽系をモチーフにしたモニュメントでみんなで写真をとって、アパートに帰って就寝した。

8月17日 Thu

今日は元々の天気予報が雨だったため、牛の往診

はなく、馬の往診に行くことになった。往診に行く前に内科と外科の生徒たちの症例検討会におじゃましました。生化学検査、血液検査、GI testといった項目から読み取れることをそれぞれ一人ずつ発表し、先生がその都度訂正や追加のことを話す感じで、時々先生から周りの生徒にたいして質問をしたりと自分の研究室にはない取り組みが行われていた。聞いている感じは知識量の差はあまり感じなかったが一人一人しっかりとした意見を持っていた。

往診では午前には妊娠診断を2頭、午後に跛行診断を1頭行った。午前の馬は両方種がついていないという結果に終わり、午後の馬は検査の結果肩と肘の腱が悪いのと脱臼が考えられるとのことだった。病院に帰ってきてからは馬の脚のエコーをみて、骨折した馬で疝痛症状がでてきたために胃汁を出してMgSO₄を混入したものを流す処置を行っているのを見た。

夜ご飯はタイ料理屋さんにいき、辛さMaxを食べた。その後コミュニティセンターでビリヤードと卓球をして帰宅した。

8月18日 Fri

今日は牛の往診に戻り、7時15分に出発というかなりのハードな朝だった。行った場所は前回と同じ肉牛の牧場で、まず足が悪い牛にTilmicosinとフルニキシメグルミンを投与していた。前回は1ヶ所しか行かなかったからわからなかったが、牧場はものすごく広くて、1区画の移動は車で10分、何ヶ所も枒が散在していて度肝を抜かれた。そして妊娠診断を200頭以上行った。

Dr.Thompson先生のセミナーは12時からだったが、往診で20分ほど遅れてしまった。講義の内容はターキー、カワウソ、ヘビといったインドアナやミシガンにいる野生動物が怪我をしたときにたいする獣医学的な処置と麻酔、リハビリテーションの話であった。こっちの地域は狩りが盛んで、ハンターが多いこともこの時知った。

午後は往診がないので病院をまわった。仙腸関節腔の超音波と、馬の喉におけるリンパ腫にたいするダイオードレーザーで焼く処置を見た。レーザーにはCO₂、ダイオード、holmiumがあった。その後、初日に見た直腸膿瘍の馬が疝痛症状を示しているとのことで、尾椎麻酔、Mg投与を行い、糞だしをした。糞はとても固かったため後ろから水を入れて洗い流した。この馬はおそらく直腸の手術をした後肛門側の粘膜面が縫合によってギザギザになったために出すのが痛くて起こったのでは無いかと考えられた。最後に膀胱造瘻術を2月に行った山羊で、新しく小穴を作ってカテーテルを入れ直していた。

ローテーションのあとはパデューグッズがおい

ある建物で買い物して、夜ご飯は **Daily Queen** でハンバーガーを食べ、アパートに戻って就寝した。往診はほぼ先生とテクニシャンとの会話で、仲良くなれたしとても楽しかった。

8月19日 Sat

今日はインディアナの **State Fair** に行った。そこはとても広い場所で、スケールの大きさにビックリした。そこでは馬の品評会や犬の品評会、豚の展示があり、たくさんの出店があった。色々な所をみているときにオニオンリングやチキン、ハンバーガーを食べながら回った。特に驚いたのはモンスタートラックとバイクのジャンプは音といい迫力といい最高の気分になった。また、パデュー大学のブースがあって去勢などの処置が一般の方々にも見られるブースになっていてとても驚いた。その後、アパートに戻り、夜ご飯を食べて就寝した。

8月20日 Sun

今日はインディアナポリスにある動物園に行った。ともさんがこの動物園の動物と関わりがあるということで、裏口から入り、最初にサイを触らせてもらった。触感はゴムのようだった。その後、動物園の治療室の説明をうけた。施設は病院並みの充実したものがあり、大動物の処置用の器具がたくさんあった。また、麻酔銃を始めてみた。また、ゾウも触らせてもらった。治療室を回った後、実際に動物園を回った。昼はハンバーガーを食べ、たくさんの動物を見たが、動物も日本にいないものもいたが環境エンリッチメントが圧倒的に充実していて本来の動物園の形を見た気がした。動物園を出てアパートに戻った後、すしブリートというアメリカ風寿司屋に行行って巻物を食べたが、味はとても美味しかった。その後部屋に帰った。

8月21日 Mon

いつも通り朝食をすませ、大学に向かった。今日から大動物外科を見ることになっていたが、先生とかはすでに何回もみていたり話したりしていたので、特別なにか変わったことはなかった。大学自体も新しいローテーションになっていて、生徒がガラッと変わってしまったので先週頼っていた生徒はもういなくなっていて少し残念だった。跛行検査を一件見た後 **Couetil** 先生が行っているトレッドミルを見学した。トレッドミルでは乳酸値を **m/s** ごとに計測して、心電図で心肺機能を見ていた。日本には **JRA** にしか無い施設なので大学にあるということにまず驚いた。また同時にこんなに施設が充実しているアメリカの大学っていいなととても思った。その後、歯の検査をみて眼検査をした。この子は左

目が白濁していて、角膜炎と房水フレアが見られ、フルオレセイン陽性であった。また、跛行診断を1頭見てお昼を食べ、午後一番に第三眼瞼のサンプル採取を見た。その後、自分が歯の中を触った馬の歯の手術が行われた。拍動は指動脈からとっていて、歯の上の皮膚にステープラーで目印をつけてレントゲンを撮りながらデブリをして抗生剤を入れていた。歯をトンカチで叩き、なるべく歯をとらないように歯根部の感染相を円鋸で削っていた。これを両方行った。手術の間に皆既日食が見られるということで一回抜けて見た。なかなか起こらない現象なので、とても興奮した。実習の後は近くにある小さいショッピングモールに行った。その時スポーツ用品売り場で鏡が売られているのを見て単純にすごいと思った。夜ご飯は **Hooters** で食べ、アパートに帰った。

8月22日 Tue

朝大学に行き、最初は患者が来ないスケジュールだったので、テクニシャンが生徒に **i.v.** の打ち方と留置の入れ方を指導していた。左後ろが悪そうな馬と7月から跛行を示している馬の右前繫を神経ブロックした後の跛行診断を見た後、馬の前肢の **MRI** を見た。横臥させるときは壁と板で挟んで倒し、気管挿管をして台にのせて移動させた。結果はわからないというのが答えであった。その後そきほどみた跛行の馬のレントゲンを見て、ナビキュラーだと考えられると言っていた。12時頃に仔牛の体調不良をみて、13時半頃に豚の **MRI** を見た。この豚は眼が見えなくて右に旋回を示し、過大評価もあった。**MRI** では左右の濃度と大きさに差があった。その後、馬の内視鏡を見て、15時頃から腱の手術を見た。靱帯を繋げて、蹄の枕を少しカットして斜めにし、最後に鉄製の板で蹄を支えて終わった。実習が終わったら自転車を借りて **Wallmart** に行き、帰ってきてからお好み焼きを焼いて食べた。

8月23日 Wed

今日はまず最初に大きい教室で獣医学生が集まって獣医学科における日々のメンタルケア、体調管理、課題へのとりくみかたなどの講義を聞いた。内容はごく普通のことで、寝る時間とかお金の管理だとか基本的なものだった。その後、トレッドミルで月曜日と同じ内容のテストを行った。2頭目の乳酸値は高かった。その後、跛行診断を見たが、いつもと違く、機械を用いた診断を行って、左前の跛行だとわかった。蹄を削ったら出血してしまったので **Magnesium Sulfate** を塗って包帯を巻いて終わった。レントゲンをその後とったが年齢的な変化しか

なった。また、山羊の膀胱カテーテルの手術をみた。午後は馬の関節鏡のチップフラクチャーの手術を見た。鋭ひでチップをとっていた。その後、直腸腫瘍の馬の再縫合手術をみて、後肢の創傷にたいする皮膚移植をみた。首の皮膚を切って皮下織を取り除いてトリミングし、移植部の肉芽に穴を開けたところに移植し、セフトオフルを投与し、包帯とギプスで巻いた。夜はバーベキューを行い、ウィルさんやともさん、ソフィアのほかに大学テクニシャンやレジデントや生徒が来てくれて、色々な話を聞くことができた。また、ちょっとしたレクリエーション的なこともやってとても面白くて楽しかった。

8月24日 Thr

この日からまた大動物内科に戻り、最初に症例検討会を行った。その後、まずADRのラマで320ポンドから300ポンドになっていて、問診と診察を行い、血液採取をして、超音波とレントゲンをするようになった。次に見た馬は左の肺音が聞こえないとのことでエコーでみたところガンの疑いがあるとのことでX-ray検査をしたところ、小さくてたくさんあると思っていたが実はとても大きい腫瘍があって、気道を狭窄していて、内視鏡でははっきり確認できた。またリンパ腫の馬のレーザー治療も見た。午後からは慢性の疝痛を示す腎脾間膜エントラップメントの馬の手術が行われた。手術は胃の間にある脂肪のようなものをもって腹膜と脾臓をくっつけていた。夜はラフィエットの方まで歩いてステーキとイタリア料理のしゃれたお店に行った。そこで食べたステーキがとても美味しくてアメリカの最後にいいものを食べてとてもよかったと感じた。

8月25日 Fri

ローテーション最終日である今日は朝に画像診断の講義があった。4件の症例の画像から何がいえるかをディスカッションした。その後患者は来ないため、内科のカンファレンスに参加した。そこでは生徒が今か抱えている患者について今後どうしていくかを話していた。また、輸液の計算もした。この日は午前でローテーションは終了し、昼にセレモニーが開かれ研修終了の賞状が渡された。この場に世話になったパットさんとキャロライン先生が来てくださって話ができてとても嬉しかった。セレモニーのあと、お世話になった外科と内科の先生に別れの挨拶をしに行った。先生みんな僕に優しく接してくれてとても嬉しく、一緒に写真も取れてよかった。帰ってから帰りの支度をして、夜ご飯にメキシコ料理屋にともさんと奥さんとソフィアさんとウィルさんで行った。量がものすごく多くてとても食べきれなかった。この時がソフィアさんと会う最後だったの

で少し悲しかったが、満足の日だった。

8月26日 Sat

空港にてウィルさんとともさんとお別れしたあと、インディアナポリスからワシントンを経由して成田に向けて出発した。飛び立つ瞬間はとっても寂しかった。飛行機内はほとんど映画をみて過ごした。特に変わったことはなく、順調だった。

8月27日 Sun

無事成田空港に到着した。

行く前は長く感じた2週間も終わってみればあっという間に終わった。今回の研修では普段では味わえない貴重な経験ができた。同時に英語をもっと勉強しないとという気持ちにもなった。また、自分の獣医学にたいする向上心が増した。パデューの皆さんとウィルさんとともさん、ソフィアと引率の富岡先生に感謝します。ありがとうございました。

奥 美穂 Miho OKU

8月13日 ワシントンDCからインディアナポリスへの飛行機の乗継ぎで全力疾走した。己の体力のなさを思い知った。夜8時なのに外が夕方位の明るさでどうしても違和感があった。

私の荷物は届いたが、他の女子全員と先生、男子1人の荷物がワシントンに置いていかれてしまったようだ。

寮の部屋に着くとサンドイッチがあつて大きくて美味しかった。チリソースをかけすぎてしまった。

8月14日 動物園と大学周辺ダウントウン散策

大学にゲームセンターやボーリング場もある。バーの数が多く、水煙草が吸える店もあった。

学部長他教授達との食事会がステーキハウスで行われた。リブロースステーキを頼んだのだが早速アメリカンサイズの洗礼を受けた。とても優しく接して頂いて緊張がほぐれた。

昼のメキシカンでもまた、アメリカンサイズと戦うことになった。タコスの質量が尋常ではなかった。

8月15日 初めてのクリニカルローテーション。みんなでオリエンテーリング受けたあと、画像診断のラボへ。お土産に柿の種持っていった。英語4割くらいしか分からず、レイチェルさんという女子学生が面倒を見てくれた。彼女は高校時代に日本に留学していたらしい。月曜日は泌尿器科の有名な先生がいるらしく、泌尿器科の疾患が国中から集まってきた。

キャンパスナビで大学内を案内して貰った。アームストロング氏が持ち帰った月の石が展示されていたが、あまりにも小さく私達の反応はいまいちであった。大学の中に空港がある、大学で Amazon の受けとりサービスがある、などは私達からすれば想像もできない。

中華料理屋でみんなで夕食を取った。プレートを頼んだが完食してしまい、アメリカンサイズに対する自分の適応力に驚いた。そしてここで体力の限界を迎えるのだった。帰った瞬間にソファで寝ていて、夜中にやっと目覚めた。

8月15日 朝の準備がギリギリになってしまった。朝から学生に混じって画像診断のセミナーに参加した。半分理解出来たかどうかであった。内容としては大学の授業で触れたことのあるものがほとんどだった。リン先生という中国系アメリカ人の先生がエコー診断をしており、細やかな内臓の所見について教えて下さった。彼は近々家族で日本に旅行に行く予定らしく、北海道観光を勧める。日本人のレジデント2年目の村上先生がわざわざ私を呼んで下さりお話を伺う事が出来た。もし日本人が獣医師の専門医になるとしたら、必要な条件や開ける可能性や伴われる苦労を現実的に聞くことが出来た。ここでは、画像を撮影する作業は全て技師が担当する。獣医師は送られてきた画像を読映するのみなのだ。なので獣医師は真っ暗な室内でパソコンの画面を長時間眺めている。日本では、獣医師は全ての作業をこなさなければならない。

大学職員であるウィルさんとの食事会がその後開かれた。シードルと奥様の手料理が大変美味しかった。ウィルさんの奥様のキャディさんはチャーミングな女性で娘のウィラーちゃんは目がくりくりした可愛らしい女の子だ。3人の姿はほほえましかった。その後4時間昼寝してしまい慌てて洗濯をする。

8月16日 画像診断のローテーション最終日。

同じくセミナーから朝が始まる。腎臓疾患の所見を学生とディスカッションしながら診断した。午後のラウンドを途中で抜け、北里生の集合場所へ。みんなでユニオンの下のバーガーショップでハンバーガーを頬張る。

その後、北里生とウィルさん、とも先生御家族でボウリング。国境を超えても自分の下手さは変わらず落ち込んだ。

8月17日 新しくローテーションへ。場所は SACP だった。優しい女子学生に囲まれ、さらに日本語が話せる日系人学生に出会えたおかげでスムーズに溶け込めた。トンプソン先生は日本好きでお茶目な先

生であった。ここではオーナーからの問診は全部学生が取り、自分たちで診断を下し、テクニシャンと共に検査をし、最終診断をドクターが下しオーナーに話すといった方式をとっており、衝撃を受けた。ご褒美のおやつはピーナッツバターと聞いてさらに驚いた。

8月18日 同じく SACP にて。この日は最終日。みんな学生がローテーション最終日だったらしく、お祝いの食料が置いてあった。この日は、トンプソン先生による野生動物医療のランチョンセミナーがあった。大きなピザを食べながら聞いていた。

ラッコは毛皮が厚いため、湯たんぽではなく氷枕で冷やししながら麻酔、手術をするのは初めて知った。蛇は心拍がとてもゆっくりであることも獣医学生5年目にして初めて知った。

先生と学生、VT さんにお礼を言い、あずきキャラメルをお土産に置いていった。まあまあ好評だったようだ。

8月19日 インディアナ州の農産物品評会であるインディアナステートに連れて行ってもらった。チーズ揚げ、オレオ揚げなど揚げ物が多数だった。バーガー類、ソーセージ類、ターキーレッグは美味しかった。

世界一大きいと評価されたオスブタは3人くらい乗れる大きさだった。ワインが美味しく、レモネードは量が多かった。馬の品評会は圧巻であり、大きい馬が多いのだが、日本の馬より穏やかな印象を受けた。

疲れたが充実していた。

8月20日 インディアナポリス動物園へ。

最初にサイの飼育スペースのバックヤードへ向かって動物園について説明を受けた。人懐こいサイというものは初めて見た。スリスリと人の手に擦りついて可愛らしかった。密猟を防ぐ為に角を切っているとのことだった。皮膚が分厚いが、採血は 16G ~ 18G の針を使っているらしい。

ゾウにも初めて触った。耳の裏の血管から採血するらしい。牛の形状脈ばりの太さの血管が通っている。

ゴムタイヤみたいな皮膚の感触がした。

子ゾウのキバの保護キャップは金属製で一個が 2 キロくらいある。人間なら筋トレだ。

頭上をカラフルなおうむの群れが飛び、今回は見れなかったがワイヤーをオランウータンが渡るようだ。

この日もバーガーを食べた。イルカショーは日本の方が工夫されていると感じた。

8月21日 大動物内科のローテーションへ。富岡先生に紹介して頂き、パットさんというVTさんにお会いした。毎年北里生を見ているらしく、外科の手術の現場にも連れて行ってもらえた。内科の学生は大動物診療スペース付近の研究室にてオーナーさんの診療の予約確認、かんちくの様子を伝えるなど電話対応をしたりカルテを書いたりしていた。馬のドレッドミルの実物を見せて貰えた。最高時速は90キロにもなるとか。

午後には先程のパットさん、富岡先生とともに日蝕を観る。空き箱を使って観察するのは初めてだ。馬の跛行検査はどこかしらで常に行われているという印象だ。

午後には馬の抜歯の手術が見れた。大掛かりな麻酔が施され、麻酔科が常にモニタリングをしていた。放課後はショッピングモールにて日本へのお土産を買う。ここで購入したフェイスパウダーが後に波乱をよぶ。

8月22日 大動物内科二日目。アルパカが入院していた。学生は忙しいにも関わらず、私に何か分からないことはないかと聞いてくれる。始めにお世話になった画像診断の場所で豚の頭部のMRIなどを見た。どうやら、脳の後頭葉辺りに炎症が起こり、画像では白いモヤモヤが写っていたが、始めに北里生同士で話し合った時は分からなかった。画像診断科の仲良くして下さったドクターが快く解説してくれた。

昼食にはいつも部屋で作るハム、レタス、玉ねぎ、チーズ、ピクルス、ケチャップとマスタードを大量に入れたサンドイッチを持って来て食べているが、ここに来て腹回りが気になり始める。

8月23日 大動物内科最終日。学生についていき入院当番のような持ち回りを手伝う。疝痛の馬に液状の食事を与え、下半身不随のアルパカを支える。出産の際に膣が裂けた馬の陰部縫合はスムーズに行われているが痛々しい。馬の蹄葉炎は軽度なものは判別が難しかった。関節炎も同様であった。

帰宅後にパデューの職員や学生を交えたBBQが開催された。やはりバーガーとホットドッグに大量にケチャップとマスタードをかけて食べる。とも先生、行動学の緒方先生、麻酔科の釧路先生、台湾からの留学生や先生、ウィルさん、パットさんも参加してくれた。

台湾からの留学生は日本語が出来て、日本のアニメやゲームが大好きとのことで話が弾んだ。水風船投げの他、罰ゲームが用意されたゲームをみんなで全力で楽しんだ。私達をサポートして学内を案内してくれたソフィアは中国から単身でアメリカに渡

り、学生生活を送っている。18歳の頃からだ。経済的な心配もしていた。どれほど勇気が要るだろうか。日本の獣医学教育や獣医学生のストレスが問題提起されているが、彼女はアメリカの獣医学生生活は“ストレスフル”と語る。自らの環境についてと自分はそれに対しどんな努力をしようかと、考えた。

8月24日 この日一日のみ緒方先生のいらっしゃる行動学のローテーション。

治療を望むオーナーさんと緒方先生、テクニシャンやトレーナーの方、学生を交えて世間話を話しながら患畜の様子を聞く。その後、外に出て行動観察。そこで得られたデータをもとに学生を交えてディスカッションし、最終診断や今後の治療方針を定める。薬物を用いた行動治療が行われることもあるようで緒方先生に、薬物を使わなくてはいけない症例とはどのようなものがあるのか質問したところ、軽度な場合でも飼主が薬物療法を強く望めば、獣医師はそれに応えるし、何にせよ取り巻く環境に応じた治療をするとおっしゃった。

8月25日 この日はローテーションに入る最終日。午前中だけ麻酔科に入る。BBQの時に話した日本語の堪能な台湾の女子学生と一緒にだった。心臓の手術を見学させて貰えたのだが、内視鏡が使えず開胸術に切り替えられた。非常に慌ただしい現場ではあったが、テクニシャンの方を観察すると、麻酔科のVTの麻酔の技術や知識は非常に高いことが分かる。

いよいよローテーションが終わる時、台湾の女子学生と別れる。日本に来る時は連絡するという一言は嬉しかった。

午後にはフォーマルな服装に着替え、フェアウェルパーティへ。

一人ずつ英語で挨拶をし、記念品を受け取る。軽食が出て、食べながら歓談した。大動物内科でお世話になったパットさん、トンプソン先生とSACPの学生も来て下さった。トンプソン先生は日本好きでキモノ風のユニフォームを着用していた。パットさんに言われた、良い獣医師になるんだよ、という一言が頭に残った。

午後みんなでメキシコ料理屋に行き、メキシコ料理とマルゲリータを楽しんだ。

帰宅後の冷蔵庫の整理や荷物整理が大変だった。

8月26日 朝早くに起きて部屋を掃除する。

ごみをまとめて捨て、荷物を持って出る。寒い。空港まではとも先生とウィルさんが送ってくれて、インディアナポリス空港に到着した。最後にお土産

を少し買ってからウィルさんととも先生にお別れ。見えなくなるまで見送ってくれた。

空港では、日本人が珍しいのか職員の方に日本語で声を掛けられる。そして、我々が来ている事を空港にてアナウンスまでされていた。飛行機は機内食があまりにも前衛的な味であったが、無事に日本にたどり着く事が出来た。

林 奈名子 Nanako HAYASHI

1 日目 (8/12)

夜 10 時頃、インディアナポリスに到着した。しかし、経由地点のワシントン D.C にケージロストしてしまったので寮に到着する前にウォルマートで必要最低限なものを購入した。私は手持ちのカバンに 1 日分の洋服を持っていたのでそれほど困らなかった。寮に到着後、サンドイッチやカップケーキなどの軽食が用意されていた。しかし、疲れていたのので食べることができなかった。寮はリビングと寝室とユニットバスが分かれていて、キッチンもついていた。寝室には大きなベッドが 2 つあった。2 人で暮らすには十分な広さだった。今日は疲れたのもあったのですぐに就寝した。

2 日目 (8/13)

朝 9 時に朝食を食べた。朝食は先生の部屋に用意されていたブドウ、オレンジなどの果物とベーグルを食べた。

10 時にウィルさんと智先生が寮まで迎えに来てくださった。11 時にラファイエットの大学周辺の店や建物の説明をしてくださった。今日の説明で寮から大学までの道を覚えることができた。大学近くのお土産屋さんのような店に入った。店の中には大きなモンスター(飲み物)やカラフルなカツラなど、アメリカらしいものがたくさんあったのが印象的であった。その後、車でコロンビア ZOO へ行った。とても小さな動物園で、大きな公園の中にあり、入園料は無料であった。ヤマアラシ、テナガザル(スパイダーモンキー)、蝶々、大きなウサギ、ポニー、豚、ラマ、ヤギ、ワラビー、エミューなどがいた。一番驚いたのは「Singing dog」という名で柴犬のような犬が展示されていた。また、ヤギは子ヤギが多かった。ワラビーの袋の中には子供が入っていた。エミューは毛穴から 2 本に分かれた羽が生えることを初めて知った。

お昼は大学近くの「Chipotle」というメキシコ料理のお店でブリトーを食べた。大きさが大きく、食べることができなかった。食べ終わったらウォルマートでシャンプーなどの日用品を買いに行った。

おいてある品物が多く、物価も安くて驚いた。

3 日目 (8/14)

8 時に学校に集合し、学校が用意してくださったカップケーキ、グレープ、オレンジ、ヨーグルトを朝食としていただいた。少しだけ病院内を見学した後、自分の配属された科に振り分けられた。私は今日は小動物内科だった。今日は症例を二つ見た。

一つ目の症例は重症筋無力症と巨大食道症を併発している 6 歳二か月の雄のボーダーコリーであった。飼い主は乾いた咳と変な嚥下、後肢が弱いことが気になっているようだった。パデュー大学の方針としてはまず、学生に問診を行わせて一度先生の所に確認に行き、飼い主から聞いたことを説明し、次にどのような治療を行うかを話し合って決定し、再び飼い主の所に戻って先生が飼い主に説明するシステムであった。この犬はコリンエステラーゼ阻害剤のピリドスチグミンを重症筋無力症の治療として投与した。さらに検査を行うために 2 日間ほど入院することになった。

二つ目の症例はプードルの雄の coco という犬だった。この情報は学生が持っていたカルテの内容だったが実際に待合室に行くときシュナウザーだった。飼い主の主訴は食欲はあるがパンティングがあるとのことだった。実際に 135 回も呼吸数があり、心配だった。15 時からこの犬のレントゲンだったが今日は 3 時半から大学のツアーがあったので最後まで見ることはできなかった。

このツアーまで時間があつたので急遽、救急のジョンソン先生にお願いして救急を見学した。5 歳のマスティフを見たが、マスティフを初めて見たので、ライオンのように大きくてすごく驚いた。体重は 90 kg あるのに名前が「Tiny」であるのがユニークで面白かった。この犬の主訴は前日に吐いていて便も小さいということだ。レントゲンではガスが充満していた。飼い主はこの犬を我が子のように可愛がっているのでもんな検査や治療もやると言っていた。先生によると完治までに 50 万円はかかると言っていた。

3 時半からは大学の敷地内を大学のスタッフが案内して下さるツアーに行った。

大学の敷地内にはスターバックスやボーリング場があった。さらにパデュー大学はピクサーの映画のモンスターズユニバーシティのモデルの学校といわれていて、所々にマイクの絵があった。大学の門も映画の中の門にそっくりだった。パデュー大学は宇宙の研究でも有名で月の石が展示されていた。私は、漬物の石くらい大きいのかと思っていたら 500 円玉くらいの大きさだったので少しショックだった。道には野生のリスやウサギを頻繁に見ることができ

た。

夜ご飯は大学近くのパンダエクスプレスで食べた。日本人の口に合っていておいしかった。

4 日目 (8/15)

朝 8 時に学校に到着すると、大動物診療所の牛のエリアにサルモネラが発生して立ち入り禁止になっていた。私は今日も小動物内科を見学することになっていたため、関係はなかったが、私のラボでも話題になっていた。ラボに到着後、既にミーティングが始まっていた。今日はグループ 2 の診察日であった。私が今日お世話になった Rachael さんの診察は 11 時だったので 1 時間半ほど時間があつた。その間、ラボにいた 9 人でゲームが始まった。まず、3 人ずつの 3 グループに分けられた。6×6 のマスの一番上に病名、2 段目からは \$ 100、200...500 と順に書かれた表がテレビ画面に映し出された。\$ の部分を選択すると 1 段目の病気に関連する質問が書いてあり（例えば、内視鏡で見なければならぬ場所、治療に使用する薬など）、それに対する答えを回答するクイズ形式であった。難易度が異なり、\$ 100 は易しく \$ 500 になるにつれて難しくなっていた。楽しみながら病気の症状や治療などを学ぶことができたので、日本にも取り入れてほしいと思った。

このゲームが終わっても診察までまだ時間があつたので、入院中のボーダーコリーの検査を見学した。右眼が赤くなっていたので、眼科に連れて行った。眼科では眼圧、威嚇反射、眩目反射などを観察していた。眼圧はペン型の測定機を使用していた。ペンの先を角膜にあてると、測定値が表示された。左眼は 2mmHg であったが、右眼は 10mmHg だった。原因を尋ねると、血小板減少症による前房出血の疑いであった。

この検査が終わるとちょうど 11 時になったので Rachael さんの診察に同行させてもらった。9 歳のボストンテリアで来院理由は慢性下痢であった。7/22 に心電図を撮り、今回は新しい薬にするために来院していた。食欲はあり、下痢以外に異常なことは特になく、便も血便ではなかった。飼い主が便を病院に持ってきていたことに興味した。

夜ご飯はスミスさんのご家族と一緒に先生の部屋で食べた。スミスさんの奥さんが手作りの料理を持ってきてくださった。唐揚げ、パスタ、野菜、デザートにはイチゴ、レモンパンケーキまで用意してくださった。みんなでおいしくいただいた。ウィルさんのお子さんはまだ 10 か月ですごく可愛かった。抱っこさせてもらったが全く泣かなくてすごくいい子だった。その日はお酒もみんなで飲んですごく楽しかった。

5 日目 (8/16)

今日から大動物外科を見学した。朝 8 時に到着するとセミナー室でプレゼンテーションが始まった。1 つ目は「Therapeutic joint injection(治療的関節内注射)」がテーマであった。変形性関節炎の際に痛みをとるために用いられる。コルチコステロイド、ヒアルロン酸、グリコサミノグリカン、IRAP(Interleukin-1 Receptor Antagonist protein)、血小板が豊富な血漿が主に使用されていることが分かった。

2 つ目は「Antimicrobial Impregnated Beads (AIB)」がテーマであった。馬では強直症の際に使用できる。その他、骨髓炎でも使用できる。実際の使用法の写真を見ると、炎症が疑われる部分に外科的に直接ビーズを並べていたのが印象的であった。

セミナーが終わると、病院内の患者の治療を行った。1 つ目の症例はポニーの喉頭嚢に貯留した膿をダイオードレーザーで取り除いた。ダイオードレーザーは強い光を放つのでゴーグルを着用した。テレビ画面を見ながらの操作であったが、画質が非常によく手術時間も非常に早かったのが印象的であった。

次は跛行の馬の原因を調べた。この馬は昨日、第二指骨と第三指骨の関節間に神経ブロックを行うと跛行が消えたそう。そのため今日はさらに細かく原因箇所を調べるために関節内ブロックを行った。関節内ブロックを行った後、10 分間観察したが効果が得られなかった。さらに 10 分待機した。この間に違う症例に移動してしまったので最後まで経過を観察できなかった。

さらに鼻出血が止まらない馬を診察していた。レントゲンには鼻と眼の付近にマスがあった。この馬は以前に寄生虫が存在していたので前回で駆除しきれていなかったことが考えられた。

ここで入院している馬の記録用紙の説明を受けた。姿勢について書く欄があり、「BAR」は正常な時、「QAR」は年を取っていたり脳が悪くて動かなかったり下を向いていたり回転している動物で表記されていた。

午後はラマの手術に立ち会った。上顎の右臼歯が 2 本折れていて、さらにそこから細菌感染が生じてレントゲンでは左眼の下にマスが見えた。実際に開いてみると左右に感染が確認された。そのため、左右を抜歯して感染している部分の膿を除去した。

最後に腎脾間エントラップメントの手術に立ち会った。この原因は運動や寝そべったりすることが原因で結腸が弾んで腎臓の背側に移動し疝痛を起こしてしまう。この馬は疝痛を何度も起こしている馬だったので今回の疝痛の原因も腎脾間エントラップメントだろうということになった。この治療法とし

てはまず結腸を正常な位置に戻した後、腎臓と脾臓の間に縫合して隙間をなくした。

実習が終了し、午後は智先生とスミスさんとソフィアさんを含めみんなで学校の近くでボーリングをした。3チームつくり、みんなでスコアを競った。夕食はハンバーガーを食べた。男子は5段ほどの大きなハンバーガーを購入し、何分間で食べれるか競っていた。

6日目(8/17)

今日も大動物外科の見学をした。食欲のない11歳の馬が来院していた。朝に血液生化学検査を行っており、気になった部分を学生と先生を含めて話合った。ビリルビンが高値であった原因は溶血が生じている可能性がある。フィブリンが高値になるのは炎症の際であるが、今回は炎症の所見はなかったのでおそらく血液凝固の際に使用されたと考えられた。クレアチンが上昇していた理由は長時間の横臥位により筋肉損傷を生じた可能性が考えられた。PTとPTTが高値であったため出血の可能性と血小板の減少が疑われた。この血小板減少の原因は血小板自体の破壊か使い果たされたといえる。そのほかの所見は、好中球の増加、pHの低下が挙げられた。これらをまとめた結果 Clostridium による感染症が濃厚になった。Clostridium で有名な感染症といえば Clostridium piliforme によるティザー病が有名であるのでティザー病についての話し合いになった。ティザー病は肝臓に重度の感染を引き起こし、全身にはアシドーシスなどの変化を生じて致命的である。

この話し合いが終わると各自自分の患畜の診察に割り振られた。私は有茎性脂肪腫により疝痛を起こしている馬のオペを見学した。この馬は同じ理由で月曜日に絞扼して死んだ小腸を取り除くオペを行ったが疝痛が治らなかったので再手術することになった。開腹して治療後、線維肉腫の発生を防ぐために病変部位にセルロースを投与していた。閉腹の際には誤って腸管を巻き込まないために Fish という魚のヒレのような形のシリコン素材のものを長官と腹膜の間に置き、閉腹を開始した。残り10センチほどになったところでその隙間から Fish を除去してこの部分を縫合してオペは完了した。覚醒の際は鼻の通気性をよくするためにアドレナリン作動薬であるフェニレフリンを静脈内投与した。

次に何を見学しようか悩んでいるとパット先生という大動物の先生が特別にレントゲンで左側後肢に確認された第一指骨と第二指骨の関節間にある小さな骨片を関節鏡を用いて除去するオペを見学させてくださった。このオペでは関節鏡のほかに骨起子と骨鉗子とプローブも用いた。関節鏡を用いることで

切開部位が非常に小さくて済むのが非常にメリットだと思った。

7日目(8/18)

今日も大動物外科を見学した。朝のセミナーの議題は8/16に見学した歯周病のラマの話と8/17に見学した関節鏡を用いた骨片除去の手術の話であった。来院時の状況や用いた薬剤や術式などを周囲とシェアし、自分が参加していなかったオペの状況もわかったり、参加している場合には復習にもなるのでこの朝のセミナーは取り入れたいと思った。

お昼は全員が集合してピザを食べながらトンプソン先生によるセミナーが行われた。議題は「野生動物の保護と医学」であった。トンプソン先生は娘さんと狩りに行くのが楽しみであると言っていた。最近では鹿が多く生息しているという。その他、カワウソや七面鳥やタカについての保護法や罠の方法を説明していた。特に鷹はビルの上に巣を作ったりするため問題になりがちのようであった。また、蛇の話もしていた。蛇は大学病院でも治療をしたことがあると言っていた。

午後は再び大動物外科に戻った。8/17に関節鏡を行った馬がまだ関節に痛みが残っているようで跛行をしていた。股関節に異常がある可能性があるので直腸検査により確認した。私は直腸検査といえば繁殖の際に使う技術という固定観念を持っていたため、股関節の異常まで確認できることに驚いた。実際にこの馬は仙腸関節にヒビがあったことが分かった。実際に直腸検査に参加させてもらったわけではないので指でどのように感じるかはわからなかったが私も将来このような技術を獲得したいと感じた。また、アメリカの馬の特徴は、馬が子供の頃から人間や馬の親と一緒に飼育されているので、人間と馬の信頼性が深く、人間の言うことをよく聞いていた。確かに日本では危険性が高い馬の直腸検査をしたり、馬の後ろに立っても蹴られたりする危険性がなかった。

次は喉にできたリンパ腫をダイオードレーザーで焼いて除去するオペを見学した。このダイオードレーザーは8/16に用いたものと同じであった。

最後は月曜日に直腸造瘻術を行った馬で、接合面がギザギザしていて便が出にくくなっていたのでその処置をした。この時、アミド型のリドカイン系であるメピバカイン尾椎硬膜外麻酔をした。このオペと同時に別の場所で膀胱造瘻術後のヤギの経過を観察していた。この経過観察の理由は合併症である膀胱炎を起こしていないか確認するためであった。

8日目(8/19)

今日は全員と智先生の家族とスミス先生、ソフィ

アさんと一緒に「Indiana State Fair」にいった。ここは私たちの生活していた寮から車で1時間ほどのところであった。

ここは大きな市場のようになっていて、ホットドッグやハンバーガーなどが屋台で売っていた。さらに土地が広く、中には遊園地があったり、カーレースをしていた。さらにその日は馬の共進会が行われていて、きれいになった馬を間近で見ることができた。カーレースは日本とは規模が全く違う非常に大きな車で、音も大きく非常に迫力があつた。この日に豚のレースもあつたが時間の関係で見れなかったのが残念であった。その他、世界で一番大きな豚も見た。男子が手を目一杯伸ばしても届かないくらい大きかった。ボーイスカウトのコーナーもあり、みんなで金属を合わせてできる摩擦による火花によって綿に火をつけたりして楽しんだ。獣医師のコーナーもあり、パデュー大学の学生にもあつた。

9日目(8/20)

今日は寮から1時間くらいのところのIndianapolis Zooに行った。智先生が担当している患畜であるサイがいたので、そのサイを近くで見ることができた。初めて皮膚を触ったが、タイヤのような感触だったのが印象的であった。皮膚は分厚く2 cm程あるそうだ。このサイは28歳ほどであったが、寿命は40歳くらいだそうだ。サイについての説明が終わると、バックヤードにある事務所のようところで施設の説明を受けた。その事務所の中には大きな体重計や診察室やオペ室や実験室のような部屋があつた。診察室には動物を遠くからでも麻酔できるようにする吹き矢や気管チューブやネブライザーのマスクがあり、種類も多くて驚いた。特にマスクは動物の大きさに合わせないといけないが、専用のものがあるわけではなく、様々な周りの道具を駆使して手作りであつたことに驚いた。例えば、口の長い動物のためにロードコーンの先端を切ったものを使用していた。診察室にはレントゲンを見ることができた。そこでいくつかの珍しい症例を見ることができた。一つ目は「Green moray Eel」。下顎が飛び出してしまっていた。魚のレントゲンの取り方は、哺乳類とは違って水が必要な生き物なので撮影の際に慎重に行わなければならないと説明していた。麻酔はMS-222という水溶性の麻酔を使っている。二つ目は「Green anaconda」。子供の蛇を飲み込んでしまったようだ。レントゲンでも子供の蛇が写っていて驚いた。三つ目は「Gentoo Penguin」。ペンギンのレントゲンを見る機会はなかなかないのでとても良い経験になった。四つ目は「Longhorn Cowfish」。何かで臓器が押されていて眼が飛び出してしまっていた。

施設の説明の後、全員で園内を周った。各動物のスペースが広がったのが印象的であった。特別にキリンに餌をあげることができた。舌が長くて手まで食べられそうな勢いだった。昼食にハンバーガーを食べた後、イルカショーを見た。イルカショーは日本のものよりも迫力がなかった。先生に聞くと、アメリカの動物園はあくまで自然の正体を展示したいので調教は日本より力を入れていないそうだ。私は少しがっかりもしたが、そのような考え方もあることが勉強になった。そのまま、イルカがガラス越しに見えるフロアに行き、イルカの生態を学んだ。イルカの脛骨は哺乳類などと同じく7つあるが、これらはつながっている。しかし、シロイルカは離れているそうだ。そのため、シロイルカはほかのイルカと違って首の動かせる範囲が広いそうだ。

そのあと再びバックヤードに戻って象を間近で見ることができた。初めて象の体を触ることができた。感触はサイとはまた違った感じであった。日本では経験できないことができたので貴重な経験となった。この後は自由時間だったので女子グループでゴンドラに乗って空中遊泳を楽しんだ。そのあと園内を探索した。

帰り道の途中で、寮の近くで夕食として寿司ブリトーを食べた。アメリカで食べる初めての寿司だったが思ったよりおいしかった。しかし店内に日本語ではなく中国語が書かれていたのが面白かった。

10日目(8/21)

今日から麻酔科の見学であった。学生は3週間ごとに違うラボに移動するシステムで今日から学生も新しいローテーションだった。そのため、朝のミーティングでは諸注意の説明や1週間のスケジュールを決めていた。

麻酔科は自分で見学したい症例がどこでやっているかを探さないといけなかったのが大変だった。1つ目の症例はレントゲン室に行って脳腫瘍の猫の放射線治療の見学をした。7月にリンパ腫で来院していた。脳にできた腫瘍により体が動かず意識も朦朧としていた。下垂体にマスがあり、放射線治療を行う。腸にもリンパ腫があつた。元は暴れまわる非常に扱いにくい子だったのにおとなしかった。全身麻酔としてプロポフォールを投与した。頭にはネットのようなものをかぶせていた。このネットは事前にCTを撮影し、それをもとに作られていた。この猫は症状が重かったので治療後に目を覚ますか心配であった。ICUにも数日間いて、私は延命のためにここまで治療を行う必要性はあるのか疑問に感じた。

次は大動物の方で歯肉炎の馬のオペをやっていたのでその麻酔の見学をした。pH、PaCO₂、PO₂、

BE、HCO₃、TCO₂、SO₂%を血液で測定していた。測定は5分ごとにしていた。体温は15分ごとに肛門から測定していた。アメリカでは℃ではなくFが基本単位になり、99Fが正常であったがこの馬は94Fにまで下がっていた。血圧を上げるためにブトルファノールを投与していた。

夜は智先生とウィルさんに車でショッピングモールに連れて行ってもらった。下田のイオンくらいの大きさだった。夜ご飯はこの店の中にあったパンダエクスプレスで食べた。

11 日目 (8/22)

今日も麻酔科の見学をした。一つ目の症例は右の肋骨が折れていて開胸手術の必要なチワワのオペを見学した。上腕骨が肋骨の間を圧迫していた。このオペ中洋楽が流れていて、これはリラックス効果なのかなと思った。次にMRIを見学した。初めて馬と豚のMRIを見た。馬は跛行が治らなかったのが両足を撮影した。悪いのは右足であったが、麻酔が維持できたので対照として左足を撮影した。撮影後40分ほどで立ち上がった。豚は食べ物を飲み込めなかったのでその理由を解明するために検査した。

小動物のオペ室に戻ると眼科から来た犬がちょうど手術を行おうとしていたので見学した。この犬は4か月のイングリッシュコッカースパニエルで眼瞼内反症のために2針ほど縫おうとしていた。麻酔はブトルファノール、メデトミジンを使用し、イソフルランで維持していた。予定の麻酔は1~2%イソフルランであったが直前に弱いと判断し、3%に上げた。それでも鎮痛が弱かったようで、針を入れるときに時に鳴いていた。プロポフォールをto effectで用意していたのに使わなかった。理由を聞くと子犬のため投与するには強すぎたからだそうだ。

今日の夜ご飯は、男子は自転車でウォルマートまで行ったので女子は近くのファイブガイズというハンバーガーのお店でハンバーガーを食べた。

12 日目 (8/23)

今日は大会議室でセミナーがあったので朝は病院に学生がほぼいなかった。そのため、私たちも参加した。内容は獣医学生のストレスやケアの仕方などであった。獣医学生の主なストレスは睡眠不足、仕事量の多さ、風邪などである。うつ病になる学生は32%もいることに驚いた。ストレスを軽減するために必要なことは「SMART」だそうだ。これはSpecific、Measurable、Achievable、Relevant、Timelyの頭文字をとったものだ。さらにストレスには瞑想を行ってみるのもよい。ここで瞑想をどのようにやるかを説明するユニークな動画を見た。日本人にはあまり面白いとは思えなかったが周りは爆

笑していた。また、よい睡眠をするためのポイントも説明していた。多くの人は7~9時間睡眠している。寝る際は18~22℃がベストだそうだ。寝る6~7時間前のカフェイン、寝だめ、睡眠薬はよくない。寝る1~2時間前にバナナなどの軽食をとって空腹は避けることがよいそうだ。

このセミナーが終わると病院に戻った。今日も麻酔科の見学をした。まず、8/18に膀胱造瘻術のためにカテーテルを通していたヤギの開通部分が小さかったので穴を広げるオペを見学した。病変は下半身にあるので体温は肛門ではなく口から計測していたのが今までとは違った。伏臥位であったのだが、ヤギは反芻動物のために断食しても胃の内容物が完全になることはなく、逆流を起こしやすいので逆流を防ぐためにクッションなどで頭を高く維持した。ETCO₂を見ると自発呼吸と思われる波形が見られたので麻酔(イソフルラン)の深度を上げた。ただし、馬ではイソフルランは筋弛緩により股関節骨折になり最悪の場合安楽死をしなければならないこともあるので注意が必要だ。

小動物のオペ室に行くと眼瞼の閉じない猫のオペをしていた。眼瞼の皮膚の量が足りないので唇から皮膚を持ってきた。以前もこのオペをしていたようで、唇の傷がひどかったために唇のオペも行ってた。鎮痛薬は使わず、5mg/kgの少し高めのケタミンを投与していた。プロポフォールを投与後、挿管していた。脈はドップラーを用いて音で測っていた。本来は聴診器で測定したいが眼を手術するので動かすことが難しく、さらに学生だけが音を聞くと異常があった時に不安なのでその場にいる先生やそのほかの学生も聞こえるようにするためであった。血圧は高すぎるとオシオメトリックで測定できないことがあり、一番確実なのはAラインのカテーテルを入れて測定することと言っていた。この猫はメデトミジンを投与していたのでα₂作用で血圧が135もあった。さらに心拍は100くらいにまで低下していた。体制を変える際はチューブと挿管を外すことを注意されていた。もしついたまま移動させると気管に傷がついて縦隔気腫や皮下気腫になる可能性がある。特にカフにエアーが入っているときは要注意である。

今日の夜は私たち北里大学のメンバーと同じ時期に台湾から研修に来ていた学生や先生と一緒にBBQをした。台湾の人は日本語を話せた。私たちは麻婆豆腐を作って持って行っていたが、アメリカでは豆腐を好んで食べないのであまり人気がなかった。アメリカの先生が用意してくださったハンバーガーやトウモロコシ、カラフルなクッキーがおいしかった。あと数日しかアメリカにはいられなかったが、仲良くなれたことは嬉しかった。

13 日目 (8/24)

今日は腫瘍科の見学をした。一つ目の症例は Layla という 10 歳の雌のポメラニアンで食欲が朝夕で半分ずるに減少していて、体重も半年前から減少しているようだ。下痢はしておらず、睡眠量は多くなっている。飼い主が気づくほど巨大なリンパ節になっていた。学生さんと一緒に触ってみると確かに両頸部、両腋窩（特に右）、両膝窩（左は 2 つ）大きくなっていた。このポメラニアンはリンパ腫と判断された。

二つ目の症例は Carlos という 11 歳の雄の猫だった。食欲低下、嘔吐、下痢をしていて、結腸リンパ腫と診断されていた。四環系抗うつ薬のミルタザピンを投与すると食欲は回復した。しかし、下痢は続いていたのでプレドニゾン、クラバモックス、ミルタザピンを投与して経過を見た。

午後は大動物の往診に同行させてもらった。病院から 30 分くらいの農家に行った。この農家は馬を約 45 頭飼っていた。どのうちの 1 頭が跛行をしていたので原因を解明するためにステイロイドを関節内投与して炎症を抑えた。帰りの道は山道で野生の鹿を見た。普段はほかにどのような動物が出るのか先生に聞いてみるとキツネ、蛇、オポッサムなどの野生動物が見れるそうだ。

夜ご飯は富岡先生と奥さんでアメリカのパスタを食べた。アメリカのパスタはあまりおいしくないと言っていたが、いったお店はおしゃれでおいしかった。

14 日目 (8/25)

今日も腫瘍科を見学した。雌のドーベルマンで月曜日に下痢、水曜日に食欲不振、金曜日に嘔吐をしていた。膀胱内にマスがあり、膀胱鏡検査を行った。12 時から Farwell Ceremony を行ってくださった。そこで一人ずつスピーチをした後、修了証書と記念品が渡された。そして用意されたケーキや果物を食べ、お世話になった先生方と写真撮影をした。次の日は朝 7 時半に智先生とウィルさんが寮まで迎えに来てくださり、空港まで向かう予定だったので早めに帰宅して荷物の整理や部屋の片づけをした後、智先生とウィルさんとアメリカで最後の夕食を食べた。

最後に...

この 2 週間の海外研修は私にとってとても良い経験となりました。規模の大きな農家や動物園やお店に行ってお動物や食べ物を見たり触ったりして日本ではなかなか経験できないことができて楽しかったとともに非常に勉強になりました。また、同行してくださった富岡先生、アメリカで私たちの面倒を見

てくださった智先生、ウィルさん、ソフィアさんには非常に感謝しています。大きなトラブルもなく、最後まで充実した研修を行うことができました。この度はこのような貴重な経験をできる機会を与えてくださり、ありがとうございました。

福澤 真由子 Mayuko FUKUZAWA

8 月 12 日

成田からワシントン経由でインディアナポリスまで行った。空港に着くと、トモ先生と Will が出迎えてくださった。荷物を待っていたが、なんとメンバーの半数の荷物が出てこなかった。問い合わせたところ、荷物はワシントンに置き去りになっていた。空港で歯ブラシのセットはもらえたが、衣類などが無かったので、トモ先生と Will にスーパーに連れて行ってもらい、一日分の日用品を買った。これで、なんとか荷物が届くまでサバイバルできそうだ。大学の敷地内のアパートに着くと、夕食のサンドイッチが用意されていた。サンドイッチに入っていたチーズがとても美味しかった。

8 月 13 日

朝は、Will さんに大学内を案内してもらい、パデューのお土産も売っている売店や、食事やボーリングなどができる UNION という建物に行った。これから私たちをお世話してくれる獣医学部 3 年生の Sophia にも会った。売店には、カラフルな色のお菓子や、日本では見たことのないサイズのモンスターなどがあり、アメリカに来たのだなと実感した。UNION は建物がおしゃれでスタバも入っていて、素敵だなと思った。その後、Colombian Park Zoo に行った。ヤギと触れ合えたり、様々な種類の蝶を間近で見られたりして楽しかった。この動物園は無料で一般公開されているらしく、タダなのにとっても楽しめて良いなと思った。お昼は Chipotle でブリトーを食べた。中身をカスタマイズ出来て楽しかったが、今までに食べたことのない太さのブリトーで、みんな食べきれなくて困っていた。お昼の後は、Walmart という大型スーパーに行き、食材や日用品を買った。夜はパデューの教授達とトモ先生、Will と共にステーキ屋さんでディナーを食べた。私は baby back ribs を注文した。フルサイズのリブだったので、とても大きく食べきれない気がしなかったが、食べ始めたらお肉が柔らかく美味しく、気づいたら完食していた。病院長の先生にお土産のインスタント湯葉にゅう麺も渡した。湯葉にゅう麺を英語で説明するのが少し大変だった。

8月14日

朝は、大学が用意してくれた朝食を食べながらオリエンテーションを受けた。そこで食べたブドウが皮ごと食べられるブドウで、アメリカっぽいなと感じた。MRIの説明のビデオを見たり、教授からパデューの獣医学部のカリキュラムや学生生活についての説明を受けた。その後、病院の中を案内してもらい、白衣を受け取って、各自ローテーションの配属先に行った。まだ病院を案内してもらったばかりなのに、いきなりローテーションが始まり、少し焦った。この日はOncologyに行った。パデューはTCC(移行上皮癌)の治療で有名で、Oncologyは前から行ってみたいと思っていた科だった。ちょうど月曜日はTCCの日で、全国からTCCの患者さん達が集まってきていて忙しそうだった。私の研究室が放射なので、癌の放射線治療も見てみたいとお願いしたところ、Radiation Oncologyにも連れて行ってくれた。北里とは違い、患者に合わせて麻酔のプロトコルを変えていたり、照射の方向や数も様々で、面白かった。夕方はほかの学部の学生がキャンパスツアーをやってくれた。キャンパスは一日ではとても回りきれないほどの広さで、キャンパスというよりは一つの町のような感じだった。パデュー大学の正門は、映画モンスターズユニバーシティに出てくる門のモデルになったそうで、実際に行ってみると雰囲気はそっくりで驚いた。みんなで門の前で記念写真を撮った。炎天下の中広大なキャンパスを歩き回ったため、ヘトヘトになった。サングラスと帽子は絶対持って行ったほうが良い。夕食はPANDA EXPRESSという中華料理店で食べた。メインとサイドの数を先に選び、あとは自分の好きな料理を頼むことができた。注文を言うと、店員さんがトレイに山盛りのおかずを乗せてくれた。日本の中華料理と少し味が違ったが、私はとても好きな味だった。オレンジチキンというおかずが美味しく、気に入った。

8月15日

今日は行動学を見学した。その学生さんに、「あなたは今日shadowしてるの?」と聞かれ、何のことか分からなかったが、意味を聞くと、誰かについて見学することをshadowというらしい。とても便利なフレーズだったので、それからはshadowという単語を多用していた。行動学の診察を始める前に、ドクターと学生で患者についてのディスカッションをし、問題点と今後の治療方針を確認していた。学生さんの知識量が多く、意見も積極的に言っていて、すごいと思った。ディスカッションのあと、飼い主さんと犬を診察室に呼び、診察を始めた。部屋には壁に沿って椅子が並べられており、人間は

その椅子に座った。犬は真ん中のスペースで自由に動けるようになっていた。診察室の様子はマジックミラー越しに隣の部屋から見られるようになっており、診療担当以外の学生と私は隣の部屋から見学した。行動学の診察は初めて見たので興味深かった。夜はWillさんの奥さんと娘さんとSophiaと一緒に、Willさんの奥さんが作ってくれた料理を頂いた。チキンやガーリックトースト、レモンケーキなど、とても美味しかった。ブロッコリーが生で出てきたのには驚いたが、アメリカでは生でも食べるらしい。お酒も飲んで、楽しい夜だった。

8月16日

今日はSmall Animal Surgeryに行った。SurgeryとAnesthesiaに行く人は白衣だけではなくスクラブも着ることになっていた。初めてパデューのスクラブを着て、テンションが上がった。Surgeryのドクターと学生さん達はとても親切でフレンドリーだった。私が日本出身だと言うと、シンガポール出身の学生さんが同じアジア出身ということで親近感をもってくれたようで、色々話しかけてくれた。まわりがアメリカ英語を話す中で、その学生さんは、とてもきれいなイギリス英語で喋っていて新鮮だった。朝はミーティングから始まった。この日はGDVの犬が来院していたため、朝ミーティングではDGVについての勉強会を行った。聞き取れなかった英語は沢山あったが、とても勉強になった。この日は、その学生さんについて、身体検査や生検、入院患者の世話や入院記録の書き方、機械で管理されている薬の取り出し方などを習った。その後、オペの見学をした。夜は、みんなでUNIONの中のハンバーガー屋さんでバーガーを食べた。無料でトッピングを追加できたので楽しかった。最近野菜不足だったので、せめてレタスだけでも食べようと思い、extra lettuceにしてもらった。Willとトモ先生とトモ先生のお子さん達も来ていた。トモ先生のお子さん達とはこの日が初対面だった。照れながら日本語で自己紹介をしてくれて、可愛かった。

8月17日

今日もSurgeryを見学した。日本からのお土産の、かりんとうとフリクションのペンを持って行ったところ、とても喜んでくれた。ある学生さんが「文房具は日本が一番よね。私のお気に入りのペンも日本製のよ!」と言って無印良品のペンを見せてくれた。日本の文房具が人気のようで嬉しかった。今日は肝臓の生検をするとのことで、オペの前にギロチン法の術式を学生さんが教えてくれた。最初、guillotineの発音が良すぎて聞き取れなかったが、学生さんがguillotineの本来の意味についても

丁寧に説明してくれて、やっと“ギロチン法”について話していることが分かった。見せてくれた教科書が北里でも使っている **Small Animal Surgery** で、ちょうど前期試験で読んでいたところだったので分かりやすかった。予備知識があったので術式についていくつか質問もでき、試験の勉強が役に立ったなと思った。病院終わりに、女子何人かで構内のスタバに行った。店内の黒板に **PURDUE** の文字が書いてあり、オシャレだった。ベリーと梨のフラペチーノを注文したが、さっぱりしていて美味しかった。美味しく飲んでいると、友達の一人がお釣りを受け取っていないことに気付いた。店員さんにそのことを伝えると、「お釣りは渡した」と言い張られた。しばらく“やった、やらない”の言い合いをした後、最終的にはお釣りを返してもらえた。アメリカの人は、フレンドリーだが、たまに間違いを認めないことがあるな、と感じた。夕飯はみんなで、大学の敷地内のタイ料理屋さんに行った。私は、オスズのメニューになっていたローストダックカレーを唐辛子多めで注文した。とても本格的なタイカレーで、美味しかった。

8月18日

今日は麻酔科を見学した。北里には麻酔科は無く、それぞれの科で麻酔をしているが、パデューでは全ての麻酔を麻酔科がかけていた。大動物も小動物も扱うため、麻酔科の部屋は病院の真ん中にあるのだと教えてもらった。麻酔のプロトコルは学生が自ら考えて決めていて、最後にドクターにチェックしてらっていた。その動物に合わせて薬の種類や組み合わせ、投与量難を決めていて、すごいと思った。北里の講義では、プロトコルの決め方はまだちゃんと習っていなかったため、どのようにして薬の種類を決めているのか分からなかったが、質問すると沢山教えてくれた。ただ、教えてくれた学生さんはとても早口だったので、聞き取るのが大変だった。麻酔科はオペ室にも一緒に入り麻酔の管理をするので、ついでにオペも見学できて楽しかった。一日前まで **Surgery** にいたので、**Surgery** のメンバーともまた話すことができた。この日はお昼にパデューの先生による野生動物の講義があった。小さなカンファレンスルームで、みんなでピザを食べながらお話を聞いた。また、この日は15時頃から病院で働く人達を労うためのイベントがあった。レモネードやアイス、フルーツ、お菓子などが配られ、先生方とも和やかな雰囲気の中でおしゃべりが出来て楽しかった。このイベントは年に一度らしく、参加できてラッキーだなと思った。夜は、**Dairy Queen** というハンバーガー屋さんに行った。そこで、トモ先生にお勧めしてもらった **tender loin**

pork のサンドを食べた。お肉は薄く伸ばして揚げてあり、非常に美味しかった。

8月19日

今日は **Indiana State Fair** に連れて行ってもらった。**State Fair** は農業と動物のお祭りらしく、農業用のトラックや動物の展示があった。そのほかにも、沢山の屋台やジェットコースターなどのアトラクションもあり、観光客で賑わっていた。着くと、まず **Will** さんがステーキサンドをみんなに買って下さった。ステーキはびっくりするぐらい柔らかく、とても美味しかった。次に見た馬のショーでは、お馬さん達がたてがみや尾にリボンを付けてオシャレしていて可愛かった。動物の展示コーナーでは、世界一大きい豚や様々な種類の馬などが見られて、楽しかった。パデューもブースを出していたので遊びに行ったところ、以前北里に交換留学で北里に来ていたパデューの学生さんと偶然再会できた。北里で会って以来だったので嬉しかった。**State Fair** は様々な揚げ物が買えることでも有名で、その中でも噂に聞いていた **elephant ear** というお菓子を試してみることにした。**Elephant ear** は薄いナンのようなパンを揚げてお砂糖とシナモンをまぶしたもので、その形が象の耳のように見えることからこの名前がついたそう。味は揚げパンに似ていて、私はとても好きな味だった。ビールやワイン、リカーなどの試飲コーナーもあり、みんなで色々なお酒も楽しんだ。コーンドッグとよばれる、いわゆるアメリカンドッグも食べた。皮の部分は日本のものより少し薄く思ったより脂っこくなかった。中のソーセージもジューシーで美味しかった。その後、バイクとトラックのショーを見た。バイクが空中で何回転もしたり、トラックはほかの車を踏みつぶしてジャンプしたり、迫力満点のショーだった。夜は、アパートの部屋で飲み会をした。スーパーで買ったビールやテキーラを飲んだ。それまでテキーラは飲んだことが無かったが、美味しかった。アメリカのドラマでよくテキーラが出てくるので、海外ドラマ気分であっという間楽しかった。

8月20日

この日は **Indianapolis Zoo** に行った。トモ先生がサイの麻酔を担当したことがあり、動物園のバックヤードに入ることができた。最初に病院見学をした。鳥サイズから象サイズまで、様々な大きさの気管チューブや胃カメラなどがそろっていた。また、吹き矢や麻酔銃など、野生動物を相手にする動物園ならではの道具を見ることができた。吹き矢は想像していたよりも長く、これを使って動物に針を刺すには、相当大きな肺活量が必要だなと思った。オペ

室や病理検査室なども見学させてもらった。次に、象やサイのバックヤードに案内してもらった。ここでは、飼育員さんから説明を受けた後、象やサイに触ることができた。それまで象やサイと触れ合ったことが無かったので感動した。象は飼育員さんの言った言葉を理解して、色々な芸を見せてくれた。何十種類もの言葉を理解できるらしく、象の頭の良さに驚いた。一般客としての動物園見学もすることができ、キリンの餌やりをしたり鳥のショーなどを見ることができた。夕飯は、寿司ブリトーを食べに行った。太巻きのようなものに、韓国風の調味料と野菜とお刺身が入っていて、もはや何料理か分からない感じだったが、それはそれで美味しかった。こちらでは、ご飯と海苔があれば何でもお寿司になるのだなと思った。

8月21日

今日は **Oncology** を見学した。毎朝 **Radiation Oncology** と合同のミーティングをしているらしく、私も参加させてもらった。この日はある先生のお誕生日で、そのお祝いもかねて料理やケーキも用意されていた。今週からパデュエの学生のローテーションのメンバーが変わるので、料理を食べながら順番に自己紹介をした。いきなり英語で自己紹介をしなければならなかったのが焦ったが、私が言ったジョークにも皆笑ってくれて、和やかな雰囲気になったので安心した。このミーティングのおかげでこの **Oncology** のメンバーに自然になじむことができたので良かった。月曜日は **TCC** の日なので、**TCC** の動物の抗がん剤投与や診察、膀胱鏡などを見学した。診察では、ドクターが飼い主さんに、病状や今後の治療方針、リスクなどを説明していた。飼い主さんに分かりやすいように、簡単な英語を使って話したり、ホワイトボードに膀胱や尿管の図を描いて説明していたので、その診察は私にとっても分かりやすく勉強になった。膀胱鏡では、バイオプシーしたり、腫瘍の形状や位置を観察した。**TCC** でオペをするには、腫瘍と尿管の距離がマージンと縫合のための組織を合わせて **5cm** 必要であることを教えてもらった。この時に初めて **TCC** の先生にまともな質問をしたので緊張したが、とても優しく丁寧に教えて頂けたので良かった。夜はモールに連れて行ってもらい、買い物をしたのしんだ。モールの中に以前食べた **PANDA EXPRESS** という中華のチェーン店を見つけた。前に食べた時にとっても美味しかったので、今回の夕飯も **PANDA EXPRESS** にした。

8月22日

今日も **Oncology** に行った。今日は **TCC** ではな

く様々な腫瘍の患畜が来ていた。ある癌のワンちゃんの診察に入った時に、飼い主さんが泣きながら床に座っていた。今後の治療方針や、治療しても助かる可能性が低いことなど、シリアスな内容を話していた。ドクターも飼い主さんと一緒に床に座りこんで話していて、その親身に話を聞く姿に感動した。そのドクターもペットが癌になったことがあるそうで、その時は自分のペットを救えなかったこと、それがきっかけで **oncologist** になることを決意したことなどを話していた。とても感動的な話だったので、飼い主さんにつられて私までもらい泣きしそうになったが、なんとか泣かないように頑張った。抗がん剤の投与を見学していた時、ビックリしたことがあった。注射を嫌がって暴れる犬がいて、その仔をなだめる為に「終わったらピーナッツバターあげるから頑張って」と言っていた。私はその時冗談で言っているのだと思っていたが、診察室や処置室を改めて見渡して見ると、なんと本当にピーナッツバターの瓶が至る所に置いてあった。パデュエではご褒美として犬にピーナッツバターをあげるのだそう。よく見てみると、ピーナッツバターだけではなくチーズクリームの瓶が置いてある診察室もあった。日本では絶対にあり得ないので、とても面白かった。さすがアメリカだなと思った。夜は **FIVE GUYS** というバーガー屋さんに行った。トッピングをカスタムでき、ポテトの量が多いことで有名で、一度行ってみたいと思っていたお店だった。ポテトはみんなで **L** サイズを分けた。皮つきホクホクのポテトで、非常に美味しかった。**FIVE GUYS** には無料のピーナッツが置いてあり、自由に取れるようになっていて、面白いシステムだなと思った。

8月23日

今日は **Small Animal Community Practice(SACP)** を見学した。**SACP** は、一般診療と歯科、エキゾチックアニマルの診療を行うところで色々な治療を見学できた。朝は犬の歯石の除去を見学した。ゴーグルとマスクを貸してもらい、間近で処置を見ることができ、貴重な経験だった。お昼にはジフテリアに感染した鳥の治療を見た。処置をする前に麻酔をかけて小さな気管チューブで挿管をした。ビーグルの気管挿管でも私にとっては難しいのに、あんなに小さな鳥に挿管できるなんて凄いなと思った。投薬は筋注で、胸筋に刺していた。麻酔のあと、プラークを取って口腔内をクリーニングした。その時、クリーニングジェルを塗る作業をやらせてもらえて嬉しかった。午後は、肥満細胞腫やフィラリアなどの一般診療の症例をいくつか見た。夜はパデュエの先生やほかの生徒達を読んで **BBQ** をした。**BBQ** 場に着くと、フルーツやお菓子が用意されていて、トモ先生が一

人で沢山のハンバーグやソーセージを焼いて下さっていた。日本の BBQ とは少し違い、バーガーやホットドッグを自分でつくって楽しんだ。まさにアメリカの BBQ という感じがして楽しかった。先生やほかの学生ともお喋りができて、仲良くなれたので良かった。BBQ の後半には、毎年恒例の水風船を投げるゲームをした。水風船を割らないようにキャッチするゲームで、とても盛り上がった。

8 月 24 日

今日も SACP に行った。この日は一日中一般診療の症例を扱っていた。昨日は少し無愛想だった学生さんが今日は少しフレンドリーになってくれていて嬉しかった。朝は、原因不明の脱毛症のワンちゃんが来院した。学生が問診したあと、ドクターと脱毛の原因について話し合っていた。学生さんが問診をして、その場で電子カルテも凄いスピードで書き上げて、ドクターに自分の意見をバンバン言っている姿が格好いいなと感じた。日本からのお土産のかりんとうを SACP の人達にあげたところ、ある VT さんがとても気に入ってくれたようで、ネットでわざわざ注文していた。日本から取り寄せるほど気に入ってもらえて嬉しかった。もう帰国が迫っていて、冷蔵庫の食材を消費しなければいけなかったのも、今夜は自炊することにした。リンゴが余っていたので、みじん切りにしてリンゴカレーにした。サンドイッチ用に買ったベーコンとチーズが大量に余っていたので、カレーに全部投入したところ、少し塩辛くなってしまったが、部屋のメンバーと一緒に料理するのはとても楽しく、良い思い出になった。

8 月 25 日

今日はいよいよ最終日。午前中は SACP に行って午後は授与式だった。授与式では一人ずつ前でスピーチをしなければいけなかったのも、SACP の学生さんにスピーチの練習に付き合ってもらった。授与式の会場に入ると、パデューのスタッフさんが今までの写真でスライドショーを作ってくれていたようで、スライドショーが流れていた。みんなで思い出話をしながらそれを鑑賞した。写真を見ながら振り返ると、この 2 週間は本当にあっという間だったなと思った。授与式のあとは、食事が用意されていて、ちょっとした立食パーティーのようになっていた。サンドイッチやケーキを食べながら先生たちと最後のお喋りをした。アパートに戻ったあとは、夕食の時間までパッキングをした。富岡先生がスーツケース用の計りを貸して下さり、みんな順番に自分の荷物の重さを計った。友達のスーツケースが重量オーバーしていることが発覚し、荷物の調節を行った。空港につく前に分かって良かったなと思った。

夜は、トモ先生とご家族さん、Will さん、お世話になった学生のソフィア達とメキシカンに行った。名前を忘れてしまったが、お肉やチーズがクレープのような生地で包まれている料理がとても美味しかった。私たちもトモ先生と Will さんとソフィアに昨晚スライドショーを作っていたので、それを USB に入れてプレゼントした。iPad を持ってきていたので、みんなでそのスライドショーを見ながらご飯を食べた。1 人 1 人コメントを入れたスライドショーだったので、とても喜んでもらった。今晚が最後のディナーかと思うと寂しかった。

8 月 26 日

ついにお別れの日が来た。パッキングを終えた荷物を車に積み空港に向かった。ずっと Indianapolis のロゴが入ったスタバのマグカップが欲しいと思っていたが、パデューのスタバには売っていなかったのも、もうこのまま買えずに帰国することになると思っていたが、なんと空港のスタバに売っていた。最後に良いお土産が買えて良かった。トモさんと Will さんにお別れを言って、手荷物検査に行った。そこで、日本好きのスタッフが声をかけてくれた。Indiana に日本人が来ることは珍しいらしく、ここに来た理由などを根掘り葉掘り聞かれた。私たち日本人の訪問をととても喜んでくれたようで、Indiana のステッカーをプレゼントしてくれた。そして、館内放送で「今日は日本人の方々がいらっしやっております。彼らはパデュー大学に滞在し～」とわざわざ私達を歓迎するアナウンスまで流してくれた。そのアナウンスが流れているなか空港を歩くのは少し恥ずかしかったが、この訪問をそこまで喜んでくれるのは嬉しかった。ワシントンから日本に向かう飛行機のなかで、機内食として枝豆ヌードルなるものが出たのだが、そのヌードルがとてつもなく不味かった。日本を意識してなのかアジア風の味付けだったが、よくこんなに不味くできるなと思うぐらい変な味付けで、麺ものびきった細いうどんのようなものだった。隣に座っていた友達と、不味い不味いと言いながら、枝豆だけすくって食べた。本当は照り焼きチキンという選択肢もあったのだが、チキンが人気で、前の方の座席のお客さん達の分しか無く、私たちの座席に来る頃には枝豆ヌードルしか残っていなかった。その時はほかに食べるものも無く辛かったが、今思えば、それも楽しい思い出の一つである。成田につくと、みんなで記念写真を撮り、富岡先生にお礼のメッセージカードを渡し、解散した。

この 2 週間、楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。トモ先生、Will さん本当にお世話になりました。有難うございました。この研修で得

たものをこれからの勉強に活かしていこうと思います。

宮内 宏美 Hiromi MIYAUCHI

8/12

初めてのアメリカなのでわくわくしていたが、自分の英語力でどこまでコミュニケーションがとれるのかという不安の方が大きかった。十数時間飛行機に乗ったにもかかわらず、現地時間は日本を出発した日時とほぼ変わらないという不思議な経験をした。乗り継ぎ時間が短かったため久しぶりに全力疾走をし、便に間に合ったのはいいものの、到着してみると預けたスーツケースが届かないという展開が待ち受けていた。井上先生とウィルさんが空港まで迎えに来て下さった。お二人ともすごく気さくに話しかけて下さったので不安が少し和らいだ。ウィルさんと英語で話すことにより、いよいよアメリカに来たのだなという実感が湧いてきた。アパート到着後に洗濯をしたが、地下にあるランドリーの部屋、大きな乾燥機、25セントを入れて洗濯する感じがどれも新鮮だった。飛行機で一睡もできなかったので、ベッドに入るとすぐに眠ってしまった。

8/13

ウィルさんに構内を案内してもらった。UNIONにはボーリング場、ゲームセンター、ATM、多数の飲食店などなどがあり非常に広かった。日本の大学と比べてしまうと規模が違ふと感じた。UNIONの一角に学生が利用できるAmazonの宅配ボックスが設置されており、登録すれば私達も使用できると言われた。規模だけでなく利便性も考えられていて素晴らしいと感じた。

大学から車で少しのところにあるコロンビアズパークを見学した。なんと、入園料が無料だった。それほど大きな動物園ではなかったが、ヤギのふれあいコーナーなどがあり長旅の疲れが癒えた。

昼食は各自でとることとなり、数人でChipotleというメキシカンレストランへ行った。ブリトーを頼んだのだが、想像以上の太さと重量感でブリトーというより俵だった。アメリカ食文化の洗礼を受けた気分だった。夕飯はLogan'sにお招きいただきステーキを食べた。学部長や各科の先生方などもいらして、私達も含めて全員が自己紹介をすることとなったのだが、非常に緊張した。人前で英語を話すという感覚にまだ慣れていない感じがした。

8/14

いよいよローテーションが開始する日である。朝

は、軽食をとりつつオリエンテーションが行われた。学部長から学校の概要やアメリカの獣医教育制度等についてのお話があった。英語で長い話を聞くことにまだ慣れておらず、集中力を保ちながら話に付いていくのに大変苦労し、話を聞いただけなのに疲れてしまった。

この日は麻酔科のローテーションだった。VETテクニシヤンのLinleyさんの元で作業に参加させていただいた。まず驚いたのは薬の在庫管理方法である。薬が入った鍵付きの小さな引き出しが多数あり、その上に引き出しと連動したパソコンが設置されていた。使いたい薬と量をキーボードから入力すると、その薬の入った引き出しが開く仕組みになっていた。日本の動物病院では見たことがなく、管理が徹底していてすごいと感心した。呼吸バッグを押す担当をさせてもらったが、動物の状態によって呼吸回数を細かく変える方針のようで、頻繁に回数変更の指示が飛んできた。最初は英語を聞き取るのに必死だったが徐々に慣れてきて作業に集中できた。今考えると、すごく責任の重い役割をさせてもらった気がする。

麻酔科では、学生に患者が割り当てられ、まず学生がその患者の投薬プロトコルを作成する。動物の症状に合わせ、麻酔導入や維持にどの薬品をどれくらいの濃度で投与することが最適なのかを考え、一覧にする。その後一覧を先生に見せてチェックを受けるのだが、どういう考えでこの一覧を作ったのかを述べながらディスカッションが行われる。この時に誤りがあれば訂正し、チェックが完了したプロトコルで実際の投薬が行われる。先生と学生がディスカッションするという段階が入るためプロトコル決定までに時間はかかるが、実践力がつく素晴らしい方法だと思った。アメリカの獣医学生は即戦力として働けると聞いていたが、このような教育システムがあつてからこそなのだと感じた。

麻酔後の処置はそれぞれ異なっているが、麻酔の必要がある動物は全て麻酔科で麻酔をかける。その後に目的の処置を行なうが、そこには麻酔科が数名同行する。例えば、外科手術を受ける動物は麻酔導入後にオペ室へ運ばれ、この時、麻酔科の学生とテクニシヤンの合計3人が同行する。その3人は、執刀医などと一緒にオペ室内に入り、麻酔の維持管理だけを行なう。それぞれの役割がはっきりしており専念できる形で、チーム医療を実現している感じがした。

夕方から皆でキャンパスツアーに参加した。昨日ウィルさんに案内していただいたのは大学の敷地のごく一部であり、全体は想像以上に広いことがわかった。敷地内に飛行場があるほどの広さだ。車がないと移動も時間がかかった。歴史がとても古く、

特に科学分野で多くの有能な人材を排出しているとのことだった。

8/15

この日も麻酔科のローテーションだった。緊急で、朝からボストンテリアの帝王切開が行なわれていた。ER 科から数人、子犬の蘇生を手伝いに来ていた。緊迫した中で処置が行われていたので、見ているこちらも緊張した。酸素チューブを子犬の鼻先にあてる役割で少し参加させて頂いた。体をタオルで擦りつつスポイトで鼻や喉に詰まっている物を吸い出し、アトロピンを数滴ずつ経口投与していた。子犬に対する挿管は気管チューブの替わりに留置針で行なっており、大変興味深かった。確かにあんなに細い気管に通せる気管チューブはないだろう。

麻酔を導入する動物の後肢の足裏あたりに、見慣れないパッチのような物をつけていた。これはドップラー効果を利用し、心音をスピーカーから出す機器に繋がっているとのことだった。先生に伺ったところ、古典的な方法であるが、実際の心音を聞きながら作業できるのでアメリカでは多用されているという。日本では使用しているところを見たことがなかったのだが、心電図の電子音よりも実際の心音が聞けるので良いと感じた。

夕方からはラウンドと呼ばれる勉強会があった。先生があるトピックについてホワイトボードを使って話を進めていき、研修医や学生、テクニシャンたちが先生の質問に答えつつ議論していく形で進行していた。この回のトピックは、麻酔中などに血圧が60 以下になったら危険だというのが、それはなぜか？というものだった。当たり前に暗記していた数値であり、なぜかと考えたことがなかったので理由がわかり大変ためになった。1 時間もしないくらいの簡単なレクチャーだったが、毎週色々なトピックについて開催されているとのことで、スキルアップできる機会があるのは良いと感じた。

8/16

この日も麻酔科のローテーションだった。PDA を患っている犬が来た。授業で連続性雑音が聞こえると教わっていたが、実際の心音は初めて聞いた。洗濯機が動いているのを近くで聞いているようで、モーター音に似た音と激しい水流のような音が途切れることなく連続で聞こえた。授業内容が実際の症例と結びつき、とても印象に残った。別の病院の先生が PDA に気づかず麻酔をかけてしまったため症状が悪化し、Purdue 大学を紹介されたとのことだった。肺水腫、心不全、血小板減少、コレステロール減少、肝機能低下などが起きており重症であった。治療にはアンブラッツを用いる手術が行われ、透視

下で実施された。放射線量測定バッジを持っていないため部屋には入れず、外から見学するしかできなかった。

ラマの手術も見学した。歯肉炎が悪化して膿瘍ができたため洗浄を行っていた。大動物の授業で習った円居や歯盧を使っており、こちらも習ったことと症例が結びついた。日本でラマの手術を見る機会は少ないと思うので、貴重な体験だった。

SUB システムを利用したカテーテルの設置手術も見学した。腎後性腎不全の犬で、腎盂から膀胱へのカテーテルを設置するとのことだった。珍しい手術らしく、見学の学生や先生でオペ室が混み合っていた。透視下で行なうため、途中までしか部屋の中で手術の経過を見られなかった。SUB システムは細かい手術手順が決まっており、その手順に沿って確実に手術を進めている様子が印象的だった。

8/17

麻酔科のローテーション最終日。この日は腫瘍の摘出手術があり、麻酔の導入を見学した後に、そのままその手術を見学した。7 歳のゴールデンレトリバーであったが、側頭部が異様に腫れていた。多葉性の骨軟骨肉腫との診断であり、顎を金属固定器でしっかりと固定し、腹臥位で手術を行っていた。大きめの腫瘍が 3 つあるとのことで、CT の画像をみるかぎり頭蓋骨が溶解しているようだった。長時間の手術になり、朝から 16 時頃までかかった。途中で外まわりの人手が不足したようで、ガウンを着る先生の手伝いをした。実習や OSCE などで勉強したことが役に立った。隣の手術室でピットブルの左足の腫瘍の摘出術が行われており、そちらも少し見学した。

8/18

8 ～ 9 時は法規関連の授業に出席した。講師が話す英語を聞きとるのと同時に、スライドに映される英文を読んでいくということが非常に大変だと実感した。今までは、英語を聞くときは聞く、読むときは読むという切り替えで脳を集中させていたので、聞く方に集中している間にスライドは流れ、スライドの文字を読むことに集中すると話している内容が右から左に流れていき、少々パニックに陥った。授業の後半は少し慣れてきたが、このような練習をしておくべきだったと思った。州法によって異なるが、何かトラブルが起きると最悪の場合獣医師免許の剥奪までなるという。オーナーとのコンセンサスとしっかりととり、必ず診療記録をとることが大切だとのことだった。アメリカは訴訟社会なので、日本よりもシビアであると感じた。

この日は SACP のローテーションだった。エキ

ゾチックの診療もする科ということで、この日はオウムがやってきた。まず学生がオーナーと話し問診をとり、一旦下がつて先生とディスカッションをして治療方針を決める流れだった。先生とのディスカッションが入るためオーナーはその分待ち時間が一般の病院に比べ長いが、大学病院は教育の場であるという認識が浸透しているようで、皆協力的で長時間でも文句も言わず待っている姿が印象的だった。日本の教育現場でも、まず学生が問診を取るというシステムが浸透してほしいと感じた。このオウムは心拍数が高く心肥大が疑われるとのことでX線の撮影が行なわれ、その後先生は循環器科や麻酔科を回り、そこの先生から助言を求めている。専門性がしっかりしているので、各専門の先生から助言を得られることは治療への近道のように感じた。

お昼にトンプソン先生のセミナーが行われた。先生は学生の頃からカワウソやワシの保護、調査に参加していたとのことで、意識が高く素晴らしい学生だったのだなと感心した。高い木の上などで巣作りをするワシの習性を活かし、高層ビルを利用し繁殖させるというアイディアはすごい発想だと感じた。最も印象に残ったエピソードは蛇の帝王切開だった。犬などは子宮に1つ切開創を作りそこから全ての胎子を取り出せるが、蛇の卵は移動させられないため、卵のある位置で何度も切開の処置をしないと行けないとのこと。その都度消毒や閉創をしないと行けないため長時間におよぶとのことだった。

午後はテリア犬がワクチン接種にやってきており、皮下接種をさせてもらった。貴重な体験だった。基本的に、Visiting Studentは動物に触れてはいけならしいが、先生によって対応が全く異なるので少し驚いた。

8/19

ウィルさんと井上先生のご家族と一緒にステイトフェアへ行った。馬の品評会を見学したが、担当者がテンガロンハットを被っているあたりがアメリカらしいと感じた。屋台がたくさん出ており、ステーキサンドイッチが最高に美味しかった。ビールの試飲もしたが、日本には売っていないような地元の銘柄も味わえて楽しかった。

8/20

インディアナ動物園へ連れて行って頂いた。バックヤードツアーに参加し、サイと象をすごく近くで観察でき、かつ触ることもできた。硬いゴムのような、生まれて初めての感触で非常に貴重な体験だった。象の耳裏に走っている静脈の太さには驚き、採血しやすそうだなと感じた。通常の園内も見学したが迷うほど広く、アメリカならではの動物種も展示

してあり楽しかった。

8/21

この日から眼科のローテーションだった。向こうの学生もこの日から新しいローテーションであったため、引き継ぎや先生から眼科の診察方法のレクチャーなどがあり、一緒に参加させて頂いた。正面と真上からの観察、威嚇瞬き反応や、対光反射、シルマーティアテスト、フルオロセイン染色、眼圧検査など、授業で習った検査を一通りやっており、検査内容は日本と変わらないようだった。まず、学生が問診をとり検査を一通り行なっていた。一旦バックヤードに下がり、病名の推測と類症鑑別、治療の方向性などを先生に示し、ディスカッションをする。その後、先生と学生と一緒に診察室へ戻り、必要があれば先生が追加の検査等を行い、最終的な治療方針を決定していくという順で診察が進んでいった。この日は乾性角結膜炎や過熟白内障の患者が来た。白内障に患者の眼底検査をさせてもらった。授業でも一度やったが、やはり焦点を合わせるのが難しかった。

この日は皆既日食が見られるとのことで、テレビ中継も行われていてアメリカ中がお祭り騒ぎだった。日食の時間に病院エントランスから外に出てみたところ、日食用のサングラスをもった先生やテクニシャンの人たちがたくさんいて空を見上げていた。サングラスを貸してもらって私も見る事が出来た。日本では見られないらしく、とてもラッキーだった。

8/22

この日も眼科だった。4ヶ月齢のチワワとパグのミックス犬がチェリーアイの症例で受診していた。チェリーアイは教科書の写真でしか見たことがなく、実際に見たのは初めてだった。すごく元気な子で、保定をすぐにすり抜け、空きあらば手を甘噛みし、検査をまともにやらせてくれないなかった。オーナーに外で待ってもらおうようにしたがそれでも元気さは治らなかった。その対策として、小さめのタオルを、ムチウチを保定するように首にグルッと回し、そのタオルを抱える感じで保定していた。そうすると振り返ることが出来ないのを手を追いかけて甘噛みすることがなくなり、首が固定されて動きが制限されるので保定のすり抜けもなくなった。検査がスムーズに進められ、これは使える技だなと思った。4歳のパグ犬が、最近おもちゃを追わなくなったという主訴で受診していた。検査をしたところ網膜剥離だと判明したそうで、先生が症状と今後の方針についてオーナーに説明していた。片目は完全に失明しており、もう片目も2/3ほどは剥離しているとの

こと。手術方法はいくつかあり、まだ剥離していない領域の境目をレーザーで焼いて、これ以上剥がれないようにする方法などを紹介していた。Purdue 大学では出来ないで他の病院を紹介することになるという方法も含めて、料金やリスクも全て提示し、オーナーに考えて頂くように促していた。ホワイトボードや眼球の模型なども用いて、オーナーが理解出来ているかどうかを都度確認しながら丁寧に話しており、コンセンサスをとることはアメリカでも日本でも変わらずに大事なのだと改めて感じた。オーナーは、まだ若い犬なのでそんな重症であるとは考えていなかったようで、かなり動揺していた。

4ヶ月齢のイングリッシュコッカースパニエルが眼瞼の内反手術を行なうために来院していた。瞼の毛が目に入ってしまったことで、痒がったり角膜が傷ついたりしてしまっているとのこと。授業で習った Y-V 縫合術を行なうのかと思っていたら、上瞼を仮縫いしただけだった。仮縫いで数週間維持し、成長とともに矯正されるかみるそうだ。それで治らないようなら、本当の内反手術を行なうと言っていた。

8/23

この日は 8～9 時まで講義を受けた。獣医学生へのストレスやトラウマについての話しであった。獣医学生はうつ率が高く、精神の自己管理が大切であるとのこと。この先生は瞑想をお勧めしていた。

この日のローテーションは画像診断科であった。画像診断科は、薄暗い部屋で一日中モニターとにらめっこする仕事であった。様々な科を受診している症例の X 線や CT、MRI 画像がこの部屋のパソコンに送られていた。それを 1 つひとつ見ていき、所見や可能性のある疾患等を書き込み、返信する。そしてまた次の症例を見る。これの繰り返しであった。レジデントの先生はまだ X 線画像しか読めないそうで、1 件あたり 10 分程度かかるという。日によって異なるが、一日に 20～30 件を処理するそうだ。MRI や CT 画像を読む先生は、1 件あたり 20 分以上かかると言っていた。撮った画像が見にくい場合は躊躇なく取り直しを指示していた。画像の読み方に決まった手順などはなく、先生それぞれで異なり、鍛錬あるのみだとのこと。日本と異なって徹底していたのは X 線などを撮る時の保定であった。人が動物を持ったまま撮影するということは基本的に無く、クッションやテープを駆使していた。どうしても手で保定することが必要な場合は鉛の手袋を装着するという徹底ぶりであった。人が素手で保定したままバンバン撮影している日本とは意識が全然違うと感じ、日本も徹底すべきであると思った。

8/24

この日のローテーションは行動学であった。先生が来る前に学生が前回の診察の録画をチェックしていたのでそれを一緒に見た。じつくりと観察の時間を取るため、午前と午後に 1 件ずつしか予約を取っていないそうだ。朝は、午後に再診に来る犬の病状確認をした。ドックパークで小さい犬を噛み、攻撃的で、車や花火など雑音を怖がり、神経質不安があるなどがあげられていた。その上で学生たちが、詳しく問診したいことは何かを列挙し、鑑別診断はあるか、処置としては何があげられるかを話し合っていて決まっていた。今回は攻撃的になってしまうトリガーをとり除くことに重点をおき、必要であればフルオロキセチンを第一選択薬にするという方針に決まった。

診察室は 6 畳ほどの広さで椅子がいくつか置いてあった。片方の壁がマジックミラーになっており、見学する学生は隣室に待機した。実際の診察になると、先生一人と学生二人が診察室に入り、オーナー共々着席した。犬はある程度長いリードを壁の固定器に繋いで自由に行動させていた。オーナーは先生との会話に集中し、その間犬を可愛がったりしないように指示が出ていた。問診がある程度とれたら隣室の学生も含め、中庭へ移動した。実際にオーナーにリードを引いてもらい、散歩の様子を観察した。次に、通行人を装った学生がすれ違ってみたり、ぬいぐるみの犬を遠くに見せて、どう反応するかを観察したりした。このとき、犬のコントロールの仕方などをオーナーに指導し、他の犬に吠えてしまう犬であれば、他の犬をみつける度におやつをあげることを繰り返すよう指示し、練習させていた。部屋に戻ると学生と先生でディスカッションを行い、実際に問診してみた印象とそれを受けて処置をどうするかを決めていた。一回の診察で、問診、行動観察、オーナーへの指導などなどをじっくり行なうため時間がかかっていた。問診前後の学生と先生のディスカッションにもかなりの時間を割いており、一日に 2 件しかみられないというもの納得がいった。緒方先生が担当だったので、分からないところは日本語での質問も受け付けて下さり、とても理解が進んだ。日本では行動学科がある病院はまだ少ないので、指導の様子や問診を間近で見られて貴重な体験だった。

8/25 最終日

8～9 時は講義を受けた。癌治療に関する講義で、GI 療法やパラジウムの副作用、各種抗がん剤の作用の違いなどについてだった。

この日は Small Animal Surgery のローテーションだった。内視鏡を利用した心膜切開をしていた。

腫瘍から産生された水分が貯まっているとのこと。呼吸では陽圧を保ち、血圧が低いため血管拡張と心拍低下を防ぐためイソフルランの濃度を低くするような麻酔のかけ方をしていた。しかし途中で出血し、それが止血出来なかったため開胸手術に切り替えていた。かなり慌ただしい現場となり、見学がしにくい状況であった。この日は午前のみ見学であったので、手術は最後まで見られず途中で切り上げた。午後はフェアウェルパーティが行われた。各自短いスピーチを行い、修了書と記念品をもらった。軽食として提供されたサンドイッチやアメリカなケーキを食べながら、もうローテーションは終わりなのかと思い寂しくなった。

帰宅後は部屋の掃除に明け暮れた。2週間しか過ごしていないのに、思った以上に部屋の荷物が増えていて驚いた。夕飯はウィルさんと井上先生とメキシカンレストランへ行った。アメリカでの最後の夕食だった。

8/26

7時に慌ただしく出発した。部屋はきれいに空っぽにして下さいと言われたが、部屋の掃除をする時間もあまりなく、色々と部屋に忘れてきたような不安に苛まれた。井上先生とウィルさんが空港まで送ってくださり、最後までお世話になりっぱなしだった。

アメリカは、日本と異なり専門性がしっかりしていて、まさにチーム医療が行なわれているということを感じた留学だった。例えば、外科手術を実施するときには麻酔科から3人部屋に入り麻酔の維持管理を行い、X線を撮ったなら画像診断科が所見や印象を書き、心臓の手術は循環器科の先生が担当していた。もう一つ感じたことは、Teaching Hospitalの名の通り、教育の場であるという考えが定着していることだった。まずは学生がオーナーと話し問診を取り、検査などを一通り行なうというスタイルがどの科でも定着していた。その後、バックヤードに下がって先生と学生で疾患や治療方針についてディスカッションするという行程が必ずあり、自分がどう考えたかを先生に伝えないといけない。なので、曖昧な知識では判断はできず、知識と考える力がつくと感じた。学生が問診や検査を行なうためぎこちない部分があったり、ディスカッションが入るため普通の病院より長く診療時間がかかったりでオーナーは待たされることになるが、そのあたりは理解してくれていて文句を言う人などはいなかった。教育が優先される考え方が根付いていてうらやましかった。学生は4年になると、将来の希望に沿ってまず大動物か小動物かを選択する。日本のように特定のラボに所属するというのではなく、3

週間ずつローテーションで科を回る。将来どの専門医になるかどうか決めるにあたっても、実際にやってみないとわからないこともあり、ローテーションでできるという考えはいいと感じた。まずは学生が問診をとるというスタイルなども含め、日本の獣医医療の教育も見習うところは見習って欲しいと感じた。

あつという間の2週間であり、とても充実していた。ウィルさんや井上先生をはじめ、多くの先生方にお世話になり、学生もみな優しく接してくれてとても感謝している。また機会があればみんなに会いに行きたいと思った。

森 賢佑 Kensuke MORI

8/12

13時集合の1時間前に成田空港へ到着。一緒に行く人たちと合流後、出発前にスシを食べる。名残惜しい最後の日本食。おいなりさんの甘み、だしの旨味がすばらしい。

16時から約12時間のフライト。飛行機内で、4本の映画を見てその合間に寝ようとするも全然眠れず。アメリカ到着前に90分寝る。13時間の時差があるため、アメリカ到着は15:45ごろ。ワシントンD.Cからインディアナへ飛ぶ乗り換えの際、入国審査で遅れ、最終便だったので飛行機に待ってもらってインディアナへ向かう。

生徒10人中、自分を含む5人のスーツケースがワシントンからインディアナに送られず、航空会社からお詫びの品として、歯ブラシや洗顔キットなどの詰め合わせをもらう。入っていた紙にはきっちり謝罪文が印刷されていたので、普段からこういうトラブルは起きがちなのかと感じた。

空港でTomohiko Inoue先生(以下tomo先生)とWilliam smithさん(以下Willさん)の送迎を受け、手荷物だけ持ってパデュー大学の宿舎へ。

tomo先生とWillさんの用意してくれたサンドイッチとコカコーラをアメリカ初夜の晩ごはんとして終え、就寝。アメリカに来た興奮はあったものの、移動の疲れからかよく眠れた。

8/13

7時ごろ起床、これもtomo先生とWillさんの用意してくれたりんごとベーグル、マフィン食べる。

午前中はPurdue大学キャンパス内のカフェや施設を軽く紹介してもらう。ユニオンという学生向けの建物があり、事務所やレストラン、雑貨店やAmazonの受取場所や遊技場などが入っている。驚いたのはユニオンの地下にビリヤード場とボーリング場が入っており、格安の金額で遊ぶことができる。

学生のストレス解消に配慮した、なんとも思いやりのある配慮だと感じた。この紹介を受けた後も度々この地下に来ることがあったが、いつでも学生が遊んでいたのが人気の施設であるようにようだった。

tomo 先生たちの車で大学近くのコロンビアパーク内の ZOO へいく。ここは入場料無料で、企業や民間などの寄付を受けることで成立している小さな動物園。日本ではあまり見られないサルや、蝶々の展示があり、やぎとのふれあいに癒された。市民が土日にのんびり時間を過ごす、ゆったりとした雰囲気の漂う空気感があった。

Walmart でこの週のサンドイッチの具材や飲み物を買う。店の雰囲気は日本で言う所のイオンモールに似ており、食材はもちろん、簡単な服や家具、生活日用品やゲームや家電が大量に並んだ、巨大な倉庫のような店である。スナック菓子や牛乳、オレンジジュースも巨大な量で売られており、アメリカ人の大きな体を構成しているのはこれかと早くも納得させられた。お店の壁際的一方には食材が並べられていたが、大多数のお肉コーナーに追いやられ、隅っこの方に少しだけ魚コーナーがあったのを見ると、インディアナの人々はほとんど魚料理に興味がないことがわかる。

帰宅後大量のアイスを食べ、21 時過ぎに時差ボケが来たのか 疲れたせいなのかはわからないものの、ソファで意識を失って 23 時過ぎに起きてシャワーを浴び、就寝。朝早く起き、お昼ご飯のサンドイッチをつくって学校へ向かう。

8/14

MRI に関する書類を書きつつ、大学の会議室で朝食として大量のフルーツとケーキをいただく。

病院内の案内を受け、ローテーションへ。初め 2 日間は Cardiology でお世話になる。この科では日に 5-6 件の診察と、月曜か金曜日に外科手術を行う。心雑音を呈するポメラニアン（僧帽弁の心内膜炎）と、心雑音と心肥大の雑種犬（投薬三ヶ月を施す）の診察を見学し、聴診器を借りて心雑音をきく。

検査としては血液検査や超音波検査を行う。今まで自分の目にした日本の動物病院ではエコー検査をするとき、診察台の上に V 字マットを置いてその上に動物を寝かせているものしか見たことがなかった。Purdue 大学の動物病院ではアクリル板の診察台に二つ 30cm 四方ほどの穴が開いたようなもので、台の上に動物を寝かせた上でその穴の下からプローブを当てることでエコー検査をしていた。これなら動物の姿勢を変えるのが楽で、動物側の姿勢の負担に対しても（V 字マットの場合保定は容易なもの）の症状によっては動物が苦しい場合がある）都合がいいようにできている。合理的かつシンプルな作

りになっており、面白く感じた。また、後にも述べるがこちらの動物病院では動物の機嫌、体調を最優先にした診察をしているように感じた。エコー検査に対する動物のストレスが強そうな場合には軽い鎮静をかけることで人も動物も負担が少なくなったり、動物とのスキンシップを十分に取った上で検査を行うことで信頼関係を作っているように感じた。日本の大学病院と大きな違いとして感じたのは、指導する人間と学生との距離感の近さである。オーナーとの問診を学生がやる時点で凄さを感じたが、学生から意見を教員に出して、議論を深めている様子に驚いた。学生の知識量や熱意、学ぶことに対する意欲を強く表しているように感じた。

この日にやっとサングラスを買った。強烈な日差しから守るには現地のものが最適。

帰り道にパンダエクスプレスへ。中華料理の 1 大チェーン店で、アメリカ人に圧倒的な人気があるらしい。しっかりとした中華のスパイスが効いて辛味もしっかりしていて美味しかったが、アメリカ人好みなのか味付けが濃い。

Purdue 大学の近くはキリスト教が強く根付く土地らしく、教会をたびたび見かけ、道路にいくつもチョークでクリスチャンの集会のお誘いが書いてある。これを日本でやると、なかなか怪しまれそう。敬虔なキリスト教徒が多いので日曜日は「休息日」としてアルコール類はスーパーでも小さなマーケットでも買うことができない。

8/15

起床後、お昼ご飯のサンドイッチをつくってから朝食のグラノーラを食べる。

このグラノーラ、極彩色に染まったコーンフレークで、味は見た目ほど強烈でないが 初めは味が理解できない。じきにオレンジやキウイといった「爽やかなイメージ」のケミカルな酸味と甘い香りが漂ってくる。何味かはっきりしない ONLY1 の味で自由の国ならではの個性あふれる一品である。同じ部屋に泊まる友人は「これがうまいんだ」といいつつパクついていて驚いた。

朝、外傷から心タンポナーデに進展する症例のセミナーを受ける。生理学などの基礎的な分野からカーディオロジーに引き上げて行く構成でわかりやすかった。口頭の会話よりも文章がパワーポイントに写してあると理解度が格段に高い。

セミナー後は入院犬の採血、エコーし、強心薬の投薬。診察件数は少なく、PDA の術後の経過観察とフレンチブルドッグの三尖弁閉鎖不全の診察のみ。後は他の科から回されて来たクライアントのエコーを見るなど。

8/16

この日から Small Animal Medicine、つまり内科で3日間見学させていただいた。基本的に待機室と入院室にいることが多く、診察は一日に5,6件ほど。この科には学生は5人ほどで、インターンが1人とレジデントが2人と教授が1人。

いくつか診察に同行させていただいた。尿道炎か腎炎疑いの外耳炎から蓄膿症に進行したラブラドル・レトリバーの頭部をCTスキャンで撮影したり、咳・貧血が主訴の犬がPDA疑いでCardiologyに移動した。

印象に残った症例として、高齢のMix犬で鼠径部の根元にしこりがある触ると痛み、他の病院で鎮痛剤としてカルプロフェン投薬歴があって多飲多尿で糖尿病かクッシング病の疑いがある。MRIやCTを行うにあたり麻酔をかける必要があるリスクと、治療費が高額になりうるリスクを説明した上でオーナーは一時帰宅した。オーナーへの説明する上で、手術前に書いてもらうインフォームド・コンセントの書類には費用、行う術式、合併症、責任を負う獣医師などを記入する欄があり、細かい点の隅々までオーナーに理解してもらった上で動物を扱う慎重さを感じた。訴訟がよく起こると言われるアメリカならではのとも言えるかもしれない。

8/17

朝から、昨日手術した尿道結石の猫の入院管理を見学。高窒素血症と口腔潰瘍を呈している。ぐったりとして水を飲めない様子なので点滴を処置した。

新患で、4日前に車にぶつかって外傷がなかったものの、徐々に腹部膨満と体重減少し始めたグレートデンが来院した。貧血、発熱、腹水(エコー検査により判明)、BUN低下、Na低下、Ca上昇、アンモニア血症、好中球増加症、血小板減少症を呈していた。採取した腹水は灰褐色の色調で、病院内の検査室へ送られた。炎症を起こしているため、入院室で水分と栄養を点滴しつつ安静にした。CTスキャンで撮影し、この日の診療は終えた。

診察がある日は、一日中英語を必死に聞き取ろうと集中するので脳みその普段使わない部分をフル回転する実感がある。

8/18

新患はなく、この日は入院患者の管理のみ。向こうの学生のローテーションが最終日らしく、昼過ぎからは待機室にそれぞれが好きな食べ物(巨大なピザやケーキ、大量のスナックにものすごい量の炭酸ジュース)を持ち寄って、症例発表用のモニターでジャスティン・ビーバーを流しながらパーティをしていた。あまりにも異様な光景と、仕事のONと

OFFの切り替えの極端さに驚いた。

お昼はLunchセミナーとしてSteve Thompson先生の講義を大量のピザとともに受ける。アメリカでは狩りを趣味として楽しむが絶滅危惧種の保護にも力を入れており、この先生はPeregrine Falconの保護とリハビリをする施設で働いていた経歴がある。他にもRiver otterやスカンクの処置方法、蛇の麻酔のかけ方など非常に興味深い話を聞くことができた。

8時起床。スーパーで買って来たスターバックスの豆でゆっくりコーヒーを入れる。ペットボトルの軟水で作ったおかげでまろやかな仕上がりになって美味しい。

willさんの車に乗ってstate fairというお祭りへ。会場には大量の派手な屋台とにぎやかな音楽、至る所でハンバーガーとレモネードが売られていていかにもアメリカ!といった雰囲気を感じることができた。

いくつかの乗馬クラブが集まったテントがあり、大量の馬車と巨大な轎馬がたくさん並んでいた。歴史を重んじ、それぞれのやり方に誇りを感じているように思えた。

モンスタートラックとバイクのショーでは、脳髄にビシビシ響く轟音と共にトラックがエンジンをふかして、「アメリカ」という国の、車に対する一部の人の考えがよく伝わった。「車体大きい」「音が大きい」「色合いと運転が派手」など、単純だがこれらのことを大切にしていることを学んだ。

8/20

朝早くからIndianapolis zooへ。tomo先生が担当するサイと象を管理する医務室を見せていただいた。鎮静用の吹き矢や麻酔用ライフル、手術室を見学。あいにく日本の動物園の医務室がどんなものかは知らないけれど、組織採取や病理検査、菌の同定ができる環境があり疾病の根元から治療ができるようになっていて感心した。

動物園は広い土地を有しており、それぞれの動物に当てられたスペースは日本よりも格段に大きい印象を受けた。これは向こうの動物に対する福祉の考えが反映していると考えられる。動物と人の距離が近く、フラミンゴは手の届く範囲で飼われている自由さに驚いた。オランウータンの立派な建物が動物園の中心にあり、知能テストや遊びの習性を見学できるようになっていて研究施設のような雰囲気だった。

8/21

今日から3日は神経科の見学。朝は入院している雑種の大型犬(T13-L1の線維軟骨塞栓症疑い)と

茶色猫の神経検査をやる。

- ・膝蓋腱反射などのハンマー試験
- ・片手、片足、両手、両足のケンケン
- ・瞬き反射
- ・鼻の穴に鉗子入れる、耳に入れる→嫌がるかどうか
- ・背中を鉗子で掴んでの皮筋反射
- ・ナックリング
- ・尾椎を90度くらいにあげる
- ・指で脊椎圧迫
- ・肛門周りの刺激
- ・肘・膝を曲げ伸ばし
- ・顔を上下左右に向ける

シーザーは左後ろ足のケンケンが遅れる or 反応しない、セントバーナードは腰椎圧迫で痛がるなどで来院していた。

ラブラドルで、2-3週間前から時々発作が起き、けいれんが10-20秒ほど続く。初めは4日に1度ほどであったが、だんだん起こる頻度が高まった。8/20の散歩中にウサギを見つけて極度に興奮した瞬間、体の動きが完全に固まって目を開いたまま硬直した。現状は沈鬱状態で、水が自力で飲めず、点滴で給水。

抗てんかん薬でベンゾジアゼピンを投与して様子を見る。

8/22

入院管理を午前にして13時来院の猫を上記の神経学的検査してから、入院管理以外に仕事はないらしく、学生たちは待機室でご飯を食べて談笑。この科はそもそも診察件数が少ないらしい。日本で心臓学や神経学などに特化した診療はなかなか見られないためこのアメリカで見る価値は十分にあるが、アメリカでもそんなに診察件数が多くないことに気がつかず暇な時間ができてしまった。やることのない時間には小動物外科の手術を見学したり、入院室にいる他の患者のカルテを読んだりしていた。ハリネズミの入院を見てアメリカを感じた。

8/23

早朝のgrand roundという講義で新生入生に混じって一緒に受ける。新生活に伴う燃え尽き症候群とリラックス方法、新しい生活に慣れるためのレクチャー。どの国の学生もかかる不安や問題ごと、心配だと知った。このような集まりを設けて論理立てて全体に説明することで、学生のメンタルケアに配慮していることに興味した。

VTの学生がこの日から来ていた。レジデントから学生に検査やる意味をしっかりと説明することで自分たちの仕事がどのように役立ち、意味があるかを

理解させる意義があるように思えた。

ジャーマンシェパードで鼠蹊部あたりを触診すると痛がる。神経学的検査に異常は見られなかったようであるが、肛門の触診で上部に何かしらの異常があった。

他には前肢の先に力が入らず歩くことができないグレートデンとダックスフントが来ていた。神経学的検査では動物が嫌がったらすぐに検査を中断し、動物の機嫌、元気などに重点を置いた「動物中心」の医療を行なっていることが伝わって来た。動物がリラックスできる体勢や環境を整えた上で手早く検査を行う様子は素晴らしかった。

8/24

ここから2日心臓科に戻る。前日に手術したPDAの入院管理、予後良好。午前は慢性心不全のステージについてのレクチャーを受ける。日本の授業で習うような内容のそのままであった。昼からは以前PDAの手術をした犬の再検査のエコーと、以前薬剤処方した肺高血圧症の再検査のエコーを見学。咳と食欲不振のブードルがエコー検査で胸水の貯留が認められたため、カテーテルをメスの小切開を加えて挿入、血様の液体を80mlほど排出。検査へ提出。夕方にも胸水の排出が必要なラブラドルが他の科から来たため処置を施した。

8/25

普段は手術を行う日だが、二日前に行ったため診察はなかった。午前は心電図を見てどのような疾病が考えられるか、どう処置を施して予後はいいか悪いか、などの検討をする形の勉強会。ここでも学生の知識量とレジデントの人へ意見をぶつける頻度の高さに驚く。

昼からはこの2週間の研修の卒業式を開いていただき、スピーチと証書授与。その後のささやかな食事会では行動学科の日本人の先生に、父を知っていると声をかけられ、獣医師界隈の世間の狭さに驚嘆する。夜はtomo先生とwillさんに連れていただいてメキシコ料理を食べる。初めて本物の「辛さ」に触れる。強い。

8/26

早朝にwillさんとtomo先生の車に乗って空港へ。広すぎるトウモロコシ畑とたまに牧場が現れるウェストラファエットの風景ともお別れ。

車で送迎、場所の手配や大学の案内、至る所で食事をふるまってくださったりと親切を尽くしてくださったtomo先生とwillさん、場を盛り上げてくれたsophiaに絶大なる感謝をいたします。

また、学生10人をまとめてくださり、安全に引

率してくださった富岡先生の苦労は尋常ではなかったかと思われませんが 多大なる感謝をいたします。

横家 舞 Mai YOKOYA

8/12 (1日目)

今日出国しました。行きの飛行機ではいつか借りようと思っていた映画をまとめて観られてお得でした。英語の練習だと思って何本かは字幕なしで観てみました。帰りの飛行機では英語がもっと理解出来るようになればいいです。ワシントンで乗り換えでは、入国審査に時間がかかってしまって乗り換えのために走りました。これ程走ったのは久しぶりでした。インディアナ空港に無事到着出来ましたが、スーツケースが届きませんでした。そのお詫びにちょっとリッチな歯ブラシセットをもらえてラッキーでした。智先生とウィルさんが空港までお迎えに来て下さいました。どちらの方も気さくな方でとても話しやすかったです。午後8時頃でもまだ日が差していて不思議な感じでした。

8/13 (2日目)

今日は学校見学をしました。日差しが強いので暑く感じました。ほとんど地元の方はサングラスをしていました。その後、地元の動物園に行きました。入園料は無料でした。初めて見た白頭鷺はすごく威厳がありました。その他にもインディアナ州特有の動物達がいました。その後昼食では、ブリトーを食べました。自分で好きな具を選択出来て楽しめましたが、量が非常に多くて食べきれませんでした。アメリカに来たなど実感しました。夕食は歓迎会にお招き頂き、ステーキを食べました。日本の牛肉とは違って脂肪が少なめで私は好きでした。夜になっても相変わらず日が差していて奇妙でした。

8/14 (3日目)

今日から学校が始まりました。まずオリエンテーションを行った後、SACP(Small Animal Community Practice)で見学させて頂きました。ここは一般診療をする科です。今日 SACP には先生と VT さんがそれぞれ1人と、4年生の生徒が4人いました。エキゾチックアニマル専門の先生はお休みなので今週は犬猫がメインのようです。午前は歯石取りを見学しました。驚いたことに、4年生の生徒が処置をしていて実践的だなと感じました。大学病院というよりも、ティーチングホスピタルなのだそうです。午後は外来を見学しました。まず生徒が飼い主さんに問診や身体検査を行い、最後に先生と一緒に診察する形式でした。診察室はマジック

ミラーになっていました。今日は午前中に犬2匹、午後に犬3匹と猫1匹を診察していました。1匹あたりの診察時間が2時間以上かけていて、じっくりと話を聞いて診察を行うのは日本の動物病院と異なる点でした。初日で緊張していましたが、SACP はどの方も優しく丁寧に教えて下さったので質問し易かったです。獣医の学生は8~9割女性でした。クリニカルローテーションの後は、学校見学をしました。大学の敷地は広く、歩き疲れてしまったので今日はよく眠れました。

8/15 (4日目)

今日も SACP の見学をさせて頂きました。今日は10件の外来がありました。予防接種が殆どでした。その中でもハリネズミの診察は魅力的でした。左眼の奥に出来た骨肉腫が原因で左眼が突出したようです。また、麻酔科の生徒の犬の診察があったのですが、獣医学生なら料金は半額で、自分の病院業務が終わるまで大学の入院室に預けられる様で、良いシステムだなと思いました。最後に明日の外来担当をそれぞれ決めていました。

8/16 (5日目)

今日も SACP の見学をさせて頂きました。今日は12件の診察がありました。今日もワクチン接種が殆どでした。朝は症例検討会が中庭で行われました。午前中は皮膚疾患の犬が来院しました。皮膚科で検査を行うと、スタフィロコッカス感染でした。3日間の SACP の見学を通して感じた事は、1匹あたりの診療時間が非常に長いという事です。ワクチン接種でも3時間以上かけていて、その間飼い主は診察室でずっと待たされているのですが、長い待ち時間に対してどのオーナーからも不満を聞きませんでした。なので、これがアメリカの診療では一般的なのかなと感じました。最初はじっくりと問診して貰えて良いなと思いましたが、私が飼い主だったら、もう少し短時間で診てもらいたいかなと思ってしまいます。

8/17 (6日目)

今日から循環器科を見学させて頂きました。外来が6件あり、殆どが午前中に診察が終わり、午後はデスクワークをしていました。生徒だと思っていた人が先生ですごく若くて驚きました。エコー検査では画像のおかげで、説明してもらった英単語が全て理解できなくても、何となく理解することができました。ペースメーカーを入れた後の再検査ではエコー検査を行っていました。VTさんにペースメーカーの機会を実際に見せてもらいながら説明してもらいました。VTさんの知識量に驚きました。お土

産を渡したことがきっかけで話せたり、自分のことを覚えてもらえたり、仲良くなるきっかけとなり持ってきて良かったと思いました。学校が終わった後にウィルさんお勧めのタイ料理屋さんでイエローカレーを食べました。甘くて美味しかったです。その後卓球をして帰りました。今日の授業後はとても楽しかったです。

8/18（7日目）

今日も循環器の見学をさせて頂きました。パデュー大学では3週間毎にそれぞれ自分の志望する科を回りますが、今日が最終日だったのでそれぞれの生徒がご飯を作って持ち寄ってパーティーを開いていました。なかでもインドの方が作ってくれたお菓子が印象的でした。グミを油で揚げた砂糖をまぶしたインドのお菓子は甘くて油っこくて、これを食べ続けたら確かに太りそうだなと感じました。今日は昨日来院したPDAの子の手術が1件のみで暇だったので麻酔科や外科の見学をさせて頂きました。外科の手術では橈尺骨遠位斜骨折をプレートで整復していました。ちょうど整形外科の授業を受けたばかりの分野で実際に見学が出来て理解が深まりました。お昼はピザを食べながらトンプソン先生の野生動物に関する講義を受けました。午後はスタッフを労う会が開かれていたので参加させて頂きました。だいぶ英語で話すことに抵抗がなくなってきた多くの人とお話が出来た良い機会でしたし、アイスやお菓子を無料で食べられた事が良かったです。午後はハンバーガーを食べました。ハンバーガーにはそろそろ飽きてしまいました。

8/19（8日目）

今日はお休みだったので畜産物品評会に行きました。大きなお祭りらしく、たくさんの屋台が出ていました。ステーキバーガーがとても美味しかったです。今日は日差しがとても強い中ずっと外にいたのですごく日に焼けてしまいました。暑かったのでレモネードがすごく美味しく感じました。

8/20（9日目）

今日はインディアナポリス動物園に行きました。バックヤードに入って施設見学や、サイや象の説明を聞いて、触ることができました。今日の夕食は寿司ブリトーを食べました。意外にも美味しかったです。

8/21（10日目）

今日も循環器科で見学させて頂きました。今日は新しいローテーションに変わったので、朝はオリエ

ンテーションと自己紹介がありました。自己紹介の時に最後にオチをつける流れだったので英語を話す事よりも頭を使いました。ここでは手術があるのは水曜日から金曜日までらしく、今日は5件の外来だけでした。今日は早く終わってしまったので、他の科でも見学しました。先週SACPで仲良くなった生徒が外科にいたので見学させてもらいました。午後は買い物に連れて行ってもらいました。買い物をしたときにメンバーズカードの作成をお勧めされたのですが、ここに来る機会はないだろうなと思いました。

8/22（11日目）

今日は行動学を見学させて頂きました。午前中と午後にそれぞれ一件の診察の予定でしたが、午後の診察はオーナーが来院しなかった為なくなりました。午前診察した犬は3ヶ月前に予約していて今日来院しました。行動学は週に2回しか診察していないため予約が取りにくいようです。診察まで待てずに飼い主が安楽死させてしまうケースもあるみたいです。費用は3万円程だそうです。これでもかなり安い方だそうです。あらかじめ70ほどの質問項目に答えて診察前に先生と生徒がディスカッションして問題点を挙げたり、飼い主に聞くべき質問項目を書き出ししてしていました。診察室では飼い主や獣医師が椅子に座って診察していました。日本人の先生だったので後で日本語でも説明して頂きました。

8/23（12日目）

今日は再びSACPの見学でした。午前中は歯科の処置が2件ありました。どちらも歯石取りでした。午後はジフテリアに感染した鳥の処置を見学させて頂きました。麻酔をかけて、気管挿管してから鳥用の開口機で開口させて、プラークを取っていました。拮抗薬のリドカインを胸筋に注射させてもらいました。鳥用の注射器の針は指で押すとたわむほど柔らかかったです。授業後はバーベキューでした。台湾の留学生の方々と仲良くなれました。明日は同じ麻酔科の見学なので楽しみです。

8/24（13日目）

今日は麻酔科の見学をさせて頂きました。昨日のバーベキューで仲良くなった友達が丁寧に説明してくれたのですごく理解しやすかったです。午前中は白内障の手術を見学しました。手術が終わったあとでa whole new worldというフレーズを日常会話で聞いたのは初めてでした。午後は全耳道摘出術の見学をしました。夕食は冷蔵庫の残り物を消費するためにカレーを作りました。残った食材をとにかく何で

も入れました。チーズを全部入れたので少し塩辛かったです。先生にもお分けしたのですが、醤油を入れたかと思われたくらいでした。加減が大切でした。

8/25 (14 日目)

今日の午前中は4年生の生徒と授業を受けました。広い教室だったのですが、授業の最後の質問時間では多くの人が質問していて熱心だと感じました。その後麻酔科の見学をさせて頂きました。心基部に腫瘍がある犬では心嚢水を排出するために内視鏡で心膜切開していたのですが、出血させてしまったので急遽開胸していました。すごくピリピリした雰囲気でした。

午後からミーティングがありました。少しですが英語でスピーチしました。これからは英語の勉強を続けて、もっと上手く話せるようにしたいです。

8/26・27 (15.16 日目)

今日帰国しました。飛行機では行きの飛行機よりも映画の英語が聴き取れるようになっている様な気がしました。帰りは乗り継ぎの為に走る事もなく、荷物も無事に届いてほっとしました。夕食は東京駅で焼き魚定食を食べて日本に帰ってきたなど実感しました。今回の研修では学術的な事を学べた事も勿論ですが、多くの方と英語で話したり、パデュー大学の友達が出来たりした事がこの研修に参加して本当に良かったと思います。この繋がりを大切にしていきたいです。

草嶋 悠介 Yusuke KUSAJIMA

8月12日 Sat

成田空港に13時に集合し、16時発ワシントンDC行きのユナイテッド航空の飛行機に乗った。フライトは約12時間と長く、機内では映画を見たり、後半は寝たりしていた。また、先輩や先生方から聞いていた通り、機内は寒く、長袖の上着を手荷物でもって乗って正解だった。フライトはほぼ定刻通り15時45分頃に到着したが、インディアナポリス行きの便に乗り継ぐ前に入国審査の必要があるため、入国審査の列に並んだが、既にかかなりの人が並んでいて、17時5分発の乗り継ぎ便には間に合いそうもなかったため、列の中ほどまで進んだところで、乗り継ぎ便の時間が迫っていることを係員に告げると別のゲートに通され、入国審査を受けた。この段階ですでに搭乗終了時間を過ぎており、急いでワシントンDC空港の端のあたりの乗り場まで全員で全力疾走した。ワシントンDC空港はかなり広く、結

果的に1キロ近く走ったように感じた。結果的に乗り継ぎ便は定員100名ほどの小さな飛行機であったため、僕たちの到着を待っていており、1時間近く遅れて、ワシントンDCを出発した。この飛行機が時間を遅らせて待っていていたことにはとても驚いた。

国内線の飛行機の窓からはアメリカの地上の景色を見ることができ、広大な農地の中にときおり小さな街が出現するといったアメリカ特有の風景がとても綺麗で印象的であった。

インディアナポリス空港に着くと、20時近い時刻であったこともあり、空港内の店舗はすべて営業を終了しており、人もほとんどおらず閑散としていた。ただ、この時刻でもまだ日は沈んでおらず、夕日の当たる無人の地方空港はとても幻想的な雰囲気を醸し出していた。空港にはDr.TomoとMr.Willが迎えに来てくださっており、合流してから預けた荷物を待ったが、ここで女子4人と男子1人、富岡先生の荷物がLost baggage していることが発覚した。空港から宿舎までは農地の中のハイウェイを1時間ほど走ったのち、Lafayetteの街に入った。宿舎と大学はLafayetteと川を挟んで西側にある街West Lafayetteにあり、宿舎は広い学生寮を使わせてもらった。学生寮は各部屋にキッチン、バス、トイレや家具・食器なども備え付けてあり、快適な部屋だった。しかし、この日は時差ボケにかかってしまい、あまり眠ることができなかった。

8月13日 Sun

午前中はWest Lafayetteの街をTom先生とWillに案内してもらった。West Lafayetteの街は都会ではないが、一つの街に住居、大学、店などが区画ごとに分かれて作られていて、景観の美しい街だと思った。

昼はFiveGuysというファストフード店でハンバーガーを食べ、午後は近くのColombian Park Zooという小さな動物園に行った。規模は小さかったが、動物との距離が近く、楽しめた。

夕方からはパデュー大学の学部長、先生方とレストランでのウェルカムディナーに参加し、スイートポテト、大盛サラダ、大きなリブローズを食べた。ディナーには日本人のKushiro先生も参加しており、アメリカと日本の教育の違い、英会話などについてお聞きすることができた。初めは日本語で会話していたが、途中からTomo先生に促され、日本人同士で英語で会話をした。

8月14日 Mon

7時40分に寮から歩いて大学へ向かった。サマータイムのためか、この時間でもまだ早朝のよう

な空気の中、多くの通勤・通学の車が走っていた。大学に到着後、会議室で朝食を食べながら、実習中の諸注意を受けた後、MRIについてのビデオを見た。

10時からは各クリニカルローテーション先に向かった。予定では往診だったが、午前の往診はすでに出発しており、午前は大動物内科の先生から入院動物の症例の説明をしてもらい、直腸膿漏とOCDを併発した馬の症例のレントゲン画像を見た後、オペを見学させてもらった。

午後からは1件の馬の往診に同行した。往診先は一般の家で馬3頭、山羊2頭、猫1匹を飼っており、そのうちの1頭の馬の前肢に跛行が見られたため、レントゲンで撮影を行った。撮影時には鉛入りのエプロンをつけて保定を手伝わせてもらったが、予想よりもかなり重たかった。しかし、レントゲンの画像に異常は見られず、採血を行って、大学に持ち帰っていた。処置を終えた後は先生がオーナーさんにかなり時間をかけてインフォームドコンセントを行っていたように感じた。

15時からはパデューのガイドの方にパデュー大学全体のツアーをしてもらった。大学の敷地はとても広く、街全部が大学といった雰囲気、すれ違う人もパデューのシャツを着た学生風の人が多かったのが印象的だった。

18時からPandaという中華料理屋で夕食を取った。すべて揚げ物料理で量も多く、とても重たかった。

8月15日 Tue

クリニカルローテーション2日目も馬の往診に同行した。午前は多くの馬を飼っている農家へ行き、2頭の馬の診察を行っていた。1頭目の白馬は呼吸器の異常があり、開口器を使い、確認していたのを見せてもらった。2頭目はとても大きな重量馬の消化器の異常でエサを青草、豆など変えて食べさせ、その都度エコーで確認していた。

午後は乗馬クラブのような農家への往診に同行した。症状は左後肢の跛行で、同行した4年生の学生が足根関節から後膝にかけて6か所に鎮痛剤を注射していた。往診では先生が学生に説明したのち、ほとんどの処置を学生が行っていたのが印象的だった。車の中で学生さんと話したところ、将来の進路は馬の臨床ではなく、小動物臨床を希望しているが、アメリカでは進路にかかわらず、一通りの動物の処置を学生のうちに行うということを聞き、日本との獣医学教育の異なる点を感じた。

18時からは寮でWillの家族とミニパーティーを行った。Willの奥さんが手料理を作ってきてくれた。特に、唐揚げのような料理は日本のものとは

異なった味付けでおいしかった。また、Willは生後7か月の娘さん（ウィラー）を連れてきていて、家族と一緒にいるWillは2週間の研修期間中で最も幸せそうだった。

8月16日 Wed

クリニカルローテーション3日目はNeuroを見学させてもらった。午前中は学生を中心に神経学的検査を行っていた。内容はちょうど前期に講義で習っていたので、理解は容易にでき、検査内容も日本とほぼ同じだということが分かった。また、Neuroの部屋には水中歩行のリハビリマシンがあり、実物を見るのは初めてだったので、新鮮だった。

午後は、左後頭部に骨肉腫が疑われるゴールデンレトリバーのCT撮影などの検査に同行した。CTでは明らかに強信号の部位がかなり大きく認められ、触診させてもらったところ、かなり柔らかくなっていた。

夕食は5時半から近くのハンバーガー屋でパピネーターという肉が5枚も入った大きなハンバーガーを食べ、その大きさに驚いた。その後、Tomo先生、Will、Tomo先生のお子さんのKai、Namiと合流し、ボーリングを行った。Tomo先生やWillが投球のたびにジョークを言ったりして盛り上げてくれたため、とても楽しい時間を過ごせた。

8月17日 Thu

今日はNeuroで前日にCTを見せてもらったゴールデンレトリバーの骨肉腫の摘出手術の見学をさせてもらった。手術はNeuroの教授が行っており、レジデントの先生がその助手、学生が外回りの手伝いをしていた。手術は6時間にもおよぶ長時間のものだったが、術者がときおりジョークなどを言って周囲を笑わせていたり、学生が術野をスマホで撮影したりとそれほど重たい空気ではなかったのがとても印象に残っている。手術の内容は腫瘍がCTで3つ確認されていたため、1つずつ電気メスで周囲を丁寧に剥離したのち、生食を手動ポンプでかけながら吸引し、摘出したものをホルマリンに回収していた。残りの骨の腫瘍の周辺部もドリルで削っていた。手術を通して術者、助手、器具出し、麻酔科医の分担がよくできていて、術者の手が止まることがほとんどなく、効率よく手術が進行していたように見えた。

手術後は4年生の学生に同行し、下半身不随の犬の飼い主さんへの指導を見せてもらった。状態が悪く、翌日退院して自宅に帰るとのことで、排尿方法の指導を念入りにしていた。指導まで学生のうちに経験できることはアメリカの教育の特徴だと感じた。

8月18日 Fri

午前は Neuro で TPLO 手術後のジャックラッセルテリアの左後肢のレーザー治療や手術後のダックスフントの歩行訓練などの症例を見せてもらった。

12時からピザを食べながら、エキゾチックアニマルなどが専門の Thompson 先生の野生動物についてのレクチャーを受けた。インディアナ州ではフクロウ、ワシ、ヘビなどの多くの野生動物が存在し、その種の変遷についての説明、各動物における麻酔薬の使い方、細かい治療のテクニックなどエキゾチックの第一人者である Thompson 先生の話はときおりジョークを挟んだりして、とても楽しみながら聞くことができた。また、Thompson 先生は治療だけでなく、家族でハンティングを楽しんでいるということを聞き、アメリカの人と自然との付き合い方の価値観を学ぶことができた。

14時半からは Small Animal Community Practice で Thompson 先生に付いて、心肥大のオウムの X 線撮影、治療を見学させてもらった。鳥類の治療を見るのは初めてだったので、すべてが新鮮に感じた。

15時半からはプレミアムフライデー(?)で動物病院の正面玄関の前でアイスやポップコーン、キャンディーなどを配っていてちょっとしたお祭りのようだった。動物病院の先生や Tomo 先生、Will も仕事から抜け出して参加していて、アメリカの良い意味での自由な雰囲気が楽しかった。夕食は寮の近くのハンバーカーチェーンでハンバーガーを食べた。

8月19日 Sat

この日はインディアナステイトフェアというインディアナポリスで行われているお祭りに行った。馬の品評会では多くの馬が参加しており、どの馬の綺麗だった。オフロードバイクやモンスタートラクターによる競技の前には国歌斉唱があり、だれもが起立して胸に手を当てて国家を歌っていたことに一体感を感じた。また、たくさんの屋台が出ており、どこの料理も量が多く、おいしく感じた。インディアナは農作物の生産が盛んで、農園ブース、フィッシングブース、ビールの試飲会などが充実しており、広い会場を回るだけで1日楽しめた。

帰りにはスーパーマーケットによってもらい、食料やお土産などを購入した。スーパーマーケットの規模も大きく、店を一周するのに一時間あっても足りないくらいだった。

夕食は大学内にある vila というイタリアン料理屋でパスタを食べた。19時と遅めの時間帯だったので、残っているメニューが少なく、選択肢がかなり限定されたのが残念だった。

8月20日 Sun

この日はインディアナポリスズーに行った。Tomo 先生がこの動物園でサイの麻酔を担当している関係で特別にサイとゾウのバックヤードを見学させてもらい、実際に触ることもできた。どちらも想像していた以上に皮膚は固く、サイの皮膚は厚さが2cm以上あるということに驚いた。サイの投薬は21Gの針で頸静脈か筋注で行い、ゾウは耳の裏側の耳静脈から行いということも知ることができた。

夕食は West Lafayette に戻ってから、スシブリトーの店で取った。寿司と聞いて、海鮮の握り寿司を想像していたが、でてきたのはアボカドやデリヤキ、野菜などの入った大きな手巻き寿司のようなものだった。寿司とは違うが、別の食べ物だと思えばこれはこれでとても美味しいと思った。

8月21日 Mon

本来の予定では Small Animal Community Practice を見せてもらうはずだったが、この日は4年生の学生の3週間ごとに変わるクリニカルローテーションの交代日初日であったため、患者も学生もいないと聞いたため、麻酔科や放射線科の見学をさせてもらった。放射線科では台湾出身のレジデントのフー先生が酪農学園で勉強していたこともあり、かなり日本語が堪能であったため、日本語でフー先生の担当している猫の放射線治療について解説してくださった。患者の猫は2週間前に急変し、大学の腫瘍科に来院し、リンパ腫の転移が認められる症例だということ。先生が昨日まで数日かけて立てたプランに従って今日から週3回の治療を行うということだったが、患者は意識ももうろうとしているような状態だった。経過が心配であったが、後日フー先生とお話したときに、治療が奏功し、腫瘍もかなり小さくなったという話を聞き、安心した。

夕方からはショッピングモールに行き、買い物や夕食を取った。夕食はみんなでアメリカで有名なフーターズへ行った。食事は肉料理がメインでとても美味しかったし、ウエイトレスのお姉さんは気さくに話しかけてくれ、最後にみんなで一緒に写真も撮ってもらった。

8月22日 Tue

この日は Small Animal Community Practice を見学させてもらった。先週レクチャーをしてくださった Thompson 先生の診察を楽しみにしていたが、木曜日まで講演会のため出張と聞き、とても残念だった。患者ではケイブピッグが朝一番受診予定だったが、ずるずると予定時刻が遅れていき、最終的には予約がキャンセルとなってしまったことも残念に感じた。診察は主に学生が問診を行い、Dr と

学生が相談して検査方針を検討したのち、Dr による問診・触診・視診、VT さんの付き添いで学生による採血から血液検査、Dr との所見の検討、問題点指摘、学生がカルテを書くという流れで行っていた。この日は学生のローテーション交代後初日ということもあって、不慣れなように感じた。

18 時ころからは自転車をレンタルし、片道 30 分程度のウォルマートに買い物に行った。West Lafayette の街はサイクリングロードなどもよく整備されていて、自然豊かな街を夕焼けの中サイクリングするのは爽快だった。

8 月 23 日 Wed

この日は Cardiology の見学をさせてもらった。朝、Cardiology の部屋に行くと、今から手術をするから二階の手術室に上がるようにと言われ、何の手術をするかも知らないまま手術室へ向かうと、今度は鉛の防護服を身に着けるように言われた。防護服の着方がわからず困っていると、麻酔科の Dr が手伝ってくれ、何とか着ることができた。手術室に入ってから初めて PDA の手術であり、X 線で造影剤による血流を確認しながら手術を行うため、防護服が必要だったということが分かった。結紮部、動脈管を見せてもらったが、動脈管は想像していたよりもかなり小さく、造影の必要を強く感じた。手術自体は 1 時間半程度で終了した。

18 時からはパデューの学生、先生がたとバーベキューを行った。台湾の留学生やレジテント、先日前お世話になったフー先生も参加しており、パデューはかなりアジアからの留学生も多い、開けた大学だと感じた。また、レクリエーションを通じて学生との交流を深めることができた。台湾の学生さんは台湾の伝統料理のカラフルなクッキーも作ってきてくれて、とてもおいしかった。

8 月 24 日 Thu

午前は眼科の白内障手術を見学させてもらった。糖尿病性の白内障で、血糖値が 392 とかなり高値であったため、インスリンを投与して血糖値が低下してから手術を開始していた。また、先日の台湾の留学生の方が手術と一緒に見学していたが、麻酔科が専門ということで、麻酔についてかなり詳細に解説してくれた。

午後は馬の往診に同行し、45 頭の馬を飼育している農家に行った。Dr によると原因不明だそうで、メドミジンで鎮静後、ステロイドを関節内投与していた。帰りは行きとことなる自然豊かな道を選択して車を走らせてくれて、シカなどの野生動物を見ることができて楽しめた。

夕食は男子で川の向こう側の Lafayette のダウン

タウンまで歩いて行き、ステーキを食べた。味が濃厚でとてもおいしかった。

8 月 25 日 Fri

朝 8 時半ころから抗がん剤についての Dr 向けの講義に参加した。詳細な内容は理解できなかったが、臨床での実際などについて主に説明していた。

9 時からは Neurology を見学させてもらった。今日の患者は ICU に入院中の 1 例のみで、第五頸椎の腫瘍により、C3-C5 において背側から脊髄が圧迫させているとのことだった。残りの時間はレジテントの先生が勉強会を開いていた。英語の専門用語が多く、あまり理解できなかったが、ところどころ日本でも英語の略称を用いる疾患については少し理解できた。

昼からはセレモニーを開いてくれて、一人 30 秒程度のスピーチの後、終了証、記念品が授与され、お世話になった先生方との記念写真を撮ったりした。スピーチは緊張しすぎて何をしゃべったか覚えていないが、SACP ではほとんどしゃべることができなかった Thompson 先生としゃべることができた。先生はかなり日本にも詳しいようで、驚いた。

夕方からはメキシカン料理屋で Tomo 先生、Will、Tomo 先生の家族と一緒に夕飯を食べた。トルティーヤに鶏肉が入っている料理を食べたが、とてもさっぱりしていておいしかった。食後には Tomo 先生の家族と別れのあいさつをしたが、Kai、Nami も僕たち全員の名前を覚えてくれていて、よく一緒に遊んでいたもので、別れが寂しく感じた。

8 月 26 日 Sat

朝から Tomo 先生、Will の運転でインディアナポリスの空港に向かった。空港での荷物検査では自分を含め、男子の多くが重量検査に引っかかっていた。自分は 1 ポンドオーバーと言われ、急いで預け荷物から手荷物に移したり、もっていた洗剤を Tomo 先生に託したりしてやっと重量をクリアした。Tomo 先生からインディアナ空港の重量検査はかなり厳しいとは聞いていたが、あらかじめ重量を測っておいたにも関わらず引っかかったことにはとても焦った。

空港の搭乗口で Tomo 先生、Will とお別れをしてワシントン DC 行きの国内線に向かった。飛行機の窓から見えるインディアナポリスが遠ざかるについて、2 週間のことを思い出し、寂しさを感じた。

帰りの乗り換え時間も 40 分ほどしかなかったが、インディアナポリスで出国審査を終えていたこと、ワシントン DC 空港内の電車を利用したため、問題なく成田行きの国際便に乗ることができた。また、行きには電車を使う距離をみんなで走ったこと

を思い出した。成田空港へは予定よりも30分ほど早く到着し、空港で解散した。

今回の研修では Tomo 先生、Will、引率してくださった富岡先生、パデューの先生や学生さん、多くの方のおかげで日本ではできない体験ができた貴重な二週間になりました。心から感謝をします。

増子 隆康 Takayasu MASUKO

8月12日(土)

当日13時に集合、16時発の飛行機にて成田空港を出発し、ワシントンダレス空港を経由して、インディアナポリス空港に到着。途中の入国審査で足止めを食らってしまい予定の時刻より遅れての到着になってしまった。そしてさらに数人の荷物が届かないという事態が発生し、初日から大変であった。空港ではTomo先生とウィルさんが出迎えてくれた。軽い挨拶をした後、車で移動し、荷物が届いていない人たちの着替えなどを買いに行った後、自分たちの宿泊先であるアパートまで送ってもらった。初日は移動で疲れていたため、すぐに寝てしまった。

8月13日(日)

この日の午前中はTomo先生とウィルさんに大学病院や大学の周りを案内してもらった。そしてお昼はFive Guysでハンバーガーを食べた。初めてアメリカのお店で注文したので緊張したが、何とか食べたいものを注文できたので良かった。午後はColombian Park Zooという小さな動物園のある公園にいった。午後はウォルマートにて1週間分の買い物をして、その日の夕食はLogan'sというステーキのお店でWelcome Dinnerをした。ここには学部長や病院長なども来てくださり、全員の前で英語での自己紹介を行った。とても緊張した。

8月14日(月)

この日からクリニカルローテーションが始まった。まず朝に病院へ行き、会議室に移動しそこで朝食を食べながら簡単な説明を受け、MRIについての動画を見た。その後病院内を案内してもらい、各々配属された科へ移動しローテーションを行った。この日は大動物外科でのローテーションだった。まず、大動物外科の学生にその病院に入院している入院畜の説明をしてもらった。その後直腸腫瘍の処置を見学させてもらった。昼食後、側副靱帯の断裂による腫脹と骨融解で来院した馬の再診を行った。レントゲンを撮ったが、前に撮った時よりも状態が悪くなっており、今後の治療は難しいということだった。この日は早めにローテーションを終わらせ大学構内

をツアーしてもらった。大学構内はとても広く、学生が楽しそうに生活している様子を垣間見ることができた。

8月15日(火)

この日も大動物外科でのローテーションであった。まず朝には、大動物病院でサルモネラ属菌がアウトブレイクしてしまったことについてのミーティングがあった。このミーティングには大動物外科内科の先生や学生はもちろんのこと、感染症の先生やそこで働いている職員全員が参加してのミーティングであった。そして様々な分野からの意見が飛びあつてのミーティングで、このような光景は日本では見たことがなかった自分にはとても新鮮であった。ミーティング後、明日手術になる馬の聴診をさせてもらった。この馬は腎脾間エントップメントで入院しており、この日は身体検査を行い、次の日にオペをする予定であった。その後、馬のシンチグラフィの画像を見させてもらった。午後には別の馬が二頭来院し、この馬たちの跛行診断を行った。まず屈曲試験を行いどの足に異常があるかを調べ、その後神経ブロックをして、どの部位に異常があるかを調べた。これらの結果から左前足の第三中手骨より遠位の部位に異常があることが確認された。

8月16日(水)

今日も大動物外科でローテーションを行った。この日の朝は、大動物の学生のセミナー発表があり、学生二人が発表を行った。一人目は関節炎、蹄葉炎の治療法についてで、二人目はAntimicrobial Impregnated Beadsについての発表だった。内容は完全には理解することが出来たわけではないが、スライドの図などで何とか理解はできた。その後、ラマの手術を見学した。このラマは歯肉炎を発症しており、その歯肉炎がひどくなった結果、歯が融解し、さらに鼻腔と口腔がつながり、そこにエサが詰まってしまって炎症を起こしていたので、エサを取り除いた後にその穴をふさぐという手術であった。ラマの手術を見たことは一度もなかったため、とても良い経験になった。また、麻酔科の人たちが麻酔をすべて担当しており、術者はその手術だけに集中すればよいのはとても良いことだと思った。この手術の後、前日に見た腎脾間エントップメントの修復術を見学した。この手術は立位で腹腔鏡を用いての手術であった。この日のローテーションが終わり、夕食はウィルさんとウィルさんの奥さんが用意してくれたご飯をごちそうになった。とても美味しかった。また今年生まれたお子さんもつれてきていてとても可愛かった。

8月17日(木)

今日は朝に大動物外科と内科の学生がミーティング室で血液生化学検査の症例を用いて、結果からわかることを討論していた。毎週木曜日にこのようなラウンドが行われているのだという。今回の症例はクロストリジウム属菌の感染症例であった。その後、大動物内科でのローテーションの予定であったが、この日は内科の診療予定がなかったためこの日も大動物外科でローテーションを行った。まず馬の有茎腫瘍のオペの後の出血が止まらないため、確認の開胸を行った。次も馬で慢性の蹄葉炎で浅指屈筋を切るという処置を見学した。まず両側前肢の神経ブロックを行い、蹄鉄とクッション素材でできた靴を履かせて、その後切腱刀を用いて浅指屈筋を切った。この日は削蹄師が削蹄を行っていたのでそれも見学した。この時馬とロバのミックスであるミュールも削蹄に来ていて自分はミュールを見るの初めてだった。その後跛行の馬のエコー診断を行った。この日の夕食はユニオンにあるハンバーガー屋さんでパピネーターという巨大なハンバーガーを食べた。この時、男子5人が連続でこのハンバーガーを注文したので店員さんも驚いて爆笑していた。チーズと肉が五段重ねのハンバーガーで後半とてもチーズが苦しかったがおいしく食べることができた。

8月18日(金)

今日は朝に大動物外科と内科の学生がミーティング室で今週来院したレントゲン撮った症例の検討会を行っていた。この日は馬のP1のチップフラクチャーと歯に起きた細菌感染とラマの歯肉炎の症例について検討をしていた。検討会の後、ナビキュラー病の経過観察のため来院してきた馬の診察を見学した。お昼にはピザを食べながらジョンソン先生の野生動物の診療と Conservation funding の役割についてのセミナーを聞いた。日本国内では見られないような驚やカワウソ、ヘビなど先生が実際に診療した時の話をしてもらった。セミナーの後、大動物病院に戻り、レーザー治療の見学をさせてもらった。この病院のレーザーは、CO₂、diode、holmium の3種類があり、用途によって使い分けられているという。この日のレーザーは diode を用いてのどにできた腫瘍を焼いて除去していた。この後1日目に見た直腸膿瘍の馬が糞詰まりによる疝痛を起こしているということで、糞を取り除き、腸の働きを活性化させる薬を投与していた。

8月19日(土)

今日はトモ先生とウィルさんの運転で indiana state fair に連れて行ってもらった。ここでは様々な家畜の品評会や犬の競技会、巨大な農耕機械の博覧会などが行われていて、さらには移動遊園地など

インディアナの一種の大規模なお祭りのようなものであった。ここではバイクやモンスタートラックなどのショーを見たり、いろいろな出店で食べ物を食べたりした。パデュー大学獣医学部もブースを出しており、腹腔鏡体験や実際の手術を見学できるなど、一般の人でも興味が湧くような取り組みがなされていた。

8月20日(日)

インディアナポリス ZOO に連れて行ってもらい、動物園の裏側を見せてもらった。日本の動物園ではできない貴重な体験をさせていただきとても嬉しかった。まず最初にシロサイのところへ行き、飼育員さんから色々なお話を聞いた。そしてシロサイに触らせてもらった。感触はバスケットボールの様な感触だった。次に動物園内の動物病院を案内してもらった。動物園には様々な大きさの動物がいるので様々なサイズの手術用具があり、それらを見させてもらい、実際に触らせてもらった。動物病院の案内の後、象の飼育されている場所に行き、ゾウに触らせてもらった。とてもおとなしく可愛かった。最後に自由時間がありそこで動物園内を周り色々な動物を見学させてもらった。この日の夕食は寿司ブリトーをたべた。日本で言う巻き寿司のようなものであるが、味がアメリカらしくなっていて日本のものとはまた違ったものであった。

8月21日(月)

今日から再びローテーションが始まった。今週から学生の病院実習のローテーションが変わるため、この日は全体的に忙しくない日であった。午前中は動物外科でローテーションを行い、午後に往診につれていってもらった。動物外科では角膜炎で二週間以上入院している馬の経過観察を行った。目の神経ブロックを行った後、フルオレセイン染色を行って染色性を確かめたが陰性だったため、順調な経過をたどっていた。また、眼底鏡を用いて眼球を調べていたがここにも問題はないということだった。午後は往診科での往診に同行させてもらった。往診車はとても大きく荷台にぎっしりと薬品や診察に使う道具が入っていた。さらにどこに何があるかがちゃんと整理されていてとても使いやすそうだった。この日はまず馬の歯削りを行った。斜状歯と階状歯になっている馬を電動の歯鑷を用いて削って正常な形に修復をした。この歯削りの途中で日食になり、先生たちとオーナーさんと一緒に先生が用意してくれていた日食グラスで日食を観察した。日食をみた先生たちのリアクションがとてもアメリカらしくてすごく面白かった。歯削りの処置が終わった後、そこで飼われている猫の予防接種も行った。馬

や牛だけではなく、猫や犬をついでに診ることも珍しくないという。次の場所に移動し、ここでは蹄を痛がるという馬の診察を行った。まず、蹄鉗子を用いて蹄のどの部位に痛みがあるかを調べた。痛みの部位を特定した後、その部位を削蹄し、中に溜まっていた膿を排液させた。最後にバンテージを巻き、抗生物質と抗炎症薬を投与して診察は終わった。ローテーションが終わったあと、ティピカヌーモールに買い物に行った。ここには **HOOTERS** があり、夕食はここで食べた。綺麗な金髪のお姉さんたちが目のやり場に困るような衣装で接客しており、とても素晴らしい夕食の時間を過ごすことが出来た。

8月22日(火)

今日も往診に連れていってもらう予定だったが、アポイントメントが午後かららしく、午前中は大動物内科と外科を見学させてもらった。まず、馬の妊娠診断を見学させてもらった。エコー検査で妊娠しているかどうかを確認したのだが、残念なことに妊娠していなかった。次に日本では見たことのないミニチュアギャロウェイという品種の牛が来院したので、この牛の診察を見学した。見た目はとても小さくふわふわの毛並みをしていて、この品種は成牛になっても大人の腰くらいの大きさにしかならないのだという。この牛は生後二日で脱水症状と下痢を示しており、血液を採取して、輸液を行いそのまま入院となった。午後は往診に連れていってもらった。この日は **Farr** 先生と二人でまわったので、最初はとても緊張したが、先生はとてもやさしく自分にもわかりやすいようにゆっくりと英語を話してくれた。最初の往診先は一週間まえに目を何らかの原因で傷つけてしまった馬の再診だった。フルオレセイン染色をおこない、角膜の傷がふさがっていることを確認しただけだった。次の往診先では直腸検査を行い、その後エコーで左臍部を見た結果、腹水が溜まっているということで、下腹部に注射針を刺して腹水を採取した。ローテーションが終わったあと、男子5人で大学のレンタサイクルを利用してウォルマートに買い物に行った。片道30分の道のりだったが久しぶりの運動ということもあってとても楽しかった。しかし帰りに荷物をたくさん乗せたまま走って帰るのはなかなか大変だった。この日の夕食はお好み焼きを作りました。お好み焼き粉は日本から持ってきたものだったが、その他の材料はすべてアメリカに売っているもので作ったためとてもアメリカンな味のお好み焼きになった。また、ついでに買ってきたアメリカの冷凍食品も作って食べてみたが、作る手間が面倒すぎて日本の冷凍食品がいかに素晴らしいかを認識させられた。この日はサイクリングのおかげかぐっすり眠ることができた。

8月23日(水)

この日は朝にカナダの獣医師の **Marie Holowaychuk** 先生の「How to thrive (not just survive) in veterinary medicine」という題のセミナーを聞いた。このセミナーでは獣医学生へのストレスはどのように起こるのか？そして解決策はどのようなことがあるのかなどを話していた。このセミナーの後、この日も往診に連れて行ってもらった。往診先では左前肢の付け根から膿が出ている馬の症例だった。まず患部のスワブを行い、膿を採取し、その後乳酸リングエルとイソジンを混ぜたもので洗浄を行った。傷は感染症の可能性もあるので開放のままにし、浮腫防止のため足先にバンテージを巻いて処置は終わった。この日の往診はこの一件だけであつたが、帰り途中に往診車のフロントガラスに石があたって割れるという事件が起きた。大事には至らなかったのでもいい思い出になった。往診から帰ってきたあとは、大動物病院で関節鏡の手術を見学させてもらった。これは馬の右前肢球節のチップフラクチャーの除去を行っており、関節鏡の手術を実際に見るのは初めてだったのでとても勉強になった。次にローテーション初日にみた直腸膨満の馬が糞詰まりが治らないということで再手術となった。術式は前に見たものと同じで直腸と膈の境目にメスをいれ、そこを縫い合わせという手術だった。この日のローテーションが終わり、夕食はトモ先生とウィルさんが **BBQ** を開いてくれた。この **BBQ** にはローテーションでお世話になっている先生や学生たちも招待されていて、いろいろな話をしながら、楽しい時間を過ごした。

8月24日(木)

今日から再び大動物病院でのローテーションであつた。朝のミーティングで血液生化学検査からわかることの討論を行った。毎週、このようなことをやっていたらとても勉強になり、考察力がつくのではないかと思った。ミーティング後、ラマが来院し、その所見をとっているところを見学させてもらった。初めてラマを近くで見て、触ることができた。次に咳が出るという馬の診察を行なっているのを見学させてもらった。まずエコー検査で肺野を観察すると、左側の気管支が巨大な腫瘍によって狭窄していた。また胸部に胸水が貯留していた。実際に肺音を聴診してみると、左側の肺音はほとんど聞こえず、右側の肺音は正常よりも大きく聞こえていた。この状態の治療は難しく、今後どうするかを後日オーナーと話し合い決めるそうだ。午後には慢性の疝痛で来院し、検査の結果、腎脾間エントラップメントが確認され、さらに胃の周辺に腫瘍がある馬をみた。腹腔鏡を用いて腎脾間の結紮を行い腫瘍を除去

した。摘出された腫瘍は脂肪組織であり、脂肪腫の可能性が疑われた。ローテーション後、男子5人で、トモ先生に紹介してもらったお店にステーキを食べに行った。外にテラスがあり、とても雰囲気が良いお店であった。味もとてもおいしく満足だった。

8月25日(金)

今日はクリニカルローテーションの最終日だった。先生や学生のおかげでとても勉強になり充実した2週間を過ごせたので、終わってしまうのがとても残念であった。午前中はレントゲンの症例検討会を見学させてもらい、次に昨日来院した咳が出る馬についての犬動物内科の会議を見学させてもらった。この会議では学生が一人一人今後どのような治療方針にすれば良いかを考えてきており、それを発表していた。そしてそれに対して先生がコメントをしていた。最後に全員の意見を聞いてどのような治療方針にするのかをみんなで討論していた。お昼には、研修終了セレモニーが開かれ、先生方の前で簡単なスピーチを行った。そしてお世話になった先生達と一緒に写真を撮り、別れの挨拶をした。セレモニーの後、トモ先生、ウィルさん、ソフィアさんとメキシカン料理を食べた。昨日ステーキを食べたがまたこの日もステーキを食べた。メキシカンステーキだったので味付けが昨日のものと異なりおいしかった。今日は早くアパートに帰り、明日帰国する準備をした。

8月26日(土)

長いようで短かった2週間が今日で終わってしまい、ついに帰国の日となってしまった。朝早く出発し、空港で2週間お世話になったトモ先生、ウィルさんに感謝の言葉とお別れをいい、日本に向けて飛行機に乗った。帰りは荷物が届かないこともなく無事に帰国できた。

富岡 美千子 Michiko TOMIOKA

はじめに、Tomohito INOUE 先生、Will Smith さんの素晴らしい準備があり2週間の留学がとても有意義であったことに感謝申し上げます。滞在中に細かなサポートをしてくださいました Juan さん、獣医学生の Sophi さんをはじめ Purdue 大学のスタッフ、学生の皆さまに厚く御礼申し上げます。また、この研修のためのご準備をしてくださいました国際交流委員の皆さまのお陰で、10名の留学生が無事に研修できましたことに深く感謝申し上げます。滞在中に purdue 大学附属病院で経験したことを報告致します。

研修二日目に犬動物診療科では、サルモネラ感染症牛の蔓延が危惧される事態となっていた。犬動物に関わるスタッフには、早朝に連絡が入っていた模様で、私たちを含め獣医学生が来るより前から一部通路は閉鎖され、落ち着かない雰囲気が漂っていた。朝の診療ラウンドが本来始まる時間であったが、広い講義室に犬動物臨床医、テクニシャン、ローテーションで犬動物に配属されている学生、麻酔科、臨床病理科、基礎系から微生物研究者、獣医臨床科長等総勢50名が集まっていた。我々留学生もその会議に参加させてもらった。一部の学生は何故、そこに集まっているのか知らない様子だった。

その会議では、サルモネラ症と判断した経緯や感染源は大学附属農場から研究用に胃潰瘍を受けている群であることが報告された。とても興味深く感じた事は、このような事態になったときにどのような対応方法をとるべきなのかをオープンに討論する事でした。専門医から取るべき対策と実際に診療を行う獣医師や VT からは対応可能な対策で意見が対立したが、以前にもサルモネラ症で犬動物診療全体を閉鎖しなければならない辛い経験をしたことがあるそうで、ターゲットとなる牛の診療を受けないことは即決された。踏み込み槽の設置は、効果が薄いこと、院内が水で濡れるため滑りやすくなり危険である事から反対意見が強かった。その議論の際にも EBM が引用され、踏み込み槽の効果はないが、視覚的な効果はあることから感染牛が入院棟前に設置することになった。入院棟は4棟あり、その1棟に居た大腿骨骨折した提供馬への対処方法が議論され、術後管理でいた牛を直ちに退院させる事が提案された。その際、畜主への説明内容の確認や検査費用と事務的な費用の出所が伝えられた。将来、経営者になったときには予備費の重要性を知る機会でもあり、学費や診療売り上げ費ではなく、申請により得られる公的補助の使い方を示しているのだと臨床科長は話しておられました。

小動物病院への波及を防ぐため、本来専門医や専門技師が行うレントゲン撮影、心電図検査、眼科検査などは犬動物診療医で行うこととされ、牛は往診のみ、牛以外の反芻獣、豚、馬は行うことが確認され、会議は1時間程で終了しました。その後、感染畜が居た棟は、有機物を全て除去し徹底的な洗浄が清掃員達によって行われました。頻回に交換する診療衣やタオルなども洗濯専門スタッフが、防疫対策を徹底的にしてくださるので、随所に置かれた消毒薬やブーツカバーは常に補充され不足することがなかった事に感激しました。

防疫対策会議中の注意事項に、犬の足を消毒することが出来ず蔓延させる危険性があるため、本来の通用口である犬動物病室からの愛犬の出入りは禁止

され、愛犬を連れての出勤は小動物病院から入るようという指示は、拘束時間の長い病院スタッフにとって公然と愛犬をオフィスに連れてこられることが、とても羨ましいと思いました。ただ、愛犬を守るためにしばらくは自宅でお留守番をさせるとおっしゃっておられました。幸い、今回は牛以外の診療科へ波及することもなく、研修二週目にはブーツカバーの着用義務は緩和され終息に向かいました。

米国では病院実習を通して、実践的な訓練を受けていること再確認出来る機会になりました。また、専門医と臨床医そして上層部責任者との連携が取れていることで早期に終息したと感じました。

終わりに、この研修期間中に Dr. O'haire とヒトと動物の関係学について、Dr. Guptil には犬のレプトスピラ感染症について相談に載っていただきましたことに厚く感謝申しあげます。また、御高配いただきました Purdue 大学の皆さま、北里大学関係者の皆さまに重ねて御礼申しあげます。

Acknowledgements

Dear

All the faculties, the stuffs, and the students in PVM

Thank you for having us at Purdue University. I'm very appreciated your hospitality for all faculty, stuff, and students. All Kitasato students had great experience more than being in Japan. I also had wonderful time with you. I want to say "Thank you" each of you. Miss Purdue so much!

It was great meeting all of you.

Michiko Tomioka

I was very nervous, so I had no confidence in my English. However, thanks to everyone listening to my poor English, I could feel pleasure in communicating in English. And it made me so positive. Also high standards of Purdue students influenced me, so I thought I needed to study more. I appreciate you to give us so valuable experiences what we can never do in Japan. Thank you very much!

Koji Asakawa

I have been indebted to him for two weeks. In this training, I was often overwhelmed in various items such as the composition of the university which is different from my university, how to teach, how to teach to students, student's aggressiveness, facilities. I saw a large animal intermedicine, large animal surgery and ambulatory. I could see the animals that I could not see at our university such as llama and alpaca, and I could see a lot of cases with horses that I could sometimes see at our university. Also, joint conferences with other laboratories and case study meetings were fresh for me. Everyone at the university was kind and helpful to me that I am not good at English and taught me with painting and translating it on a translation website.

Especially the impression remains is a horse suspected of equine worm encephalomyelitis, horse of recto vaginal fistula, horse of spleen entrapment. These were the first things I saw, and I learned a lot about how to hear interviews, tests, surgery and procedures. Thank you for everyone. Thank you for Purdue people. Someday I would like to go to Purdue University.

Tetunari Iwatsuki

Thank you for accepting my short-term overseas study.

Life as Purdue university student was so acquirable and enjoyable for me, that made me motivated to be a more good veterinarian.

I had a lot of things I wanted to tell and talk with you but I could not put them in words well.

I really think now that I should have studied English more in Japan. So, this overseas study became good stimulation for my study of English.

Everyone taught me many knowledges of veterinary medicines from basic one to difficult one, however they are in busy.

I was happy to be talked to many times.

Thank you for taking care of us. Let me say a few words of thanks for every students, doctors, and VTs.....all people.

We can enjoy Indianapolis zoo and Indiana State Fair and sightseeing in famous places and so on on holidays.

Thanks to them, I could make good memories.

I was happy that you politely answered to many questions from me.

I could not talk with professors at all. I hope I can next time.

I am sorry that I made you worry about me.

All the moments of that term is interesting for me.

If I have a chance to come back here again, I would like to do so with more improved English.

If you have a chance to come to Japan, please let me know.

Thank you very much.

Miho Oku

Thank you for 2weeks.This 2 weeks overseas training was a very good experience for me. When I was in trouble, I was very happy that teachers and students help to me.

Thank you for taking us to a large zoo or shop. I enjoyed being able to experience things I could not experience easily in Japan, and I learned very much.

Also, I am very thankful to Dr.Tomo, Mr. Will and Sophia for having taken care of us in America.

There was no big trouble, I was able to do full training up to the end.

Thank you for giving me the opportunity to have such a valuable experience this time.

Nanako Hayashi

I really enjoyed my stay in Indiana and those two weeks flew by so fast. I wish I could have stayed longer. I was so lucky to observe many surgeries, dental treatments and aviation treatments up close, which I have never seen before. Consultation on behavior problems and methods of anesthesia were also interesting. Everything was new for me, and by shadowing you on your cases, I had a lot of precious experiences. I would like to thank everyone for their kindness and hospitality.

Also, I learned a lot through the backyard tour of the Indianapolis Zoo. I touched rhinos and elephants for the first time, and after seeing how to draw blood from behind the ear, I experienced

something that I could not have possibly imagined.

Finally, I would like to thank Dr. Tomo Inoue and Mr. Will Smith for taking us everywhere, and for making this great trip. Also, I would like to thank everyone at the Purdue University for providing me with this great opportunity to learn at this wonderful hospital, and I strongly hope that I will be able to go back to the States again soon.

Sincerely,

Mayuko Fukuzawa

Dear All

Thank you so much for all Purdue staffs! Especially Dr. Inoue, Will, and Sophia. They gave me much fun time. This is my first time to go to America and it became a great experience because of their hospitality. I enjoyed American culture and food and also enjoyed my clinical rotation. I realized that there are a lot of different point about vet medicine between America and Japan. Every doctor and student are kind and talked to me with smile when I asked something. I spent wonderful two weeks. I hope to see you soon. Thank you again.

Hiromi Miyauchi

Hello, Purdue people.

Thank you for welcome of us. It was my second visit to US. Although I couldn't speak, listening, very well, But, you were so friendly and kindly behavior. I was deeply impressed.

In Animal Hospital, there were many differences things. Working gravity of Veterinary technician, main work of veterinary of doctor, Student's attitude for study, etc... There were many events which influences for my future life as veterinarian.

Professor, Resident, Student, Veterinary technician, taught me a lot of things. It was many pleasure to study things which I have never had idea.

Thank you for precious time of study. It was amazing experience.

Kensuke Mori

I would like to thank everyone at the Purdue University, especially Mr. Will and Dr. Tomo for providing us with this precious two-week experience. I spent really wonderful time at your University. Especially, I was impressed with the great performance which the elephant gave at the zoo. Two weeks passed so quickly. Everyone including myself enjoyed our stay, and I personally wanted stay a lot longer.

I cannot thank everyone enough for everything you have done for us. I'm looking forward to seeing you someday.

Mai Yokoya

Thank you for precious experience in this summer. I think that I can never forget this memories forever. Because I have never been abroad, I was worried about this trip before leave Japan. But thanks to Dr.Tomo, Mr.Will and Purdue's everyone , I enjoyed everyday and I came to like America. I will make use of this experience and I will do my best to become a better veterinarian. Someday, I'd like to visit the United States again. See you!

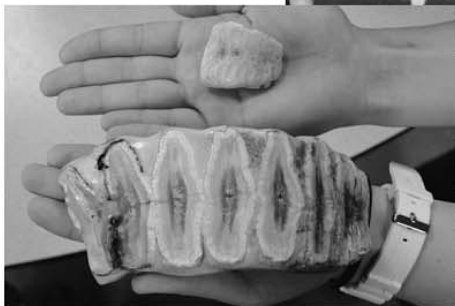
Yusuke Kusajima

Thank you so much for Purdue staffs. I was indebted to you for 2 weeks.

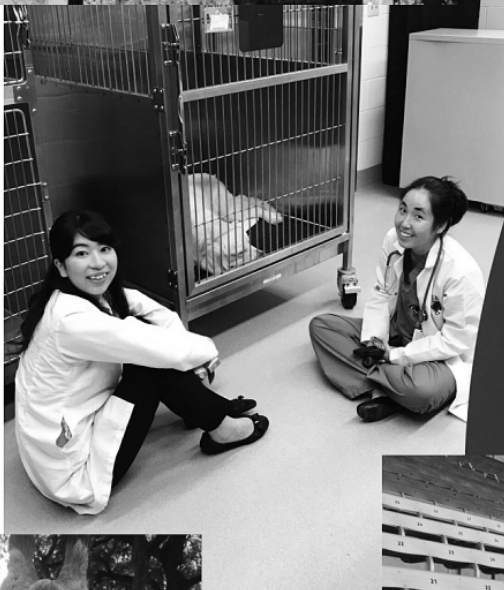
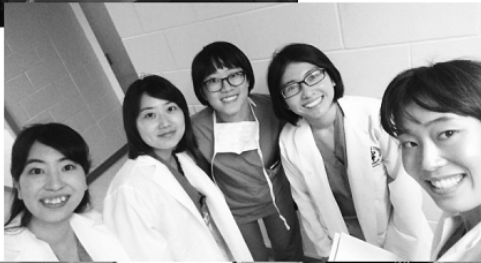
I was very worried overseas for the first time, but thanks to everyone's help I was able to spend a very substantial two weeks. In clinical rotation, I could see a lot of animals and cases that I have never seen before in Japan such as llama and alpaca and it was a very good experience. Also, in terms of medical treatment and treatment, it was different from Japan and it became very helpful. I would like to make the best of this experience and I will do my best. And I want to come back to Purdue University as I grow up.

Takayasu Masuko

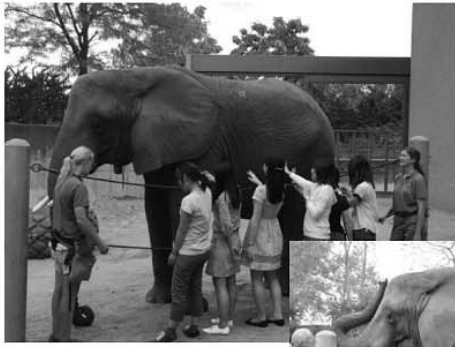




















University of Georgia

College of Veterinary Medicine

12 Aug. – 27 Aug. 2017



Mrs. Gogal, Dr. Ishino, Dr. Nagata, Ms. Watanabe, Ms. Yamazaki, Mr. Nakashima, Dr. Gogal
Mr. Kinoshita, Ms. Hara, Ms. Imai, Ms. Kuboniwa, Ms. Tamura, Ms. Miyake

参加者一覧

同行教員：石野 寛和 Hirokazu ISHINO

氏名	Name	所属研究室
今井 愛	Manami IMAI	獣医放射線学
久保庭 清華	Sayaka KUBONIWA	獣医病理学
田村 彩	Aya TAMURA	小動物第2内科学
中嶋 恒介	Kosuke NAKASHIMA	実験動物学
山崎 友紀子	Yukiko YAMAZAKI	大動物臨床学
渡邊 菜奈	Nana WATANABE	小動物第1外科学

今井 愛

8月12日

出発の日。前日に東京に入り、余裕をもって成田空港へ向かった。みんなと合流してから、お昼を食べる前に荷物や搭乗の手続きを済ませておこうということになった。初めての海外だったので手続きが不安で、先生や友達に確認しながら済ませた。お昼は最後の日本食ということで、そばを食べた。そのあとは、手荷物検査や搭乗の手続きを行った。手荷物検査では、友達の日焼け止めやはさみが没収されてしまった。搭乗すると、思っていたより狭い機内で、ここで12時間も過ごすのかと思うと気が重くなった。成田を16:25に出発した。

機内では朝食、昼食、夕食が出された。寝ているときも関係なく夕食を出されたので、体内時計が狂ってしまいお腹が張ってしまった。約12時間後アトランタ空港に到着した。予定より早く到着したが、入国審査が混んでいて1時間ほど並んだので、ホテルまで行くシャトルバスに遅れてしまいそうになり乗り場へ急いで向かった。バスも遅れてきたため、バスに乗ることが出来、2週間お世話になるホテルであるジョージアセンターへ向かった。ジョージアセンターはすごく綺麗で、部屋には白衣やグッズのプレゼントが置いてあった。夕食はCali&Tito's でみんなとシェアして食べた。アメリカでの初めての食事はとても美味しかった。室内はエアコンが効きすぎていて寒く、外はむわっとした気候のため体調を崩しそうだなと感じた。

8月13日

Kroger というスーパーへ行った。イメージするアメリカのスーパーという感じで、お菓子やシャンプー等を購入した。また、みんなで歩いてダウンタウンへ行き念願のスターバックスでレモネードを飲んだ。夕食はLongHorn へ行き、永田先生おすすめのLibeye ステーキを食べた。アメリカの肉は固いイメージであったが柔らかくとても美味しかった。夕食後、永田先生が本屋、酒屋、Walmart に連れて行ってくれた。

8月14日

山口大、鹿児島大の方と一緒にボタニカルガーデンへ出かけた。しかし、休業日のため室内は見られず室外の植物を観察した。植物園にはあまり興味がなかったが、色々な植物や花の周りにいる昆虫を見ることが楽しかった。その後、野生動物を保護しているという動物園へ行った。そこでは熊を見学する

ことができ、パンティングしている熊をしばらくの間見ていた。昼食はダウンタウンにある Thaispoon というお店で食べた。そこには日本食もあり、ホームシックになってしまった友人が味噌汁を飲み、感極まっていた。その後は大学案内ツアーに参加した。しかし英語が全然聞き取れずとても疲れた。大学はとても広く、バスで移動する程広かった。夕飯はジャマイカ料理へ行きたかったが、休業のため最近できたという中華料理屋へ行った。

8月15日

朝食はダウンタウンで買ったシナモンレーズンベークルを食べた。トッピングのクリームチーズが美味しかった。

この日は病院見学をした。アメリカが医療の先端と呼ばれている理由が分かった。病院の受付は通常用と緊急用で分かれており、麻酔科は無菌が保たれるように手術室へ続くドアと運ばれてくるドアが別々になっていた。麻酔は麻酔科が行うというところも日本と違うところだと感じた。RT 装置はCTを備えており、照射位置をCTで確認しながら設定できるようになっていた。薬剤師も常駐しており、人間の薬剤師だと言っていた。リハビリ施設には水を張ったランニングマシンがあった。また、MRIは大動物も頭や腕などは撮影することが出来、移動はレーンで吊るして行うことが出来た。大動物は全てモニターで管理され、両側から自動で動物を挟んで保定し、そのまま倒すことが出来た。また、寄付により跛行を検査するためのとても大きな施設が建てられていた。日本の大動物の現場をあまり見たことがないが、アメリカの大動物の施設はとても進んでいるように感じた。ジョージアの学生が案内してくれたので説明は英語であったが、永田先生が通訳してくれてとても助かった。これから英語を聞き取れるようになるのか、コミュニケーションを取れるのかとても不安に思った。同時に、英語が出来たら本当に楽しいだろうなと感じた。

フリータイムにはスチューデントセンターでジョージアグッズを見たり、スターバックスへ行ったりした。夕飯はCali&Tito's Eastside にジョージアの学生に連れて行ってもらった。おすすめメニューを聞き、CUBANO サンドイッチを頼んだ。食後にはハーゼルナッツアイスクリームを食べた。アメリカへ来て、食べ物の値段がボリュームに対して非常に安いことに驚いた。隣の席にジョージアの学生が座ってくれたのにあまり話しかけることが出来ず、英語を話す機会を逃してしまったと反省した。お礼に日本からのお土産として、キットカットの抹茶味とわさび味の柿の種を渡したら喜んでくれた。夜はホテルのジムで友達と1時間ほど運動した。

8月16日

クリニカルローテーション初日。私は友達と一緒にエキゾチックアニマルを見学した。お土産にはクッキー、チョコレート、カントリーマアムを持っていき、そのお菓子を食べながら朝のミーティングを行った。美味しく食べてくれて嬉しかった。そしてそのミーティングでは、入院や外来の情報を話してくれたので理解することが出来た。学生自身が担当している患者、症例についての報告やプランをSOAPに沿って説明し、ディスカッションしていた。教授、先生、生徒の距離がとても近く、ディスカッションしやすい雰囲気だなと感じた。また、日本よりも学生が診療に携わっている印象を強く受けた。エキゾチックのクリニカルローテーションには鹿児島大の遠藤先生も一緒に見学してくれて、分からないことを教えてくれたり、英語を通訳してくれたりしてとても助かった。エキゾチックには鳥、亀、ウサギ、ラットなどが診療に来ていて、ラットの口腔内腫瘍、鶏の跛行、低カルシウム血症のコンゴウインコ等エキゾチックらしい動物を見ることが出来た。鶏と聞くと食用を思い浮かべるが、アメリカでは“Chikin”と親しみを込めて話しかけていてペットとして愛でる文化があることを学んだ。夕方に亀のCTを見学させてもらい、亀の解剖図を初めて見た。

昼食は永田先生が病院の近くにあるキッチンHIBACHIに連れて行ってくれた。中華料理のバイキング形式のお店で美味しかった。

8月17日

エキゾチックの教授が朝ごはんはDUNKIN' DONUTSのドーナツを買ってきてくれた。とても美味しかった。

この日は朝の4時に急患でウサギが来院していて、そのレントゲンや超音波を見学した。エキゾチック動物のレントゲンは見たことがなかったので興味深かった。他にも、鳥のくちばしと爪のトリミングを見学した。エキゾチックの方々とは仲が良く、親切でとても良く接してくれた。

夜はTerrapinというビールが飲めるお店に出掛けた。たくさんのビールの種類があり、そこから好きなものを選んで飲むというスタイルでとても楽しかった。Terrapinオリジナルのグラスを貰った。

8月18日

エキゾチックの学生がキッシュとフルーツを持ってきてくれたので美味しくいただいた。この日は亀の尿道カテーテル、鳥の足皮膚炎のレーザー治療、Community Practice Clinical(CPC)などを見学した。CPCには歯科用のX線装置でハム

スターとオウムのレントゲンを撮影するために訪れた。CPCはワクチン、予防などを行う一次診療施設で、ここで学生はトレーニングを積んでいた。学生が飼い主から直接問診し、診療室にはモニターが付いていて先生が確認できるようになっていた。

夜はHondalus先生のお宅でホームパーティーをした。日本やアメリカについてのクイズパーティーをして楽しんだ。

8月19日

この日は永田先生が車で1時間半ほどかかるアトランタ動物園に連れて行ってくれた。日本ではあまり見かけない動物を見たり、たくさんのゴリラや亀を見たりした。環境エンリッチメントが充実している印象を受けた。その後、ストーンマウンテンという観光名所へ行った。ただの岩だよ、と聞いていたのだが、実際に見たストーンマウンテンは壮大でとても感動した。行く前はストーンマウンテンへ行くのを迷っていたが、本当に行ってよかったと思う。それからジョージアモールへ連れて行ってくれた。モールと聞いて、日本のイオンを思い浮かべていたが大きさが桁違いだった。全部は回れなかったので車を止めた周辺のお店を見て回った。アメリカらしいカップケーキのお店や、洋服屋など色々なお店があり、見るだけで楽しかった。

8月20日

Gogal先生のお宅でホームパーティーをした。パスタやキッシュなどの美味しい料理を振舞ってくれた。庭にはプールがあったので泳いだり、コートでバレーボールをしたりして遊んだ。

8月21日

二回目のクリニカルローテーション初日。腫瘍科を見学した。腫瘍科では身体検査、ケモセラピーなどを行っていた。また、永田先生の放射線治療を見学することもできた。放射線治療は、LINACという装置を用い、放射線の強さを部位によって調整するIMRTという方法で行っていた。LINACもIMRTという単語も初めて聞き、私は放射線学研究室に所属しているのに放射線治療について何も知らなかったことを反省した。しかし、永田先生が分かりやすい用語で説明してくれたため理解することが出来た。

この日は日食が見えるということで、病院のほとんどの人達が外へ出て、日食グラスをかけて観察していた。実際に97%ほど太陽が隠れたときはやや暗くなり、アメリカで日食を体験できるのはとても貴重だなと感じた。

夕方から射撃に連れて行ってもらった。最初はあ

まり興味がなかったが、実際に撃ってみると、映画で見るような片手で撃つ感じではなく、撃つたびに体が後ろへ持っていかれるような重厚な感触だった。初めての感覚でとても楽しかった。山口大の女の子がすべて命中させていて、才能が開花したとみんなで盛り上がった。

8月22日

この日の朝はジャーナルクラブがあり、前日に渡された放射線治療についての論文についてのディスカッションが行われた。アメリカの獣医学生のクリニカルローテーションは、3週間ずつ科に配属され、そこで自分の患者を持つことが出来るため、どの分野においても偏りがなくしっかり学べることが出来、羨ましいなと思った。日本でもこのような方法で行ってほしいと強く感じた。その後は、放射線治療室に行き永田先生の講義を受けた。内容は翌日にジョージアの学生に教えるもので、それを日本語で説明してくれた。講義はとても分かりやすく、聞いたら恥ずかしいかなということにもしっかり答えてくれるため色々な事を学ぶことが出来た。

夕食は Longhorn へ行き、食後にはスーパーで買った Talenti というアイスを友達と分け合って食べた。ピスタチオ味を選んだのだが、今まで食べた中で一番美味しかった。

8月23日

朝はケモセラピーに関するクイズを行った。英語は全然聞き取れず、フロセミド等知っているはずの単語も聞き取ることができなかった。クイズが終わった後、鹿児島大の先生に日本語訳をしてもらったのだが、日本語でも分からず自分の勉強不足を痛感し、恥ずかしく思った。

夕食は The Blind Pig でハンバーガーを食べた。隣にジョージアの学生が座ってくれて、今度はつたない英語で話すことができた。その学生は日本の文化、漫画に興味があり色々な事を聞いてくれたり話したりしてくれた。英語を話した、とは言えないレベルかもしれないが、ジョージアの学生と話せたことが嬉しかった。

8月24日

永田先生の講義を受けた。内容は以前に日本語で説明して頂いたものだったため、英語でも理解することが出来た。

昼食は永田先生がタイ料理を食べに連れて行ってくれた。食後にどうしても行きたかったコーヒESHOPへ行ったのだが、そこで注文したチャイラテが甘すぎて飲めなかった。

この日の夜は Brown 先生のお宅で Farewell

party をした。庭には池があり、ペットに犬、猫、反芻類を飼っていて、日本と全く規模が違う家にカルチャーショックを受けた。夕食はパンやパテ、野菜が用意されており、自分でハンバーガーを作るというスタイルで楽しかった。きちんとビーガン用のパテも用意されており、アメリカらしいと思った。また、Brown 先生からジョージアグッズや集合写真などのプレゼントを頂いた。

8月25日

この日は1日観光であった。最初はジョージア水族館へ行った。ジョージア水族館の展示はとても綺麗でずっと見ていたかったが、イルカショーの時間が決まっていたため、あまり長く見られず残念だった。イルカショーは、イルカの音楽に合わせた芸がとても美しく感動した。日本で見ると全然違って、音楽に客が合わせて歌ったり、盛り上げたり、ショーとはこういうものなのだなと感じた。次に、水族館から歩いて行けるワールドオブコカ・コーラ博物館へ向かった。そこでは順序通りに建物内を進んでいくのだが、私がとても印象に残ったのはムービーのところである。ムービーが流れた後、感動して泣きそうになった。その後は風や水が出てくるアトラクションに乗ったり、写真を撮ったりして楽しんだ。試飲コーナーでは、世界のコーラを飲み比べることができた。美味しいものいくつかあったが、不味いもの、微妙なものもほとんどであった。最後は CNN センターへ行き、夕食を食べた。サンドイッチとサラダを友達とシェアして食べた。

アメリカ最後の夜は空港近くのホテルに泊まった。そのホテルへはジョージアセンターから荷物が届けられるようになっていたのだが、その途中で私の荷物がロストバゲージに遭ってしまった。入っていたものは洋服と小銭などで貴重品はなかったため、大事にはならなかった。しかし、お気に入りの洋服が入っていたため少し落ち込んだ。

8月26日

アトランタ空港を出発し、翌日の27日に日本に到着した。

このアメリカ研修で得たものは、英語の必要性和自主的な行動である。今回の研修では、幸いにも英語が出来る人と一緒にクリニカルローテーションで、分からないことをすぐに聞くことが出来た。そのため、しっかり勉強することができ本当に感謝している。しかし、ジョージアの方に直接質問する機会は少なかった。この点は非常に反省すべきことだと思う。

また、海外の病院を内部まで見学することができたのはとても貴重な経験だった。まだ日本の病院に

ついてしっかり見られていないので、主観が入ってしまうが、やはりアメリカの施設は進んでいると感じた。最先端の機械に囲まれて、科ごとにきちんと仕事が分かれていて、仕事をしやすい環境だなと感じた。しかし、小動物の技術に対しては日本と同じくらいだと感じた。

このような違いを直に感じる事が出来、本当に良かったと思う。お世話になった先生方、一緒に行動してくれた友達みんなに感謝の気持ちを伝えたい。

久保庭 清華

2016 8 12 (土)

前日は成田の東横インに宿泊したので9時ごろには成田空港第一ターミナルに着き、ぶらぶらしていた。4時25分の便で集合時間は一時だった。当日にローテーションが発表された。今年は2週間の滞在中、一週目と2週目に違う診療科に配属されるスケジュールで、一週目は大動物外科、2週目は大動物内科に配属された。ここで注意しておきたいのは、私の場合ほとんど希望が通らなかったということだ。一診療科につき二人までというルールになっているのか、人気だったエキゾチックは見る事ができず、一番見たかった病理は校舎が違うのでそもそも受け入れられないと断られていた。一時に集合してからみんなで昼ごはんを食べることになっていたが親戚と会っていたので、親戚と昼ごはんを食べなければならず、二度昼ごはんを食べる羽目になった。かなり時間があまったので来年は1時半でも十分だと思うし、昼ごはんを食べていれば2時でも十分だ。出国の荷物検査は眉バサミも没収されるので注意が必要だ。到着は3時15分くらいで予定の1時間前だった。フライト中は3本映画を見て(映画は沢山あった)途中途中4時間くらい寝た。ドリンクのサービスは何回もあり、ペットの水ももらえる。事前に飲み物を買う必要はない。アルコールも充実しており、コーヒーはスタバで美味しい。機内食は3回出た。夜ご飯、夜食、朝ごはん。夜食にチーズとチキンのラップにハーゲンダッツバニラで重かった。初日からご飯を残すことを覚えないとお腹を壊す。15日のアメリカ滞在で一体何キロ増えるか不安を通り越して楽しみが勝る。ご飯はとにかくシェアしよう。5時50分にUGAのホテルまでのバスの手配をしてもらっていたが、税関に並びかなり時間がかかったのと、到着したターミナルとバスのターミナルが遠く、ギリギリになった。その晩はホテルのフロントの人に聞いたメキシコ料理屋さん Tito Taco に行った(ここは後日スケジュールに

くまれて再度行くことになる、スケジュールはよく見る事！味はおいしいが、いろいろチャレンジしたいならホテルのシャトルを使ってハンバーガーやほかの店をあたってみることをお勧めする)。6分ほど歩いて、コンビニも近くにあった。

2016 8 13 (日)

朝10時くらいに起きホテル5階のランドリーで洗濯をした。洗濯機、乾燥機各1ドル25セント。25セント硬貨は必須だ。洗剤も売っているが、かなり高いのでスーパーで買うか持って行った方がよい。1時くらいには乾燥も終わった(洗濯30分乾燥45分、ちゃんとレバーを引いたりスイッチを押さないと起動しない!)。この日は1時集合でクロガーというスーパーに行った。後々お土産を買うのが面倒なので、親戚や友達へのお土産を全て買って行った。本当はヨーグルトアイスクリーム屋やアウトレットの洋服屋もあるらしく、行きたかったが、スーパーだけで、3時にはホテルに帰った。事前に交渉すれば行けたかもしれない。意外と早くホテルに帰ってくることができたのでダウントウンを散策した。ダウントウンまでは歩いて15分程。あまりに蒸し暑いのでスターバックスで飲み物を買った。スタバの軽食や、ベーグル屋さんは3時から4時には終わるので注意が必要だ。夕食は5時集合で永田先生に Long Horn というステーキ屋さんに連れて行ってもらった。とても量が多い、と想像する三倍の量が出てくると思った方がよい。シェアしても食べきれない。前菜を頼んだが食べきれないので頼むべきではない。お肉を頼めばサラダとサイドがでてくる。こちら量が多く、2人でシェアして丁度よい。肉はおいしい。夕食後は長田先生に酒屋と本屋、ウォールマートというスーパー、可愛い雑貨屋にも連れて行ってもらった。本屋では marvel のコミック本が沢山あり、お土産に買って帰ろうか悩んだ。この晩は女の子で買ったスミノフを飲みおつまみを食べながら明日のフリータイムについて話した。しかし12時ごろ、信じがたいことに、明日の予定が決まっていることを聞き、立てた予定が崩れた。他大学との連絡もちゃんとしていかなければいけない。

2016 8 14 (月)

この日は予定では rest & free だったが、9時からボタニカルガーデンと小さな保護動物園に行った。ボタニカルガーデンは温室がしまっていてとても残念だった。お昼にはダウントウンで降りてもらい、アセنزベーグルでベーグルを買い、タイスプーンというアジア料理屋で昼食を食べた。寿司もある…タイ料理屋ではないのだろうか。3時から大

学のツアーに行くことになっていたもので、それまでダウントウンの洋服や雑貨屋を見た。アーバンアウトフィッターズでは服を買った。

夕食は6時半に集合し、行きたかったジャマイカ料理が休みだったため永田先生のオススメの red bowl という中華料理屋に行った。minced pork と高菜が入った辛いスープを頼んだ。サイドを頼むと丁度良い量がでてくる。ホテルへ帰り、洗濯がしなかったため自販機で洗剤を買おうとコインを入れたら洗剤が出てこずコインだけ回収されたので、フロントに話したら、フロント係のお兄さんに英語がうまく伝わらない上に信じてくれず、代わりにシャトルの連絡をする女性に話すよう言われた。私の拙い英語のせいで人がどんどん集まりかなり恥ずかしい思いをした。結局、洗剤を手に入れることができ、最初はぶっきらぼうな対応が親切に変わり、ジョークも交え、良い経験になった。その日はかなり疲れていてホームシックになり、英語は重要だということを痛感した。

2016 8 14 (火)

今日は10時集合で10時半に動物病院に着き、Dr. Brown と合流し一緒に昼食をとった。サンドと飲み物、ポテトチップス、ピクルスは巨大で驚いた。久々に普通のご飯を食べることができた。その後、学部長の女性が来て、全員で集合写真を撮った。私だけ白衣を忘れて恥ずかしい思いをしたので、写真撮影には忘れずに白衣を持っていくとよい。写真を撮った後は女の子二人が院内を案内してくれた。獣医学科の学生は3年生までは座学で4年生の3月から病院実習になる。約2～3週間で細かく分かれた様々な部署をローテーションして学ぶ。1学年115人だそうだ。院内の構造は中心部に画像診断や麻酔科が配置されていて、それを挟むように大動物と小動物の診療科があり、両方からアクセスしやすいようになっている。小動物は24時間対応の救急と、一般の8つの診療科（診察室は20部屋位）の受付は分かれていた。リハビリエリアには犬猫用のウォータートレッドミルもあったが、施設としては大きくない。大動物では馬の colic, inpatient, intensive care, receiving, food animal の treatment があった。また、動物病院なのに、薬局もあって、そこで病院内全ての薬を管理していた。大動物の付属施設として、繁殖の指導に関わる事務、牧場、屋内運動場、隔離病棟があった。隔離病棟は各個室が陰圧になるシステムになっていた。日本にはない大規模な施設でとても感動した。ツアーは1時過ぎには終わりホテルへ帰り、洗濯をしてから4時過ぎまでスチューデントセンターでジョージアグッズを買ったり（結構高い）、スタ

バへ行ったりした。スチューデントセンターは新学期の為かとても混雑していた。5時半集合で迎えが来て、Tito Taco の別店舗で UGA のアンバサダーと食事した。恐れずに沢山話すとよい。この店のおすすめをアンバサダーに聞き、チキンのキューバサンドを食べた。メキシコ料理が実家でもよく出るが、パクチーも入っていて（結構な頻度でパクチーに遭遇するので、嫌いなら抜いてもらおうとよい）格別においしかった。店内はディズニールンドのようで可愛かった。その後 wall mart に永田先生に連れて行ってもらった。

2016 8 16 (水)

今日はローテーション1日目だった。先生は女性が二人、男性が一人、研修医が二人である。どうやら男性の先生が一番偉いようだ。朝は納屋にいる馬の紹介をしてもらった。各罹患動物に1人担当の生徒がついていて、学生は朝6時半に来て体温やその他異常がないかチェックし投薬する。インテンシブケアには急性のローテーション型蹄葉炎で白帯がはがれている馬がいた。治療の方針はメタボリックシンドロームの改善と鎮痛である。その後、関節鏡の手術を見た。症例はなかなか炎症が引かず原因がわからないので、関節鏡で関節包内に異常がないか見るとのことだった。手術室内はとても広く、まず、手術準備室で尿カテや術野の消毒や麻酔をかけ、手術室に運ぶ。手術室に運んでからまた術野を消毒し、患者を運んだ反対側から術者が術衣を着てドレーブを掛けることで、コンタミを防いでいた。手術室に入る人はとても多く、レジデントとドクターが麻酔科と外科で3人ずつ、生徒が各1人または2人入っていた。関節包内は滑膜絨毛が炎症で長く赤くなっていて、関節面にはフィブリンが付着し癒着していた。関節面が変性してスムーズでなくなっているスポットもあった。キュレットを使ってフィブリンを取りながら炎症の原因を探ろうとしたが結局原因はわからないまま手術が終わった。午後は Peeco という管にプレートを入れて、感染し、膿汁が止まらない馬に対して、効果的な抗生物質を投与するために、関節液を採材していた。採材前に鎮静をかけるため留置をとった。馬用の留置針はとても長く太くて驚いた。先生が生徒に留置を固定するための皮膚への縫い付け方を教えていた。採材後とりあえず広域の抗生物質を化膿巣に打って、包帯を取り換えた。投与する薬は学生自身が用意する。6時と24時に打つが、24時はテクニシャンが打ってくれるようだ。色違いのラベルは i.v, s.q, p.o, で分かれており、投与方法を間違わないようにされている。鎮静剤が取れるのを待って、1日目のローテーションは終わった。怒涛の四日間、精神的な疲れもあって

か、その日はルームメートと共に夕食を食べる前に就寝してしまった。

2016 8 17 (木)

ローテーション 2 日目。今日は特に急患もなく暇な一日だった。入院患者への薬剤投与や包帯の取り換えなど簡単な処置の連続で終わった。特に予定がないときは先生が授業をしてくれる。この日の授業は疝痛の分類と処置についてだった。日本の学校では細かく教えてくれないので興味深かった。午後もあることなく学生たちも帰っていいと解散になった。夕食は **terrapin** という **brewery** でビールを飲んだ。六杯分のビールチケットとグラスで一人 10 ドル位だった。スナックなどの軽食の用意はないので、自分たちで持って行った。アメリカのビールは私の口にはあまり合わず、進まなかった。黒ビールは味が濃すぎて、もはや妙に甘いコーヒー味がした。アンバサダーの女の子が 3 人来ていて、英語を喋れる人（山口大や鹿児島大の人や山崎さんはよくアンバサダーと喋っていた。アンバサダーの女の子もよく友達と飲むといっていたので日本と変わらないのかなと思った。とりあえず日本のビールの方がおいしい。

2016 8 18 (金)

ローテーション 3 日目。金曜日は研修医による講義があるらしい。大きなホールで医療従事者の抗がん剤への暴露を減らす取り組みについてわかりやすく講義されていた。最初に馬の肢にアイシングする機械でアイシングするのを見た。機械に氷を入れて、肢にプロテクターのようなものを巻き、コードをつなぐと冷たい水が循環する仕組みになっている。だいたい 30 分位行う。その後、馬の跛行検査をひたすらみた。跛行検査は屋根付きの運動場で行われる。砂地とアスファルトのような硬い地面とがあり、どちらで跛行がひどくなるかも見ることができる。全部で五頭いて、ジョージア大学の馬術部の馬だった。神経ブロックのやり方や跛行の見方をいろいろ教えてもらったが、跛行自体がかなり微妙で学生たちもわからないようだった。乗り手がいつもと乗り心地が違うと感じても、跛行検査で現れる跛行はとても微妙なもので専門家でないとは分りにくい。ミーティングルームで学生たちが跛行のビデオを見ているのを後にしてローテーション一週目は終わった。ホテルに帰ってからは 5 時 30 分にロビーに集合し、**Dr. Marry Hondalus** 宅のホームパーティーに招かれた。ホームパーティーではおいしい食事いつものアンバサダーとの会話、チームで別れて豆知識のゲームをして楽しんだ。**Dr. Mary Hondalus** は感染症（確か結核だったと思う）を研究している。

部屋を日曜大工して可愛くするのが趣味らしく、家の内装はかなり可愛くおしゃれだ。もしかしたらお土産は日本の可愛い置物とかがよいかもしれない。

2016 8 19 (土)

この日は朝 8 時集合で長田先生にアトランタに連れていってもらった。まずアトランタ動物園に行った。アトランタまでの道路は結構混雑していて 1 時間半以上時間がかかった。アトランタに近づくとアメリカらしい作りの高いビルが何棟も見え、都会を感じた。海外の動物園は環境エンリッチメントがかなり充実しており、草や木が茂り日陰も多く、動いている動物も日本より多かった（アトランタの蒸し暑い気候のせいでばてているような姿も見えたが）。日本では展示していないような動物が多く、展示の仕方も工夫されており、かなり楽しめる、テーマパークのようだった。その代わり、約 30 ドルと日本の動物園より割高である。ちょうどお昼の時間となったので、インドレストランのビュッフェを食べた。インドカレーは外れがない。次にいろいろな国の食材が売っているスーパーに行った。みたことないような野菜や果物、魚介類、たくさんのチーズ... 見るだけでも楽しい。最後にモールオブジョージアというジョージア州最大のショッピングモールへ行った。建物が何棟もあり、とにかくモール一帯の敷地が広く、自分の中の常識が覆された。お土産用にとショッピングを楽しみ、夕食はチーズケーキファクトリーというチーズケーキが有名なレストランでとった。アトランタ観光に充実した 1 日だった。ロングドライブ、永田先生に感謝します。

2016 8 20 (日)

この日は 3 時 30 分から **Dr. Robert Gogal** 宅で行われるディナーパーティーに招かれていたので、それまでダウントウンでショッピングを楽しんだ。可愛い古着屋さん（日本よりも古着の値段が安い）もあって驚いた。ディナーパーティーは、プールがあり、水着の用意がある人は入っていたが、女子は私と山口大の女性一人しか入らずかなりさみしい状態だった。バレーボールも楽しんだ。日差しがかなり強く、痛いくらいだったが、親切にも日焼け止めまで用意してくれていた（ほかに水中ゴーグル、バスタオル、着替え用の部屋も！）。このパーティーは定期的に行われるようで、先生たちの交流会みたいなものに私たちとアンバサダーが招かれたような形だった。そこで、幸運にも、病理をやっている先生がいらっしやっていて、永田先生が紹介してくれた。**Sakamoto Kaori** 先生という女性の日系の方で、もしできれば病理のラボがみられるように交渉してくれるという。料理はビュッフェ形式になっていて

夕ご飯を食べ、みんなとの会話を楽しんでいたところ、地下室へ案内された。地下室は列車模型とその線路、街並みでいっぱいだった。ご主人の趣味でやられているらしい。街並みは父親からもらったというブリキのおもちゃや、置物の人形が工夫されておかれていた。列車の仕組みや街並みをどうやって作ったかをいろいろ説明してくれた。一通り模型の説明が終わるとデザートタイムが待っていた。アイスクリームを自分でとっていろいろなトッピングができた。充実したホームパーティーだった。

2016 8 21 (月)

ローテーション 1 日目、今日からは大動物内科を見る。まず初めに、入院患者の案内をしてくれた。小さいヤギは下痢で、シスコという馬は小腸の閉塞で二日間食欲がなく、メデトミジン、フルニキシメグルミン、パナミンで鎮痛をしている。子牛は母親の子育てがうまくいっていないのか虚弱だ等々他にも疝痛の馬がたくさんいた。生徒が全員集まるとまず輸液の計算の仕方を先生が授業し、その後、各患者を見回りながらのミーティングが始まった。ミーティング内容は、各患者の経過と今の状況、考えられる原因や治療法を学生と先生が話し合ったり、先生が学生に質問したりされながら学習内容を深めていく形式になっていて勉強になる。ミーティングルームに帰ってきてから付け足しで講義があった。フィブリノゲンがいつまで増加するか：24 - 48 時間後に増加して半減期となる、コクシジウムの治療（ヤギはコクシジウムが疑われている）、*Perilla mint*：シソ、日本では聞かないが、驚いたことにシソも中毒がおこるらしい。気管のクララ細胞がダメージを受けるそうだ。

2016 8 22 (火)

昨日まで isolation にいた子ヤギが treatment の病棟に移されてきていた。掻痒と虚弱で起立不能、神経的なものか電解質か中毒かウイルス性が原因は分からない。まず眼振、瞬目、対光反射を調べ、体に着いているダニを採取した。ヤギの起立不能の症例ではダニ自体が持つ毒による中毒がもっとも疑われるらしい（日本では聞いたことがない）。尾根部から CNS もとっていた。その後、牛のいる納屋に連れられて、この子はルーメンジュースのドナーだと教えてもらった。昨日、食欲不振のヤギに対してドナー牛のルーメンジュースを移植したところ、経過がよくなったということだった。同じ反芻獣なら、ルーメンジュースは移植可能らしい。ミーティングルームに帰ると、授業が行われた。抗生物質のスペクトラムや同族の抗生物質の種類、投与方法、中毒、適応症と禁忌について。途中途中、授業を中断して

先生もろとも日食を見に行くのはアメリカらしいと思った。

2016 8 23 (水)

今日のはかねてからの願いがかなって、Dr. Kaori の計らいで病理のラボを見せてもらうことになった。動物病院はできたばかりで、病理や感染症のラボがある、校舎が立ち並ぶ場所からは遠い。校舎に入るときには常にカードキーが必要で、日本から来た全 11 人に対して四枚しか渡されず、その関係でか、他の校舎を見学するのは難しいようだった。病理のラボにいるのはこの時は大学院生と台湾人の留学生（台湾人の留学生に非常に早口で勢いよくしゃべりかけられて驚いた、アジア人で英語喋れないのは日本人だけかもしれない...）だけだった。午前中は大学院生の授業に出席させてもらった。8 時から Cell Path、9 時から Micro Path、10 時からは大学院生に最近の面白い症例について見せてもらった。Cell Path の授業は血管系についてで、まず各血管の組織形態（弾性型、筋型、細動脈、毛細血管：連続性毛細血管は小孔がなく多くの組織で見られる、腎臓には有孔性毛細血管、脾臓には有窓生毛細血管がある、静脈）から始まり、水腫が起こる機序（毛細血管圧と膠質浸透圧の関係）、充血とうっ血の違い、血色素の移行、Hematosi s と Thrombosis の違い、血液凝固と線溶機構についての生理学的な話を聞いた。Micro Path の授業は脾臓についてだった。まず、脾臓の組織構造、腺房や脾島の動物種差（馬やマウスは脾臓が大きい、魚は顆粒が大きい）、脾炎の種差（肥満犬には急性脾炎が起こりやすく、ネコは肝臓病変と関連して慢性脾炎が起こりやすく過形成も多い、アミロイド沈着が多い）、死変と脾炎の見分け方、診断の書き方（重要なことから、書き漏れがないように）を先生と院生同士のディスカッションで教えてもらった。残念ながら私は聞くことができて喋れないのでディスカッションに加わることはできなかった。その後は院生と先生が最近来た症例についてチェックを含めたディスカッションをし、留学生はそれをレポートにするように指示されていた。やることなくったところで、Dr. Sakamoto が面白い症例を私に見せるよう院生の人たちに言うてくれて、いろいろな症例を見た。魚のダクチロギルス症と抗酸菌症の混合感染や猫の尿毒症の腎臓、肺や舌や消化管などの二次病変など興味深いものが多かった。それが終わるとランチタイムになり、Dr. Sakamoto がヴィーガン向けのカフェに連れて行ってくれた。ランチの間、Dr. Sakamoto のこれまでの経歴をいろいろ聞くことができて、あなたは病理に興味があるようだけどこのまま勉強を続けないのかとか日本の仕事はどうなの

かと聞かれたりと聞かれたりしながらかなり為になる話ができた。アメリカの病理学者の現状は家にいるだけで仕事になりとても羨ましい。会話の方が楽しく殆ど食事に手を付けられなかった。ランチの後は **Dr. Sakamoto** のショッピングに付き添って、アセNZをドライブでガイドしてもらいながら帰った。ドライブ中でも、トランプ大統領をどう思うかとか政治的な話もした。大学に帰り、病理のラボを一通り案内してもらった。解剖の部屋、切片を作る部屋（すべてテクニシャンの仕事、学生の仕事ではない）、臨床病理の部屋、各専門家の部屋（水生動物、エキゾ、一般病理）。**Necropsy** まで時間があるのでそれまではエキゾの先生にきた症例（鳥、ヘビ、コウモリ、シカみみたいな動物…）の切片をいろいろ見せてもらったが、流石にエキゾチックアニマル、器官から構造が違うのでこれは何かいちいち説明してもらわないとわからなかった。なぜ症状が起こったかは分からないことが多いが、動物園からたくさん検体が来て、特に栄養学的なものなどの原因を調べているそうだ。例えば、熱帯から来たサルは鉄中毒になりやすいとかカエルに舌が肥厚する病気がたくさん発生した等。同様に水族館から来るものは水生動物の病理で扱っているそうだ。**Necropsy** の時間では、オウム（感染症対策のためキャピラリー内で解剖する）、イヌ（林の中で見つかり身元不明、死亡時期不明、腐敗がそこそこ進んでいた）、カメ（膿瘍が皮膚にあって食欲不振）、カメレオン（すでに終わって皮だけになっていた）が解剖されていた。日本と比べると雑かもしれない。病理ラボでの一日が終わると **Dr. Sakamoto** が動物病院まで連れて行ってくれてお別れとなった。貴重で最も充実した一日だった。事務のベロニカさんと連絡を取り合って、ラボを見られるように手配し、親切に対応してくださった **Dr. Kaori Sakamoto**、そしていろいろご教授くださったラボの方々には大変感謝します。スケジュールされていたディナーの場所 **Blind Pig** にアンバサダーが来ないのでどうしたものかと先に食事していると、現地集合ではなく実はホテルで落ち合う予定だったようで（こちらに集合場所の連絡が来てなかったしお店が病院のそばだった）、食事が終わったところにアンバサダーがホテルにいと連絡がきた。しかもアンバサダーの予定では、行く店が **Blind Pig** ではないところに連れて行くつもりだったらしい。事務のベロニカさんが作ったスケジュールとアンバサダーの予定が若干違うことがよくあるので少し困った。しかしながら、アンバサダーの良いい人柄のおかげで、楽しい会話ができ

2016 8 24 (木)

今日はローテーション二週目の最終日だった。大

動物内科に帰ると患者が増えていた。**Flick** という馬は疝痛（小腸閉塞、脂肪腫による嵌頓）で来ていて、昨晚手術を受けていた。しかし、納屋のなかでぐるぐる回り続け、苦しそう様子だ。胃内容物をチューブで定期的に抜き（吸って吸える、はいてはける、匂いがする、音がするのが胃に入った証拠）、鎮痛剤を打つ。エコーをしてみるとやはり十二指腸の動きが悪いようだ。術後のイレウスや壊死のせいかもしれない、十二指腸摘出してもよいがそれでも治るかわからないしお金もかかるということでオーナーと真剣な話をしていた。起立不能のヤギはイーストの感染と判明した。その他にも、学生から牧草について教えてもらったり、馬の喘鳴症についてのレクチャーを聞いた。夜は **Dr. Scott Brown** 宅のフェアウェルパーティーに招かれた。最後だからとお酒の力を借りてブローケンイングリッシュでアンバサダーと話した。いろいろと楽しませてくれたアンバサダー達にも感謝したい。パーティーが終わってホテルに帰ると、あろうこと、**Wi-Fi** と携帯をブラウンさん宅に忘れてしまった。ホテルから電話すると、親切にも、明日の朝ロビーまで見送るのでそこで渡すのでもいいか、と仰ってくださいました。最後までお世話になりかなり恥ずかしかった。

2016 8 25 (金)

出国前日、朝ホテルを出発し、アトランタ水族館やコーラ博物館、CNN を楽しみ、永田先生や山口大、鹿児島大の人との別れを惜しんだ。最終日のホテルは **Westin** に泊まった。

2016 8 26 (土)

アメリカ出国日、特に何事もなく出国することができてよかった。そして全員無事に日本に帰国することができた。

まとめ

米国三大学の研修には大学二年生の時から参加したいと思っていた、実際に行くことができて貴重な体験となった。何より感じたのは、自分の英語能力の足りなさだった。ジョージア大学の人たちはとても親切で、つたない英語も相手にしてくれたが、やはり英語が喋れないと相手にされない感じがある。日本に帰って、反省して英語の勉強をすることにした。また、アメリカと日本の獣医学教育の違いや同じところ、獣医師としての働き方の違いを知ることができたのもよかった。

田村 彩

1 日目

13時集合だったので、余裕を持って11時頃に到着した。昼ごはんは皆で最後の日本食ということで蕎麦を食べた。

出発口の荷物検査で日焼け止めが100ml以上あったため没収された。(新品だったのに…。)スーツケースに入れておけば良かったと後悔した。出発前に500mlのペットボトルを購入したのだが、飛行機内で嫌というほど飲み物が出てきたので、一滴も飲まなかった。機内は少し肌寒く、上着を持って行って正解だった。機内の映画は新作～名作まで充実していたが席が狭いため全然眠れなかった。機内食はちゃんぽん麺や鶏胸肉のソテーなど、デザートはハーゲンダッツと充実しており、やはり量は多かった。デザートのアメリカのチーズパイは味も匂いも苦手で、アメリカの料理に馴染めるか不安だった。空港に到着し、入国審査で1時間半くらい並んだ。飛行機で疲れているうえにその長蛇の列は結構しんどかった。今年はジョージア大学までのバスを出して貰えなかったため、一般のバスでいくことになったのだが、そのバスが17時40分発で、なんとか間に合った。ホテルの部屋は2人部屋のツインベッドなのだが、1つがセミダブル～ダブルくらいのサイズでアメリカだな～と感じた。夜ご飯はホテルのフロントの人のお勧めを聞いて、全員で食べに行った。焼いた手羽元を10ピースくらいと、チャーハンと、ナチョスとサラダを食べた。手羽元は味付けが辛味の上に酸味が強く、とても苦手だった。チャーハンとナチョスは美味しかった。帰宅してやっとシャワーを浴びて、その後自分達の部屋で、鹿児島大学の子も呼んで雑談していた。この日になるまで不安しかなかったが、当日になるととても楽しい日だった。

2 日目

朝は爆睡していて10時頃に起床した。洗濯物が溜まっていたのでホテルに併設されてあるコインランドリーに行った。洗濯機と乾燥機は各1ドル25セントで、5人で割って使った。洗濯機は1時間くらいで乾燥機は1時間半で終わった。昼はジョージア近くのスーパーに行った。スーパー内にスターバックスが併設されていて、食品も肉やサラダや牛乳やアイスなど全てが規格外に大きかった。皆とパーティー用にお菓子やお酒を買って、ホテルに備蓄した。あたり前だが、エビスやアサヒなどはなく、アメリカのビールを飲んだのだが苦味が強くてのどごしは最悪だった。本物のビール好きはその苦味が好きなのだと思います。

その後、ジョージア内の街を散策してベーグル屋さんに行ったのだが店が既に閉店してしたためスターバックスに行って、ピーチとライムのアイステイーを頼んだ。炎天下の中だったので、グランデサイズを一瞬で飲み切ってしまった。夕ご飯は現地の日本人の長田先生と一緒にロングホーンというステーキ屋さんで食べた。海老の揚げ物やタマネギの揚げ物やイカリングなどサイドメニューでお腹いっぱいになってしまい、300gのステーキを二人でシェアした。とても美味しく、お腹いっぱいになった。ホテルで先生と同期でお酒を飲んで、アメリカのビールを飲み比べた。日本のビールが美味しく感じ、まだアメリカの味に馴染めなかった。

3 日目

今日は朝から昼にかけて植物園と動物園に行った。屋内の植物園は月曜日閉館だったため、屋外で散策した。ハチドリを生まれて初めて生で見れて興奮した。ハチドリの他にもトカゲやカエルやどこからか迷い込んできた鹿を見ることができた。イチョウの木や紅葉の木など、アメリカでも日本の木々が生えていることに感動した。炎天下の中だったが、とても楽しかった。動物園はクマやワシやタカ、フクロウにミミズクなど沢山の動物が森林の中で展示されていた。中でも三匹いたクマは、とても暑かったせいかパンティングしており、日除けになる寝床を巡って争いがおきていた。

昼ごはんはダウントウンに出て、タイ料理のお店でごはんを食べた。私はまだアメリカの食べ物に慣れておらず、タイ料理屋さんにあるお寿司セットを頼んだ。セットにお味噌汁がついてきてびっくりしたが、飲んでみると若干甘い味はしたが美味しい味噌汁だった。お寿司はマグロ、サーモン、ハマチの3貫出てきて、シャリは微妙だが身も分厚くて良かった。その後ダウントウンで買い物した。私は持ってくる服の数が少なかったのでワンピースを1着試着して一目惚れして購入してしまった。途中で寿司が当たったのか、お腹が急に痛くなり、すぐにホテルに帰ってトイレに引きこもった。夕方はジョージア大学のキャンパスツアーで、自分が全然英語を聞き取れないことに絶望した。節々の単語は拾えても、どういうことを言っているのかわからず、この先病院の研修に不安を覚えた。

夜ご飯はまだ寿司のせいかお腹が本調子に戻らず、ジャマイカ料理を断念してホテルで爆睡していた。3時間くらい寝たら体調も戻ってきて明日の見学に影響しないことにホッとした。

4 日目

朝は大学のキャンパス見学に行った。キャンパス

見学には現役の獣医学部生と長田先生が案内してくれた。大動物の施設は馬の診療施設が特に充実していた。診療施設内が車で通れるほど道が広く、天井には馬を吊り上げて運べるレールが取り付けられており驚くばかりだった。馬の跛行診断を見るために土のような柔らかいところ（土埃が舞わないような素材）と、アスファルトで別れて診断できるように工夫されていた。小動物の臨床施設は日本のものと比べものにならないくらい広く、Oncology(腫瘍学)、Ophthalmology(眼科学)、Cardiology(循環器学)、Newrology(神経学)、Internal medicine(内科学)、Dermatology(皮膚科学)、他に軟部や整形、エキゾチックアニマルなどそれぞれ2つずつくらい診療する部屋を持っており、それぞれお昼ごはんを食べたり、ディスカッションができる部屋があった。画像診断施設ではMRIやCTが馬なら頭部や四肢がとれるほど大きいサイズになっていた。見学の後はホテルで洗濯機を回してからジョージアの公式ショップに戻り、ショッピングを楽しんだ。服もナイキやコロンビア、チャンピオンなどとコラボしており、よく見ると生徒も自分の大学のパーカーやTシャツを着ているのをよく見るので、日本の大学と違って自分の大学への愛があるんだなあとと思った。スターバックスに寄ったのでお土産にアトランタのマグカップを買った。ホテルに戻って一息ついてから、1日目と同じ系列のお店で夜ご飯を食べた。1日目よりも綺麗な屋内で、自分が本当に食べたかった目玉焼きのタコスと、レモンペッパー味の手羽先を頼めた。

5 日目

今日は朝から病院への配属だった。エキゾチックアニマルに配属されたので、不安になりながらその診療施設に行くと、快く迎えてくれた。エキゾチックアニマルは1人のリーダーの獣医師に2人の若い獣医師と5人くらいの生徒と技師で構成されているようだった。朝はミーティングから始まり、入院してる子達の経過のディスカッションが行われていた。授業で習ったSOAPの形式が実際に用いられていた。ディスカッションではBAR(コンディションを示す)やNOVA(機械の名前)など略語が多様されていて、カルテを読み取るのに苦労した。施設内は処置室と入院室がセットになった感じだった。柵や入院室のケージは下にコロコロがついていて、動かして掃除しやすいように作られていた。また、薬品ごとのシールが作られており、濃度さえ書けばシリンジに貼ってすぐに完成するという工夫をされていた。始めはラットの口腔内腫瘍の処置を見た。ラットでは好発するらしい。麻酔をかけて傷口をデブリードしていた。夕方にごっそりと腫瘍が切

除されていた。次にコンゴウインコを見た。低カルシウム血症によるふらつき、運動障害だと思われる。飼育の環境があまりよくないらしく、ピーナッツばかり食べているためVD3の投与が必要だと言っていた。次に外来できた鶏の検査を見た。瞳孔や口腔内、聴診、触診をしたのち、触診で臀部に腫瘍があるかもしれないと疑っていた。腺癌か、外部寄生虫か、皮膚病が原因で、CBCやFNA、X線をすると言っていた。普通の鶏と違ってとても大人しかった。午前中はここまで見て、長田先生や山口大学の人達と一緒にビュッフェレストランのHIBACHIへ行った。主に中華料理ばかりだったが、寿司や少量のデザートなど日本人に嬉しい料理もあり、ビュッフェスタイルなのが自分に合わせられてとても良かった。午後は、茶色と銀色のポーリッシュという2匹の愛玩鶏が来ていた。茶色の鶏は半年前から来ていて、左足が跛行をしているが原因がわからず、次はマイコプラズマPCRをしようとしていた。銀色の鶏のほうは、両足の足裏に皮膚病があり、バンテージをされていたが、取ってみるともう痂皮になっていた。夕方のミーティングで今日と明日の確認をしたあと、カメのCTをされているところを見た。カメの解剖学を習ったことがなかったのでわからないが、膀胱に尿石が溜まっている可能性があると言っていた。卵巣が左上(前足のあたり)にあると言っていたが、解剖図で確認したがそこにあるのかわからなかった。これで1日目の診察が終わって、かなり疲れて帰ってすぐに寝てしまった。

6 日目

今日もエキゾチックアニマルの診療を見に行った。昨日いなかった患者のウサギがいて、朝の4時半に緊急外来で来て、12時間くらい絶食が続き動けないとのことだった。昨日日本のお土産を持って行ったからか、今日は朝から先生がDUNKIN DOUNUTを振舞ってくれてシナモンドーナツを食べたのだが、とても美味しかった。今日のミーティングでは、そのウサギを含めた五件の入院の子の処置についてディスカッションが行われた。銀色のポーリッシュは両足の皮膚病のところを搔爬し、茶色のポーリッシュはカルシウムが低く、白血球増多症であり、跛行をしているためCTを撮るようだった。Calliopeという鶏は数年前から卵が出ておらず、総排泄腔の腫れと紅斑が酷く、腫瘍の可能性もあるためCTを撮るとのことだった。Tというカメは昨日CTを撮り、小肝症の疑いがあることがわかり、そのオーナーの他のカメも小肝症で土の成分のせいかもしれないと言っていた。今日はMRIを撮ららしい。緊急外来で来たClydeというウサギはCBC、電解質、生化学検査、X線検査と超音波診断をやる

ことになった。ウサギの超音波診断では、またその超音波診断専属の獣医師がいて、それに生徒が1人ついていて。検査を見ていると、右の腎臓にシストが見られたがこれはどの動物でもありえることで、異常ではなく、アコーディオン所見で異物の可能性も疑われたが、ウサギでは正常所見らしかった。空腸、十二指腸に液体が溜まっており、腹水も浅くだが溜まっていてイレウスの可能性がある判断された。午前の診療はここまで見て、昼ごはんを食べに行ったら。今日はZAXBY'Sというところに行ったのだが、チキンとポテトとトーストがセットのカロリーの塊のようなものだったが、味はとても美味しかった。午後の診療はインコのくちばしと爪のトリミングを見た。高速回転して削れる機械を用いて、インコの割れた下部のくちばしを綺麗に整えて、上部の伸びきったくちばしを1/3くらいは削り取られていた。午後の診療と処置はこれで終わって獣医師同士のミーティングも始まったので、ホテルに戻ろうとしてちょうど停まっていたバスに乗ろうとしたのだが、目の前で扉を閉められて出発されたので、これが日本だったら気を利かせて待っててくれたのにとカルチャーショックを受けた。だが、ロビーで次の便を待っていると長田先生に出会えて、しかもアジア雑貨店に連れてくださったので結果的にとてもラッキーだった。夜は12ドルでビールが6回も飲めるTerrapinというビールの醸造所に行った。ピーチやパッションフルーツ、オレンジなどなど沢山の果実系ビールが楽しめて、もちろん普通のビールも美味しかった。

7日目

今日は最後のエキゾチックアニマルの見学日だった。朝から新しいウサギが来ていて、8歳の避妊メスだった。症状としては食欲不振、胃誇張症、脱水、便秘があげられ、排尿はあるが排便はしていなかった。3週間ほど前に似た症状があり、高血糖や軽度の高タンパク血症を患っていた。今日は朝から全体のミーティングがあるとのことで、以前紹介していただいた大教室に行った。腫瘍学の先生がレクチャーしていて、色んな局の先生と獣医学生が沢山集まって講演を聞いていた。その局の研究結果の発表をしたり全体で意見交換をしたりというのは私の大学にはなかったので、とても新鮮だった。エキゾチックアニマルの局に帰ってくると、生徒の1人がキッシュとフルーツとチョコレートケーキを持ってきてくれて、とても美味しかった。新しく外来で来たのは、誤って人に踏まれたインコと生徒の旦那が飼っているハムスターだった。インコは始めの方は元気が無く、骨に異常がないか獣医が念入りに調べていた。ハムスターはとても小さく、みんな口々に

「So cute!」と言って和んでいた。Dr.Joerg Mayerは口腔に白い腫瘍があり、少し口臭があることからパピローマウイルスに感染しているかもと言っていた。入院室の子の処置では、ポーリッシュ(銀)が両足にレーザー治療を受けており、直視するなら保護用の眼鏡をかけてと言われて黄色いフィルターの縁がちゃんと遮蔽されているような眼鏡をかけて見ていた。隣の処置台でカメに尿道カテーテルを入れようとしていたのだがうまくいってないようだった。お昼頃にCPC(communitary practice clinic)という一次診療をするところに連れてって貰って、今日来たハムスターとインコが犬猫用だと大きすぎるため歯科用のX線で撮っていた。歯科用のX線はドライヤーみたいな形をしていて局所の小さいところしか撮れないが、被曝はするらしかった。CPCでは実際に生徒が診療をするらしく、カメラや録音機能が診察室についており、裏の部屋から先生が観察するという形式をおこなっていて、生徒主体で動いているのはさすがアメリカだなあと思うと同時に、日本と比べて質が高いことも納得したし、とても羨ましかった。3週間ごとに色んな局をローテーションするらしく、CPCもその1つとなっており、3週間で大動物と小動物を見回る日本の大学とは大違いだった。CPCでは診察室や処置台の他に、歯科用の手術室があって驚いた。マイナーサージェリーもCPCに入っているらしかった。エキゾチックアニマルの局から戻ってお昼ごはんを食べに行ったら。INOKOという日本料理のお店で、お店に入った瞬間に「へいいらっしゃい!」と言われて、耳を疑った。どうやらオーナーが日本人みたいでチキンカレーを食べた。午後は感染症を教えているMary Hondalus先生のパーティに出かけた。先生のパーティでは3人くらいジョージアの獣医学生が集まってくれて3人の日本人と1人のアメリカ人でチームを組んで、日本とアメリカのクイズゲームをおこなった。日本の人口1番多いのは横浜らしく、大阪出身の自分としてはかなり意外だと思った。他にも日本人でも知らないようなクイズをそのアメリカ人の学生と話し合うのがとても面白かった。

8日目

今日は1日お休みだったので、朝から長田先生にアトランタへ連れてってもらった。朝ご飯はMy Paneraという先生がよく行くパン屋さんで連れてってもらった。ここでブルーベリーマフィンを頼んだのだがフォークとナイフが出てきて、普段使わないので使い方に困った。道路が片道だけで8車線くらいあって車が入り乱れており、日本の道路が可愛く思えた。アトランタに着いてから、まず始めに動物園に行った。園内はとても広く、例えばイボ

イノシシなら土を掘れるようにぬかるみが多い土壌にしたり、サルには広いアスレチックを用意したり、日本の動物園と違ってより動物が本来いた環境に近づけるように工夫されていて動物が生き生きと動いているように感じた。また、全然待たずにパンダを見ることができてとても感動した。動物園の後にインド料理屋さんでビュッフェを食べた。マトンカレーやゴートカレーを初めて食べた。ゴートカレーは少し臭みがあり、辛く感じたがマトンカレーは甘くてあまり臭みがなかったのでとても気に入った。チキンカレーは無難に美味しく一般的に好まれそうな味だった。ナンが甘くて柔らかく、少し油っぽかったが美味しくカレーとよく合った。次に、ストーンマウンテンというアトランタでも有名な世界最大の花崗岩の一枚岩を見に行った。山腹に掘られている将軍と馬のレリーフが壮観でどうやって掘られているのだろうと思いながら見ていた。次に、ホームシックになっていた私の強いお願いを聞いてもらって、日本食が買える国際スーパーに連れて行ってもらった。カルピスがカルピコになっており、なんでカルピコか調べたらカルピスはカウピス(牛のおしっこ)に聞こえるらしく改名したらしい。食材もお菓子も日本製品が豊富で、日本人と思われる人がちょこちょこ買いに来ていた。赤いきつねを買ったのだが1個3ドルだったし、おーいお茶の1.5Lが5ドルもして高級食材だと思った。私はレンチンできのご飯とのりと赤いきつねを買って十分に満足した。日本酒は何が置いてあるのか見ていたら外国人にどのお酒が美味しいか聞かれて久保田が美味しいと答えておいた。最後にジョージア最大のショッピングモールに連れて行ってもらって色々な服のブランドがあり、forever21やOLD NAVY,H&M,LUSHなど日本でもよく見かけるファストファッションブランドや雑貨店があった。私はお土産用にBath&Body worksでハンドクリームやボディクリーム、ハンドソープを買った。また、個人的にYankeeキャンドルが好きなのだが、日本と違って破格の安さで驚いた。日本で1個800円する車用のフレグランスも3個で11ドルだし、大きめのキャンドルは1個5000円くらいするのに2個で36ドルだった。国際スーパーでも感じたがやはり輸入品は高すぎると思った。夕ご飯はチーズケーキファクトリーでご飯を食べた。チーズケーキだけでなく、サラダやパスタやピザなど豊富なメニューが揃っておりどれにしようか迷ったが、昼ごはんのカレーでお腹いっぱいだったので、チーズケーキだけ頼んだ。チーズケーキだけでも30種類くらい種類があったがよくわからなかったの、とりあえず1番無難そうなプレーンのチーズケーキを頼んだ。味は甘すぎないチーズ本来の味で日本人受けしそ

うな味だった。苺のソースをつけて味つけに変化をつけた方がくどくなくて食べやすいように感じた。本当に長田先生のおかげで色々連れてってもらい充実した1日を過ごした。

9 日目

今日は15時半からホームパーティーだったので、それまで何かしようと思ったのだが腹痛で動けずギリギリまでずっとベッドで寝ていた。今日行ったところでは広い敷地にプールがついていて、水やレモネード、ナチョスやレバーとオリーブの料理など軽食まで用意してもらっていた。みんなで写真を撮ったり、バレーしたり自分が体調悪いことも忘れてはしゃいだ。プールから上がると夕ご飯が用意されていて、サラダやラザニア、ミートソーススパゲッティが用意されていてどれも文句なしにとっても美味しかった。食べ終わると地下室に案内してもらって、そこには電車の模型と住宅街があり、汽車からは本物の木が燃えたような香りの煙が上がっていて、すごい一言に尽きた。地下室から戻ってくるとアイクリームを出してくれて至れり尽くせりだった。味もとても美味しかった。

10 日目

今日は2週目の新しい局に交代だった。私は眼科の診察を見に行った。英単語ができないままいくのでとても不安だった。1人になってわかったことは、アメリカは自分から見にくいハングリー精神が必要で、一緒にいて邪魔になるんじゃないかと考えずに全部食らいついていくことが必要だと思った。朝の診療では中型犬が来て、聞いてみると右目に内反症を患っていた。STTや眼圧が高く、ステロイドを投与したが治らないため、たるみを取って皮膚を広げる手術が必要だと言っていた。昼ごはんはWendy'sに行った。Wendy'sでベーコンとチーズが入ったハンバーガーを頼んだ。結構ボリュームがあつてすぐにお腹いっぱいになった。日本にあったらしいがすぐに撤退したらしく、日本にない味を楽しめた。午後は白内障のマルチーズの子が来た。進行度は成熟まで進んでおり、2年程前から失明しているようだった。明日白内障のオペをするらしく、ERGも既に終わらせてあるとのことで、確認とオペ前日のお預りということできたらしい。今日は40年に一度の日食という事で、日食が最大になるのは14時半だったのだが、みんな2時間くらい前からちょこちょこ外に出てっては日食の進み具合を観察していて、日本と違って自由だなあと考えていた。私もみんなに混じって日食の経過を観察していた。夕方は射撃があつて、大学から車で40分くらいのところにある射撃場に行った。射撃では回転式

の小型銃など色々な種類の小型銃があり、私は親指でハンマー部分が引けないほど硬くて、いちいち引いてもらうのが煩わしくなり、三発ほど撃ってやめてしまった。撃った時の反動が凄いので、映画の世界のようにすぐに何度も撃てるようになってない事がわかった。ライフルはいちいちハンマーで引かなくても良くて倍率がとても高いところにあるので撃ちやすかった。他の同期の人たちは、前から銃の知識があって楽しんでいたり、ほぼ百発百中で的に当たって思わぬ才能を開花させたり、一回だけで充分に楽しめたと言ってたり感想は様々だった。帰りの夜ご飯は中華料理店に行行ってチキン炒飯を食べた。量がとても多かったのでシェアして食べた。

11 日目

今日は朝から白内障の子のオペだった。日本に比べて全然症例も少なければオペもたまにあるだけで、どうやってこの大学は経営が成り立っているんだろうと思ったが、どうやら寄付金が巨額らしくあまり診察を見なくてもやっていけるそうでもとても羨ましかった。眼科の診察の様子は学生が診察をやってみてわからなかったら先生に頼るという形態を取っていた。この日は眼科の診察もオペも2時ごろに終わってしまったので、**general surgery** のところに行行ってサルコーマのオペを観察しに行ったり、**internal medicine** のところに行ったりと自由に歩きまわっていた。夜ご飯はロングホーンに食べに行った。今回も量が多かったので、リブアイのミディアムを頼んでセットのサラダとアスパラガスも半分にしても食べきれなかった。ただステーキとビールの相性は最高に至福だった。

12 日目

今日は朝から外科と眼科のミーティングがあったため、2時間ほど外で時間を潰した。診察できたペキニーズのクララは右眼に角膜穿孔が見られ、フルオルセイン染色でも右眼だけに色素沈着が見られた。タペタム反射の亢進があり、潤って見えたため PRA かなと思った。暇な時間があったので、**internal medicine** に見学しに行行って、超音波検査を見せてもらった。ミミという糖尿原性ケトosisと肺炎と甲状腺機能亢進症を患っており、膀胱穿刺と胆嚢を穿刺してバイオペシーをおこなっていた。プロボフォルで鎮静してバイオペシーをおこなっていたのは初めて見た。アメリカのものは留置針が長くて入れるのが難しそうだった。帰って診察に戻るとマックスという黒いスタンダードプードルが検査を受けていて、その子は糖尿病原性の白内障を患っており、虹彩の萎縮が見られた。はじめ、虹彩(アイリス)が聞き取れなくて、ずっとアイレス

と聞こえていたため書いてもらってやっと通じた。今回英語が聞き取れない原因として1, 英会話によく出る慣用的な表現がわからないこと、2, そもそも単語がわからないこと、3, 発音を間違えて覚えていることの3つだと思った。自分から喋りかけたり、聞きたいことを相手に通じることは簡単だが、相手からのレスポンスを聞き取るのが英会話の経験値の差だなと思った。昼は **INOKO** に行行って寿司セットという名のカリフォルニアロールを食べた。ネタがやはりアメリカらしくアボカドや海老が入っており、さすがに日本人が経営しているからかごはんが酢飯で日本が恋しくなった。昼ごはんを終えて眼科に戻ったが、診察が終わっていたため早めに切り上げた。夕ご飯は **The blind pig** というハンバーガー屋さんに行行ってジョージアの獣医学生とごはんを食べる予定だったのだが、ホテルまで迎えに来てもらってたらしく、先にみんな食べてしまっていて申し訳なかった。食べ終えたあとから獣医学生と喋ったが今日はアメリカに来て初めてと言っているくらいその獣医学生と沢山喋れた日で、英語が通じる喜びと自分の耳が少しだけ慣れて来た喜びを味わえた。その人は日本の文化が大好きな人で、日本の文化にも詳しくとても話しやすかったし、こちらのちぐはぐな英語もちゃんと聞き取ってくれてもう少しアメリカにいたいと思った。

13 日目

今日は朝に腫瘍科で永田先生の放射線についての講義を受けに行った。日本人の他に腫瘍科の学生さんも講義を受けていた。**EMR** には γ 線と X 線が主に使われており、その電子の電離作用によってフリーラジカルを発生させ、それが DNA にダメージを与えることを学び、次に放射線治療には **Teletherapy, Brachytherapy** などがあって **Teletherapy** には **LINAC** という直線加速器があることを学んだ。この後、放射線科に行き、実際の直線加速器やそれを操作する部屋を見せてもらった。アメリカでは **IMRT** (強度変調放射線治療) が導入されていて、それは日本ではまだやっていない技術だった。ジョージア大学のその直線加速器はなんと2億5千万円するらしく、これでも動物用限定で値引きされた額らしい。私には想像を超えた額で、アメリカの大学はお金があるんだなと思った。この治療は強力に腫瘍を殺すため、もし違う正常な細胞を殺してしまうと壊死を起こしてしまう。そのため、**1mm2mm** の操作を誤ってはいけないのでその技術力と、形状記憶のできる発泡スチロールのクッション (X 線が通っても大丈夫な素材) で固定したり、皮膚の表層部に近い所に X 線を当てたい時は、ボラスという皮膚に近い素材の緩衝材を当てたり、

レーザーも赤のレーザーだと黒など暗い色が見えにくいため緑のレーザーを使用したり、台も3軸方向に動かせたりしたりという処置を行って照射したい腫瘍に直接届くように処置を行っていた。午前はワクチン肉腫できた猫を見て、お昼はタイ料理屋さんに行った。そのあと Jittery Joe's という昨日話した現地の獣医学生の子に勧めてもらったカフェに行ってクッキー&クリームのフローズンを頼んだ。甘すぎずとても冷えていたので一瞬で飲みきってしまった。午後は放射線科でCTの説明を受けたり、談笑してとても楽しい時間を過ごした。夕方は副学部長の Dr.Scott Brown 先生のお宅にお邪魔して farewell パーティを開いてもらった。Brown 先生の庭には広い湖があったり、犬猫の他にロバや羊、牛など飼ってたり日本では考えられないほど敷地がとても広がった。

14 日目

クリニカルローテーションも終わり、朝からアトランタに移動した。朝ごはんは Chick-fill-A というファーストフード店に行った。ソーセージエッグマフィンを食べたが、日本のマクドナルドよりも卵の分厚さが違い、とても満足感があった。アトランタ水族館には6つのゾーンに分かれており、まず初めに熱帯魚が多く展示されているゾーンに行き、次にジンベイザメなどが展示されているところに行った。ここは円柱状に広がる水槽の中を通路が自動でゆっくり動き、横からでも下からでも魚の光景を観察できたり、左端から右端まで見渡せる大きなアクリル板を二階からでも一階からでも観察を楽しめる広い部屋があったりと時間さえあればずっとそこにいてゆっくり鑑賞したくなる居心地の良い空間だった。次にベルーガやカニ、ペンギン、タコなどが展示されているところを観察して、イルカショーを見に行った。イルカショーは日本と比べて席数も見に来る人数もとても多かった。私が今まで見てきた中で一番思い出に残るイルカショーだった。アトランタ水族館を出てから、すぐ近くにあるコカコーラ博物館に行った。自分でフレーバーやコカコーラの種類を選べるコカコーラメーカーで自分でアレンジして飲んでみたり、コカコーラカンパニーが生産している世界各国の飲み物（ファンタにもキウイやイチゴ、ピーチなど様々なフレーバーがあることを知った）が試飲出来るコーナーもあって想像以上にとっても楽しめた。お土産コーナーも豊富で、水族館に引き続きヘッドホンや栓抜きなど思わぬ衝動買いをしてしまった。コカコーラ博物館を出た後、少し歩いて CNN の一階にあるステーキハウスで鹿児島大と山口大と永田先生との最後の食事をした。別れ際はとても寂しくて、写真を撮ったりハグしたりした。

永田先生も鹿児島大の遠藤先生も本当にこの2週間いろいろお世話になって、先生方がいなかったらこんなに充実した2週間を過ごせずに終わっていたと思う。最後のお別れをした後、北里は空港近くのホテルに向かった。この時永田先生に車を出してもらって、最後まで申し訳ない気持ちとありがたい気持ちでいっぱいだった。ホテルに着いてから、同期の荷物が届かないトラブルがあり、フロントに相談したり他のホテルに間違えてないか確認を取ったがなかったみたいで、幸いパスポートや財布など貴重品は入ってなくてよかったものの、今まで大学に守られていたんだなと思ったのと、日本の治安の良さを感じた。

15 日目

アメリカ最終日になった。アトランタ空港に行って、免税店で何か買おうか迷ったが荷物が増えるのが嫌で何も買わずに 150 ドルくらい残ってしまい、少し損をした。飛行機は同じデルタ航空のはずなのに帰りの方が早く感じて、映画を5本くらい見た後日本に14時頃に到着した。機内食は行きより帰りの方が鯖寿しだったり日本の味のカレーだったりで食べやすかった。23時ごろに十和田について、無事帰宅した。

中嶋 恒介

2017.8.12

成田には、余裕をもって到着できるように家をでた。空港には集合時間の2時間前に到着した。早く着きすぎたと思ったが、すぐに他の2人と合流した。なぜか集合場所ではないところでみんな合流した。成田空港では最後の日本食としてそばを食べて出国した。

機内は想像通り寒く上着を一枚持って行ったがそれでも寒く、帰りは厚着をして帰ろうと決意した。機内食は多く飲み物の支給も多かったため搭乗前に飲み物を買う必要は特に感じなかった。

アメリカ到着後、入国審査を受けるのだが、アメリカ最大手のデルタ航空のハブ空港であるアトランタの入国審査はとても混んでいて入国するのに1時間近く並ばなければいけなかった。UGA 行のバスに乗り遅れそうだったが、バスの方が20分近く遅れてきたので余裕があった。いきなりアメリカのルーズさを感じた。

最初の夕食はメキシコ料理とアメリカ料理のお店にいった。みんなでシェアしたがそれでも量が多かった。

夜は移動の疲れですぐに寝ることができた。機内

で中途半端に寝てしまったため、寝むれないのではと心配していたが無駄な心配だった。

2017.8.13

時差ぼけのせいか、遠足の朝の気分のせいか、4時間程度の睡眠で朝、目が覚めてそこから寝付くことができなかったのも、ホテル内のカフェでアメリカンコーヒーを飲んだ。本場のアメリカンコーヒーだったが特に味の違いは判らなかったが雰囲気は最高だった。

朝食はホテルのレストランでパンケーキを食べた、朝からパンケーキ4枚は食べることができなかった。アメリカのフルーツはおいしかった。

大学内を先生と同室の鹿児島大学の子と一緒に探検した。UGAは日本の大学と比べ物にならないくらい広く1時間ほど散策したが1/3程度しか見ることができなかった。大学のアメフトチームのスタジアムを見つけた。収容人数3万人をこえるスタジアムで日本のプロスポーツチームの持つグラウンドと大差なかった。こんなところで大学生が試合をするなんてアメリカはやっぱり規模が違うなと思った。

午後からはスーパーに日用品を買いに行った。アメリカのスーパーは、とても広いが品ぞろえは日本の方がよく感じた、アメリカの日用品やスーパーに売っている飲み物はサイズがおかしかった。

スーパーの後、ジョージア大学の放射線科で働いていらっしゃる永田先生に酒屋とショッピングモールに連れて行っていただいた、酒屋では壁の一面がビールで埋め尽くされていた。ビール好きにはたまらないだろうなと思った。

夜ご飯はステーキハウスに連れて行っていただいた。リブアイを注文した。リブアイは300gの設定しかなく付け合わせもとっても多かったが、柔らかくてとってもおいしかった。

お酒が弱い体質に時差ぼけと寝不足が拍車をかけて、グラスビールを一杯飲み切ることなく酔っぱらってしまい。食べることができなかったのもお肉とポテトだけパック詰めしてもらい持ち帰って次の日に食べた。

夕食からかえってきて、先生と田村の三人で、部屋でアメリカの地ビールを楽しんだ。

2017.8.14

今日は特別にツアーを組んでもらいvet medが保護した野生動物を見ることができる動物園にシャトルバスで移動し、アメリカに多く生息する動物を見ることができた。事故で飛べなくなった白頭鷺やオッポサムなどをみた。アメリカに多く生息する蛇を見ることができた。クマがメインで展示されておりとてもかわいかった。

次にボタニカルガーデン（植物園）に行った、蝶や綺麗な草花をみた、日本では見たことがなかったハチドリをたくさん見ることができてみんなテンションが上がっていた。ガーデンに野生の鹿が入り込んでおり、アセンズの自然を感じた。

お昼ごはんはタイ料理のお店に行ったが頼んだものにピーナッツが入っていてほとんど食べることができなかった。アレルギーがある人はお店の人にちゃんと確認することをお勧めします。タイ料理もやっぱりアメリカサイズになっておりとっても大きかった。

ダウンタウンを散策して、夜ご飯に永田先生お勧めの今年できたばかりの中華料理屋にいきそこで僕はチャーハンを食べた。こっちに来てから一番親しみのある味で食べやすかった。でもやっぱり量はアメリカンサイズだった。

数日間の寝不足と一日活動した疲れからあつという間に、眠りに落ちて次の日の朝までぐっすりだった。

2017.8.15

今日は初めて病院に行った。アメリカの大学病院は日本の大学病院の比にならないほど大きかった。小動物は専門科ごとに診察室と処置室がありその数も日本の比でなかった。手術室の数は8個を超えており部屋ごとに内視鏡があったり、X線装置があったりと目的ごとに部屋が作り分けられていた。放射線の部屋には定位放射線装置など各部屋に機材が整っていた。小動物以上に大動物は設備の差が日本とアメリカでは大きかった。大動物もいくつかの専門科に分かれていた。GAの主な大動物の患畜は馬のようで馬の診療施設、設備が豊富だった。初日に頂いたUGAの白衣を着て学部長と副学部長の方とみんなで集合写真を撮った。

昼に時間があつたのでスチューデントセンターという映画館やスタバ、本屋さん、公式グッズなどが置かれている大学の中心地にある施設に行った。そこで、オリジナルのスウェットと、Tシャツを買った。ここで、昨日から始まった新学期から1年間交換留学でUGAに来ていた日本人学生に会い少しお話した。UGAで自分たち以外の日本人に会うとは思ってもいなかったので驚いた。

夕食はアンバサダーの人がCali&Tito'sという地元の人気店に連れて行ってくれた。実はここは初日の夕食に食べたお店の姉妹店だった。永田先生お勧めのメニューを食べた。ハラペーニョがよく効いたビーフを挟んだサンドウィッチでとてもおいしかった。

2017.8.16

今年から研修の開始時間が1時間早くなったため朝7時頃にロビーに集まるために朝6時に起床した。少し眠かったがしっかり睡眠をとっていたので一日持った。

ローテーション1の1日目が始まった。ローテーション1の割り当ては整形外科で、手術を見してもらった。1件目は前十時靱帯断裂に対するTPLO術をみた。前期に習った内容を見ることができたのはいい経験だった。アメリカの獣医大学では、生徒がそれぞれ症例を受け持ち、手術の時は、執刀医が専門医、第一助手がレジデント・インターン、第二助手が生徒という感じで、生徒も手術に参加していることに驚いた。2件目は整形の手術がなかったので、猫の腎移植術をみた。術野がカメラ機材の故障で見えなかったのは残念だったが猫の移植腎をみせてもらった。猫の腎臓はとても小さかった。3件目は肘の成長板早期閉鎖による脱臼の整復と骨切り術を見た。途中で次のスケジュールのために1日目の研修は終わった。

研修後、永田先生にスポーツバーと射撃場に連れて行っていただいた。スポーツバーでミニハンバーガーとチップスを頼んでマンユ VS バルサの試合をみた。アメリカに来てから初めて夜ご飯を完食で来た！ハンバーガーは、チーズとビーフパテ、ベーコンが入っていてとてもおいしかった。付け合わせのサイドメニューにポテトがあったので頼んでみたら、まさかのポテトチップスが来た。アメリカではポテトチップスも野菜という認識を聞いて、少し引いてしまった。

射撃場では0.22inc、9mm、45口径のリボルバー、ハンドガン、マシンガンをつた。マシンガンをつつのは初めてだったが楽しかった。マシンガンの反動は思ったよりも小さかったが想像通り銃は重かった。大口径で重い銃の方が命中率は高くなった。先生に次はロングレンジの射撃場に連れて行ってもらえる約束を取り付けてテンションが上がった。他の人よりも少し命中率が高かったのはうれしかった。

2017.8.17

研修二日目も、整形外科を見学した、整形外科は月・水・金が手術日で火・木が診察日となっていたので今日は診察日だった。アメリカの診察はまず学生が行いそれをレジデントまたはインターンの獣医師がチェックを行いスペシャリストはその治療方針が間違っていないかの確認し、もし間違っていたら正しい方向に修正していくというシステムをとっていた。日本では診察を学生が最初に一人で行うことは考えられないためとても不思議だった。アメリカのシステムでは学生が主治医となって多くの症例を

経験できるので臨床志望の学生にとっては理想的な環境だとおもった。

診察中院内のいろいろなところを見た。整形の隣の部屋にはリハビリルームがありそこで、日本にはないウォータートレッドミルをみた。その時の症例はシェパードでDMによる下半身の不全麻痺の子がリハビリを行っていた。トレッドミルを使っている様子を動画や写真を撮らせてもらった日本ではなかなか見ることもない光景で見ごたえがあった。

夕食はビール工場にいった。ビールチケット6杯分とお土産のグラスがついて\$12でとっても安かった。お酒が弱いので2杯しか飲めなかったがお土産のグラスがついてきたので得した気分だった。何人かの人はチケット分飲み切っていてすごいなと思った。

2017.8.18

整形での研修は最終日になった。一件目の手術で前十時靱帯断裂に対するタイトロープ法を見た。タイトロープ法は低浸潤で大型犬に対して行われる。タイトロープの前に関節鏡を用いて断裂した前十時靱帯を除去してからタイトロープ法を行っていた。内側に2~3cmほどの切開創を2つと外側に4cm程の切開創のみで手術を行っていた。ラテラルスーチャーよりも低浸潤なことが分かった。2件目の手術は、TPLOを見たが、そこでプレートの固定作業の一部を学生がやらしてもらっている場面がありすごいなと思った。

ホームパーティーをホンダラス先生が開いてくださったのでみんなで行った。ホンダラス先生の家には大型犬が2匹と、猫が1匹いて大きな庭に家が建っていて、これぞアメリカの家といったような作りをしていた。ご飯にPulled pork（引き裂いた豚肉）、BBQなどを頂いた。アンバサダーの学生と日米でチームを組んで、日米トリビアに挑戦した。問題は思ったよりも難易度が高かった。結局1位にはなれなかったがとても盛り上がった。ホームパーティーの途中、一人で数人のアンバサダーとお話する機会があったがつたない英語でも話そうとすれば聞いてもらうことができた。もっと英語を勉強してこればよかったと後悔した一方で、どんどん話せば気軽に答えてくれるアメリカの国民性が好きになった。

2017.8.19

初めての週末ということで、永田先生にアトランタに連れてきていただいた。

まず初めにアトランタ動物園をみた。アトランタ動物園はアメリカでも珍しいパンダがいる動物園で上野動物園よりも大きい規模の動物園だった。日本

の動物園でもおなじみのキリンや象に加えて日本では見たことのない動物がたくさんいてとても楽しかった。ゴリラの展示数は全米最多を誇りとても多かったのが印象的だった。アメリカの動物園は日本の動物園にくらべてエンリッチメントが充実していると感じた。

アトランタで名所のストーンマウンテンに行った。ストーンマウンテンとは花崗岩の一枚岩でとても大きかった。岩には南北戦争の将軍のレリーフが掘ってあり自然も豊かで見ごたえがあった。エアーズロックなどが赤色の岩なのに対してストーンマウンテンは白色でとても綺麗だった。

次に GA 最大のモール・オブ・GA に行った。日本のアウトレットの倍以上の敷地があった。買い物はあまり目的がなかったので強い日差しのなか駐車場に止まっているアメ車を散策して回った。アセンズでは珍しいキャデラックなどの高級車がたくさん見れてとても楽しかった。

2017.8.20

朝、スチューデントセンターに公式グッズの買い物に行こうとしたらたまたま永田先生と会い、車で1時間ほどのところにあるアウトレットに連れて行っていただいた。アウトレットでは何個かいいお土産があったのでそれを購入した。

15:30 からはホームパーティーに行った。家にはプールやバレーコートがあった。アンバサダーと泳いだり、バレーボールをして楽しんだ。言葉がなかなか通じなくてもスポーツや遊びではコミュニケーションが取れて楽しかった。プールで遊んだ後に夕食を頂いた、夕食はミートスパゲティー、サラダ、パン、ブリトーを頂いた。特にミートボールがおいしかった。先生の趣味のジオラマを見せてもらった。ジオラマは地下に作られていて、とても規模が大きく見ていて楽しかった。ジオラマの後にアイスクリームを食べたアメリカのアイスは濃厚でとても甘く量はそんなに食べることはできなかった。

ホテルに帰ってきてから、先生、田村、愛ちゃんの四人で少しお酒を飲んでから寝た。日中のプールの疲れでベッドに入った後は爆睡だった。

2017.8.21

今日から、後半のローテーションが始まった。後半のローテーションは **general surgery** で研修する。**general surgery** は軟部外科で今回の研修の中では最も楽しみな研修の科でもあった。UGA の **general surgery** は神経科や循環器とも協力している。ヘミネミラクトミーを **general surgery** が切ると聞いてとても驚いた。**General surgery** には3人の専門医の下に2人のレジデント、1人のインター

ンが付き、さらにそれにローテーションの学生がついていた。月・水・金が診察日で火・木が手術日に決められていてまれに金曜日にも手術しているようだった。朝、ラウンドを行ってそこから生徒はそれぞれの作業に移っていった。

今日は日食が見えるということで研究室の人に呼ばれて病院の外に見に行った。サングラスを借りてみると綺麗に日食が見えた。まさかアメリカに来て天文現象に遭遇できるとは思わなかった。とってもラッキーだった！！午後2時半、昼休憩を終えて仕事に没頭しているであろう時間帯にたくさんの先生と学生が仕事をほっぽり出して日食を見ている状態は日本では起こりえない状況だった。

研修後、永田先生と、画像診断専門医のインド人のシャルマン先生とその彼女さんに車を出してもらい、屋外ガンクラブに連れて行っていただいた。ガンクラブは、今日はクローズの日だったが、シャルマン先生の計らいで、特別に貸し切りで開けていただいた。この前いった室内とは異なり最大 400m の距離を打つことができるロングレンジのフィールドだった。最初に拳銃を打たしてもらった。前回撃てなかった 45 口径マグナムを撃つことができた。今まで撃った拳銃の中では最も反動が大きかった。全弾的の中心に当てることができた。次に今回の射撃で一番楽しみにしていたライフルを撃った。400m のレンジでも全弾的に当てることができてうれしかった。

2017.8.22

今日は **general surgery** のローテーション二日目で、初めてのオペ日だった。午前中は2件の手術を観察した。1件目 (EX Lap-renal Bx) は、猫の腎臓、肝臓のバイオペシーを見学した。肝臓のバイオペシーは部分切除を行っていた。2件目は、肺葉部分切除術を見た。開胸手術ということや、呼吸器の機能が著しく下がっていたため、麻酔専門医も立ち会っての手術だった。肺にマスが大量にできており、肺に穴が開いてそこからエアリークしている状態だった。軟口蓋のバイオペシーを見逃してしまったのはショックだった。午後は最初に処置を見た。椎間板ヘルニアの術後のチワワで後肢が不全麻痺を起こし自力排尿困難な状態のため、学生が圧迫排尿を行っていた。

2017.8.23

今日は、**general surgery** ではなく永田先生の務める放射線治療科に見学に行った。UGA の放射線治療科には、リニア型の加速器があり、CT をとりながらミリ単位で合わせることができると、定位放射線治療が行えることを教えてもらった。日本で

は北海道大学の放射線装置で定位放射線が行えることを聞いた。

実際に、腫瘍に放射線を当てる様子を別室から見してもらった。アメリカではVTが麻酔をかけ、機械の操作を行い、獣医師は、プロトコルを考えたり、放射線の設定を支持して、最後に確認を行っていた。アメリカのVTは、麻酔の認定VTなど多くの認定分野があり、年収も400万円前後で生活ができるため男性VTも多くいた。

夜ご飯はアンバサダーと一緒にスポーツバーに行く予定だったが、情報の行き違いから自分たちだけでお店に行って食べてしまった。しかし、アンバサダーの人があとから来てくれて1時間ほどみんなで談笑していた。このとき自分は喉が痛く風邪ひいたかな、と思っていた。アメリカのホテルやお店はどれも冷房が強く外との気温差がとても激しいため、体調の管理がむづかしいように感じた。

ホテルに帰ってくると、次の日の実習に備えて、少しでも体調をよくするために、早めに寝ることにした。明日が病院最終日で、アセンズを明後日には離れると思うと寂しい気持ちになった。

2017.8.24

1日あいてgeneral surgeryに戻ってくると、自分の席がなくなっていた。悲しんでいると、ステラが席を用意してくれて安心した。そんなスタートだったが、手術日の今日はgeneral surgeryは5件の手術の予定が入っていた。1件目は、上皮小体摘出術だった。上皮小体は左右の甲状腺の上に各2つずつついている。PTHを放出することで、血中のCa濃度を調節している。今回は、上皮小体機能亢進症のチワワの上皮小体を、右は2つとも、左は1つ摘出した。チワワの上皮小体は3mm程でとても小さかった。2件目の手術は、腹腔鏡下での避妊手術を見た。腹腔鏡を用いるときに一番大事になってくるのは、カメラの扱いと聞いたことがあったが、その意味がよく分かった。最初は、インターンの先生がカメラワークを行っていたが、視野が近すぎたり、ぶれたりでなかなか手術が進まなかった。途中からもう一人専門医の先生が加わってカメラワークを変わってからは、常に見やすいところで、カメラが動かされていて手術がとてもスムーズに行われていた。同時に行われていた乳腺の摘出術が見えなかったのは少し残念だったが、一度も見たことがなかった腹腔鏡手術が見えてとてもよかった。

2017.8.25

最終日は、アトランタ観光を行った。アトランタには世界最高峰の評価を受ける、アトランタ水族館を最初に訪れた。ジンベイザメの水槽はとっても大

きかった。トンネル水槽では床がエスカレーターになっており立つだけでトンネル水槽を抜けることができた。混雑緩和にはとても良い設備だと思った。イルカのショーは国内の水族館でみたどのショーよりも迫力があつた。さすがエンターテインメントの国アメリカだと思った。

コカ・コーラはアトランタ発祥の企業で、それを記念した博物館がアトランタ市内にあった。コカ・コーラの歴史について学んだ後に、世界で販売されている国ごとのコカ・コーラ製品を試飲することができた。コカ・コーラ製品の缶コーヒーはジョージアだが、その理由は発祥の地であるジョージアからとったんだらうかと、推測できたりいろいろ楽しかった。

夜ごはんついでに、CNNの本社に行った。CNNはアメリカ最大のテレビ局でその本社には世界一長いとギネスに認定されたエスカレーターがあった。実際のスタジオを再現したブースや地元のお土産店などが並んでいた。そこの、フードコートにあるステーキやさんで、アメリカでの最後の夕食を食べた。もちろん最後の夕食ではアメリカらしくステーキを頂いた。

ご飯を食べ終わった後、二週間一緒に過ごした、鹿児島・山口の4人、永田先生とお別れして空港近くのホテルに一泊した。

2017.8.26

午前中に空港に移動し、各々免税店をみて回ったり、昼食をとった。昼過ぎに飛行機に乗り込んで、アメリカから帰路についた。

アメリカでの2週間はとても短く感じた、今回の研修にあたって僕は、3つの目的をもって臨んだ。1つ目は、将来アメリカに行きたいのかを実際の現場をみて再確認すること。2つ目は、アメリカの専門医の知り合いを作りコネクションを広げること。3つ目は、引率で実際に外科医として働いている石野先生から外科についていろいろ話を聞くこと。出発の前にこの3つは必ず達成しようと決めて出国した。

実際にアメリカで2週間過ごし、アメリカの医療現場や労働環境、給与、生活などいろいろな面を見て、将来一度はアメリカに行つて獣医師として働きたいと強く思った。滞在中、永田先生には本当によくしてもらい、偶然にも出身が同じということもあり、先生の帰国の際にはご飯を一緒に食べようと誘っていただき、日本人でアメリカの外科専門医である林先生を紹介してくださるとまで言って頂いた。渡米に向けて心強い知人が増えたように思う。同行をしてくださった石野先生には外科の話はもちろん、先生が大学教員になられた経緯やその方法な

ど、日本で外科医としてのキャリアを築くうえでめになるアドバイスを頂いた。今回、初対面で同室になった鹿児島大学の人は、北里大学では見つかることのできなかった、アメリカの専門医になりたいととても努力している人で、同じ目標を目指す、ライバルでもあり、良い仲間と出会うことができた。

今回のアメリカ研修で、当初掲げた3つの目標を、すべて達成することができ、とても有意義な研修になったと思う。可能ならば、来年、今回得ることのできた、コネクションをつかってもう一度アメリカに研修に行きたいと思った。

山崎 友紀子

8月12日（土）

久しぶりのアメリカにわくわくしながらも日本を出発した。荷物検査では特に引っかからず無事に終わってよかった。友人は新品の日焼け止めを没収され、ショックをうけていた。飛行機のなかではなかなか寝むれなかったのも、映画を見続けていた。機内食はおいしかったが、隣の二人はあまりおいしくないといっていた。余ったマフィンを食べすぎてそのあとに腹痛をおこした。飲み物が頻繁に回ってきて、それでおなかがいっぱいになり着陸前のごはんはほとんど手を付けずに終わってしまった。また機内がとても寒くTシャツ一枚できたことに後悔した。着陸一時間くらい前になってやっと眠気がきて、ついでから数分してから起こされた。久しぶりのアメリカに興奮してしまった。入国手続きに時間がかかってしまい、ホテルまでのバスの時刻に遅刻したがバス停についたらバスがまだ来てない状態だった。バスからみた景色が懐かしく通りすぎた店をみながらもアメリカに帰ってきたのだと感じた。ホテルに到着したが数人のカードが使えずいろいろとチェックインに時間がかかってしまった。くつろいでちょっとしたら夕食を食べるために外にでた。ジョージアは意外と湿気が多く暑かった。ホテルから徒歩で5分くらいのところにメキシコ料理屋があり、そこで適当にごはんを注文した。なかなか英語を話す機会がないので緊張しながら注文をした。メニューが英語じゃなかったのになにがでてくるか全くわからなかったが、ナチョスと辛い鶏肉とサラダとチャーハンみたなのもあってこられた。どれもおいしかったが量が多く、余ってしまった。ホテルに帰ってからは今日あったことを話したりして盛り上がった。なかなか寝むれなかったのも、パデューの人たちと電話をして1時30分くらいには寝た。

8月13日（日）

朝10時くらいに起きて洗濯物を出しにいき、1時にロビーに集合しクロージャーというスーパーにジョージア大学の生徒に連れて行ってもらった。スーパーは大きく品ぞろえがよかった。みんなで飲み物やお酒、お菓子、お土産を買った。懐かしいお菓子が多くついつい沢山買ってしまった。ホテルについてから夕食まで時間があつたのでみんなが行きたいといっていたベーグル屋まで歩くことにしたがそれは失敗だった。シャトルバスをホテルからお願いしてもらふべきだった。外は熱く、湿気もすごく、日本で歩いてるときと同じくらい汗をかいだ。ダウンタウンまでは20分くらい歩き、ベーグル屋についたが閉まっていたので残念だった。かわりに近くにあったスターバックスにいき日本で見たことのない飲み物を注文した。飲んでみたら味が薄く、歯磨き粉の味がした。ダウンタウンをもう少しぶらぶらしたかったが時間もあまりなかったので急いでホテルに戻った。

夕食はジョージア大学の放射学研究室の永田先生がステーキ屋に連れて行ってくれた。自分は全部食べ切れないと思い、友人と半分こすることにした。イカを輪切りにしてあげたカラマリを前菜としてリブアイというあばらの近くのお肉を注文した。二人でちょうどいい大きさのお肉ができたので安心した。お肉は柔らかく、脂身も少なく、ちょうどいい焼き加減だった。とてもおいしかった。久しぶりにちゃんとしたごはんを食べた気がした。会計のとき、チップをどうすればいいのかわからない人が多かったのも、時間がかかってしまった。夕食後は永田先生が本屋と酒屋、スーパーに連れて行ってくれた。本屋は自分がアメリカにいたときによくいったお店だったので興奮してしまいずっとうろうろしていた。自分が昔読んだことのある本がいくつもならんでいたのも少し読んでしまった。アメリカの酒屋はいったことがなかったので、今回はじめてだった。いろんな種類があつた。一本ずつ売っていることが少なく、数本セットで売っていた。また一本で売っていてもビンが大きく量が日本の倍以上あつた。

8月14日（月）

朝9時にロビーに集合となっていたがアラームで全く起きなかった自分は集合15分前に起き、慌てて用意をした。15分で用意をして、9時にぎりぎり間に合った。また明日も寝坊するのではないかなと思ったので、今日は友達と一緒に寝ることにした。朝から植物園と動物園に連れて行ってもらった。植物園は月曜日休みだったので、温室のほうはみれなかったが外の公園には入ることができた。

そのあとはジョージアキャンパスの大学案内に参加した。広かったのでバスで移動しながら説明をきいた。ガイドさんはとても元気な人で声も大きくはっきりしていて、優しく、面白い人だった。常にしゃべっていて、とても楽しいツアーだった。夕食は永田先生のおすすめの中華のお店に行った。食べ物の量もそこまで多くなかったので食べきることができた。自分は担々麺を注文したのだが、日本のとは異なってラーメンの感じがあまりなく、どちらかといえば油そばのように汁があまりなかった。おいしかったが辛く、舌がしびれた。ホテルに帰ってからは十和田にいる友人や親と電話をした。疲れと明日は絶対に寝坊したくないと思い 23 時には就寝した。

8 月 15 日（火）

午前中はジョージア大学の獣医学科のある建物の中の案内を学生にしてもらった。小動物のほうには 20 もの診察室があり、待合室は広く、リラックスできる環境になっていた。CT、MRI は大動物、小動物のどちらでも簡単に使うことができるように大動物側と小動物側の間に設置されていた。大動物のほうも広く、主に馬の診療をすることが多いので馬用の部屋が多かった。また術後の麻酔から覚めたときに馬が暴れても自分のことを傷つけないようにマットで囲まれた部屋が三つほどあった。それらには外から馬をつるして運ぶことのできるレールが続いていた。馬房には各自カメラがついていて、中の様子を確認することができるようになっていた。感染する恐れのある病気を持つ馬は少し離れたところに連れて行かれ、そこは換気がいいように設計されていた。馬ほど部屋は多くなかった。他にも X 線の部屋、ICU、救急などいろいろと案内してもらった。ジョージアでは無菌的にオペを行うためにも患者と術者は別のところから処置室にはいるようになっていた。案内が終わってホテルへ帰ったあとはジョージア大学の公式ショップに行った。昨日新学期が始まったということもありものすごい量の人だった。たくさん食べたのでホテルにあるジムで一時間ほど運動をしたあと疲れたのでそのまま 23 時くらいに寝てしまった。

8 月 16 日（水）

朝 7 時半のバスで大学へと向かった。ついてからは自分のうける研究室へと向かった。大動物外科の部屋はわかりにくく、何回は探した。六人の生徒が研究室にいて、自己紹介をしたが先生の姿がなかった。日本のおせんべいとゼリーをお土産にもっていたが、おせんべいの入ってる袋がかわいいと好評だった。大動物は大動物外科、内科、救急とわかれ

ている。また診察は 8 時から夕方 6 時までと長い。日曜は朝までと表示されていた。この時期は研究室のローテーションがある時期みたいであり、今大動物外科にいる人たちは三日前からここに来たそう、あまり馬のことを知らないといっていた。6 人のうち半分は当日来た患者の治療をし、残りの半分はオペに入るといった形になっていた。この時点で日本とだいぶ異なっていて、北里では研究室は大動物臨床のみであり、人数も 6 では回せない。今現在大動物外科のほうで面倒をみているのが管の骨折のオペでプレートをいれたときに感染症にかかり、蹄冠のところが盛り上がり腫んでしまったマーセイデイス、深指屈腱炎を両前脚に発症した馬やロバと馬のハーフの子で甲に傷がある馬などいろんな症例の馬をみることができる。

今日オペ班は 17 歳の集中治療室にいること MRI をとったが跛行の原因がわからなかったこの関節鏡を使ったオペをするといっていた。17 歳の子は慢性の蹄葉炎と代謝性症候群をもった馬でレントゲンでは蹄のなかにガスがみられ、つま先のリモデリングがみられた。治療としては足を冷やしたり、蹄の裏に木を打ち込んだり、痛み止めなどを飲ませているがあまりよくなってはいない。午前中は関節鏡を使ったオペの見学をした。鎮静してからは麻酔科の人が馬を横にし、術者が着替え終わったところにはオペ台の上に横になっていて、患部の洗浄も行われていた。麻酔科は麻酔を管理し、洗浄をする人、器具だし、助手、関節鏡の管理者などと先生が 4、5 人はいた。またオペ室に入人数もとても多かった。オペ室はとても広く、たくさんのモニターがあった。患部の洗浄が終わったあと術者は位置につきオペははじまった。手根関節内に関節鏡を進めると滑膜が炎症のため赤くなっていて、軟骨がとけているところがいくつかみられた。馬の関節は普通は柔らかいがこの馬の関節は固くなっていて、あまりよくない状態だった。傷害された軟骨をなるべく剥ぎ取り、オペは終了した。先生が 5 人もいたのでとても手際がよく、オペは 1 時間ちょっとで終わった。原因はわからなかったがこのうまの年齢を考えるとあまり不思議なことではないといわれた。

8 月 17 日（木）

朝到着してすぐに疝痛のため来院した馬の治療に向かった。疝痛は治ったのだが、前肢の前膝が腫れているということで患肢にマッサージ機を巻き付けその機械のなかには氷と水を入れ患肢にカバーを巻き付け関節を冷やすといった機械だ。これによって関節腔内の液体をだすことができそれと同時に圧迫も行える。治療のあとは今日外来する馬の話をしていった。咳と両側性鼻汁がみられる馬でたまに倒れた

りするといった症例だった。その馬はほかの馬の治療をしている間に終わってしまった。そのあとは跛行してきた馬の跛行検査をした。昨日走っている感じ、左後肢のどこかが痛い様子だが特定できなかったのので今日その場所を特定するために再び走らせた。治療の際に馬が暴れて建物内でできなかったのので外で行うことにした。球節の関節腔内に入ったのだが薬を投与するときに簡単に入りすぎたので先生の経験上なにか異常があるのではないかと考えた。そのあと骨折の巻き替えをしたがキャストが緩くなってしまっていて傷ができてしまった。

お昼は日本食を食べた。カレーを注文したら日本のカレーが出てきたが、量がアメリカサイズで完食できなかった。お昼から帰ったら疝痛の授業を先生がしていた。ジョージアでは特に寒い時期が少ないため寄生虫が死ぬことなく馬に寄生して疝痛を起こすことが多いといわれた。

夜はビール工場にいった。ジョージア大学の獣医学科生が3人きてくれて、いろんな話ができてすごく楽しかった。そこでは12ドルで6種類のビールを飲めることができた。せっかくなので6種類飲もうと思って飲んだが、酔っぱらってそのあとホテルで二次会をやっていたが自分は部屋に帰ったあとすぐに寝てしまったみたいで、起きたら朝だった。

8月18日（金）

毎朝金曜にはプレゼンテーションが学生ホールであるようで、それに参加した。今回は国際安全衛生センター国別情報アメリカ国立労働安全衛生研究所NIOSHについてだった。ジョージア大学の内では汚染はなくきれいな環境をとどめているので、このままその状態を続けようといった話だった。そのあとは跛行で来た馬のレントゲンをとった。ジョージア大学のレントゲンはハイテクで、手で機械をもちあげてとるわけではなく、天井にレールがついているので機械を自由に簡単に動かすことができる。また撮影したものはすぐにパソコンに転送され、待ち時間が減る。この馬の場合レントゲンでは特に異常が見られず、もしかしたら馬房にいるときになにかしたのかもしれないと先生がおっしゃった。球節の関節腔に局所麻酔をして処置は終わった。そのあとはパドックで跛行検査を5馬行った。硬いところで走らせたあと柔らかい砂のほうに連れて行き走らせ、直線だけでなく円を描きながら走ることもあった。

午後パドックで跛行検査の続きをした。馬の色が似ていたのもうすでに治療した馬だと思ったら違うことが多かった。生徒も間違えていた。一頭は腰角と十字部にガムテープのマーカーをつけていて、走るときにどっち側の脚がより沈むかわかりや

すいように貼られていた。今日は跛行検査メインで終わってしまった。レントゲンは2頭とった。一頭は局所麻酔を打つ場所を正確に特定したかったため先生が一応取りたいといってとったものだった。先生は一発で打ちたいところに針を入れたのでびっくりした。

最後に珍しいフリーズアンホースという種類の馬がみれて本当によかった。今日の夜はホンダラス先生の自宅でホームパーティーをした。肉料理がおいしく、クッキーやブラウニーがとくにおいしかったので結構食べてしまった。食べ終わったあとはトリビアといったクイズゲームをして盛り上がった。自分たちのチームははじめビリだったが、一番最後に追い上げることができた。

8月19日（土）

午前中が鹿児島大学の遠藤先生がレンタカーを借りてくださってアトランタ動物園まで連れて行ってくれた。動物園は意外とお値段が高かった。自分は爬虫類に興味があるので爬虫類館のなかで長い時間いてしまった。動物園のお土産屋はたかく次のモールでお土産を買うためにあきらめた。動物園の次はジョージアで有名なモールに行った。一時間しかまわる時間がなかったので急いで買い物をした。夜は大リーグを見に行った。すごい人の数だった。幼いころに一回野球はみに行っていたことがあったがこんなに人がいたかなというくらい人がいた。お店もたくさんあったがやはり高い。アトランタはブレーブスというみたいだ。野球には少しは興味があったので見ていて楽しかった。結果11対8で負けてしまったが最後惜しかった。今日は一日中熱いなか歩き回っていたので疲れた。野球観戦の席がちょうど日の当たるところで、絶対日焼けしてしまった。でも一日中笑っていたのでとてもいい日になった。

8月20日（日）

午前中はなにもなかったのでのんびり昼くらいまで寝てようと思ったら、永田先生が起きている人をどこかに連れて行ってくさるという連絡で飛び起きて急いでしたくをして10時には出かけた。昨日モールにいったがなかなか時間が厳しくほしいものが買えなかったの、先生が近くのアウトレットに連れて行ってくれた。

ホームパーティーはゴーガル先生の自宅で行った。プールと広いお庭がついていて、家の中も広くシェルティーを3匹飼っていた。自分は水着を持ってこなかったの、プールに入れなかったの、庭でバレーボールをして遊んでいた。日焼け止めを塗ったが日に焼けた。

夜ごはんはアメリカならではのミートボールスパ

ゲティとラザニアでとてもおいしかった。地下にはゴーガル先生が趣味でやっている鉄道模型があった。レールの両側には町ができていて、その間を列車が通っていくといった形だった。砂利まで細かく再現されていてびっくりした。また列車のなかには乗客がいてなかの電気もついた。機関車からは煙がでるようになっていた。クウォリティーの高さに驚いた。先生は授業などで大変なはずなのにこのような趣味があつてすごいと思った。デザートにはアイスクリームを自分で盛り付け食べ終わってちょっとゆっくりしたら帰宅する時間になってしまった。アットホームな雰囲気居心地がよかったので帰るとき少し寂しくなった。

8月21日(月)

今週からエキゾチックに移って自分が興味のある分野でもあったので楽しみにしていた。ここの研究室では鳥、魚、ハムスター、爬虫類、ウサギをみる事が多く、ペットだけでなく野生の動物もくることがある。車にあたって怪我をしたシカや亀、カモがくることもあるらしい。午前中はミスタービッグという黒いウサギのCT画像をみた。チモシーをどうしても食べてくれずそれは歯になんらかの異常があるからであった。上顎の切歯の成長が止まってしまったが下顎の切歯は成長し続けているため伸びすぎてしまい口腔内を傷つけていた。内視鏡を使ってオペを行った。エキゾチック用の歯科器具がありそれを使って歯をやすりで削ったり、電動のもので切歯を短く切った。切歯以外の右側の歯はすべて成長が止まっていて、歯を抜こうとしても歯がかけてしまい抜けなかった。ウサギの麻酔の調節がとてもむずかしそうだった。そのあとに野生の亀の治療を行った。車かなにかにひかれたらしく片腕はなく、もう片方の腕は骨折していた。またおなか側の皮がはがれていて、傷口のなかに蛆がたくさんいた。甲羅の模様が途中で変わっていて、この亀は過去にも何かしらの被害をうけて甲羅を再生したことがわかった。Nanoというインコが再チェックで来院したがこの子は飼い主に踏まれてしまい最初に来たときは特に異常はなかったのが、急に体調を崩してしまいレントゲンでは腹部の軟部組織の増加と消化管の拡張がみられた。原因はわかっていないが今日きた感じでは元気で特に変わった様子もなかったのもそのまま帰られた。入院しているフトアゴヒゲトカゲのSparkyはほかのフトアゴヒゲトカゲに片足をかまれてしまい細菌感染してしまったため断肢した。脱水もあり、体調があまりよくないので皮膚の色が暗く、健康なものは黄色っぽい色をしている。

午後には退院していった。今日は二時半に皆既日食がみられるということでお昼を食べた後外にでて

専用の眼鏡をして太陽をみた。とてもきれいに見えた。日食に近づくにつれて暗くなってきたが、思っていたより暗くならなかったので残念だった。みれたのはすごいうれしかった。日本土産を研究室に渡し、蒟蒻畑がすごい人気だった。先生方がおいしいおいしいと言っていたので、来年ジョージア大学に行く後輩たちにこれを伝えようと思った。お土産の取り合いになっていてみて面白かった。

研究室の後は永田先生と先生の友人の方とその彼女さんと一緒に射撃場に向かった。射撃をやったことがなかったのでワクワクしていた。本物の銃を持ったことがなかったので最初は手が震えていたが一発撃ったときの手への衝撃と音にびっくりして、震えが止まった。最初はピストルで撃っていた。なかなか難しかった。自分は的を狙っていると思っていたが、全く違うところに弾がいったので笑ってしまった。ピストルのあとはライフルを打たせてくれた。的が狙いやすかったのでこっちのほうが自分は当てることができた。音はピストルの倍くらいし、衝撃も強かった。なかなか体験することのできないことを経験することができてうれしかった。また行ってもっとうまくなりたいと思った。

8月22日(火)

昨日の疲れがとりきれなかったので朝からすごく眠かった。研究室に入ったら予約が4件入っていた。最初にmillieというラットの処置をした。このラットは大学のVTさんのものだった。下顎に腫瘍ができていて、土日に飼い主の元に帰ったが、あまり洗浄をうまくやらしてもらえなかったためか先週よりも腫瘍は大きくなっていて、何回か洗浄したあとに皮下補液をした。先生がコアラのマーチをあげていたが、気に入ったみたいですぐに食べていた。9時になって最初の予約のうさぎがきた。このウサギは前肢と頸部に腫瘍があつてきた。それ以外にも腹部にガスがみられ、おしっこによってお尻が黄色く汚れていた。ウサギの歯を見るときは口の中に鑷鏡の小さいものを入れて歯をみた。明日腫瘍の生検をするということで入院した。そのあと次の予約できたウサギの所見を取り始めた。このウサギは後肢に問題があつて動かせようとしてそとに出したところ次の日から動きたがらないという話だった。体重も減っていて、耳に炎症があり、とても痒がる。膝蓋腱反射はあつたがウサギのものは普通よりはよい。またナックリング検査をおこなって固有位置感覚をみた。前肢は問題なかったが後肢はどちらも反応が悪かった。四肢に刺激を与えたところすべて反応した。歩くとき左後肢は使っていたみたいだが、右はあまりつきたがらない様子だった。そのあとオウムがきて、1週間まえから体調は悪かったみたい

で呼吸もしにくそうだったが飼い主はそれに気づかず今日ぐったりしていたため来院した。とりあえず酸素室に入れたオウムはが横になった状態で目を閉じていた。肺には異常がなさそうだったが、飼育環境が悪く、大きさに合わないケージに入れられ、タオルで覆われていたらしい。また日光に当たることはない飼い主はヘビースモーカーだった。鳥にはタバコは毒であり肺を一気に悪くする。レントゲンでは膀胱あたりに液体があるのがわかったので一度それを抜いて再度レントゲンを撮りに行った。特に変わらなかったのが尿ではないことがわかった。麻酔から覚醒させようとしたがとても弱っていたのでそのまま亡くなってしまった。とても残念だった。血液検査からカルシウムの量が低いことがわかった。また羽の色がおかしく健康なものはきれいな真緑に対してこのオウムは緑が暗くなっていて、黒い線が羽にみられた。健康状態が悪かったこともわかった。この子の飼育環境があまりにもひどいと感じた。まだエキゾチックの二日目だがいろんな患者がくるので全然飽きない。また生徒と先生がいい人ばかりですごく楽しい研究室だと感じた。夜ご飯はアメリカにきて二日目に行ったロングホーンという店に行って先週なら完食できなかったステーキを短時間で完食してしまった。

8月23日(水)

昨日早めに寝たのであまり眠くない。8時前には研究室に入っていたがすでにいろいろと処置をしていた。今日も予約が4件あった。神経の先生がきてくださって昨日後肢の異常がみられたウサギの再確認をしてくれた。

昨日緊急できた鶏の処置をおこなった。昨日きて口から水がでて、元気がない様子だった。素囊にたくさんの黄色い液体がみられた。また水の中には食べたご飯や羽が含まれていた。顕微鏡でとったものをみたがなにも動いているものはみられなかった。素囊から採取したら液体を検査した結果、素囊では普通バクテリアしかみられないはずが炎症がみられた。詳しい検査をしたいためマイアミにある大学に採取したものを送ることにした。鳥の採血では注射器の針の部分の部分を少し曲げてから採血するのがコツらしい。

ボアがきたが、初めて近くでみたので興奮してしまった。この蛇は脱皮せず皮膚にはあるはずのない黒い斑点がみられた。水を飲むことは可能だが飼い主が水まで頭を運ばないと飲めないらしい。飼い主はノミがいるということで犬用のフロントラインをしたということだった。神経性の異常が疑われた。一緒にエキゾチックを受けていた友人は蛇がだめなのでボアがきてからは部屋をでてしまった。血液検

査をしたいため採血をしたが、心臓から直接血液を取るので慎重にやっていた。心臓の場所を教えてもらったがみてもすぐにはわからなかった。VTさんは一発で採血していたのですごいと思った。

午後は頸部に腫瘤のあるウサギのパンチ生検をした。生検をしたところから出血がみられた。また中に塊があったらしく先生はそれを生検で開けた穴から取ろうとしたがなにかわからなかったため検査結果がでてから取ることにした。

三件目の鶏はお昼を食べている間にきたみたいだった。すでに処置は終わっていた。4件目のウサギは明日の避妊手術のためにきた。ペアできた。2匹で同じ部屋にいたのでみていて可愛かった。明日オペしないほうのウサギはすでに避妊していた。明日オペするウサギも以前避妊するはずだったが気管チューブが入らず、頸部に炎症が起きてしまって腫れたので手術を明日に延期したということだった。はじめてウサギの避妊をみるので楽しみだ。

8月24日(木)

今日は予約が少ない。再診が1件あるだけだった。9時からの後肢の異常がみられたウサギのMRIが8時30からになり、朝のミーティングにでれなかった。そのウサギは腹部に痙攣がみられた。挿管にてこずっていた。挿管は内視鏡の先に気管チューブを入れておこなったがなぜか気管チューブに血液が入っていた。おそらく気道を傷つけたと考えられる。二回やり直したがうまく入らず、先生が別の気管チューブを使って挿管した。V-gelという。挿管が終わってMRIに向かった。ウサギは仰向けにとることになったが、先生は気管チューブが詰まる危険性があるので心配でMRIに入りたかったが何度も止められていた。

MRIがまだかかりそうだったので今日予定されていた避妊手術をみにいった。手術は卵巣しか取らなかったもので、30分ほどで終わった。日本では皮下組織は連続縫合するが、皮膚は単結紮する。今日みた手術ではどちらも連続縫合していたので驚いた。あと基本的に糸で結紮することではなく、電気メスを使って血管を挫滅していた。出血がほとんどみられなかった。思っていたよりあっさり終わったので少し残念だった。

夜は副学長の家でホームパーティーをした。敷地内に池があり魚が釣れる。また牛、鶏、ミニロバ、羊を飼っている。犬は5匹いて、猫は3匹いた。ものすごい数の動物を飼っているのでびっくりした。とりあえず敷地が広がった。夜ご飯にハンバーガーを食べたが、それに入っていたお肉はブラウン先生が飼っている牛の肉だった。食べ終わったあとに言われたのでもうどうしようもなかった。ジョー

ジアに来てからあった生徒さんたちもきていたので最後にまた会えてよかった。

8月25日(金)

ジョージア最終日。荷物をまとめてアトランタ空港に近いホテルへと向かった。荷物はアトランタのホテルに置かれ、自分たちはアトランタ水族館とワールドオブコカコーラにいった。アトランタ水族館はアメリカのなかで一番大きい水族館だ。中はとても広く、綺麗だった。アトランタ水族館には1つの大きな水槽があり、ジンベエザメが2匹いた。とても大きく、迫力があつた。

そのあとはワールドオブコカコーラにいった。以前もいったことがあつたのですごい懐かしかった。永田先生にまずいと言われたイタリアのコーラはやはりまずかった。口直しに選んだものもまずかったのでそのあと少し気分が悪くなった。

夜ご飯はCNNのフードコートにあるお店でハンバーガーを食べた。

最後のお別れのとき悲しくなって泣きそうになった。鹿児島大学の生徒さんと先生、山口大学の生徒さんもとてもしい人で一緒に実習ができて本当によかった。連絡はとれるので実習にいくときは連絡して会いたいと思っている。永田先生とお別れするのは悲しかった。

8月26日(土)

荷物検査で誰かが引っかかることを考えて早めに空港へと出発した。結局誰も引っかかることなく荷物検査は終わった。飛行機に乗るまで1時間ほど自由時間があつた。あつという間に飛行機の時間になってしまった。約13時間で日本に到着した。

まとめ

この二週間はあつという間に終わってしまった。とても充実した二週間だった。久しぶりに英語をしゃべるので始めは緊張していたが1週間もたないうちに慣れてしまった。ローテーションはすごいためになった。知らないことばかりで毎日新しいことを学べるので楽しかった。1週目の大動物外科では生徒が優しく、わからないことがあつても丁寧に教えてくれたり、先生から治療方法を教わつた。1週間はあつた言う間に終わつてしまい寂しかった。

二週目はエキゾチックで自分の好きな動物ばかりだったので本当にみれてよかったと思った。先生と生徒がすごい元気で、常に笑っているような研究室で雰囲気が好きだった。初日からいろいろ症例がみれて新鮮でよかった。大学にエキゾチックの研究室があつたら絶対に入っていた。作って欲しいくらいだ。アメリカの大学が羨ましい。自分の大学でもエ

キゾチックの授業はあるがウサギとハムスターの授業しかないので他の動物についても学びたいと思った。

英語はある程度しゃべれたが、専門用語が全然わからなかったので後悔した。もっと英語の勉強をしていればさらに充実した日々が送れていたのではないかと思った。でも本当にこの実習に参加できてよかったと思っている。英語が苦手でもジョージアの人は優しく、ゆっくりとしゃべってくれたり、紙に書きだしてくれるので、後輩には英語能力に不安を持たずに積極的に研修に参加してもらいたい。

最後に石野先生、永田先生、鹿児島大学の遠藤先生、今回一緒にジョージアに行ってくださつた皆さん、ジョージア大学の皆さん、最高の経験となつた2週間をありがとうございました。

渡邊 奈菜

・1日目(8/12(土))

去年アメリカへ実習に行った先輩から、前日入りが良いというアドバイスを頂いたので、11日に東京に前泊した。成田空港に13時に集合ということでかなり余裕を持って11時には成田空港に到着した。何もトラブルなく、チェックインできた。その後、昼食を皆で食べたが、アメリカ出発前の最後の日本食だったため、話し合つて蕎麦屋を選んだ。出発前で緊張していたのか、お腹の調子があまり良くないまま、出発口に行き荷物検査を行った。海外には何度か行ったことがあるが、いつもよりも検査が厳重に行われたように感じ、アジアやヨーロッパに行くのとは違うんだなあと思った。私は何も検査には引っかからず、出発する事ができたが、友達は新品の日焼け止めを容量が多いからと没収されており驚いた。それ以外は何事もなく、日本を発つことができ安心した。

飛行機の中に乗つたはいいものの、とても寒かつた。海外旅行に行く度に思うことは、とにかく機内食が美味しくないということで、今回もきっと美味しくないだろうなと期待していなかったからか、いつもよりは美味しく感じた。しかし、おやつとして出されたスナック菓子があまり口に合わず、アメリカの味を2週間も耐えられるか少し心配になった。機内が寒かつたこともあり、アメリカに到着した時は、絶好調の体調とは言えなかつた。入国手続きが不安であつたが、なんとか相手の言っていることも理解でき、無事入国手続きを終えることが出来たので良かった。しかし、入国手続きを待つ人がとても多く予想以上に時間がかかり、ジョージアホテル行き17時40分発予定のバスに乗り遅れるんじゃない

いかと、とてもドキドキしたが、予想外に 20 分遅れでバスが到着し、助かったという気持ちと共に、これがアメリカ人の時間の感覚なのかなと感じた。

ホテルに着き、チェックインをしようとする、私のクレジットカードは使えず、さらに同室だった友達のカードも使えず焦った。とりあえず、明日の朝にもう 1 度カードが使えるか確認してもらい、それでも出来なければ、カード会社に電話をするという話で落ち着いたが、カードが使えなければ、現金を 3 万円程度しか持っていなかったのも、2 週間やっていけるのかとても不安になった。ホテル内は Wi-Fi が飛んでいたのも、すぐに父にライン電話をかけ、カードについて調べてもらった。私のカードにはセキュリティがかかっていたらしく、もうセキュリティを解除したから大丈夫だと連絡がきて安心した。事前の準備が足りていなかったなと痛感したのと同時にラインのすごさを感じた。

チェックイン後、夕飯がてら大学内を散策した。ホテル近くのレストランに行ったが、お腹の調子があまり良くなかったこともあり、夕飯はあまり満足には食べられなかったのが悔しかった。夜はシャワー後にみんなで部屋に集まり明日の計画を立てた。鹿児島大学の 4 年生の子とも少し話せ、とても楽しかった。

予期しないハプニングもあったが、時差もあったため 12 日というとても長い 1 日を無事に終えることが出来て良かった。

・ 2 日目 (8/13 日 (日))

今日は 13 時に近くのスーパーに行くという予定だったので、久しぶりに朝ゆっくり寝れてとても幸せだった。洗濯をして部屋でゆっくりした後、13 時にスーパーに行ったが、スーパーの広さと売っている物の大きさに驚いた。まず飲み物が箱で売っているものが多く、日本ではバラ売りが基本なのでとても買いづらいなと思ってしまった。しかしお得感があり、品揃えが良かったので、病院での実習終わりに寄ろうと思った。ホテルに帰った後、ダウンタウンに歩いて行き、ベーグル屋さんとスタバに行った。ベーグル屋さんは 15 時で閉店していたので買えず、スタバに行ってコーヒーを飲んだ。ベーグル屋さんは 2 週間のうちにいつか行けたらいいなと思った。その後、17 時にロビーに集合し、長田先生が案内してくださり、ロングホーンに行った。長田先生オススメのステーキがとても美味しかった。しかし、やはり量が日本の倍くらいあり、友達とシェアして正解だった。ステーキを食べた後は、長田先生が warmstolm や酒屋、本屋などに連れて行ってくださり、かなり楽しかった。アメリカの本屋が特におもしろく、本が半額や値引きされており、日本

では見ない光景だったので、ワクワクした。もっといろんな場所を開拓したいなと思った。

・ 3 日目 (8/14 (月))

今日は 1 日フリーで、朝 9 時に集合だったが、昨日、日本の友達と電話をしたり、朝早く目が覚めて母と電話していたため、睡眠時間が 4 時間くらいでとても眠かった。十和田にいる時よりも時間に余裕があるので、逆にいろんな人と電話をし、少しホームシック気味になった。日本とアメリカはかなり離れているのに、こんなにも近くにいるように思わせるライン電話を開発した人は本当にすごいと思った(笑)。

9 時に集合し、まず植物園に向かった。そこは、月曜日が休みだったので、温室の中は見れなかったが、外は見る事ができ、友達とはしゃげたのでとても楽しかった。その後、動物園に行った。その動物園は、怪我をしたり事故に遭った動物を保護しているところだった。日本では私が知らないだけだと思うが、あまりそういった場所を見たことがないので、感動した。特にツキノワグマが可愛かった。しかし、どの動物もほとんどが 1 匹で飼われている状態で、とても寂しいのではないかと感じた。また、保護をしようというアメリカ人の心意気をとても尊敬した。

お昼ご飯はダウンタウンでタイ料理を食べた。カレーを注文したが、ココナッツミルクが入っていたからか、とても甘くあまり口に合わなかった。

15 時から学内案内をジョージア大学の学生がしてくれた。しかし、英語が早すぎて聞き取れないことが多く、とてもこれからやっていけるのかどうか不安になった。1 対 1 で話すのならまだ勇気がでるが、なかなか団体だと怖いなと思ってしまうので、2 週間のうちに少しでも受け答えができるように頑張りたい。

晩御飯は、長田先生オススメの中華屋に行ったが、メニューが難しかった。担々麺を注文し、かなり辛かったが、美味しかった。鹿児島大学の遠藤先生とも話すことができ、非常に気さくで喋りやすく、とても楽しく晩御飯を食べることができた。明日から大学での研修が始まるので不安もあるが頑張りたい。

・ 4 日目 (8/15 (火))

今日は朝 10 時に集合し、ベロニカさんに案内してもらいながら、バス停まで歩き、ジョージア大学のシャトルバスで Veterinary Medicine まで行った。大学のロビーで全体の集合写真を撮り、昼食を食べた。ピクルスとサンドウィッチ、チップスを食べたが、ピクルスが日本のよりとても大きく、味も

酸っぱさが弱かったので食べやすく美味しかった。しかし、4日目にして書くことではないが、とても建物内が寒い。日本では、エコだの省エネだのと言って、冷房の温度に気を配る事が多いが、アメリカではそんな事を考えている風には見えない。だが、ペットボトルは日本のよりも薄く、所々にエコをしているんだなと感じられる。よく分からない(笑)。その後、病院内を案内してくださったが、長田先生が軽く通訳してくださったので助かった。大学病院内を見て最初の印象は、大きくて広くて綺麗ということである。案内してくださったのを聞くと、さらに日本との違いがありすぎて、心惹かれる所ばかりであった。まず驚いたのが、猫をストレッチャーで運んでいた人たちの表情が日本と違っていた事である。かなり弱ってそうな猫であったが、運んでいる人は私たちが道をあけた事に感謝をし、笑顔で通り過ぎていった。日本にはそんな余裕はない。きっと何十年も経験を積んでいるからという余裕もあるだろうが、アメリカがいかに余裕のある国なのかが分かった。

また、麻酔科と外科が分かれていることや、リハビリを行う施設が整っていることにも驚いた。私は整形の研究室であるが、日本の大学病院の外科というと麻酔も外科も分かれてなく、リハビリも私たちが行い、リハビリを行う施設が整っているわけでもない。日本とのギャップを感じた。特に1番印象的であったのは、大動物である。アメリカの大動物と言えば、馬であるが、吊り下げられるような装置があったり、体重を測れる機械があったり、さらに跛行診断するための設備があった。また、廊下は消防車などが通れるようにと、とても幅が広く、アメリカの広大な敷地があるからこそできることだなと思った。きっと日本ではできないだろう。まだ詳しく見れてはいないが、日本との違いがとても明確で、日本の獣医学がアメリカよりも遅れているのかなと感じた。

案内後はホテルに戻り、生徒だけで公式ショップに行った。大学内なのにいろんなグッズや本が売っており、非常に感動した。晩御飯はジョージア大学2年生の方たちと一緒に **Cali&Tito's** で食べた。メキシコ料理であったが、アメリカに来て私はパクチーが苦手であることに気づいた。ジョージア大学の2年生のレベッカは、とても可愛く明るく親切であった。レベッカともっと話せたらなっと思って。今までは英語を勉強しなきゃいけないと思う事が多かったが、初めて外人ともっと話したいから英語を勉強したいと思えた。今日1日はとても濃く、私にとっては非常に刺激的であった。明日からローテーションなので、いろんな事を学べるように英語ができないなりに頑張ろうと思った。

・5日目(8/16(水))

ローテーション1日目。整形外科を見させてもらったが、1番印象的であったのはオペ室が死ぬほど寒いという事である。あと2日間もこの寒さに耐えられるかどうか心配であったが、動物看護師のオリビアが私が寒がっていることに気づいてくれ、優しく声をかけてジャケットを貸してくれた。本当に感謝である。

麻酔科と外科が分かれているが、麻酔から見させてもらった。硬膜外を生徒が行っており、マンツーマンで先生に教えてもらいながらやっていたので羨ましかった。1日を通して思ったことは、アメリカは先生が熱心にかかなり細かく生徒にやりながら教えるというスタイルで、在学中に多くを学べそうであった。また、麻酔科の先生はとてもノリが良く、いきなり日本の曲をかけて優しく話かけてくれた。

整形のオペはこの日、**TPLO** 2件、肘関節鏡2件、下顎のプレート除去の5件を予定されていた。しかし、下顎のプレート除去は何らかの理由で延期になってしまった。始めに **TPLO** を見学した。術式は勉強していたので、どこもやり方は同じなのだと驚いたが、最後の縫合はいつも研究室で見ているものよりも大胆でびっくりした。また、オペの雰囲気がとても良く、誰1人として焦ったりしている人がいない。器具を落とし滅菌解除になったとしても、怒鳴ることもなくただひたすら皆それぞれが自分の仕事をしているという風を感じられた。

次に橈尺骨の成長板早期閉鎖の子の橈骨を切ってプレートを入れるという手術であった。しかし、外人は身長が2メートルくらいあるので4人並べると、2メートルの壁ができてしまい、何も術創が見えず、16時であったため、1日目のローテーションは終了した。

・6日目(8/17(木))

ローテーション2日目。整形外科は月水金がオペ日で、火木が診察日なので今日は診察日であった。診察はすべて予約制らしく、内容は再診から紹介、手術のための受け入れなど様々であった。症例は前十字靭帯断裂や橈尺骨骨折などであり、たまたま変性性脊髄症のジャーマンシェパードがリハビリに来ていた。リハビリを整形科や神経科が行うのではなく、日本ではまだ見られない部分である。そのジャーマンシェパードはウォータートレッドミルでリハビリを行っており、見た事がなかったのでとても刺激的であった。

また午前中には約1時間ほど **Franklin** さんの前十字靭帯断裂についての講義を聞くことができた。前十字靭帯断裂の外科的治療法には、アメリカでは大型犬が多いため **TPLO** を使うことが多い。 **TPLO**

の年齢別の成功率や半月板の治療をすれば成功率が上がるなど、いろんな話が聞けた。また前十字靱帯断裂の予後として、関わってくる要因を生徒に当てて答えを聞いていた。①お金②犬の大きさ③弛緩性④活動性⑤年齢⑥術後管理⑦年齢⑧設備⑨ TPA であった。アメリカの獣医学部では、1年3カ月かけて全ての科を回るそうだ。約6人くらいの生徒が1つの科を見るので、とても生徒と先生の距離が近く、こんなにも近い距離であれば、先生からいろんな物を吸収できるだろうと感じた。日本では生徒130人を相手に先生1人なので、質問もしづらく、1人が質問してもそれについてのディスカッションはできないし、効率良く深くはアメリカほど学べていないように感じた。また診察はほぼ生徒が行い、最後に先生の説明があるという風に進められていく。生徒が行なった事を先生がチェックし、最終的に先生が診断するというシステムに驚いた。午前中だけでも、アメリカの獣医学と日本の獣医学の教育方法がかなり違う事を痛感した。日本人はアメリカ人よりも神経質な部分などがあるため、アメリカのようにはなかなかいかず、生徒ができる事は少ないだろうが、アメリカの全ての科を決められた期間で回るといのは、是非日本の獣医学部の教育方針にも取り入れて欲しいと思った。全ての科をあれほど素晴らしい専門医の元で学べるなんて、とてもアメリカの獣医学部の生徒たちを羨ましく感じた。日本のように1つの研究室に留まっていれば、かなりの知識の偏りが生じるだろう。日本の獣医学教育が劣っていると言われている理由が分かった気がする。

午後は、診察はなく、また授業を聞いた。身体検査のやり方も教わった。スライドがあったので、耳だけよりは理解でき助かった。授業の後は、明日のオペ予定についての話し合いを行っていた。抜け出すタイミングがなく17時になり、急いでバスに乗った。

18時ごろから Beer Terrappi に行き、ビールを飲んだ。飲みやすいのを選んでもらったので、美味しかった。そして、ジョージア大学の生徒たちと少し英会話でき、とても楽しかった。毎日思う事であるが、アメリカ人はとてもノリが良く、寛大でいつも楽しそうで、優しい人ばかりだなと感じた。

明日でローテーション1週目の整形外科が終わってしまう。明日はオペ日で、橈尺骨の骨折の整復や CrCLR の tightrope が見れるので楽しみである。悔いのないよう、アメリカでの最後の整形外科を見たい。

・7日目(8/18(金))

ローテーション3日目。Orthopedic surgery を見るのも最終日となった。3日目となると生徒たち

がたくさん声をかけてくれ、Spencer がお昼ご飯にハンバーガーを買ってくれた。Spencer はとても優しく面白いいつもテンションの高い人で、私たちにいろんな事を教えてくれたので本当に感謝している。カントリーマアムをみんなにあげたら、バニラ味よりココア味の方が美味しいと言われ、日本ではバニラ好きが多いのでそこで日本人とアメリカ人の味覚の違いを感じた。

今日は TPLO2 件と Tight Rope、橈尺骨の骨折の4件であった。その中でも午前中に行われた Dr.Franklin の TPLO と Tight Rope を見た。Tight Rope なんていう術式を知らなかった。昨日動画を見させてもらったが、まず関節鏡を用いて断裂した前十字靱帯を切除していた。モニターを見ていたが、難しかった。次に、穴をあけてロープを通し、drawer sign が出ないか確認し終了した。とても早かった。TPLO は一昨日と変わらずであった。この3日間で TPLO が2件も見られて本当に良かった。昨日 Dr.Franklin に質問したが、この大学では TPLO が一番多いそうだ。また、日本では MPL が多いが、アメリカでは症例が少ないのかと聞くと、MPL は general practitioner 一般開業医が行うらしく、Specialist 専門医が集まる大学病院ではやらないそうだ。私のつたない英語でも理解してくれ、分かりやすく答えてくれた Dr.Franklin にも非常に感謝している。

Spencer が買ってくれたハンバーガーを2時半ごろに食べ、その後はオペは見ず、Spencer の後について、入院患者の世話や処置を見た。入院患者を1日に4回見るらしい。日本では2回だが、4回見るのに驚いた。当番の内容としては、アメリカも日本も変わらないなと思った。しかし、驚いたのが、一昨日オペした成長板早期閉鎖の犬の巻き直しをするときに鎮静をかけていた事だ。日本では、処置のためだけに鎮静をかけている所を見たことがない。この3日間で日本とアメリカの違いをたくさん学べた。日本では、一次診療の動物病院は口があれば稼げるなどという事を噂で聞くことがあるが、本当にそれでいいのだろうか。確かに、オーナーさんの気持ちに寄り添うことは大切だと思う。しかし、腕がなければ動物の QOL は上げられない。Ortho を見学させてもらったことで、自分の勉強不足を痛感した。Ortho を見学できて本当に良かったと思う。ローテーション3日目終了した。

18時から Dr.Mary の家でホームパーティがあった。料理も美味しく、果物もとても美味しかった。Dr.Mary は大動物内科が専門である。ジョージア大学の生徒たちも来てくれ、中でも Corrine とたくさん話した。Corrine はとても可愛く、優しくかった。ゲームをしたがとてもおもしろく、Dr.Mary

やジョージア大学の生徒たちには本当に感謝でいっぱいである。

・ 8 日目 (8/19(土))

今日はアトランタ動物園、ジョージアモールに行き、その後野球観戦をした。アトランタ動物園では特にカメやヘビなどの爬虫類やカエルなどの両生類が多く、日本では見られないような動物が多く、楽しかった。ジョージアモールはとても大きく、日本にはこれほど大きく、店舗数が多いモールはない。1 時間ほどしか回れなかったが、お土産も買えたので良かった。ちゃんとした野球観戦は初めてであり、本当におもしろくアメリカでメジャー野球を見るという初めての経験をし、とても楽しかった。私の祖父は以前仕事の関係で海外に住んでいた事もあり、アメリカが大好きであり、野球も昔から好きである。だから、次にアメリカに来るときは、祖父と一緒に来て野球観戦をしたい。

・ 9 日目 (8/20(日))

今日は 15 時半から Dr.Robert のお家のホームパーティーに行った。家はとても広くおしゃれで、プール付き、犬はシェルティーが 3 匹、素晴らしい家であった。私も将来こんなお家に住みたいと思った。ホームパーティーにはいろんな人がいたが、小さな子供が 1 人来ていた。ルカ君はとても可愛く、はしゃぎすぎて犬に怒られ噛まれていたが、遊び方やしゃぎ方は日本の子供と同じであった。最後にコアラのマーチやカントリーマアム、ぽたぽた焼をあげるととても喜んでおり、それまで帰りたくないと言っていたが、機嫌よく帰って行った(笑)。料理も美味しく、また地下には鉄道模型があり本当に面白かった。こんなホームパーティーは日本ではなかなかない。日本でもできたらいいのになと思った。どんな人にも優しく接してくれる人ばかりで心が洗われる。明日からはエキゾチックアニマルの実習であるため、とても楽しみである。残りの 4 日間、少しでも学べるようにしたい。

・ 10 日目 (8/21(月))

ローテーション 4 日目。今日から 4 日間はエキゾを見学する。エキゾでは鶏や魚、爬虫類、ウサギ、鹿などが患畜として来るらしい。ここのエキゾでは朝と夕方にミーティングしており、朝は入院患畜の検査結果の話や入院患畜の状態について話していた。

本日の予定には、ウサギの歯科処置、トカゲの超音波検査と腸の内容物の培養、インコの採血、カメの血液検査があった。ウサギの歯科処置は、麻酔をかけて行っていた。鎮静をかけたあとは鼻からの吸

入麻酔で維持しており、麻酔の効きが浅いとケタミンを静脈投与していた。ウサギの歯科処置は、他の動物病院実習で見たことがあったのでそれほど驚かなかったが、今日 1 番驚いたのはインコとカメの採血である。インコもカメもまず首から採血しており、針は 25G を使っているようだ。どちらも血管は見にくそうであり、難しそうであった。しかし、私は犬だけではなくいろんな動物を診ることができる獣医になりたいと高校生の時は思っていたので、インコもカメもトカゲも処置していた Dr.Spencer にとても魅かれた。

インコはパルスが 700 であり、初めてインコのパルスを知りびっくりした。Dr.Spencer の首には普通の大きさの聴診器ととても小さな聴診器の 2 つがかかっていた。カメの心拍はドップラーで測っており、日本ではこの機械はなく初めてドップラーの機械を見た。今日見たものがほとんど初めて見るものばかりで刺激的で楽しかった。また、一緒にローテーションしている友達が英語が話せるため、とても助かった。

また、ペットとしてのカメではなく、野生のカメが患畜としてきた。そのカメは腹側の甲羅が割れており、さらに左腕が折れているようだった。とりあえず、甲羅が割れている部分の洗浄を行っていたが、小さな虫がたくさん出てきており、ゾワとした。野生とペットのカメは全然違うのだと感じた。しかし、野生のカメもしっかり処置しているところが心に響き、見捨てずに処置してくれることに安心した。トカゲは細菌に感染しているようで完全な治癒は期待できそうになかった。ペットのカメももう治らないようだ。エキゾはやはり治療が難しく、なかなか完全な治癒を期待することはできないのかなと感じた。

・ 11 日目 (8/22(火))

ローテーション 5 日目。朝来ると入院患畜の処置が行われていた。今いる入院患畜がラットとカメである。ラットは左の下顎から穴があいて腫脹していた。穴の部分を何度かデブリードメントとして洗浄し、最後に皮下補液を行っていた。Dr.Jesica がラットに昨日私が渡したコアラのマーチをあげるとラットは食べたらしく、とてもおもしろかった。

今日は診察が 4 件予約されていた。まず 9 時に snowball(ウサギ)が首の mass と脱毛で来院した。このウサギは 4 歳であり、あまり元気はなさそうであった。Dr.Jesica が処置していたが、眼や耳や歯などの身体検査と体重や TPR の測定を行い、消化管内にガスが溜まっていると言っていた。消化管内のガスはオーナーが恐らくエサに草を与えずにフルーツばかりを与えていたためだろう。mass はお

そらく脂肪の塊だろうと言っていたが、明日生検を行うそうだ。

次に 10 時半に Skeeter(ウサギ)が後肢の力が弱いという主訴で来院した。身体検査後に神経学的検査を行っていたが、ウサギの神経学的検査は初めて見た。犬と同じように行っていることに驚いた。固有位置感覚を知るために、ナックリングの検査を行っていたが、前肢は正常なのだが、後肢は低下していた。また、跳び直り検査も行っていたが前肢は正常で後肢はやはり何も反応しなかった。しかし、膝蓋腱反射では正常であった。X 線を撮影し、耳の洗浄、血液検査を行って、家に帰らせた。また明日検査に来るそうだ。

そうしていると、緊急でとてもグッタリしたオウムがきた。このオウムは週末から喋らなくなり、ご飯も食べず水も飲まなくなり、とうとう昨日自力では起き上げられなくなったそうだ。麻酔はミダゾラムとセボフルランを用いており、挿管し気道確保した後、X 線撮影と血液検査を行っていた。初めてオウムのレントゲン写真を見たが、全くどこが悪いのかも分からなかったが、エキゾの学生の Niko が正常の鳥のレントゲン写真をネットで調べて出してくれ優しく教えてくれた。このオウムは肺には異常がないと言う。レントゲンを見ても確かに肺は正常と似ており、不透過性は高くなかった。しかし、air sac つまり気嚢が真っ白であった。両方の気嚢とも不透過性が高く、異常だと考えられた。その後心停止しかけたのでエピネフリンを投与しなんとか心臓は動いていたが、結局抜管した後に再度心停止してしまった。急いで VT さんが挿管し、エピネフリンも投与したが、心臓はもう動かず亡くなった。一瞬の出来事だったため驚いた。亡くなったオウムは黒いビニール袋に包まれていたが、そこは日本とは違うなと感じた。私が見たのは犬であるが、亡くなった場合は綺麗な箱に入れ白いタオルをかけてオーナーの元にお返しする。恐らくそのような風習がないのかな、犬ではなくオウムだからかな、などと思ったが、亡くなった時は日本の方が対処がいいなと思ってしまった。アメリカ人同士であればそれが普通であるのだろうが、ずっと日本で生まれ育った私にとってはショックであった。

しかし、どこも同じなのだと思ったことは、獣医がお昼ご飯なしでずっと働き続けていたことである。命と向き合わなければならない職業という点ではアメリカも日本も変わらず、大変な職業であるなと感じた。

・ 12 日目 (8/23(水))

ローテーション 6 日目。朝来ると鶏など入院患者が増えていた。昨日の後肢の力が弱くなったとい

うウサギは、神経学専門獣医が診ており、神経学的検査を行っていた。分業化が進んでいるからこそできることだろう。エキゾは動物の種類も様々で、分野は歯科から神経、整形、内科、全ての症例を診なければならない。多くの知識を必要とされると思うが、多くの知識を持っている上でそれぞれの分野の specialist の力を借りて、Zoo Med が成り立っている事が分かった。ずっと入院しているカメの T は担当の生徒が毎日同じように世話している。日本の入院当番と同じように TPR を測定し、部屋を綺麗にし、ご飯をあげる。昨日来院したウサギの Snowball は、消化管内にガスが溜まっていたので、エサを草のみにして食べているかの確認をし、消化管内のガスが溜まっていないか確認していた。

9 時にフェレットの Cody が recheck のため来院した。今日の午前中にオペ予定だったが、なくなった。身体検査などをして終わった。このフェレットは同じ人が繁殖させたもので、数匹のフェレットが同じ病気に罹っているそうだ。だからおそらく 7 歳くらいまでしか生きられないだろうということである。しかし、食欲はあったので良かった。食べている姿が可愛かった。フェレットは日本で飼う人が以前より増えたのかなと思うが、なかなか見る機会は少ない。その後入院していた鶏の処置が行われた。食道内にカテーテルを入れて胃内容物を採取し、培養するものと顕微鏡で見る(細胞学)ものに分けた。胃内容物は混濁した液体であり、量が多かった。60ml シリンジを 1 本でも足りないくらいの量で、胃にこれだけの量が溜まっていれば体調も悪くなるだろうなと感じた。顕微鏡を見てもあまりに悪いのか分からなかった。また頸から採血をし、CBC と生化学検査を行っていた。

その後 Snowball の生検を行う予定であったが、ウサギに鎮静をかけたくらいの時間にちょうどヘビが神経症状で来院した。私は小さい頃にヘビに対してのトラウマがあるので、ヘビを見ると鳥肌が立ち、気分が悪くなってしまった。ヘビ自体が嫌いというわけではなく、苦手だ(笑)。しかし、こんなに近くでヘビを見たのが恐らく小さい頃以来だったため、今までこんなにも自分の体がヘビを拒否している事に気付かなかった。少し外に出てベンチで休んでいると、長田先生に会い放射線科を見せてもらった。放射線の原理を教えてもらい、その後 MRI の機械を見せてもらった。北里にある MRI と違って精密で正確に放射線を病巣に当てることができるそうだ。また、動物を乗せておく保定用のマットがとてもおもしろく、空気を抜くと固まってその動物の形になるようだ。また、皮膚がターゲットな場合は、直に皮膚に放射線を当てても皮膚よりも下に放射線が当たるので意味がなく、その時は筋肉と同じ密度

のマットを皮膚の上に2枚重ねて放射線を当てるそう。そのマットを触らせてもらったが、とても触り心地が良く本当に筋肉と同じ感触であった。このように見たことのない装置や用具が多く、本当に楽しくワクワクした。また長田先生の **planning** の内容も少し教えてもらったが、私には難しく大変だろうなと思ったが、やりがいのある仕事だろうなと思った。今までエキゾも放射線を当てた事があるそう。ヘビやフェレット、ウサギなどである。ヘビにも放射線を当てて治療する事に驚いた。日本では飼っている人が少なく、あまり見ないので本当にびっくりである。フェレットは割と放射線に弱いらしく、逆に鳥は放射線に強いらしい。鳥は地上よりも放射線量の多い空を飛んでいるため、放射線に対しての耐性があると考えられているらしい。このような比較解剖的な話が好きなので、とても話を聞いていて興味深かった。もっといろんな動物の解剖や性質について知りたいと思えた。放射線に着目した場合の動物の耐性など考えたこともなかった。私は小さい頃に文鳥を飼っていた事もあり、エキゾの中でも小さな鳥が好きなので、もっと鳥についても勉強したいと思った。しかしアメリカだと意外と爬虫類や鶏、うさぎが患者として多く、あまりインコなどの小さな鳥は来ないんだと3日目を感じた。日本では、犬や猫を買うことを禁止しているアパートやマンションに住む人たちがインコや文鳥、ハムスターなどを飼うことが多いように思う。ヘビが来院した時には自分はエキゾを見に来るべきではなかったのかなと思ったが、自分が鳥を好きである事や、やはりヘビが苦手だった事など認識できたので良かった。日本に帰ったら小動物整形外科の勉強に加えて授業ではほとんど習わないインコや文鳥などの小さな鳥類の勉強、そして英語の勉強をしたいなと思った。

午後は、脚がおかしい鶏が来院し、その処置が行われていた。バンテージで脚がぐるぐる巻きにされていたが、しっかり立っていた。

明日はウサギの避妊があるらしく、今まで見たことがないのでとても楽しみである。明日でローテーションが終わってしまう。日本と違うところがありすぎて、日本に帰ってからが日本が嫌になりそうと怖い(笑)。特に日本とアメリカは全くと言っていいほど雰囲気が違う。アメリカでは雰囲気が悪いとチーム自体の力が発揮できず、仕事があまく回らないと考えるんだという話を聞いた。考えてみると本当にそうである。アメリカ人はみんな明るく、雰囲気が良い。アメリカの獣医大学を見て良かったと本当に心の底から思う。しかし、荒いところも多く、日本人の方が器用であり、動物にとって優しい医療を提供できているのは日本の方かもしれない。日本

には日本の良さがあって、アメリカにはアメリカの良さがある。お互いに良いところを取り入れたらもっと良い動物医療ができると思う。

・13日目(8/24(木))

ローテーション最終日。アメリカの大学で実習できるのも最後になってしまった。今日は朝来るとほとんど当番が終わっていた。今日の予定は脊髄に腫瘍があるかもしれないと疑われているウサギのMRIとウサギの避妊の2件であった。MRIをとる予定のウサギは10歳という年齢もあって朝元気がなかった。さらに麻酔科に麻酔を頼んでいたがプロトコールにウサギではあまり使わない方が良いとされている薬剤を使っていたようでとてもDr.Jesicaが困っていた。麻酔科の先生に結局麻酔は任せしたが、挿管はエキゾのVTさんがやっていた。しかし、何度も失敗したため出血してしまっていた。私はウサギの挿管がとても難しいことを感じた、さらに気管チューブを床に落としてもそのまま使っていたことに衝撃が走った。日本では滅菌の気管チューブを使っているのに、アメリカではまず滅菌されていない事に加えて落としても使うという私の予想をはるかに超えていたので何も言葉にできなかった(笑)。本当に動物にとって優しい医療を提供しているという点では日本の方が優れていると思う。無事にMRIは撮り終えたので良かった。

次に行われたのはウサギの避妊である。この子は以前挿管に失敗し気管が腫れたためオペができなかったそう。オペ時間は卵巣のみ取り除くだけだったので、約30分くらいで終わった。卵巣を除去する時はすべて縫合糸を使わず電メスで挫滅して取り除いていた。このオペで驚いたのは、ほとんど出血していなかった事である。電メスを使っていたからというのもあるだろうが、綿棒のみで止血していたことにびっくりであった。またウサギの子宮は身体の大きさに比べて大きかった。しかし、閉創は整形の時と同じように全て連続縫合であり、アメリカ人は大雑把であるなというイメージを最終日まで感じてしまった。

オペが終わりちょうど学生室に戻ると、医療費の表を見ることができた。避妊だけで450ドルもかかっており、高いなと思った。動物医療費が高いという点では日本もアメリカも同じである。日本では最近ペット保険が主流になってきたが、アメリカではどうなのだろうか。

日本のお土産をたくさんあげたことや今日が最終日ということもあり、エキゾの人たちがピザを3つ頼んでくれた。一つが大きかった。私は2切れでお腹がいっぱいになったが、Dr.Jesicaは4切れも食べていた。また30切れもあったピザが一瞬にし

てなくなった。アメリカ人の食べる量はすごいとしか言いようがない(笑)。食べる量にしてはそれほど太ってなく驚きである。そして Dr.Mayer はドーナツもわざわざ買ってきてくれた。彼は朝私たちと会うとおはようと日本語で挨拶してくれたり、オペの時にお願いしますと日本語で言ってくれた。気さくで優しい人で本当に4日間私たちを温かく向かい入れてくれたことに感謝である。本当にアメリカ人は良い人ばかりであった。また日本のお土産で1番喜んでいたものは、蒟蒻畑である。あの食感がアメリカにはなかなかないそうで、とてもハマって食べていた(笑)。コアラのマーチも喜んでいた。次にアメリカに行くことがあれば蒟蒻畑とコアラのマーチをお土産に持って行こうと思う。

整形とエキゾの2つを見学することができ、とても有意義な時間を送ることができた。エキゾも楽しかったが、もともと骨に興味があった事もあり整形外科が楽しかった。エキゾはアメリカに来る前に、先生にエキゾなんて暇だよと言われていたが、来てみると毎日が忙しかった。カメや鶏、インコ、オウム、ウサギ、フェレット、トカゲなどが多く、日本では見ない種類も多かった。緊急で来る事もあり、大変そうだった。また日本とのギャップに驚いたり、アメリカ人の人柄の良さが本当に心に沁みた。アメリカの人たちはすごく楽しそうに仕事をしており、チームワークも良く、獣医だから、看護師だから、などとお互いを馬鹿にした言い方をしている様子もないし、変なプライドもなく仕事をしているように感じられた。日本にはないところであるだろう。日本では、先輩から新人獣医がベテランの動物看護師にいじめられたという話を聞いたことがある。そのような事もアメリカではなさそうである。良い意味でお互いにプライドを持って仕事をしており、良い仕事場だなと感じた。

・14日目(8/25(金))

アトランタにあるアメリカで1位の水族館とコカコーラ博物館に行った。水族館は本当に感動することばかりで日本のディズニーっぽかった。特にイルカショーに心が魅かれ、イルカが登場した時には鳥肌がたった。コカコーラ博物館は予想以上で、まず最初の6分くらいの動画がとても感動的であった、ほとんど言葉のないものであったが、映像だけで感動できるものを作れるなんて素敵だなと思った。特に4Dシアターがおもしろく、最終日はとことん遊べ楽しかった。夜ご飯を食べた後は、鹿児島大学と山口大学の子達とお別れで、悲しすぎて泣いてしまった。本当に大人で良い人ばかりであった鹿児島大学と山口大学の人たちに感謝である。そして2週間ずっと私たちの送迎からいろいろとお世話を

してくださった永田先生には本当に感謝である。

・15日目(8/26(土))

ついに帰国する日になった。この2週間あっという間であり、毎日が濃く、日本を離れたことで気づいたことがたくさんあった。アメリカに来るのを決めてからも、アメリカに来るよりも実家に帰りたいと思う気持ちが強く、行きたくないなと思う事も多かったが、今はそうは思わない。アメリカの獣医大学を見れたことで勉強になり、他大学の人たちと交流もでき、何より一緒に行ったメンバーが良かったので楽しく2週間を送れた。1つ大変だったことと言えば、ご飯が合わなかったことである。太って日本に帰るかなと思ったが、少し痩せたのではないかなと思うくらいであった(笑)。日本に帰ったらうどんが食べたい(笑)。いろんな事を経験できて、本当にアメリカに来てよかったなと思った。

2017年ジョージア大学同行教員

小動物第1外科学

石野 寛和

Dr. Hondalus、永田先生、Ms.Pennington をはじめとする UGA のスタッフおよび学生アンバサダーの皆様、鹿児島大学同行教員の遠藤先生のサポートにより充実した研修が無事終了することができ、厚く御礼申し上げます。また、夏季米国3大学研修のため、数々の準備をして頂きました国際交流委員会の皆様に感謝申し上げます。

出国

16時成田発のフライト予定であったため、集合時間を13時と設定した。今回の研修に参加する学生は関東圏以外の出身者が多く、可能であれば成田近辺に宿泊するよう指導し、多くの学生はホテルに宿泊したようであった。私自身、昨年度の同行教員である和田先生より新幹線遅延等の顛末を伝えられており、成田空港付近のホテルに前日泊し、余裕を持った日程を組んだ。出国審査では、飛行機への持ち込み荷物検査に引っかかる学生が複数いたが、それらを除けば大きな問題も無く、速やかに終了した。

ジョージア大学研修では、他の2大学と異なりアトランタ空港への直行便を利用し、乗り継ぎの煩わしさが無い。しかし、アトランタ空港はデルタ航空のハブ空港として開発されており、国際便の発着が多いため、入国審査には2時間程必要であった。今回の研修はジョージア大学スタッフによるお出迎えのあった例年と異なり、シャトルバスをチャーターし、アトランタ空港からアセンズ市へ移動した。

ジョージア大学研修は鹿児島大学および山口大学一行と合同で実施しているが、他大学一行はアメリカ国内での乗り継ぎを経てアトランタ空港へ向かう旅程であったため、空港ではなく宿泊施設にて合流する旨、事前に鹿児島大学の遠藤先生と取り決めていた。大きな混乱もなく、宿泊施設であるジョージアセンターにて合流した。

ジョージア大学における交通手段

渡航翌日に学生アンバサダーが動物病院近くのスーパーマーケットを案内してくれたが、基本的に大学内の循環バスを利用した。ジョージア大学のキャンパスは学部により立地が異なり、研修先の動物病院は宿泊施設より4km程離れていた。研修中は8時から開始される各診療科のカンファレンスに間に合うよう、7時半頃にホテル近くの獣医学部から動物病院へ出発するバスを利用した。日用品の買い足しは研修終了後スーパーに寄るか、動物病院の放射線治療に携わっている永田先生のご厚意により自家用車を出して戴き、学生共々非常にお世話になった。また、ホテルから2マイル以内の距離であればバンによる送迎を行ってくれるサービスがあり、非常に便利であった。

研修

ジョージア大学は1785年に設立され長い歴史を持ち、3万5千人の学生が在籍する全米屈指大学の一つである。特に獣医学部は近年動物病院を建て替え、専門科が充実しており、各地から研修医を受け入れる等、獣医学臨床教育に力を入れていることが伺える。病院の施設は広く、最新鋭の設備が整えられていた。日本と比べ、勤務している方々のうち、多くを動物看護師もしくは放射線技師等の技術職員が占めており、獣医師の比率は低く、診療の分業体制が確立されている。そのため、動物管理や処置時には獣医学生に対する指導を看護師が行っており、個々の学生に対し個々の指導員が割り当てられていた。動物病院内における診療行為の多くを学生が行っていたが、病院内のマンパワーの賜物であるように感じた。現在、日本では参加型臨床実習への転換を図っているが、米国の実習方法をそのまま持ち帰っても機能しないであろうことが予測された。

昨年度は研修先の診療科が二週間固定されていたが、今回のジョージア大学夏季研修は各学生が希望した診療科を1週間毎に2つ巡る形式で実施し、臨床現場を初めて体験する学生にとって非常に興味深い体験になったようである。また、すでに本学動物病院にて臨床を体験している学生に対しては、日本との違い等を確認し、それら方法の違いがもたらす影響や目的を考える貴重な機会となっていた。私

は研修期間中、学生と共に動物病院にて自らが専門とする神経科・神経外科のみならず整形外科、腫瘍科、麻酔科と多岐にわたる診療科を見学した。治療法等は自らが実施している方法と大きな差はなかったものの、病院の規模、設備、そしてアニマルテクニシャンを始めとした獣医師以外のスタッフが充実していた。そのため教員は治療および学生教育に専念出来る環境が整っており、これらが優れた教育効果を生む要因なのであろう。

研修期間中、UGAの教員宅におけるホームパーティーが3度あり、他に学生アンバサダーがディナーに案内してくれる機会が5回ほどあった。今回は、日本らしいお土産として絵柄の手ぬぐいを10枚、九谷焼のスプレーボトルを3個程持参し手渡した。ホームパーティー用のお土産としては充分であったと思われるが、UGAでは学生アンバサダーにお世話になる機会が多く、アンバサダー向けのお土産は不足してしまった。もっと小分けにして渡せる様なお土産を考慮すべきであった。

帰国

帰国前日にアトランタ周辺を観光した。研修参加者全員で行動していたが、アトランタは観光地周辺の治安があまり良くなく、学生へ注意喚起する必要があった。早めに夕食をCNNセンターにて取り、鹿児島大学および山口大学一行と分かれタクシーと永田先生の車に分乗して空港近くのホテルへ移動した。ホテル周辺には飲食店等が無く、来年以降も移動前に食事を済ませた方が良いでしょう。翌日、ホテルからシャトルバスにて国内線乗り場へ移動し、国際線乗り場へ空港内バスを利用して到着した。入国審査は混雑していたが、出国審査は速やかに終了し、帰国の途に着いた。

本年の研修ではUGAスタッフおよび学生アンバサダーの皆様による手厚いサポートを頂戴し、重ねて御礼申し上げます。特に、永田先生には動物病院研修だけでなく、観光や日々の買い出し等様々な面で学生共々お世話になり、なんとお礼を申し上げてよいやら、感謝の言葉ありません。また、鹿児島大学の遠藤先生にも大変助けられ、北里から参加した学生にも指導して頂き、感謝申し上げます。さらに、参加学生の男女比が1:5と偏りがある中参加した唯一の男子学生の中嶋君を始め、今井さん、久保庭さん、田村さん、山崎さんおよび渡邊さん、女の子たちのパワーに終始圧倒されてはありましたが、楽しい2週間を過ごす事ができました。皆さん、ありがとうございました。

Acknowledgements

Thank you for letting me observe you practice medicine.

I am especially thank the student ambassadors for taking care of us and also for taking me to various places.

I learned a lot through this experience abroad and I really want to extend my gratitude towards the oncology and the zoological medicine departments for teaching me many things.

I hope that this experience will make me a better veterinarian and that the things I learned will help me throughout my career.

Manami Imai

Dear. Everyone in UGA

I would like to thank everyone in UGA. Especially Dr. Nagata who guided us around Athens and Atlanta without rest, and Dr. Kaori Sakamoto who arranged I could go Pathology and take care of me, my appreciation can't be expressed in words. Thank to you, I was able to stay comfortable and learn more about Veterinary science. A valuable experience in UGA may help me in the future as a veterinarian. I want to speak in English more frequently and then talk to everyone in UGA again!

Sincerely,
Sayaka Kuboniwa

Dear everyone in UGA

I appreciate your kind hospitality during my stay in Georgia. Everyone answered in my poor English very kindly, and I'm so happy for it. The two weeks flew by so quickly. Thank you for taking care of me, I will never forget your kindness.

I will never forget these wonderful memories.

I would like to visit UGA again.

Aya Tamura

Dear everyone in UGA

I had a really exciting days in UGA. I want to say thank you to everyone. I learned a lot of things that I can't learn in Japan. When I have a question many people teach me the answer.

When I decided to go to UGA I had three purposes. I think I made purposes. I will never forget this experience. I would like to make use of this training for the future.

Next summer I will come back there. I hope to meet you again. Thank you.

Kosuke Nakashima

Dear everyone in UGA

I'd like to thank everyone at the UGA and especially everyone on the Exotic animal team and Large animal surgery team. Two weeks passed by so fast and I had a lot of fun every single day. I enjoyed my stay at the University, and I really wanted to stay there longer. I learned many things that I won't be able to learn in Japan. I hope I can use what I learned at UGA in the future when I work as a veterinarian. I will never forget this experience. I hope to see you again!!

Yukiko Yamazaki

Dear everyone at UGA

Thank you for helping us during my stay in Georgia. I was able to learn veterinary medicine in America and it was a really fun and good experience. I also enjoyed having a different culture from Japan and talking with students in UGA.

I will learn more about veterinary medicine in Japan so that I can become a great veterinarian in the future by making use of my experience in America. Thank you so much.

Sincerely,
Nana Watanabe

Dear all the members of UGA

I am very grateful for your support and hospitality to our students. It was a great pleasure meeting with you, and I truly enjoyed visiting the UGA.

Thank you for providing a valuable opportunity, and I hope it will be a great experience for our students. I wish for your great happiness.

Hirokazu Ishino, DVM, PhD



- 6 -





- 6 -





1785

The University of Georgia

®





1785

The University of Georgia

®





1785

The University of Georgia

®

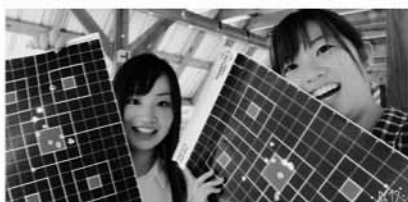




1785

The University of Georgia

®





- 6 -





1785

The University of Georgia®





1785

The University of Georgia

®





- 6 -



The University of Tennessee College of Veterinary Medicine 26 Aug. - 10 Sep. 2017



Dr. James P. Thompson, Yumi Sakura, Satomi Tanaka,
Yuri Koide, Takafumi Haji, Akihiro Morioka, Shogo Yanase,
Yuki Tateishi, Dr. Tsutomu Kakuda

参加者一覧

同行教員：角田 勤 TSUTOMU KAKUDA

氏名	Name	所属研究室
小出 ゆり	YURI KOIDE	獣医臨床繁殖学
佐倉 由美	YUMI SAKURA	獣医病理学
立石 祐樹	YUKI TATEISHI	毒性学
田中 聖心	SATOMI TANAKA	人獣共通感染症学
土師 崇史	TAKAFUMI HAJI	小動物第二外科学
森岡 亮裕	AKIHIRO MORIOKA	獣医伝染病学
梁瀬 将豪	CHANGHO YANG	獣医放射線学

テネシー大学 研修報告書

小出 ゆり

1 日目 (土)

今日はダラス経由でノックスビルに着いた。空港では USA の人々と楽しい会話やジョークをする機会や、人々の大らかさに触れる機会があった。例えば、経由地ダラスでは次の便までの空き時間にプレッツェルとコーヒーで時間を潰したのだが、そこでセルフ式サービスのコーヒーポットが空になり、拙い英語で店員さんに声をかけてみた。手荷物検査で bag を日本語で何というのか聞かれ、外国人から日本語で挨拶をされ、親切な案内役の方が乗り換えの搭乗口まで行く方法を教えてくれた（モノレールに乗らなければいけない）。私や相手や周囲の人のちょっとしたミスで冗談や面白いことがあると笑って、話すことは少なかったけど人との関わりがたくさんあった。英語が出てこないし、語彙力は皆無で、相手の言っていることが分からない時も多い。けれど、とにかく目を見て、少しでもちゃんと会話ができるように頑張りたい。買い物する時は挨拶をするとそれだけで店員さんが笑顔になるし、心配だった発音は思ったよりも相手にしっかりと通じているみたいなので、怖じけずに自信を持ちたい。それから Market Abe 方面まで散策した（おしゃれなカフェがたくさん並んでいる）。夕食は最寄りのコンビニのようなショップで買った冷凍ピザと、チーズのパイ、アイスを買った。ピザが驚くほど安くて美味しい。

2 日目 (日)

大学ツアーで獣医学部の施設全体を案内してもらった。施設内は一つの屋根の下に全て収まっており、小動物、大動物は床の色で大きく分かれ、講義室や解剖実習部屋、剖検・病理室、別で病理室で解剖した臓器を説明する部屋、といった教育施設と病院、処置室、放射線室も同じ建物内にある。小動物施設は日本とほとんど変わらないように思えたが、違うところとして、オーナーとの相談や心のケアが必要な学生のためにカウンセラー専用で他の部屋とは違って照明が温かみのあるオレンジでソファや絵がありとても落ち着いた雰囲気の部屋、リハビリのトレーニング用にボールが置いてあるレクリエーション専用の部屋、ウォータートレッドミル、栄養を考えた食事を組み合わせて提供できるようたくさんのフードが保管してある部屋があった。リハビリや食事に関心を持って力を入れていることに驚いた。大動物の施設は広く、馬用と産業動物用に分かれており、綺麗で匂いがほとんどしなかった。馬の入院棟

には床敷には粗めのオガクズ、産業動物には敷き藁がたっぷりと敷いてあり、常に綺麗にしてあった。生徒もするが、スタッフが常在していて世話をしていた。牛、馬、大きめの豚は1匹ずつ、子豚とヤギは数匹ずつ、部屋が広く用意されていた。産業動物用の施設では大きな柵が巡らされており、牛等はその中を歩いて入院室や処置室などに移動する。扱っている生徒に怪我がないようにするためだそう。処置室は何もなく、患者のためにも極力物が置かないようにしてあるそう。産業動物の施設にはラクダやアルパカ、ラマも来る。馬用の施設では、馬が入れる大きな酸素チャンバーがあり、この施設は USA 内でも稀だそう。また、馬用のウォータートレッドミルは朝に行っている。脚を冷やすための専用機械もあった。大きな運動場や、自動で柵が回って馬がその中を走る様子を見学させてもらった。X線、CT、MRI の部屋も小動物とは別で、大動物専用に分けられていた。部屋が大きく、大きな馬も入る事ができる。エチゾチックアニマル専用の処置室と獣医師、大型のエキゾチックであるトラなどの動物用の処置室もあり、すぐそこに麻酔銃が用意されていて、もし麻酔が覚めて起きてしまった時は直ちに退避して打つと言っていた。

スーパーで買い物をしたが、ピザが日本と比べてとても安いし、ブロックのチーズやハムが売っており、想像していたよりもずっと価格が手頃だった。

3 日目 (月)

ローテーション d 1, Farm Animal. 10 人ほどの大学の学生と一緒に、昨日見せてもらった大動物の施設をさらに詳しく見せてもらった。牛を保定する機械数個の使い方の説明を受け、1 つ実際に手で触れて動かしてみた。背が低くてレバーまで手が届かなくて、生徒とたちと一緒に笑った。それでも頑張ってレバーを下げたら先生に褒められた。牛を自動で横臥させるための大型の機械があり、脚を縛る際のやり方が日本とは違った。昨日見た大きな柵が巡らされて、その中を歩いて入院室や処置室などに移動する装置は牛側からは押せないようになっていて、人側から押して牛を追うことができる。大きなヘラのようなものを腕のように使って牛を追う。体重計がついた道（体重計は普段北里で使っているものと同様だった）、処置ができるように穴や柵が一部取れる仕掛けの柵など大学内の施設には様々な工夫がされていた。午後はヤギの水腫をエコーで見てドレーンチューブを入れ留置し、その後は子豚の腫瘍の摘出と麻酔管理、難産の牛のエコーと尾椎硬膜外麻酔を見学した。生徒がオーナーの前で問診や処置をしていることが驚きだった。先生に1対1で教えてもらいながら、自ら手を動かしている姿は憧れ

た。先生は生徒に指示することよりも、生徒に考えさせていた。最後に生徒たちが自分の症例について、動物種、名前（産業動物でも可愛い名前が付いている）、来院理由、病名、今どんな処置をしているかを説明し、ほかの生徒や先生からアドバイスやディスカッションをする時間が1時間ほどあった。1日中症例の処置が続き、生徒たちはお昼合間を縫ってぱっと済ませ、救急の夜勤、学生室に戻ってきても症例の打ち込みでパソコンに向かい休みがなく、とても忙しい。しかし私が質問したり話しかければ快く対応してくれて、よく話かけてもくれる。親切で有難い。今日は体調が優れなくて積極的にいくことができなかったし、椅子に座って寝てしまったことが悔やまれる。明日からは自分からもっと積極的に行くことができるように気を引き締めていきたい。

4日目（火）

ローテーション d 2 . Farm Animal. 処置を随時見学した。ラクダが来院したのが印象的だった。動物園から体重減少のため来院したということで、エコー検査や採血、胃汁の検査を行った。生徒や先生に症例のことを詳しく聞き、写真を撮り、胃汁の顕微鏡像を見せてもらった。二日前くらいに食べ物を食べたら吐き、胃中の検査では pH、細菌や原生生物などの微生物を検査した。大きな嫌気性菌は死滅していて、小さい嫌気性菌は元気に動いていた。診断として消化管内の潰瘍や癌が疑われ、明日肝臓の生検を行うとのことだ。

5日目（水）

ローテーション d 3. Farm Animal. 今日9時から Round があり、生徒が各々担当している患畜の説明とアドバイスを先生やほかの生徒に求め、先生が学生に質問し、ディスカッションしていた。その後随時処置を見学し、4時から尿石に関してのディスカッション、5時から症例検証のミーティングがあった。昨日来ていたラクダは、今日エコーと腹水の採取、採血の処置が行われた。その後に軽く大学内を散歩していた。ラクダの担当の学生に思切ってコンタクトを取ると、快く説明してくれ、写真を撮らせてくれたり、メールで写真を送ってくれたり、メールでこれからの診断の過程を送ってくれる事になり、カルテも見せてくれた。説明がうまく聞き取れず、またこちらから上手く伝えることができず、コミュニケーション能力の低さに反省すべきことも多いが、コンタクトをとってよかった。

6日目（木）

ローテーション d 4. Equine Medicine. 8時過ぎに全体ミーティングがあり、4人ほどのグループで

いくつかの症例を説明して、先生がアドバイスをしていた。ここのミーティングではスクリーンを使って写真を見せていたグループがあった。その後にあるグループに1日中密着して、入院している馬2頭のお世話と処置の見学をして、グループ内のミーティングに参加した。また、色素網膜症の症例についてスクリーンでビデオを交えながら先生が生徒に質問をして勉強会をした。その後に、後足に膿瘍がある馬の安楽殺を行い、外科の縫合と胸腔ドレーンチューブの留置の方法を教えてもらい実際にやった。とても親切な若い女性の獣医さんに「やってみる？やってみよう！」と聞かれた時はとても嬉しかった。縫合は外科の授業でやった単結紮を頸部に10 cmほど行った。ドレーンは肋骨の頭側の肋間に刺し、スタイレットを抜いてチューブを留置した。ここから本来なら更にチャイニーズフィンガートラップを行うそう。先生に教えてもらい、ビニールテープを一人一つずつもらって外科の手結びの方法を教えてもらった。勉強会の時も、ほかの生徒と同じように私を扱ってくれてとても嬉しかった。UTの生徒と一緒に実際の動物の皮膚で結紮の練習ができる機会はとても貴重な時間だった。このような結紮の練習はUT自体でもなかなかないそうで、とてもいい経験をさせてもらえた。先生はなかなか言葉が伝わらない私に愛想をつかすことなく最後まで教えてくださった。昨日からコンタクトをとっているラクダの患畜担当の生徒にも今日学生室であって話をして、とても忙しい中メールを送ってくれ嫌な顔をせずに貴重な時間を割いていただいていた、本当に感謝しかない。更に「来てくれてありがとう！」と言われた時は、こちらがご迷惑をかけているのにここの生徒は本当にいい人だと感動した。

7日目（金）

ローテーション d 5. Equine Medicine. 昨日と同じチームの生徒たちに付いて、処置や診察を見学させてもらった。昨日処置した白い馬に、褥瘡にレーザーを2分間当てる処置と筋肉に電気を流す処置を行い、私も処置させてもらえた。また、疝痛で入院している馬を散歩に連れて行くのを見学した。外来でとても大きな黒い馬が来て、TPRをとった後にエコー検査を行なった。肺や心臓のエコー画像を見た後に、この馬は妊娠中のため、胎児の心拍を確認した。更に安静時、運動時の両方で候頭鏡での検査も行った。運動時では初日に見学させてもらった大きな運動場で人が馬に乗り、喉頭鏡を腰のポケットと頭絡にくくりつけ、画像は遠隔で確認していた。さらには気管支洗浄液を採取し細胞学的検査を行うためにラボに依頼しに行った。白い馬のシャンプーも見学させてもらった。

また、学部長の家で、大学の先生方、カーク先生、シューマッハ先生、ハナさん、1・2年の生徒たちと大きなパーティーがあった。アメリカ形式の大きなパーティーに参加できたのはとてもいい経験になった。ハナさんとほかの生徒ともおしゃべりできた。大きな庭のある、映画のセレブのような広い家で大人数、海外ドラマのような憧れの世界だった。

8日目(土)

午前は Knoxville zoo に行った。アメリカの中では小さい動物園ということだったが、広さは実際に日本の自分の地元の動物園と同じくらいで、日本では見たことがない動物がたくさんいた。例えばカラフルな鳥、ビーバー、マレーシアタイガー、スカンクラクダ(ラクダは大動物の患畜に来ていた子が、私が人生で初めて見た子で、ここの動物園の子ではなかったので、アメリカの動物園ではラクダはよくいるのかと思う。日本ではあまり見かけることはない)は生まれて初めて見た。イノシシだが日本のそれとは顔つきが違ったり、レッサーパンダやゴリラは活き活きと活動していたり、ラクダに乗れたり、日本との違いも発見できた。逆に、設備においては、確かにアメリカは自然に近い形にしているのかもしれないが日本でも最近はこのような広い飼育スペースや環境エンリッチメントを考慮している動物園も多いので、日本が劣っているということは全くないと感じた。シューマッハ先生に象やチンパンジー、ゴリラの説明を受けて、さすがエキゾチックの先生だと感動した。先生は2年前にここに来ていたそう。チンパンジーやゴリラが先生のところを覚えていて、感動の再会をしていた。先生も一人一人の名前をちゃんと覚えて、挨拶をしていた。これぞ動物と喋れる獣医師という感じがしていて、とても憧れた。動物としてではなく、友達のように接している姿に感銘を受けた。私たちが単に写真でパシャパシャと動物を撮ることへの疑問を抱いた。解説をしっかり読んだり、動物を目で観察したり、なぜこの子がここに来たかなど学ぶべきことも多い。ここの動物園の象はサーカスなどから保護されているそうだ。解説には、餌、生息地域、特徴が細かく記載されていた。午後には Smokey's Baseball Game のホームグラウンドで野球観戦をした。地元の野球試合だがスタジアムは広く、人も売店もとてもたくさんあって驚いた。接戦でとても盛り上がった。英会話で勉強した野球の歌「Take Me Out to the Ball Game」が流れた時は一緒に歌うことができて感動した。

9日目(日)

Great Smoky Mountains National Park にカーク先生、ハナさん、リッキーさんと一緒にハイキン

グに行った。上流は奥入瀬のような溪流が広がり、進んでいくと広大な平野が広がっていた。川の溪流で SUBWAY とポテトチップスを食べて、尾根を登った。たくさんの子供連れが来ていた。ハナさんとリッキーさんとたくさんおしゃべりができた。夕方には Bearden Beer Market に行った。美味しいビールとともに、アメリカ人とフランクに喋りができて嬉しかった。リッキーさんと二人で1時間以上語り合い、興味のある分野について話げできた。そのあとに board game のサッカーを4人でやっても盛り上がった。最初は言葉の壁がとても怖かったが、同じ年代の学生と同じ目線で会話できたことに感動した。

10日目(月)

今日は Rafting を楽しんだ。Rafting は急流をボートで下るアトラクションで、川水をかぶったり、流れがないところではボートから出て川を少し泳いだりした。多くの人に来ていて、川に入るまでたくさんの人ばかりができていたが、川に入ると周りの人々がいなくなり、大自然を独り占めすることができた。それだけ川幅がとても広がった。Rafting の時間は1時間以上あり、時間の長さで想像以上のアクティビティの面白さに驚いた。インストラクターの方がとても気さくな人で、場を大いに盛り上げてくれて、水しぶきを浴びるスポットでは他のチームよりも多い回数と水しぶきの量でサービスしてくれて嬉しかった。

11日目(火)

ローテーション d 6. Equine Surgery. 馬の処置を中心に見学をさせてもらった。Equine Medicine との違いは特になかったが、Medicine の時は生徒4人のグループに同行させてもらって日々の処置、勉強会にも参加したが、Surgery では処置を中心に自由に見学した。処置室には次々に馬が来て、包帯を巻き直したり、注射を打ったり、消毒をしたりした。以前から入院している首に大きな穴が空いてしまったポニーの処置、この子と同じように噛まれて首に穴の空いてしまった馬の処置であった。入院室では土曜日に疝痛の手術をした馬のエコーを見せてもらった。胃、肝臓、さらには腸管が蠕動運動しているのを見た。他の学部か大学から来ている学生の校内ツアーに少し参加させてもらって、奥にある運動場、ウォータートレッドミル、入院室を再度説明してもらえた。今日の説明での新たな発見は、外部からやってくるトラックが入れる道が、馬の蹄に優しいように地面がふかふかになっている事と、酸素室にカメラがついている事だった。入院室がずらりと並ぶ大きな部屋は全部で3箇所もあり、処置室は

いたるところに数カ所と、メインが2箇所、シャワー室や運動場、病院の受付からカウンセラー室まで、馬だけに特化した設備の多さと広さに改めて感動した。学生室、VT、ミーティングルーム、カンファレンスルーム、講義室もいくつもあり、教育面での設備もすぐ近くに十分に完備されている。また、今日はシューマッカー先生の、尿石症や陰茎の生殖器の障害に関する講義を受けることができた。パワーポイントを用いて写真付きで詳しく講義していただいた。今日の朝に、昨日入院して来た馬から採取された尿石を見せてもらったのだが（今日退院した）、同じ写真が並んでいたの、朝見せてもらったときはイマイチわからなかったが解決してよかった。また、4時半から病理の講義に参加した。症例発表で、小さな鳥（肥満、黄疸）、犬（肝臓に白斑、胃内にマイクロカメラ）、兎、大きなブタに似た動物（肝臓に腫瘍、腎臓に大きな膿瘍）、たくさんの症例を1日だけで見る事ができた。このように大学生全員にオープンにして病理解剖の結果を見せ説明してくれることは有難いと思った。重要なところが簡潔にまとめられていて時間も短いし、この時間に来れば誰でも、症例を見て説明を受けることができる。日本では見られないような、和やかな雰囲気の中で、先生と生徒のジョークも交えた会話と質疑応答がとても印象的だった。

12日目（水）

ローテーション d 7. Equine Surgery. 今日は大きな予定が多い日だった。廊下には絶え間なく馬が通っていて、何頭もの馬が処置や入院室に入っていた。まず、雄馬のMRI検査の見学があった。蹄から中手骨にかけての撮影で、馬がMRIの機械に前足だけ突っ込む形で撮影された。健が黒く映るべき箇所が若干白っぽくなっており、屈腱炎らしかった。それ以外は、正常だということだった。このような大きな馬がMRI撮影されている姿は北里では見ることができないし、テネシー大学でも月に一度ということだったので、とても貴重な経験だった。さらに、入院中の雄馬を2頭用いて食道挿管、胸水採取、直腸検査、椎麻酔の練習をした。直腸検査では、腎臓と脾臓を確認することが目的で、腎臓は手首を曲げた際の骨の硬さに似ているそう。結果触知することはできなかったが、雄馬の直検ができたことは貴重だった。次に、馬の頭部の解剖があった。初回のEquine Medicineの時に縫合の練習をさせてもらった馬の頭部が冷凍保存してあり、咽頭、喉頭、鼻腔の解剖が行われ、説明を受けた。咽頭喉頭では、解剖的なレクチャーの他に、喉頭蓋背方変位が怒った際の喉頭の様子、タイバックとタイホワードの術式を、本物の咽頭を使って説明された。5年前期で

習った事だったので、理解がさらに進み、また実際の馬で見る事は日本ではなかなかできないので感動した。タイバックとタイホワードは、実際の手術ではどこをポイントにして刺せば良いかという事と、術後にどのように喉頭が固定されて効果があるのかを、触れて見て確認する事が出来た。鼻腔の構造も、複雑で今まできちんと理解していなかったが、教科書では文の説明だけで理解できなかった事が理解できた。

13日目（木）

ローテーション d 8. Pathology. 午前中は血液塗抹標本を顕微鏡で先生と見ながら勉強会、午後は病理解剖した。病理解剖の内容は、子猫、子鹿、妊娠牛、驚くことに蛇の解剖まで行った。また、つい1時間前に死んだ雄馬も急遽来た。馬以外の検体は大学の学生が同時進行で各々の持ち場で進めていて、手際も良く、感心した。病理解剖の手順を記したラミネートされた紙にチェックをつけながら採材したり、採材した臓器の重量や大きさを測定したり、写真を撮っていた。つなぎに撥水性のビニールエプロンをかけただけでマスクや帽子は着用しない簡易的な格好であった（感染予防のためした方が良いと思われたが、これは野生動物を解剖している事実にも当てはまる）。冷蔵室は何mもあるとても大きなものだった。上から誰でも見学する事ができ、馬の解剖の際にはEquine Surgeryでお世話になった先生や生徒が靴にビニールをかぶせただけの状態で見学に来ていた。刃物を収納する壁が磁石でできており、引っ付けて置ける事ができる。子鹿の解剖の際には自分で刀を持って皮膚を剥がした。子鹿は心臓が少し大きかったのと右肺が若干小さかったことを除けば正常だった。蛇は体全身に肋骨が巡っていて、食道、血管、心臓、肝臓、胆嚢ははっきりと確認できた。妊娠牛は解剖で奇形の胎児が摘出された。胎児はとても大きく、見た目は頭部が低形成で浮腫を起こしているようにずんぐりしていた。胎児を解剖すると心臓は小さく、筋肉や肺の構造は正常のものと逸脱していた。雄馬は昨日の夜に疝痛で病院に来院し、今日手術が行われたが、つい1時間半前に死んだそう。まだ温かく、時折筋や腸が運動していた。筋肉や腸間膜の黄疸が激しく、空回腸に大きな腫瘍が出来ていた。

14日目（金）

午前中はローテーション d 9. Pathology. 午後は症例発表会だった。午前中は昨日と同じで先生と生徒と勉強会だった。血液塗抹を見ながら患者の状態や想定される病気をディスカッションした。症例発表会ではカーク先生、シューマッハ先生、Equine

Medicine の生徒さんまで来てくださって、とても緊張した。みんなの発表も聞けてとても勉強になった。

15 日目 (土)

朝 5 時半にチェックアウトし、空港に向かった。シカゴで乗り換えした際には日本人もちらほらいた。テネシー大学では日本人やアジア系の人は少なかった。Pathology でお世話になった生徒の方は唯一アジア系の子であった。ミーティングの場所を教えてください、つなぎや前掛けを貸してくれたり、一緒にお弁当を食べて、さらにはおまんじゅうもくれた。

UTCVM の生徒や先生、スタッフの方々は皆親切で、話しければいろんな事を丁寧に教えてくれた。また、緊張でガチガチだった私に気さくに話しかけてくださった。生徒も朝 7 時前には大学にいて、患者のお世話をしていたし、夜も担当する事がある。けれど生徒も含めみんな愚痴も言わず、だらけず、しっかりと働いて勉強している姿を目の当たりにした。みんなが朝から晩まで大学に詰めて勉強していた。今までの自分と日本の大学生の生活との違いに愕然とした。大学の講義や勉強会、ミーティングで寝ている人を一人も見かけなかった。私は不覚にも時差と英語詰め疲れで寝ている事が多かったのをとても反省した。そしてこれからの大学生活では UT の生徒に負けたくないよう頑張りたい。

佐倉 由美

8 月 26 日 (土)

前日から京成成田のホテルに宿泊し、朝成田空港へ向かいました。およそ 12 時間のフライトでしたが、機内では映画を 5 本見て満足しました。ダラスに到着すると入国手続きをしますが、私だけ機械に表示される質問に答えて写真と指紋をとるだけで良く、審査官から直接質問されませんでした。入国スタンプも押されなかったのも、このままでいいのか心配になりましたが、確認してみても OK と言われました。ノックスビル空港に到着するとカーク先生が出迎えてくれ、宿まで案内して下さいました。一人一人にプレゼントと水やお菓子を調達してくれてとてもありがたかったです。宿は想像以上に広くてきれいで二週間快適に過ごせそうでした。

その後は周辺をみんなで散歩し、夕食のピザと朝食の材料を買いました。カフェや店が多く並ぶ通りではアメリカらしい雰囲気を感じました。イベント事があるらしくドレスとタキシードを着た人たちがたくさんいました。

8 月 27 日 (日)

朝は女子 3 人でハンバーガーを作って食べました。昨日買ったソーセージと書いてあったものはまさかの生の挽肉状態で、フライパンで焼かなければなりませんでした。ほかにチーズとトマトを挟み、味付けは特にしなかったものの元々の味でおいしく出来上がりました。

11 時からカーク先生に獣医学部内の施設を案内して貰いました。小動物診療室の数は北里大学よりずっと多く、またバランスボールやプールが置いてあるリハビリ用の部屋がありました。医療面接の練習する部屋にはビデオとレコーダーがついていました。Farm animal の酸素チャンバーや馬のプールや歩様を見るサークル、馬場もあるなど充実していました。豚も治療のケージにいて、日本での学外実習の経験上、豚は治療せずに淘汰してしまう印象があったので広々としたケージに豚がいることに驚きました。レントゲンの部屋の前には電話線を飲んでしまった患者のレントゲン写真や、test patients と書いてあるパイナップルを写したレントゲン写真があり面白かったです。馬に関する施設は、以前実習先で見た日本の競走馬の診療所よりも広く充実していました。お昼にはメキシコ料理店に行き、チミチャンガを食べました。メキシカン料理はおいしかったです。その後 Walmart に行き主に朝食の買い出しが出来ました。夕食はハンバーガーを再び作り食べました。

8 月 28 日 (月)

朝 7 時半にカーク先生が迎えに来て下さいました。ローテーションの一日目でエキゾチックアニマルを見学しました。Dr.Greenacre, Dr.Janet, Breanna さん、Octavia さんに特にお世話になりました。獣医師は 5 人程いましたが全員女性の方で、アメリカでは日本以上に女性の獣医師が活躍しているのだなと思いました。午前中はオリエンテーションでエキゾの部屋を説明してもらいました。その後死体の鳥 4 羽を使って注射と包帯の練習を実際にやらせてもらいました。カラスと水鳥とフクロウという日本ではなかなか患者として見ない鳥を扱えました。腹腔内と肘の部分の注射をしました。午後は予約患者の診察を行いました。モルモット (Guinea Pig) 4 匹、インスリノーマのフェレット、外傷がある鶏、カラスを診ました。モルモットの MRI、X 線、エコー検査を見学することができ面白かったです。MRI をとったモルモットは肺炎だと分かりました。うさぎやフェレットの心拍数は 150~200 くらいととても多いので 6 秒聞いて 10 倍すると楽だと話していました。ポリクリのようにローテーションで回っている 4 年生の学生がいましたが、学生

が診察は一人で行いオーナーから話を聞いて動物を預かっていたので驚きました。お昼ご飯は4年生の学生が売店まで連れて行ってくれ、一緒に食べました。とても親切で優しい方で本当に助かりました。16時半からは病理解剖の説明に参加しました。腎臓が一つしかない症例など興味深いものでした。

8月29日(火)

今日はエキゾチックの二日目でした。リス、カラス、雀、インコ、モルモット、カメ、うさぎ、トカゲとたくさんの種類の動物を見ました。今日は飼いうさぎではない、拾われたうさぎが4匹程来しました。もちろん処置をして様子を見ましたが、もう助からないだろうというものはKCLを用いて安楽死していました。この処置も学生が行っていて驚きました。道路で拾ったというカメは甲羅を怪我していて、抗生物質を含むクリームを付けてテープを貼っていました。甲羅が閉まるボックススタートルという種でした。様子をみてのりでくっつけるそうです。カメの手に注射するのは堅くて難しそうでした。昨日から入院しているリスにミルクをあげる際はリスをタオル越しですが持たせてもらいました。注射器を握って飲む姿はとてもかわいかったです。

ほかにもインコの心音を聞いて雑音があると言っていたり、トカゲの尾静脈から採血している様子や、入院しているカラスを診察台の上に乗せ、紙で作ったボールを投げて遊んだり、普段見ることが出来ないエキゾ診療を満喫することが出来ました。トカゲとモルモットのX線撮影も見ましたが、初めて見たのでとても興味深く面白かったです。診察にも何度か同行させてもらいましたが、学生がオーナーさんから話を聞きだすスキルが高くとても感心しました。言葉に迷いや不安が感じられず自信があり、オーナーさんも学生というより一人前の獣医師として見ているようでした。自分に十分な知識があることが前提ですが、堂々と話す姿を見習いたいと思いました。

夕食後、シャワーを浴びていたら、突然大音量のアラームが鳴り響くというハプニングがありました。自分がなにか鳴らしてしまったのかと心配になりましたが、建物全体にfire alarmが鳴っていました。念のため外に避難すると、他の学生も大勢外に出ていました。まさかの出来事で本当にびっくりしました。近くにいた学生によるとわりとよくあることみたいです。15分ぐらいたった後鳴り止み、みんな部屋に戻りました。夜はみんなでお菓子パーティー&情報交換会をやりました。今まであまり話したことがない人もいた7人のメンバーでしたが、みんなと仲良くなれて本当に楽しかったです。大動物にラクダが来た話など、他のローテーションの情

報も聞けて良かったです。

8月30日(水)

今日1日はSmall Animal Rehabilitationに行きました。一日で様々なリハビリを見ることが出来ました。原因で最も多かったのはTPLOの犬で、他はハンソントイプ3のヘルニアがありました。TPLOは前期の整形の授業でやったばかりだったのでこんなに日常的にあるものと分かって良かったです。ウォータートレッドミル、プール、ランニングマシン、バランスボール、電気療法、レーザー療法、冷やしながら圧を加えるものなど、初めて見るものばかりで、日本ではなかなか見られないのでとても面白かったです。ハスキー犬は4週間歩けなかったが、2週間前から歩けるようになったと教えてくれました。後肢を使えないダルメシアンもウォータートレッドミルで頑張っている姿は印象的でした。赤い髪の毛が特徴のノルウェーから来たというVTさんは犬を褒めるのが本当に上手で、犬も嫌々やっているとより、楽しくやっているように見えました。リハビリとは別の建物では、歩行させて、犬が足を踏み込むときと、上げるときの圧力の違いをセンサーで計測するのを見学しました。口の中を蛇にかまれたという犬が酸素療法を使いに来ているのも見ることが出来ました。夕食は大学の敷地にあるパンダエクスプレスにみんなで行きました。毎日同じようなサンドイッチが続いていたので、久しぶりにお米を食べることが出来ておいしかったです。

8月31日(木)

今朝は起きたら自分の部屋の電気が付かず、困惑することから始まりました。全部屋なっているかと思ったら、自分の部屋だけで、充電も出来ない状況でした。カーク先生に相談するしかないと思っていたら、男子が同じ状況になったことがあったようで、ブレーカーの問題だからそこを直せば大丈夫だと解決してくれました。ローテーションはFarm Animalに参加しました。9時から症例の確認と説明があり、その後は乳牛の第四胃左方変異の手術を見ることが出来ました。初めてピング音を実際に聞くことが出来、感動しました。ローリングは足にロープを結び1,2,3!と声を掛けて人力で動かししました。人手が必要で大がかりにはなりますが、メスで切った1cmくらいの切開が4つ出来るだけで、傷口が小さくすむのはいいなと思いました。四変の手術が、しかもローリング法をちょうど見られるなんてラッキーでした。午後はアルパカのエコー検査、豚のエコー検査等を行いました。アルパカの検査をするときは唾が人に飛ばないように口にタオルを巻かれていたのが面白かったです。腎不全を疑っているよう

で、腎臓の形と膀胱を見ていました。入院している動物園のラクダもいて、かわいいラクダを間近で見て触ることも出来ました。アルパカやラクダなど様々な動物を見られるなんてアメリカの大学病院らしいなと思いました。夕食は部屋で、茹でるタイプのまるちゃん麺とスイカを食べました。カーク先生が用意して下さった中に割箸があったので助かりました。チキンカレーのような味でしたがおいしかったです。友達が行った先のローテーションの話を聞き、盛り上がりました。違う課の面白い話を聞くとうらやましくもなりました。

9月1日（金）

今朝の朝ご飯は持参したインスタント味噌汁を飲み、ほっこり出来ました。ローテーションは **Farm Animal** の二日目でした。午前中は大きな手術ではなく、それぞれが担当の患畜のお世話をしたり豚のワクチン接種をしたりしました。時間があった分、昨日よりも積極的に学生に質問したり会話したりすることが出来ました。昨日診ていたアルパカが昨日の夜に倒れ予後が悪く安楽殺したのを聞いたときは、驚きました。CCL、前十字靱帯の断裂の牛はエコー検査をして腫脹やフィブリンがあるのが確認できました。その後手術の抜糸もしました。牛の CCL で、しかも手術を行うのは珍しいようです。お昼は持参したサンドイッチと、ヨーグルトを食べました。午後は蹄病の治療をした二頭の牛の再診を見ることが出来ました。二頭とも大きな雄牛で、一頭は数週間前に白線病の治療を、もう一頭は蹄葉炎、蹄膿瘍の治療をした牛でした。これらの処置をする際に、牛を回転できる枠場のような中に入れ、横に倒して処置していました。このような機械を初めて見てすごいなと思いました。畜主はいかにもアメリカの農場という雰囲気格好と車で来ていてそれも面白かったです。白帯病や蹄葉炎、蹄ブロックも初めて実際に見る事が出来ました。

夜は学部長の先生の家のパーティーに参加しました。大学から車で 30 分くらいの先生のお宅は想像以上にとても広くて、おしゃれで、本当にすてきでした。お庭にはロープがぶらさがっていたり、噴水のように水が出ていたり、先生の部屋にジムのような部屋があったり圧巻でした。ハナさんとシューマッハ先生にも会えました。1・2年生の学生も参加していて、2年生の学生の何人かとお話出来ました。メキシカン料理やお酒や大きなクッキーもおいしかったです。帰りの車もみんなでわいわいしゃべって、おなか痛くなるほど笑って楽しかったです。

9月2日（土）

今日は 10 時から **Knoxville Zoo** に行き、夜は野球観戦に連れて行って頂きました。シューマッハ先生がチンパンジーとコミュニケーションをとっているのを見たときはとても感動しました。初めてラクダに乗ることが出来たり、キリンを間近で見ることが出来たり、チンパンジーの生き生きとした姿を見ることが出来とても楽しかったです。夜は、**Smokey's** の野球の試合を見ました。私は初めて野球場で試合を見ました。ホットドックと甘いケーキを食べ、みんなでお酒を飲みながら観戦してとても盛り上がりました。点を入れるとラマが跳ねている動画が流れたり、叫んだり、間に観客を楽しませる謎のイベントがあったり、アメリカの試合はすごいなと色々と感じました。最初はなかなか点が入りませんでした。最後には逆転勝利し楽しめました。アメリカに着いて 1 週間経って、観光といえる楽しい事が出来て充実した一日でした。既に日本に帰りたくなりました。

9月3日（日）

今日は **Great Smokey Mountains National Park** に行きました。ハナさんと友達のリッキーさんも一緒に行きました。昨日は天気は安定せず、寒かったですが、今日は晴れてハイキング日和でした。**Smokey Mountains** の道中は奥入瀬溪流にそっくりで、帰ってきたような気分になりました。昔の家や教会を見た後、きれいな川岸で **subway** のサンドイッチとクッキー、ポテチを食べました。車を降りてからハイキングをして自然を堪能しました。先頭を歩いていたカーク先生はとても元気でした。野生の黒い子熊やシカも見ることが出来ました。サトウキビを挽いているラバや、水車でコーンを粉にしている様子も見ました。ソフトクリームも頂いて、おいしかったです。夜は **Beer Market** でオススメのビールを飲みながらハナさんやハナさんの友達と交流できました。ジェンガやハンモック、フリスビーなどもあり、遊びながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。女子三人と角田先生でやった大きいジェンガは想像以上に熱戦となり、背が届かないほどになりました。日本に来たことがあるという学生とは話が盛り上がり、アメリカの獣医学生のことや獣医事情も聞くことが出来ました。帰ってからは部屋でみんな揃ってピザお菓子パーティーをしました。

9月4日（月）

今日はラフティングをやりに行きました。途中でマクドナルドに寄りお昼を食べました。ラフティングは想像以上に楽しかったです。私はカーク先生を

含む6人のボートに乗りましたが、舵を取ってくれた方がサービス精神旺盛で、他のどこのボートより激流に長く何度も連れて行ってくれました。全身濡れたし、水がたくさん入ってきて本当に沈むかと思いました。途中、ボートから降りて泳ぐことが出来、水は冷たかったのですが気持ちよかったです。思った以上に長い間川を下り、天気も良く、川も山もきれいで最高の日でした。帰りの車内ではカーク先生がお菓子をたくさん用意して下さっており、お腹がすいていたのでたくさん頂きました。カーク先生は私たちに尽くしてくれる本当に優しい先生で感謝してもしきれません。夜はWalmartに買い物に行き、食料や、先生に渡すプレゼントの材料を買いに行きました。女子はお土産も買っていたことで、男子には長い時間待たせてしまい申し訳なかったのですが、文句も言わずに待ってくれて感謝です。帰ってから冷食の Pasta を食べましたが、1ドルなのにととてもおいしかったです。

9月5日（火）

今日のローテーションでは Equine Surgery に行きました。馬に噛まれたドンキー二頭や、車にひかれた馬、褥瘡が出来ている馬、膝の関節炎のため高酸素室に入れられている馬、骨炎の馬、疝痛の手術をした後の馬を診ました。疝痛の馬はエコーで腸の動きを確認していました。そもそも日本で競走馬でない、ペットの馬をこんなに見ない上、噛まれたり車にひかれたりなど、原因が衝撃的でした。午後からはシューマッハ先生が生殖器の尿石について授業して下さいました。その後はやる事が全くなくなってしまったので、今日は早めに抜け、先週の月曜にも行った、16時半からの病理解剖の説明に行きました。こちらでは一日に5～6件の解剖が行われていて、北里の病理研究室で1週間に2度解剖があっても多いと感じている私には信じられません。そしてテネシー大学がやっているように一日の解剖のまとめを病理専攻以外の人も自由に聞きにくることが出来るのはいいシステムだなと思いました。肝臓と肺にマスがある豚、緑のクリームが大量に詰まった腎臓、カメラを飲んでしまった症例、鳥、黄疸の症例など15分くらいの説明ではありましたが、とても面白い症例をたくさん見ることが出来ました。今日は雨がひどい一日で雷もなり、昨日のラフティングは晴天の中行う事が出来て本当に良かったと思いました。夜は冷凍のチミチャンゴとポップコーンを食べました。

9月6日（水）

今日は Equine surgery の2日目でした。午前中は昨日と同様に噛まれたドンキーの傷を洗い新しく

巻き直した後、馬のMRIを見学することが出来ました。麻酔をかけて倒馬させ、クレーンで吊り上げて台に乗せ、MRIをとる部屋まで行きました。月に一度程しかないらしく、見る事が出来てとてもラッキーでした。おそらく屈腱炎の4才の馬で、MRIの画像上で腱が白くもやもやと映っているのが確認出来ました。骨には異常はありませんでした。こちらの人は Don't drink と書いてある部屋で飲み物を飲んだり、床に無菌の手袋を置いたりびっくりすることもありました。その後は昨日出来なかった馬の頭部の解剖を見ることが出来ました。舌骨装置や鼻腔あたりの構造をよく見せてくれました。馬のこれらの構造をしっかりと見せてもらったことがなかったのととても勉強になりました。軟口蓋背方変位のときの治療で行う tie back や tie forward を実際にどこにやるのか教えてもらいました。授業でやっていたもののイメージがつかめていなかったもので、結ぶことでどこが引かれるのか理解できてよかったです。シューマッハ先生にはとてもお世話になりました。昨日はレジユメのUSBを借りていたので、折り紙とお菓子を付けてお礼をしました。他には直腸検査の練習と、食道チューブを入れる練習を実際にやらせてもらいました。また見えていたのですが、腹水をとる練習、硬膜外麻酔、留置を入れる練習をしていました。学生二人に馬が一頭いる状態で、うらやましい環境でした。馬の直検は初めてやりました。雄馬で、脾臓かなと思うものが分かるだけでしたが、経験できて良かったです。食道チューブは入れた後、どこにあるか見て、触ってみて、においをかいで、息を吐いてみて、音を聞いて（ぼこぼこという音）、気管に入っていないか確認しました。今日は自分がやらせてもらえることも多く、充実していました。

夕方 Paint the rock をしました。大きな岩にみんなですプレーし、いいものが出来上がりました。肩車したり、岩に登ったりしてスプレーしてとても楽しかったです。いい写真が撮れました。夜はパワポの準備をしました。

9月7日（木）

今日は Pathology に行きました。午前中は教室で臨床病理の授業に参加しました。血液塗抹も見ました。午後は6件の剖検がありました。蛇、野生の子シカ、馬の脚、牛、馬、猫という一日で盛りだくさんの症例をみる事が出来ました。北里大学では絶対に見ることが出来ない野生のシカやヘビの解剖が見ることが出来たので印象的でした。こちらは学生さんが一人一匹剖検し、時々先生にアドバイスを求めるというやり方でどんどん動いていて感心してしまいました。解剖の部屋は音楽がかかっている、

リラックスした雰囲気でした。

夜はハナさんに Walmart に連れて行ってもらいました。夕食にはハナさんオススメの Mellow Mushroom に行きました。このピザは本当においしかったです。その後はプレゼンの準備と、ハナさんへのプレゼントの作成をしました。

9月8日（金）

今日の午前中が最後のローテーションで、病理に行きました。午前中は臨床病理の授業でした。とてもわかりやすい先生と質問しやすい環境で、全て聞き取れていたらすごく勉強になるなと思ったのもったいないことをしてしまっていると感じました。お昼を食べながら昨日の剖検の振り返りと今日の剖検の説明をするところまで参加しました。私は病理学研究室に所属しているので、二日間アメリカの病理を見ることが出来たのは本当に良かったです。午後はプレゼン発表がありました。私達7人と先生の前だけで発表するかもと思ったので、直前に equine surgery や病理で教わった先生や学生が聞きに入ってきた時は、発表が一番目だった私はとても緊張しました。もっとスムーズで工夫が出来れば良かったという思いもありますが、準備時間等を考えるとそのとき出来るベストだったかなと思います。今振り返ってみると、プレゼンがあったからこそ英語で分かるまで質問したり、カルテを見せてもらったりしようと思えたので、発表の機会があつて良かったと思いました。発表が終わるとカーク先生から修了書を頂きました。プレゼンが終わってしまうと、いよいよ何もなくなってしまう感があり、寂しくなりました。大学でも、写真をたくさん撮り、時間がないなかダウンタウンにももう一度行き写真を撮って思い出をたくさん作りました。夜は川の近くの BBQ の店に行きました。ハナさん、シューマッハ先生、カーク先生も来て下さいました。シューマッハ先生は T シャツをプレゼントして下さい、最後まで色々してもらいすぎて申し訳なくなりました。おいしいステーキとお酒と、ケーキを頂き、幸せな時間でした。もっと滞在したいと心から思いました。帰ってからはカーク先生と角田先生のプレゼントを作成しました。二日連続でかなり遅くまで起きていましたが、最後の名残惜しさもあつてかみんな元気でした。今日が誕生日だった森岡君にサプライズもしました。

9月9日（土）～10日（日）

朝 5 時に起き 5 : 45 にチェックアウトするという慌ただしい朝になりました。カーク先生は早くから送り迎えしてくれて最後まで本当に感謝です。空港ではカーク先生に写真とメッセージカードを送り

ました。空港で見る朝焼けはとてもきれいで最後にふさわしかったです。シカゴ空港で乗り換え、日本時間の 10 日 15 時半頃無事に成田空港に到着しました。空港では 2 週間お世話になった角田先生にもプレゼントを渡しました。10 日が誕生日だった私に、解散前にみんなが誕生日のお祝いをしてくれました。メッセージ入りのポストカードは、飛行機の中でみんなが書いてくれたみたいで本当に嬉しかったです。時差の関係で 10 日を過ごせたのは 9 時間ほどでしたが嬉しい誕生日になりました。最終の新幹線で七戸十和田に帰り、明日からは日本での研究室生活に戻ると思うと寂しくなりました。新幹線に乗る前に食べた東京駅の寿司は本当においしくて日本に帰ってきたこと実感しました。

本当に楽しい 7 人のメンバーと角田先生でテネシー大学に行けて、充実して刺激的な 2 週間を送ることが出来ました。関わってくれた全ての方に感謝しています。ありがとうございました。

13069 立石 祐樹

8月26日（土曜日） 1日目

今日は待ちに待ったテネシーへの出発の日だ。当日の集合時間は朝 8 時頃だったので、前日に男子チームで東京入りをした。朝早くホテル出発し、羽田空港で先生と女子チームと合流した。早めの時間だったので少し話をした後朝ご飯とテネシーでお世話になるカーク先生とシューマッハ先生のお土産を買った。そして 2 時間後ついに日本を離れる時間になった。日本での検査は国内線とあまり変わりなく、みんなスムーズに通ることが出来た。国際線では 2 回の食事と 1 回の間食があつた。国際線の食事は思ったほどまずいものではなく普通に食べることが出来た。自分としては生ビールが飲み放題だったのが衝撃的だった。ダラスまでのフライト時間は 12 時間程度だったが初めての海外旅行ということもあり、興奮して一睡もすることは出来なかった。その後アメリカに到着し、人生で初めての入国審査を受けることになった。英語での受け答えが出来るか考えるととても緊張した。実際に自分の番になり検査官と話してみると向こうは僕が着ているピエロの T シャツについての質問ばかりし入国についてのことは一度も聞かれなかった。ちょっと拍子抜けだった。ダラスに到着後乗り換えまで時間があつたため、そこで昼食をとることになった。初アメリカでの初めての食事に僕たちはマックを選んだ。向こうのマックのメニューはとても見にくく、また僕たちには英語が出来る人がいなかったため適当に商

品を注文した。出来上がったアメリカのハンバーガーは日本のサイズとあまり変わらないくらいでそこまで大きくなかった。ハンバーガーを食べていると森岡君が一言「おつりが5ドル足りない・・・」。アメリカで僕たちはいきなりぼったくられた、、、。おそらく支払いを現金100ドルにしたことが原因だと思われる。アメリカではほとんどの支払いをクレジットカードで払うため少額を大きなお札で払うのはめんどくさがられ、てきとうなおつりになったのだろう。今後は大きな現金は不用意に使わないことに決めた。その後ダラスで乗り換えをして約2時間でテネシーに到着した。自分はこの2時間の間に爆睡していた。テネシーに到着するとカーク先生が僕たちを待っていてくれた。カーク先生の車に乗り、僕たちはテネシー大学の寮まで案内された。寮は本当に大学生の寮か？というほど立派な物だった。洗濯機、乾燥機、料理器具一式はもちろん食器洗浄機まであり2週間生活するうえで不便なことはないと思われた。その後夕方に僕たちはダウントウンに向かった。アメリカは日が暮れるのが遅く、7時でもとても明るかった。そして夜になり夜ご飯を食べようということになった。そこで前に先輩が言っていたアジア料理店に行くことになった。しかしそこで僕たちはアメリカの洗礼を受けることになった、、、。料理をおいしく食べ、僕たちが満足していると突然年配の店員が近づいてきてこう言った。「お前たちはマナーがなってない！」と。店員曰わくアメリカでは注文するときに手を上げたり、呼んだりするのはマナー違反らしく客は店員が来るまでじっと待ってないといけないと言うのだ。僕たちはとんでもないカルチャーショックを受けた。またもっと英語を勉強しろとのお説教まで受けてしまった。僕たちは初日からちょっと落ち込みながら一日を終えたのだった、、、。

8月27日(日曜日) 2日目

2日目の朝、僕はみんなより早く起きた。朝6時に起きてとても暇だったため、僕はひとりで町を散歩することに決めた。朝のアメリカの町は人通りがとてと少なく、1時間半近く散歩したがすれ違った人は2、3人程度だった。その後お昼になりカーク先生が迎えに着て僕たちは一緒にお昼ご飯を食べに行くことになった。お昼ご飯はメキシカン料理だったが、日本人の口に合う味ではあまりなく2日目にしてとても日本料理が恋しくなった。笑。ご飯を食べた後カーク先生が食品や日用品などの買い物に連れて行ってくれることになった。アメリカの食料品や日用品はやはり日本のものとは桁違いに大きく、どれも2週間では使い切れないものばかりだった。またアメリカの水は硬水であり日本人の口には合わ

ないと聞いていたので、僕はそこで大量の水を買った。また昨日の経験からあまり外で外食するのは怖いと思い冷凍食品もいっぱい買った。そして寮に戻り夜ご飯として早速先ほど買っておいだ冷凍食品を食べてみることにした。しかし冷凍食品も日本人の口にはあまり合わなく、またここでも日本食が恋しくなってしまった。笑。その夜に梁瀬たちが先ほど買った桃を食べようとしたところ、実は桃ではなくイチジクだったという話を聞いて日本のものとは見た目が違うんだなーと思いながらその日は就寝した。

8月28日(月曜日) 3日目 オンコロジー

3日目、ついにクリニカルローテーションが始まる日になった。その日の朝はうまく向こうの人達とコミュニケーションがとれるだろうか？ということでもとても緊張していた。朝はカーク先生の車で大学まで送ってもらい、先生に案内されそれぞれの科に行くことになった。僕の初日の場所はオンコロジーだった。結論からいうとオンコロジーは動物のTPRをはかったりしているのが主であり、ほかの時間はみんな論文を読んでいるためあまり実習には向かないところだと思った。また肝心の英語であるが発音は言われていることの2割程度しか理解出来なかった。そのため何回も聞いたり、ジェスチャーでコミュニケーションをとった。意外とこの方法でも結構コミュニケーションがとれることには驚いた。あとCan I~もかなり使える言葉だと思った。そして初日のローテーションは終了し、寮に帰ることになった。寮への帰宅は町中のバスを利用して帰ることになっていた。日本と違いバスは無料だったため何回でも好きなときにのることが出来たのでとても便利だと思った。

8月29日(火曜日) 4日目 オンコロジー

ローテーション2日目もオンコロジーだった。2日目も1日目と同じようなことをやっていたが少しだけ聴診などをさせてもらえた。また学生と先生との症例についての討論も見せてもらうことが出来た。

8月29日(水曜日) 5日目 パソロジー

3日目はパソロジーの見学に行った。午前中は生徒同士の症例討論を見せてもらった。討論している生徒は3年生だったが日本よりも高度な話し合いをしていた。午前中の討論が終わると午後は実際に病院に運ばれてきた検体の解剖があった。解剖棟は日本のものとは比較にならないほど大きかった。僕も着替えて自習に参加したが、検体の解剖は学生同士が話し合いながら生徒単独で行い先生はほとんど関与しないということに驚いた。そのため留学生の僕

もある程度解剖を手伝わせてもらうことが出来た。また自習とは関係ないが、生徒との雑談の中で、自分たちが思うほど日本という国はアメリカ人に認知されていないということが分かった。今日の自習ではイヌ、ウシの解剖を見ることが出来た。

8月30日(木曜日) 6日目 パソロジー

次の日も僕はパソロジーに行ったがこの日は土師も一緒だった。パソロジー2日目も午前中は生徒と先生との症例討論だった。そして午後は解剖だったがこの日はとても検体が多かった。また日本では見ないようなカメなどの検体もあった。カメの解剖はおなか側の甲羅を電ノコで切り内臓を見たりした。カメの肺は透明であり透き通っていたの衝撃的だった。次にウシの検体を見たが、この検体には出産間近の胎児も入っていて初めて胎児を間近で見ることが出来た。すると学生がこの胎児は君たちの解剖の練習に使っていいと言うので僕たち2人で解剖をした。アメリカというのは本当に自由でいいなと思った。その日は自由に解剖しお礼を言って終わった。

8月31日(金曜日) 7日目 インターナルメディスン

この週の最後はインターナルメディスンに行った。インターナルメディスンでは最初にウマについての講義を聴いた。その後診察室に行き診察を見してもらった。診察はほぼイヌだった。そして午前中は終了した。午後診察室に行ったがみんな症例討論会に行っていないというので整形に行きイヌの骨折の手術を見た。担当医は研修医であり創外固定をつけるのにとっても手間取っていた。この日はその手術を見て終わった。そして急いで家に帰って準備をして学長のトンプソンの家のホームパーティーに参加した。トンプソンさんの家はとても大きく庭の駐車スペースだけで十和田のイオンよりも大きかった。なかにはいってみると料理とお酒が大量においてあり、食べてみるとどれもおいしかった。ホームパーティーに呼ばれているのは1,2年生で、その光景はまるでハリウッド映画のようで自分もその世界に入ったようでとても楽しかった。

9月1日(土曜日) 8日目

この日の午前中はカーク先生とハナと一緒にノックスビルの動物園に行った。動物園では大学の人ほただで入ることが出来た。動物園内ではシューマッハ先生とも合流した。アメリカの動物園はオリが大きく動物たちの福祉がとても考えられているのだと思った。園内を回っているとチンパンジーのオリにきたところでシューマッハ先生が突然チンパンジーと対話をし始めてとても驚いた。シューマッハ先

生の謎の動きは僕たちには意味が分からなかったが、チンパンジーはとてもはしゃいでいて喜んでるように見えた。シューマッハ先生がこのチンパンジーに会うのは2年ぶりだったらしいがそれでもチンパンジーは覚えており知能の高さを感じた。そのほかにもいろいろな動物を見ることができてとても楽しかった。その後昼食を食べ、夕方からは地元のスモーキーズの試合を見に行った。スモーキーズはメジャーではなくマイナーリーグということだったが、日本とは違いマイナーリーグでも球場には人がたくさんいてサポーターの盛り上がりも試合前からすごかった。僕らも試合前にホットドッグとお酒を買い始まる試合に備えた。試合は最初はぼろ負けしていたが、後半の回で逆転して勝ったため僕たちだけでなく会場の盛り上がりもととてもすごいものだった。逆転して勝っただけでなく土師の怒濤の解説のおかげでとても楽しい試合だった。

9月2日(日曜日) 9日目

この日は午前中からスモーキーズマウンテンに登った。アメリカの山は自然豊かでとてもいい景色だった。そこで食べた初サブウェイもとてもおいしく感じた。山では人がすぐ間近で野生のクマを見ることが出来やっぱアメリカはすごいなと感じた。また山道ではみんな車のドアを開けっ放しで運転していたのでそれもととてもすごいと感じた。山登りのあとはカーク先生に学生たちが集まるビアガーデンに連れて行ってもらった。ビアガーデンではビールを飲みながら学生と話したり遊んだりしてとても面白かった。僕はなぜかビールの支払いはいらないと言われたためタダでビールを飲むことが出来てラッキーだった。笑。ビアガーデンを出て寮に戻ったあとみんなでウォールマートに行くことになった。ウォールマートは歩いて20分ぐらいのところがあり、歩いて行ける範囲では一番大きいショッピングセンターだった。ついってみるといろいろな商品がかなり安い値段で売られており、さすがトイザらスをつぶしただけはあるなと思った。お土産やカーク先生たちへのお礼のプレゼントもここで買うことにした。この日はいろいろなところを歩いたためとても疲れた日だった。

9月3日(月曜日) 10日目

この日は学校が休みで毎年の留学生の恒例行事であるラフティングに行った。ラフティングの場所までは3時間ぐらいかかるため車の中でみんなでずっとおしゃべりをしていた。みんなでいろいろなことをしゃべったが1番衝撃的だったのは梁瀬たちが2日目に買っていたのはやっぱり桃であり、種が入っていたためイチジクだと勘違いしたと言う話だっ

た 笑(梁瀬は桃に種があることを知らなかった、、、)。3時間話してようやくラフティングの場所に着いたが、ラフティングを実際にやる場所はずっとおくでるため着替えてまたバスに乗り現場に向かった。バスの運転はラフティングのインストラクターがやっていたがスピードがとても速く本当に死ぬかと思った 笑。やっと現場に着き実際にラフティングをやってみると川の波の勢いがすごすぎて本当に死ぬかと思った 笑。それでもラフティングはとても面白く、またみんなでやりたいと思った。

9月4日(火曜日) 11日目 リハビリテーション

今週の初めはリハビリテーションに行った。リハビリでは手術を終えたイヌ、ネコがトレッドミルやバランスボールにのったりして効果的な回復を行っていた。この頃になってくると自分もこの環境に慣れてくることができ、またリハビリテーションの人達はみんな優しい人達だったので自由に行動したり話したりすることが出来るようになっていた。リハビリテーションの人達も自分に仕事を与えてくれたりしてとてもおもしろいところだった。この日は自習が終わった後、Vol shopに行きそこでテネシーのパーカーなどのテネシーグッズを買った。

9月5日(水曜日) 12日目 リハビリテーション

今週の2日目もリハビリテーションに行った。やっている内容は昨日とあまりかわりなかったが2日目ということもありリハビリテーションの人達も昨日よりいろいろなことをやらせてくれた。また最終日のプレゼンテーションのパワポづくりのために動物がリハビリしているところを写真や動画に撮ったりした。2日目で向こうの人他ともかなり仲良くなれたため、ケーキをもらったりも出来てとてもうれしかった。

9月6日(木曜日) 13日目 エキゾチック

テネシーで最後にいく科はエキゾチックだった。ここではイヌやネコ以外の様々な動物が運ばれて診療されていた。僕が行ったときにはすでにカラスやカメが入院していた。エキゾチックでは飼い主がいる動物だけでなく、野生動物の診察も行われており、そのお金は募金で成り立っているという話を聞いて日本とは全然違うと思った。診察室にいとフェレットやオウムなど本当にいろいろな動物が運び込まれていた。その中でもとくに珍しかったのは野生のクマだった。このクマは車にはねられたらしく、今日はそのときの骨折治療の経過観察のためにきていた。クマをずっと観察しているとエキゾチックの

先生がクマに注射をするか?と言ってきた。この先生はさすがエキゾチックの先生というだけあってとてもワイルドな先生だった。留学生の僕にも友達のように接してくれていた。僕は人生でこれ以降クマに触ることはないだろうと思い、注射の場所を教えてもらいうまくクマに注射することが出来た。クマは触った感じはイヌに似ていたが腕の太さは人間の倍ぐらいはあった。とても貴重な経験をする事が出来た。その後夕方から釣り針を飲み込んだカメに内視鏡を入れて針を出そうとしていたが針に返しがついており、取り出すのが難しくまた後日ということになった。

9月7日(金曜日) 14日目 エキゾチック

今日はクリニカルローテーションの最後の日だった。最後の日は午前中だけだったが、エキゾチックの先生が動物園に連れて行ってくれるということで、それに同行して動物園に行った。エキゾチックの先生の運転で動物園まで行ったが、この先生やはりワイルドだったので運転中は後部座席の僕のとしゃべるためにずっとうしろの方を向いて運転していた。

動物園では動物にワクチン接種したり、健康かどうかを観察したりしていた。ヤマアラシの観察では落ちていた針をもらったがとても鋭く危険な武器だと思った。そして動物園から帰ってきてテネシーでのクリニカルローテーションは終了した。午後からはこのクリニカルローテーションをまとめた発表だったが、去年は担当教員の鎌田先生しかいなかったというので安心していましたが僕たちの時はカーク先生、シューマッハ先生にほかの学生もきていたのでとても緊張した。しかしプレゼンテーションも無事終わり大学を去るときにはとても名残惜しい感じがした。その日の夜は先生たちとの最後ディナーだった。プレゼントを渡したり渡されたりしてとても楽しい最後の夜だった。

9月8日(土曜日) 15日目 最終日

この日は朝早くからカーク先生の車に乗って空港まで送ってもらった。空港ではカーク先生にお礼のプレゼントを渡してから飛行機に乗り込んだ。飛行機に乗るときにはテネシーを去るのがとても悲しく感じた。飛行機では行きと違ってみんなばらばらの席だったのでとても暇だった。日本に戻ってきてみんなと別々に帰るのはすごく変な感じがしたけど、必ずまたみんなでテネシーに戻ってみたいと感じた旅だった。

最後に

テネシーでの2週間の留学は本当に毎日いろいろ

なことが起こり、全く飽きることがなく楽しい日々だった。向こうではカーク先生、シューマッハ先生、ハナがいろいろなことを提案してくれたため楽しい時間を過ごすことができた。同行教員の角田先生にも大変お世話になりました。テネシーでの2週間がこんなに楽しかったのはメンバーが最高だったかっただと思っているのでまたいつかみんなでテネシーに戻りたいと思った。

田中 聖心

8月26日(土)

出国の日である。私にとっては人生初の海外でもあり、かねてからわくわくしていた。

8時に成田空港に集合した。荷物を預ける際、メンバーが近くの席になるように考慮してもらうことができた。手続き後は2時間ほど時間があつたので、カーク先生へのお土産を購入した。全員で写真撮ってから出国した。

飛行機はとても快適だった。12時間のフライトは思っていたほど長くはなく、映画を見たり仮眠をとったりお酒を飲んだりしていたらあっという間だったように思う。

ダラス空港での入国審査はとくに問題なく終わった。空き時間はカフェに寄り、これが初アメリカ食となった。それからテネシーまで2時間ほど飛行機に乗った。

テネシーに到着すると、カーク先生が出迎えてくれた。テネシー大学までは車で送っていただいた。初めて見るアメリカの街並みは何もかもが広くて感動し、ずっと外を眺めていた。

宿に着くと、カーク先生からお土産をいただいた。いろんな雑貨が入っていてとても嬉しく、すぐに活用した。荷物を置いてからは、みんなで少し散歩をした。ダウントウンの小さなスーパーマーケットで明日の朝ごはん買った。

夜ご飯は宿近くのコンビニで買った冷凍ピザをチンした。この日のピザのおいしさは忘れられない。これから2週間が楽しみである。

8月27日(日)

集合時間は11時だった。8時に起床し、部屋のメンバーとハンバーガーを作って食べた。昨日買った「ソーセージ」と書いてあったものが、ひき肉の塊のようなものだったのには少し驚いた。そのひき肉を焼き、トマト、ソーセージ、チーズと一緒にパンにはさみ、おいしくいただいた。

11時にカーク先生が迎えに来てくださった。車内で男性陣から、アメリカのレストランでは注文の

際に店員を呼んではいけないというマナーを知ったと聞いて驚いた。

まず大学構内を案内してもらった。とにかく広いな、と思った。先生のお部屋→解剖研究室→小動物病院→大動物病院の順に廻った。

お腹が空いたところで、メキシカン料理屋に連れて行っていただいた。お通しに出てきたナチョスは量が多かった。私はチミチャンガを頼んだ。とてもおいしかったのだが、とにかく量が多くて食べきれなかった。

その後、1時間SIMONというショッピングモール内をめぐった。日本とあまり変わらない印象を受けた。ただ、トイレの場所を探すのは大変だった。ポケモン、ドラゴンボール、マリオ、日本料理店など、日本のものもたくさんあった。

その後、大きなスーパーマーケットで買い物をした。大きなカートでの買い物は新鮮だった。4日分ぐらいは買ったのに、3人で25ドルは安いと思った。

帰宅して解散した。自分の英語は想像以上に伝わらない、というのがこの日の一番の感想である。

8月28日(月)

SA Internal Medicine

朝ごはんはハム、レタス、チーズを挟んだベーグルを食べた。

朝、7時半にカーク先生が迎えに来てくださる予定だった。先生から「Traffic」と連絡が入っていた。これが交通渋滞を意味することを初めて知った。10分遅れて出発した。平日の朝の街並みは、大学生がたくさん歩いていて大学らしかった。大学Tシャツや大学キャップを身に着けている人が多く、学生は皆リュックなのが印象的だった。それから、女性の多くはショールパンだった。

動物病院に到着し、各科に振り分けられた。内科は、まず朝のICUのミーティングから始まった。何を言っているのか全くわからず、かなり焦った。テキパキしているのにピリピリしていない雰囲気はとても好印象だった。ミーティングが終わり、さっそく自分がどう動いたらいいのかわからなかった。昔日本語を勉強していたという学生の方に出逢えて、かなりフォローしてもらい、心強かった。9時になると一気に人が増え、私はカンファレンスルームに連れて行ってもらった。先生3人学生3人で、症例について話し合っていた。あとからわかったことだが、ここにいる学生は4年生の病院実習中だったそうで、今日がローテーションの初日だったそう。カンファレンス中に先生のスマホがよく鳴ったり、スモークチーズのようなものをかじったりしていたのが印象的だった。会議が終わると、皆は散っ

てしまったので、私はまた焦った。アメリカでは積極的に自分から質問してついていかなければならないとわかっていながらも、なかなか口も体も動かず、何もしない時間を多く過ごしてしまった。勇気を出して、「症例が見たい」と先生に伝えると、ボクサーの診察を見せてもらうことができた。学生が診察していて驚いた。直腸内に腫瘍があるとのことだった。問診が終わると一旦オーナーと犬に待ってもらい、学生は先生のところに行き、所見と診断、治療の方針などを話し合っていた。この後は先生も一緒に診察室に入り、オーナーと話し合っていた。

正直、午前はすごく疲れた。北里のメンバーと食事を取りながら話していると、みんな似たような感じだと聞いて少し安心した。午後からも頑張ろうと思った。

午後はまず、講義につれていってもらった。利尿作用についての講義だった。レジメなどはなく、学生はパソコンに入っているスライドに打ち込みでメモしているのが新鮮だった。講義中に積極的な質問が出ていた。学生は圧倒的に女性が多かった。

続いて、さきほどのボクサー犬のエコー検査を見せてもらった。部屋で音楽が流れていて、リラックスして処置しているようにも見えた。臓器の英語での名称がわからず、写真を撮っては検索した。そのあとは直腸検査もしていて、私もやらせてもらうことができた。腫瘍は肛門にかなり近かった。その後、小型犬の膵炎のエコー検査も見えた。

また手持無沙汰になってしまったので、部屋から出そうな人に、Can I follow you? と尋ねると、ほぼ全員が OK をくれた。17 時を過ぎると人は少なくなった。皆がパソコンかカルテに向かっていて、うまく話しかけられなかった。帰り際の看護師に院内うろうろしてもいいか聞いたら OK だった。

時間になってカーク先生の部屋に行くと、とってもおいしいコーヒーを淹れてくださった。クタクタだったので、家帰ってコーンフレークとアイス食べてからすぐに寝ることにした。アイスは想像以上に甘かった。

しゃべれず聞き取れず、を痛感した 1 日だった。それでも多くの人に親切にしてもらい、なんとか 1 日目を乗り切ることができた。

8 月 29 日 (火)

SA Internal Medicine

朝ごはんはサンドイッチを作った。昼用のサンドイッチも朝のうちに作った。

8 時に、広い講義室に連れて行ってもらい、てんかんと発作についての講義を受けた。薬の名前と作用などについて、おおよそ理解できて嬉しかった。質問が飛び交うこと、講義中にパスタを食べている

人がいることが印象的だった。

内科の部屋で今日の動きについてミーティングがあった。その後、カンファレンスルームへ向かい、昨日と同様の会議が始まった。昨日のボクサー犬の治療方針について話し合っていた。その後に行われたゼミのようなものでは、少人数で先生か学生 1 人が出した症例について、診断と治療の方針を全員で考えていた。先生は 10 分に 1 回ぐらいの頻度で電話が鳴って忙しそうだったが、会議は円滑に行われていた。

肝性脳症か猫伝染性腹膜炎の猫の浣腸を見た。予後不良と教えてくれた。処置は 2 時間ほど続き、ランチに行くタイミングはつかめなかった。

続いて咽頭食道瘻チューブ設置術を見た。日本で受けた授業で教わったのとまったく同じだった。手術後、X 線で挿入位置が正しいか確認していた。

昨日のボクサー犬の mass 切除術も見ることができた。

鼻に腫瘍のある猫の、留置の包帯を変えるのを手伝わせてもらった。その後は CT 検査とバイオプシーを行うとのことだった。耳の下に腫瘍ができた犬も来ていた。最後に、その日の症例報告会のようなものを見てから、帰宅した。

家に帰ってのんびりしていると、ホテルで火災報知器が鳴り、ホテルの中の全員が外に出されるという事件があった。誤作動だったとのことだが、詳しいことは誰もわからなかった。とにかく、大事でなくてよかったと思った。その後、7 人で情報共有もかねて、部屋でお菓子パーティーをし、23 時過ぎに解散した。

なんだかどっと疲れが出たが、少し要領がわかってきた気がする、と感じた 2 日目だった。

8 月 30 (水)

Food animal medicine

この日は 2 人での研修だったので、少し緊張が和らいでいた。8 時から患者についてのディスカッションが始まった。学生は 7 時から集合して、世話などをしていたらしい。9 時になると学生と先生全員での回診が始まり、担当患者についての説明していた。生活コントロール中の健康山羊、嘔吐・下痢・食欲不振のあるラクダ、腎不全のミニブタ、腎不全の羊、昨日胃切開手術をした豚、骨に異常のある牛、左足蹄葉炎の牛、ハイドロセラピーを実施している足の悪い牛を見た。

午前中はラクダのエコー検査を見た。流動体が見えるらしく、その位置を確認していた。腹部に見られ、穿刺して内部の液を抜いていた。ラクダの散歩にもついていった。

お昼ご飯は外で食べた。2 時間ぐらいとらせても

らい、2人で外の芝生で昼寝をした。

午後14時に行くと、子山羊が来ていた。体重測定→体温測定→聴診→糞便検査を行っていたが、元気そうだと言われて帰っていった。

腎不全の豚についての説明を聞きに行った。輸液療法中であり、一度退院してまた悪化したために来たと言っていた。

FAMACHAについても教えてもらった。内部寄生虫であり、目から目に感染するという。診断にファマチャカードを使うとの解説ももらった。

16時半ぐらいから、またディスカッションが始まった。膀胱結石についてだった。尿道瘻形成術、膀胱瘻形成術を行うとのことで、それについても詳しく話し合っていた。その後、それぞれ学生からの担当患畜についての説明があり、17時半ぐらいには終わった。

この日はカーク先生がお忙しかったので、みんな揃ってバスで帰った。この日はPANDA EXPRESSという中華料理屋さんに7人で食べに行った。

8月31日(木)

Farm animal medicine

朝はコーンフレークを食べた。この日も2人での研修だった。9時から回診が始まり、昨日のラクダ、腎不全のアルパカ、腎切開した豚などを見た。ラクダについて詳しく聞きに行くと、診断はまだ出ていないらしく、胃が悪いか感染かと言っていた。

第四胃変位の症例を見せてもらった。初めてピング音を聴診器で聞いた。瓶釣り法の手術をやっていた。胃内の空気を抜き、ローリングし、固定していた。これは最終日の症例発表に使いたいと思った。

お昼ご飯は学生ラウンジで食べた。ピザの出前をやっていたので、サンドイッチを作ってくるべきではなかったと思った。

午後は予定の外来がキャンセルになり、かなり暇だった。胃切開豚のエコー検査を見て、その後の散歩にもついていった。その豚は、組織球種の可能性があるとのことだった。慢性腎不全のアルパカのエコー検査も見た。右前肢損傷の牛のハイドロセラピーも見ることができ、ホースで水をかけて炎症を抑えていた。

17時になってミーティングが始まるかと思っていたが、この日は始まらず、30分くらいうろうろして過ごしたが、先生に挨拶してから帰宅した。

お腹がすいていたので、家に帰ってすぐにご飯を食べた。スーパーで買ったまるちゃん製麺を食べた。どんぶりが無かったため、お皿に盛った。一緒にスイカも割って食べた。

しばらく立ちっぱなしの生活が続いていたので、部屋のメンバーと少し外を走った。

9月1日(金)

Exotics

この日、初めて寝坊した。朝食を食べる時間になって、部屋のメンバーに起こしてもらった。朝食、昼食のサンドイッチは定番になってきた。この日も、2人での研修だったので、あまり緊張はしなかった。子ウサギのPain management：兎のミルクではなく、犬のミルクをやっていた。Fluidを皮下注していた。野生動物は、ある程度処置したり育てたりしたら野生に戻すらしい。リスにミルクをあげ、輸液や薬の投与を手伝わせてもらった。

外傷を負った鳩：日本の鳩よりもずいぶん小さい印象だった。Biotic medication for painと言って、メロキシカムを投与していた。

交通事故で甲羅の割れたカメ：餌は野菜やリンゴだった。

外傷を負ったニワトリ：筋肉まで傷がいつている。クロルヘキシジンで毎日消毒しているとのことだった。

酸素ボックスに入っていたラット：上部気道感染症で、顔のかゆみやくしゃみがあるという。

脱毛症のモルモット：腸に腫瘍があり、かなり重症に見えた。

骨折のラット：大腿骨骨折の疑いだったが、レントゲンを撮ると脛骨と腓骨が折れていた。外から固定していた。大腿骨骨折だとこのような治療はできないと教えてくれた。

お昼ご飯は学生ラウンジで食べた。売店でブドウかヨーグルトを買うのが恒例になってきた。

午後一は、昨日窓にぶつかったという鳩の身体検査を見た。

左手骨折、感染を起こしたモルモットのX線検査：モルモットの麻酔は初めて見た。

交通事故で甲羅の割れたカメ：甲羅の修理は初めて見た。樹脂で固めてのりどめて、注射は腕に打っていた。

脚を治療中のカラス：交叉していた脚に靴を履かせて固定し、元に戻していったと教えてくれた。少し良くなってきたとのことだった。

雌鶏：下痢が激しく、原因を探っていた。ポッコリしたものがおしりにあり、それが卵なのか腫瘍なのかをレントゲンで確認したが、卵だった。腹部の小さい破片のようなものが気になるとのことだった。

ギリギリ18時まで見学した。リスのお世話を手伝わせてもらったのはよかった。

この日の夜はパーティーだった。つれていっていただいた家が豪邸で、軽く100人以上は入っていたのではないと思う。料理もおいしく、おいしいビールも教えてもらった。ハナさんとシューマッハ

先生にも会えて、お土産を渡せた。

9月2日(土)
動物園と野球観戦。

10時集合で出発した。ZOO Knoxville という動物園に到着するまでは、30分もかからなかったように思う。ハナさんにあまり大きくない動物園だと車内で言われたが、実際はかなり大きかった。ということは、アメリカの大きな動物園とはどれほどの規模なのだろうか、と想像した。クマ、爬虫類、キリン、サイ、象、サル、ゴリラ、チンパンジー、カワウソ、ライオン、トラ、鳥、スカンク、ラクダなど、いろいろな動物を見た。象のところからはシューマッハ先生も合流し、サルとの会話を見せていただいたり、象について詳しく説明性していただいたり、とても充実していた。ラクダに\$5で乗れた。キリンはものすごく近くで見れた。お土産を見たりプレスコインをしたりして、戻ってきたのは14時ごろだった。

いったん解散して、みんなでバーガーを食べに行った。お店の人がとても親切だった。飲み物のサイズがとにかく大きかったのが印象的である。次の集合時間が17時だったので、VOL ショップをまわった。テネシーの学生が着ている服がたくさんあった。私も一着購入した。新しく買ったテネシーのパーカーを着て、野球観戦に向かった。かなり遠かったように思う。運転してくださったカーク先生には何から何まで本当にお世話になっているな、と思った。

テネシーサイドの SMOKEYS と相手サイドの GENERALS の試合だった。あまり大きな試合ではないのだろうと思っていたが、想像以上に人が入っていて、物品やお酒、食べ物の販売も充実していて楽しかった。ずっと GENERALS 優勢だったが、最終的には SMOKEYS が勝った。野球は詳しくわからなくても、雰囲気はかなり楽しめた。子供に「お金ちょうだい」とからかわれて焦ったり、おすすめで作ってもらったカクテルがすごくおいしかったり、多くの思い出ができた。

帰ったらすぐにソファーで眠ってしまった。

9月3日(日)
山登りと Beer

朝10時半に集合し、Great Smokey Mountain 国立公園に連れていってもらった。ハナさんとハナさんの友達のレッキーさんも来てくれた。サブウェイでサンドイッチを買ったら、クッキーとポテトチップスもついてきた。現地まではかなり遠く感じた。途中から景色が奥入瀬そっくりになり、ハナさんがもう山に入っていると教えてくれた。国立公園

は広すぎて車で移動らしい。車のドアを開けたまま移動して良いというのが新鮮だった。昔の家や教会の近くで一度降り、少し歩いて散策した。14時ぐらいに、川の近くでご飯を食べることになった。サブウェイのサンドイッチは日本のものとあまり変わらない印象だった。少し川で遊び、山登りをした。久々にたくさん歩いた気がして気持ちよかった。頂上で撮った写真はお気に入りの1枚となった。

その後、お土産もの屋さんをまわった。黒砂糖を作るために働いているラバがいて、印象的だった。野生の熊も見ることができ、小さくて可愛らしかった。16時近くに、宿に戻った。

少し準備をして、ビアガーデンに向かった。ハナ、レッキーさん、カーク先生はあとから来ると言われ、少し心細くなった。でもそこはお酒の力を借りてだったが、アメリカ人と話せたのは嬉しかった。大型犬がたくさんいたのは印象的だった。白熱したジェンガは忘れられない。いろいろな人とお話できたが、日本観光したことがある、という学生との会話が一番印象的だった。アメリカの獣医事情も少し理解できた気がする。クレジットを預ける方式の会計には少し不安があったが、無事会計も済み、今日1日は終わった。

9月4日(月)
ラフティング

アメリカでは、この日は祝日だった。移動時間はかなり長く、10時に集合して3時間近く車を走らせてもらったように思う。着替えて誓約書を書いたからはバスでの移動となったが、これもまた長かった。ボートを積んだ大きなバスなのにすごいスピードで走っていたので、ここで死ぬんじゃないか、と冗談を言い合った。

川に着いてからは2グループに分かれ、少しお兄さんからやり方を教わってからスタートした。想像以上に流れは急で、とにかく楽しかった。全身びしょびしょに濡れた。流れの緩やかなところで泳がせてもらったのもいい思い出になった。思ったより長い距離を下ったように思う。

帰ってきてからは少し時間があつたので、みんなで Walmart へ行き、先生方へのプレゼントの材料を買った。写真も印刷できた。日本へのお土産もここで買い、帰りはかなりの荷物だった。そこで買った冷凍食品のパスタを食べてから就寝した。

9月5日(火)
Exotics

3日ぶりのローテーションで朝早かったのと、休日に遊び疲れたのが重なり、朝は体が重かった。朝ごはんはドーナツとシリアルにヨーグルトをかけ

たもので、昼のサンドイッチも作った。

今日も2人でまわった。朝行くと、嘴を怪我したターキーコンドルと油にまみれてしまって治療したアヒル、先週の金曜日とは違う甲羅の割れたカメ、足の折れたフクロウなどが入院していた。コンドルとフクロウの餌が死んだネズミでというのには少し驚いた。油まみれになってしまったアヒルはまだ子供で、昨日保護されたらしく、洗ったと言っていた。オーナーは不明とのことだった。餌はコーンとキャベツを水に混ぜたスープだった。アヒルの採血を見た。甲羅の割れたカメに、痛みのコントロールのためにメロキシカムを筋肉注射していた。カメの保定は手伝わせてもらった。左後脚の動かない子供のモルモットが来ると、触診して軟部組織の腫れを確認し、レントゲン撮影していた。結果、脛骨のソルターハリスⅠ型成長板骨折だった。よくある症例ではないと言って、専門の先生に電話で相談していた。下痢と嘔吐をして痩せてきているタカも来て、糞便検査で何かしらの細菌が見られたが、確定診断はできないと言っていた。嘴の下に腫瘍のあるインコも来た。鳥の雄雌の区別はできないので、染色体を見てDNA検査をする必要があると教えてもらった。左後脚を怪我し、ウジがわいたアヒルの安楽死も見た。イソフルランで麻酔し、ペントバルビタール静脈注射。初めてウジを見て、気持ち悪くなった。生殖能力の無いアヒルの再診では、おむつをつけて帰ったのでとてもかわいかった。

お昼ご飯はまたラウンジで食べた。

ホッキョクグツネのジステンパーワクチン投与を見れた。羽の内側を怪我したハゲタカの羽のX線写真も見れた。リスの安楽死では、麻酔下でも最期には一声あげたのを見て複雑な気持ちになった。16時過ぎになって症例が来なさそうだったので、帰っていいか確認して帰って来た。

そろそろ症例発表用のスライドを作らなくてはまずいと思った。

9月6日(水)

Orthopedics

5時に起きていろいろやろうと目覚ましをかけたが、結局起きられなかった。朝ごはんはコーンフレークを食べた。今日は久々に1人で廻る日だったので、緊張していた。

まず、Orthopedicsに案内されると、術後の犬がICUにいた。この症例については、詳しいことはわからない。

①手術で前脚を肩から断脚した犬の包帯交換

② TPLO の再診。外を歩かせたり、触診で引き出し兆候や脛骨圧迫試験を見たり、血液塗抹をひいたりしていた。関節内の液もとっていた。あとでレン

トゲンをとるという。

③ TPLO のコリー犬。引き出し徴候と脛骨圧迫試験を見ていた。

④ Broken leg のヨークシャーテリアの包帯交換では、氷で冷やしていた。

⑤ dry eye のヨークシャーテリア。左肘がおかしく、触診で、もしかしたら三頭筋がおかしいかもしれないと言っていた。わからないので、とりあえずCT、MRI、エコー検査を行うとのことであった。

⑥シェパード。肘とお尻を怪我し、手術歴あり。異形成が悪くなってきているとのことだった。体重が減ってきており、クロスして歩く。神経学的検査をして、引き出し徴候も見ていた。背中に大きな問題があるのではないか、と先生同士で話しており、痛みを取り除くのが一番いいとクライアントに伝えていた。電話でクライアントの奥さんと話して治療方針を決め、クライアントから意思表示のサインをもらっていた。

お昼ご飯はいつもどおり。13時半に宿代の支払いもあった。

午後は骨腫瘍切除の手術を見学した。スクラブを持ってきていてよかった。廊下ですれ違った内科の看護師の方に「I miss you」と声かけてもらい、とても嬉しかった。

この後、先生方へのプレゼント写真として注文していた写真にトラブルがあった。大きさをセンチで注文したつもりが、実際はインチだったためかなり大きいものを受け取ったと、メンバーから連絡があった。全員で爆笑した。この日はペイントザロックで、これも最高に盛り上がった。

9月7日(木)

SA Rehabilitation

昨夜更かししてスライドを作っていたのもあり、寝坊した。2度目の寝坊、もう次はないと思った。朝リハビリの部屋まで連れていってもらおうと、学生は朝の動物の世話をしていた。トレッドミルやバランスボール、プールなど、見たことのない装置がたくさん置いてあって面白かった。入院している患者は、脛椎の術後のものが3例もあった。整形外科のドクターがずっといた。ひととおり、おおよその機械が動いているのは見ることができた。マッサージをして、痛覚刺激して、足を自力で曲げさせる、という処置は何度もやっていた。手術の傷周辺にレーザーをあてる治療も見れた。入院室にずっと音楽が流れているのは新鮮だった。

午後はまず、ダルメシアン針治療を見た。次いで、後脚が動かないハスキー犬の病名を聞いたところ、脊椎梗塞であることがわかった。触らせてもらったらとても硬く、トレッドミルで毎日歩かせている

とのことであった。最後に、レーザー治療についての少人数制の講義を聞いた。

この日は早めに帰れたので、ひとりで少し大学周辺を歩いてみた。学生と間違えられてアンケートを頼まれが、なんとか英語で断れたように思う。

9月8日（金）

Equine surgery

午前中、Equine surgery を見た。この日はテストだったらしく、行くとまず、学生はテスト勉強をしていると言われたので暇だった。その後、一緒にテストを受けさせてもらったが、まったくわからず問題用紙だけもらって帰ってきた。今日は特にすることは多くないらしく、外傷で首に穴が開いたドンキーの治療を見て終わった。

午後は、写真撮影をしてから症例報告会だった。7人の発表を聞くなんて、長くて寝てしまうのではないかと思っていたが、そんなことはなく、他の人の発表を聞くのも発見があって面白かった。修了書をいただいて、いよいよ終わりなのだということを実感した。大学から出る際、名残惜しくてみんなで何枚も写真を撮った。

宿に戻ってから、ステーキを食べに行くまでは1時間ほど時間があつたので、ダウントウンに行った。しかし、思ったより時間がなくて、帰りはみんなで走った。これがものすごく楽しかったのを覚えている。

夜食は、ハナさんもシューマツハ先生も来てくださり、みんなでステーキを食べた。量が多すぎて半分持って帰った。シューマツハ先生からいただいたTシャツをみんなで着て写真撮影をした。本当に帰りたくなくて泣きそうになった。ハナさんにプレゼントも渡せた。

この日の夜は荷造りもしなくてはならなかったが、先生方へのプレゼントがまだ完成していなかったのでみんなで集まって作った。帰国前日の最後の夜は、7人ではしゃいで終わった。

9月9日（土）

いよいよ帰国である。出発が早朝すぎて、まだ眠かった。カーク先生が最後にみんなにお辞儀でお別れしてくれたのがとても嬉しかった。

特にトラブルもなく成田に着いた。

多くの方の親切に助けられ、一生忘れられない2週間となった。

土師 崇史

8月26日（土）

いよいよアメリカへ出発した。飛行機内に10時間以上もいることは初めてであり、不安な部分とワクワクした部分があつた。またジェットラグもどのくらいきついのかと思っていたが、初のアメリカ行きでワクワクドキドキしたせいか、想像していたよりも眠くはならず、意外と普通にアメリカ（ダラス空港）に着くことができた。着いてからは、見るものが新鮮なものばかりで、とても胸が高鳴った。まず初めの難関である入国審査は、審査官のおじさんがとても気さくで、軽く会話をしてくれ、何事もなく通過することができ非常に安心した。次に審査を受けた立石が着ていたピエロのTシャツを、審査官のおじさんに大変気に入っていたことがとても面白かった。テネシーに着いてからは、見渡す限りアメリカ人であり、本当にアメリカに来たんだなと実感していた。夕食で、寮近くのタイ・日本食レストランに行った際、チップの払い方が分からずオドオドしていると、その方法やアメリカでのレストランのマナーをそこのおばちゃんに注意されながら教えてもらい、何とか切り抜けることができた。これから2週間、言葉や文化などいろいろなことにとっても不安ではあるが、何とか乗り越えて楽しく有意義に2週間を過ごせるように頑張りたいと思う。

8月27日（日）

アメリカ2日目。今日は集合が11時だったため、少し遅くまで寝ることができ、だいぶ身体をリフレッシュすることができた。9時過ぎぐらいに男4人で少し散歩し、Walmartの場所を確認したり、アメリカの自販機が50セントで買えることに驚いたり、横断歩道を渡りまくったり、やっぱりいろいろ面白かった。11時にKirk先生に迎えに来てもらい、大学構内を案内してもらった。施設の規模や部屋の数が北里とは比べものにならないほど大きかったり多かったりで、驚いてばかりだった。特にリハビリテーションの部屋は初めて見る機械や道具などがあり、明日からの実習が楽しみになった。ただ、施設が広すぎるため迷子にならないかどうか心配になった。その後は、初めてメキシコ料理を食べたり、初めてアメリカのスーパーでショッピングをしたりした。牛乳の賞味期限が2ヶ月であつたり、鶏肉が丸々1匹売られていたり、レジがコンベアになっていたりして、さすがアメリカだなと思った。これから自炊か冷凍食品生活になるか分からないが、どっちにしてもご飯はちゃんと食べたいと思った。

8月28日(月)

アメリカ3日目。今日から大学での実習が始まった。私は初日と2日目はリハビリテーション科で梁瀬君と一緒にあった。テネシーの中でリハビリ科は、特に力を入れており技術が進んでいると聞いていたので、とても楽しみであった。いざ始まってみると、アンダーウォータートレッドミルやランドトレッドミル、大きなプール、バランスボードなど日本ではなかなか見ることのできないものばかりで、とても刺激的で面白かった。また、リハビリ科では鍼灸治療も行っており、あらゆることを取り入れて治療を行っていることに感心した。ただ、質問などは全て英語でしなければいけなかったため、非常にそこで苦勞した。気になることや聞きたいことを英語で質問し、相手の英語の回答を聞き取ることがとても難しく何度も挫折しそうになった(というか挫折した)。また、質問することがなくなると、ほぼほぼ放置される形になって、どうしようもなくなってしまった時間もあった。しかし午後からは、相手の方からグーグル翻訳などを使って教えてくれるなどしてくれて、リハビリ科の方々は優しい人が多くて助かった。あと、ずっと立ちっぱなしであったため、終盤はかなり足が疲れた。リハビリ科は同期がもう1人いたため、まだいくらか気持ちが楽であったが、次からは1人で行動しなければいけないため、今現在、非常に不安である。ただせっかくの実習なので、ある程度の殻を破って、なるべく積極的に相手に話しかけるようこれから努力していきたいと思った。それと、やはりアメリカのご飯がジャンキーなものばかりで、日本食がとても恋しいと思っている。米が食べたい。納豆が食べたい。味噌汁が食べたい。

8月29日(火)

アメリカ4日目。今日はリハビリ科2日目だった。1日目よりも少し慣れたこともあったせいか、英語でスタッフの方々と軽い雑談などをすることができた。また、やっていることをある程度理解できたため、少しリハビリの手伝いなどもすることができ、良い経験になった。そのため、少し自分に自信もついてきた。ただ、やはり英語の長文で話しかけられたりすると、なかなか内容を理解することができないため、コミュニケーションを円滑に行うことは難しかった。その点は残りの実習で少しでも上達することに期待である。実習が終わり、寮に戻ってからは軽いハプニングがあった。部屋で夕飯としてオムレツを焼いているときに火災報知器が急に鳴り始め、サイレンのすごい大きな音が延々繰り返され、非常に驚いた。そして、念のために火を消して、外にみんな避難すると寮内のほとんどの人が出てき

ており、歩道に大勢の人たちがいた。15～20分ほどでサイレンは収まったが、まさかアメリカで火災報知器の音を聞けるとは思わなかった。その後、今回の旅で初めて、男女7人で集まって、情報交換かつお菓子パーティをした。それぞれが2日間で行った科の話を聞いたり、普通に談笑したりして非常に楽しかった。明日からは腫瘍科に2日間行くことになるので、不安ではあるが、なんとかコミュニケーションをとれるよう努力して、良い勉強になるようにしたいと思う。

8月30日(水)

アメリカ5日目。今日からは腫瘍科の見学であった。午前中は8,9件の症例が来て、TPRの測定や採血など基本的な検査をしていた。午後は、午前に検査した症例について経過がどうであるかや、どんな処置を行うべきかを会議で話し合っていた。私は、午前は何もできずただ見ているだけであり、午後は会議の席に座らせてもらったが、正直ドクターたちの英語がよく分からず、あまり内容が分からなかった。そのため英語をもっと勉強しなければいけないと心の中でずっと思っていた。また、午前の診察を見ているとアメリカのスタッフは手際がとてもよく、一つ一つの仕事がとても早いと思った。しかし、やっていることは北里大学動物病院とそこまで変わらないものだったので、あまり新鮮さが感じられなかった。もっと先進的な放射線治療などが見られると思っていたので、少し残念であった。実習が終わってからは、男女7人で雨の中、テネシー大学のフードコートに行き、先輩におすすめされたパングエクスプレスというアメリカの中華料理店で夕飯を食べた。そこで、店員とうまく英語でコミュニケーションがとれず、とても苦勞した。最終的に、言っていることは理解できたので何とか買うことができた。久しぶりに米を食べられてとても満足した。今日は、英語のコミュニケーションの大変さが身にしみた一日だった。

8月31日(木)

アメリカ6日目。今日は腫瘍科の予定であったが、Dr.Kirkにお願いして病理に変更してもらった。病理は立石と一緒にだったので、特に緊張もせずに実習と見学をすることができた。まず午前中に、症例についての会議を見学し、午後に剖検を行った。今回の検体は肝臓に異常のある犬や肘に異常のある猫、他に牛、亀も見ることができた。犬と猫は、異常のある部位を確認しつつ、脳や内臓の一部を切り取ってホルマリンにつけたり、ところどころ先生に教えてもらったりし、久々に解剖を行った気がした。牛は、成牛であったので体が非常に大きく、一つ一つ

の臓器がとても大きく、非常に驚いていた。また、子宮内に胎子が存在しており、それも取り出した。このとき初めて羊水を触ったが、非常に粘性が高くとてもドロツとしていた。この胎子は後で、自分たちで解剖していいと病理の学生に言われたので、立石と2人で軽い解剖を行った。臍帯もまだ残っていたので、どのように内臓とつながっているのか確認したり、成牛との違いを見たりと、普段あまりできないようなことができたので、非常に良い経験となった。また、亀の解剖は初めて見たので、とても珍しい経験をすることができた。亀の解剖で最も驚いたのが、亀の肺は透明で、そこに血管が浮き出ているようになっていくということであった。亀の内臓など全てが初めて見るようなものであったので、非常に良い経験となった。そして今日の夕飯は男子4人で近くのステーキハウスに行った。アメリカに着いて初めてのステーキであったが、毎日食べたいと思うくらいとてもおいしく、非常に満足できた。また店員さんが可愛いなと思い、これはチップを払わなければならないと思っていたが、なかなか店員さんが来なかったので渡すタイミングがよく分からず、とりあえずテーブルにチップを置いてみんなで帰った。帰ってから調べてみたが、チップの置き方はそれで良かったみたいだが、やはりチップというものは私たちには慣れないなと思った。ただ、店員さんが可愛かったのもまあいいかと思った一日だった。

9月1日(金)

アメリカ7日目。今日は軟部外科の見学をした。今日も1人だったので少し緊張していたが、軟部外科の方々がとても親切でオペが始まるとそこまで案内してくれたり、帽子やマスクの場所など教えてくれたりして、とても見学しやすかった。まず1件目のオペは、膀胱切開だった。主訴としては、血尿、膀胱の肥大化、結石であった。オペに関しては、日本と比べて器具が少し違ったり、器具出しがいなかったりしたが、手技はそこまで変わりはない。ただ日本と比べて最も大きな違いは、学生2人がガウンに着替えて、術者と助手の真横で教えてもらいながら、オペを見ていたことである。また、皮膚縫合になると学生が先生に教えてもらいながら、行っていた。このような教育方法は北里大学では見たことがなかったので、とてもうらやましいなと思った。2件目は車に引きずられて、両前後ろ足と胸部から腹部にかけてひどい傷を負った犬だった。このオペでは傷の部分の壊死しているところを、メツェンバウムなどでデブリードマンして、軟膏を塗った後ガーゼで押さえて、ベトラップでぐるぐる巻きにしていた。そのためこの子は術後の創傷管理が大変そうだなと思った。そして、今日の夕方

からは Dr.Dean の家でパーティの予定だったので、Dr.Kirk の車でそこまで移動した。テネシー大学の1, 2年生も来ると書いてあったので、どれだけ大きな家なのだろうと思っていたら、想像以上に大きな家で、庭もとても広いところであり、みんなで非常に驚いていた。そこにはハナさんとシューマッハ先生も来ていたので、2人と一緒にお酒を飲んだり、ご飯を食べたりしながら、いろいろ話ができてとても楽しかった。その後は、家の中をみんなで見に行っていたが、トレーニングルームや大きなベッドルームなど日本では見ないようなものばかりで、本当にレベルが違うなと思った。帰りの車の中ではこんこんのいろんな暴露話などで盛り上がり、とてもおもしろかった。今日のようなパーティは、今後参加できるかどうか分からないので、非常に貴重な経験ができたし、アメリカに来て1週間経って少し慣れてきて、とても楽しい1日だった。

9月2日(土)

アメリカ8日目。今日は朝から Dr.Kirk にノックスビルの動物園に連れて行ってもらった。ハナさんも一緒に来ていた。園内は日本の動物園よりもはるかに広く、回るのが大変であった。印象的だった動物では、日本であまり見ないコモドラゴンや、珍しいは虫類系の動物たち、また霊長類の動物の数も多かった。途中から Dr.Schumacher も加わって、象や霊長類の動物などの解説を行ってくれた。特に霊長類のときには、チンパンジーなどが先生のことを覚えており、動物自ら近づいてきて先生と対話をしているようでした。他には、ラクダに乗ることもできたり、キリンを間近で見ることができたりしたので非常に楽しかった。動物園が終わるとみんなでウェンディーズにランチを食べに行った。アメリカに来てあまりハンバーガーを食べていなかったもので、久々に食べられて非常に満足した。その後、夕方頃に Dr.Kirk に迎えに来てもらって野球場へ連れて行ってもらった。テネシーを本拠地としているマイナーリーグのチームであったが、観客が思っていたよりも多く、とても盛り上がっていた。私たちもそれぞれビールやホットドッグなどを買って観戦した。最初のほうは負けていたが、終盤で逆転して勝ったため非常にみんなで盛り上がるのができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。明日は午前中からハイキングの予定になっているので明日も存分に楽しみたいと思う。

9月3日(日)

アメリカ9日目。今日は Dr.Kirk に Great Smoky Mountains National Park に連れて行ってもらい、いろんなところを見て回り、その後みんなでハイキ

ングをした。また今日は、Dr.Kirk とハナさんの他に、レッキーという女性も一緒に来ていた。最初に昔の家や教会などを見たり、ロバと馬の交雑種であるミュー（ラバ）という動物を見たりした。また、他に野生の鹿や熊の親子なども見られてとてもおもしろかった。そして、川に着いたら行きがけに買っていたサンドイッチをランチとして食べて、川沿いを歩きながら頂上までハイキングをした。意外と距離があったため、だいぶ汗をかいたが頂上で写真を撮ったりしてとても楽しかった。夜は大学近くの Bear Market に行って、テネシーの学生やハナさんのボーイフレンドとゲームやピンポンをしたり、英語で会話したりして、非常に楽しかった。英語でのコミュニケーションはやはり難しかったが、なんとかグーグル翻訳を使いつつ、前よりはうまくできた気がした。

9月4日（月）

アメリカ 10 日目。今日は最も楽しみにしていたラフティングに行った。Dr.Kirk と Dr.Kirk の旦那さんに車で迎えに来てもらい、車で 2 時間ほど移動した後、目的地に到着した。そして、同意書などの手続きとラフティングについての諸注意を受け、バスで 20 分ほど移動すると川に到着した。私は人生初のラフティングであり、オールの漕ぎ方など教えてもらってから、軽くシミュレーションして川に入った。思っていたよりもかなり力を使い、また予想以上に川の流れや勢いが強く、最初は落ちそうになったこともあった。また、各ポイントで流れが激しいところがあり、めちゃくちゃ水をかぶって鼻や耳に水が入ってなかなかやばかった。しかし、慣れてくるとそういうところがとても楽しくなり、相当みんなで声を出して、騒いで楽しんだ。途中で川を泳いだりもしてとても楽しかった。日本ではなかなかできない経験であり、めちゃくちゃ楽しすぎた。おそらく今回の旅の中で最も楽しい 1 日であった。

9月5日（火）

アメリカ 11 日目。今日は軟部外科 2 日目であった。前はオペが 2 件あって、非常に見応えがあったが、今回はオペの予定が入っておらず、TPR や採血などの定期検査をひたすら見るだけであった。午後に、前回オペした車に引きずられた犬のバンテージ交換を見学させてもらった。北里大学動物病院と違い、人数がとても多いので、処置がスムーズであった。ただ、これが終わると特に見るものもなくなったので、ある程度時間が経ってから帰った。寮に帰ってからは、Dr.Kirk にもらったピーマンを天ぷらにして食べた。普通のピーマンと違って、とても甘く美味しかった。明日はエキゾで動物園に行

けるらしいのでとても楽しみである。

9月6日（水）

アメリカ 12 日目。今日はエキゾチックの実習であった。前日森岡から、動物園に行けるかもしれないと聞いていてずっと楽しみであった。朝行っただけは、まず入院している亀やアヒル、カラス、タカなどを見られて、とても興奮した。その後、動物園に車で連れて行ってもらった。初めに、とても大きなリクガメと写真を撮り、蛇やトカゲにエコーを当て、卵詰まりしてないかの確認しているのを見学させてもらった。次に、世界で 200 匹しかいない Bali Mynah という鳥の雛を見せてもらった。生後 11 日くらいであったので、まだ毛もあまり生えておらず、とても小さかった。ランチでメキシコ料理屋に連れて行ってもらったあと、動物園で 40 分フリータイムとなったので、ゴリラや虎などを見に行った。前回動物園に行ったときは雨であったが、今日は晴れていたのも動物たちも外に出ており、とても見やすかった。それから、大学へ戻り、タカの骨折の手術を見せてもらった。また、新たにリクガメとカミツキガメも入院していた。エキゾは、日常ではあまり見ない動物がたくさん見れ、またスタッフの方々がとても優しく、今までの科のなかで最も見学しやすかった。少し早く終わったので、森岡とウォルマートに先生たちへのプレゼント用の写真を受け取りに行ったら、なぜか思っていたサイズの 4, 5 倍くらいのサイズの写真を渡された。その時、よく考えたら、私たちはセンチとインチを勘違いしており、異常なサイズになっていた。渡されたときは、かなり驚いたが、森岡と爆笑していた。来年行く学生は写真のインチには気をつけてほしいと思う。その後、テネシー大学にある大きな岩にスプレーのペンキでペイントをしに行った。デザインをみんなで考えたり、1 人では届かないところには肩車や組み体操のような櫓をしたりして、とても楽しかった。今日は 1 日いろいろな経験ができ、とても楽しい 1 日であった。

9月7日（木）

アメリカ 13 日目。今日は内科の実習であった。内科には、ニックという少し日本語が話せる人がいると聞いていたので、その人を探すことから始まった。初めはなかなか来ず、本当にいるのかなと思っていたが、少し遅れてやってきた。実際に話してみると、多少聞き取りづらいところはあったが、日本語を混ぜた英語で話してくれて、とてもコミュニケーションがとりやすかった。外国人が話す日本語が多少聞き取りづらいということは、自分たちが話す英語も外国人にとっては、だいぶ聞き取りづらいのだ

ろうなと思った。また、この日はあまり内科が忙しくなかったため、後半はほとんど病院内をふらふらしていた。夜は、メローマッシュルームというピザ屋にみんなで行った。一番大きなサイズを頼むと、日本では見ないようなサイズのピザが来て、みんなで驚いた。味もおいしくとても満足できた。

9月8日(金)

アメリカ 14 日目。今日は午前中だけ実習で、午後は症例発表であった。午前の実習は昨日と一緒に、内科であった。昨日に比べて今日は症例が多く、CT 室に行ったり、採血の手伝いをしたりして面白かった。終わりがけにニックにお礼を言って、先生や他のみんなと合流した。その時、ニックがもしかしたら日本に来るかもしれないそうなので、是非来てほしいなと思った。午後の症例発表は、思ったよりもオーディエンスがいて、みんな緊張していたが、何とか全員乗り切って、最後はみんな笑顔で写真を撮ることができた。夜は Dr.Kirk に CALHOUN'S というお店に連れて行ってもらい、ハナさんと Dr.Schumacher と合流した。実はこのお店は、大きなリブソースステーキがあるところで、私が今回の研修で最も楽しみにしていたお店であった。ハーフとフルサイズがあって、私はもちろんフルサイズを頼んだ。実物を見てみると、やはりとても大きかった。ただ、意外と普通に食べれてしまったことに自分で驚いた。そして、寮に帰った後は角田先生と Dr.Kirk に渡すプレゼントを作るために、みんなで深夜まで作業をした。今回のメンバーはみんないい人たちであったので、何をしても本当に楽しかった。

9月9日(土)

アメリカ最終日。今日は朝 5 時 45 分に集合して、Dr.Kirk に ノックスビル空港に送ってもらう予定だったので、前日遅くまで起きていたが、頑張って早起きした。しかし、まさかの梁瀬と森岡が寝坊してバタバタしており、最後の最後までやらかしたなと思った。(笑)

空港に着いてからは、Dr.Kirk にプレゼントを渡し、お別れをした。その後一旦シカゴ空港を経由して、日本まで 12 時間飛行機に乗って、とうとう日本に帰ってきた。帰りは意外と早く着いた感じがした。そして、成田空港で角田先生にプレゼントを渡し、みんなで写真を撮った後、新幹線の時間まで各自でぶらぶらし、青森へ帰った。ちなみに東京駅で食べた、久々の寿司は感動するほど美味しすぎた。

今回、初の海外研修で、初めは不安ばかりであったが、現地の方々が優しく接してくれて、英語がう

まく話せなくてもどうにかすればコミュニケーションが取れることが分かり、とても有意義な日々を過ごすことができた。また、一緒にテネシーへ行ったメンバーにも恵まれ、2 週間ひたすら楽しいことばかりであった。今回の経験を、これからの獣医学を学んでいくことに活かし、さらに成長していけるように頑張っていきたいと思った。そして 2 週間お世話になった、角田先生、Dr.Kirk、本当に心から感謝申し上げます。

森岡 亮裕 Akihiro Morioka

26 日(土曜日)

日本時間の AM11:00 に日本を出発し、13 時間という長い道のりを経てアメリカはダラスに到着。機内ではたくさんの映画を観て、機内食もおいしく退屈しなかった。アメリカに着いて、まず第一の関門は税関。出国前からいろいろな人から話を聞いていて、悪いこともしていないのにドキドキしながら挑んだが、まさかの外見ゴリゴリのアメリカ人に日本語で対応されびっくりした。ダラスに着いて、とりあえずマクドナルドへ。5 ドルのハンバーガーを 100 ドル札で購入。90 ドルのお釣りが帰ってきた。そう、5 ドルぼられた。入国してわずか 20 分で洗礼を受けたのであった。(アメリカでは 100 ドル札をお店で使うのは迷惑行為のようなので、日本でドルを換金する際には 20 ドルより大きなお札は貰わないようにしたほうがいい。) その後、国内線に乗り換えてナッシュビルへ。空港でカーク先生と初対面し、挨拶をすませると早々にドミトリーへ連れて行ってもらった。部屋の広さと 1 人 1 部屋、トイレ・バス付きに感動し、全員でダウンタウンに散歩へ出かけた。そこでは日本とは雰囲気の違いが並み或るさがあり、“ああ、ついにアメリカに来たんだ!” という実感が湧いた。その後、夜ご飯を食べにドミトリーの近くのタイ & 日本食のお店へ。ここで本日の大事件が発生したのだ。僕たちは初のアメ리카での外食に心躍らせながら、普通に店に入り、普通に席に座り、普通に店員さんと呼ばび、普通に注文し、普通にご飯を食べたのだ。(ここでいう普通とは、日本人の常識として普通に振舞ったということである。) 食べ終わって、会計をしようという時だった、今まで接客してくれていた女性ではなく、オーナーらしきアジア系のおばさまが登場。閉店時間も近かったので、早く帰れということなのかなと思った瞬間、全く頭に入ってこない謎の言語で何かを言ってくるオーナー。何を言っているかは分からないが、少し怒っていることは伝わってきた。ぽかんとしていると、急に英語になり、あんたらは中国人

じゃないのか？ときかれ、日本人だと答えると、そこから英語のシャワーをあびせられた。とりあえず言われたことは、“マナーが悪すぎる！アメリカのレストランは入ってきたら入口で待っときなさい！店員も声を出してよぶものじゃない！ドリンクは先に注文するもんだ！あと、もっと英語を勉強しなさい！”最後の一言は余計なお世話だと思ったが、なるほどアメリカのマナーは日本のそれとは全く異なるんだとそこでやっと理解したのだ。良くも悪くも初日からアメリカのマナーについて怒られるという形で教わることになり、その日の夜は男子一同「アメリカ レストラン マナー」と検索して、同じサイトでマナーについて勉強しながら眠りについたのであった。

27 日（日曜日）

テネシーに到着して 2 日目。陽がまだ照り付けないくらいの早朝に、男 4 人で宿泊しているドミトリー周辺を散歩した。海外ドラマでよく見る家の外にあるソファ、駐車場がないため道路脇に路駐する大量の車、日本のより大きく色の薄いスズメに電線に引っかけられた靴など初めて見る街並みに終始驚かされながら、近くのウォールマートというスーパーに向かった。時間がまだ早かったためまだ開店していなかったの、自動販売機でジュースを買った。ここで驚いたのがお金の払い方！アメリカはカード社会であることもあって、自動販売機でクレジットカードが使用でき、そして缶ジュースは 1 本 50¢（約 55 円）。濃いめの微炭酸ポカリのようなジュースを飲みながらドミトリーに戻った。

その後すぐにカーク先生に大学につれて行っていただき、校内の案内を受けた。感想を一言で言うと、兎にも角にも広い広い広すぎる！本当に迷路のような校内だった。広い校内はそのメリットが十分に活かされていて、内視鏡検査をする部屋やリハビリをするための部屋、エサを調合するための部屋や飼主の心のケアをするための部屋などそれぞれの目的のためだけに部屋があって施設も充実していた。牛や馬、豚、ヤギなども全て校舎の中で飼育管理されていて暑くなく臭くもなく快適空間だった。馬にかぎっては校内に巨大なパドックやトレッドミルなどもあり、この辺りを見学した段階で、規模が日本と比べ物にならないと実感した。

大学の案内が終わってから、カーク先生にメキシカン料理のお店に連れて行っていただき、人生初のファヒータ（鉄板焼きを餃子の皮くらいの大きさのナンに包んで食べる料理）という料理をご馳走になった。恐ろしい量のファヒータにお腹がはちきれそうになりながらも、食後にアメリカの複合型商業施設に連れて行ってもらった。雰囲気や店の感じは

The アメリカ版イオン。そこで買ったガムはピリ辛なのに甘ったるくて、モンダミンみたいな味がした。言ってしまうと、不味かった。その後スーパーに買い出しに行き、食材をゲットして今日はドミトリーに帰宅。

ドミトリーについて晩御飯を食べ、今日も 1 日平和に終わったと思った矢先の出来事だった。本日のメインイベントはここからだったのである。食後、部屋に備え付けの食器洗浄機があること知った僕たちは、何事も楽な方を選びがちなゆとり世代の血が騒ぎ早速使用。

しかし僕たちは無知だった。僕たちは本当に何も知らなかったのである。まさか食器洗浄機に普通の食器洗い用洗剤をいれてはいけないだなんて、知らなかったのである。案の定、気が付いた時には食器洗浄機が泡を吹き、ウォンウォンウォンウォンと今にも倒れそうな声を出しながら動いていた。キッチンの床も泡だらけで、絶望し固まる男 2 人。その後掃除を終えるまでに 1 時間かかったのは言うまでもない。

28 日（月曜日）

クリニカルローテーション初日。アメリカ人の朝は早い。朝 7:30 にドミトリーを出発し、到着早々今日からお世話になる診療科へとカーク先生に案内されて、ひとりずつアメリカ人の集団の中へと放たれた。

今日お世話になった診療科は **Equine Surgery**（馬の外科）。Dr. に挨拶をすませると、早々に診療が始まった。まず初めに見たのはドンキーという小型の馬。この子は別の大きな馬に頸部を蹴られたらしく、首に大きな穴が開いていた。恐らく皆が想像するよりも立派な、列記とした穴らしい穴である。深部は頸椎まで達しており、X線を撮ると C4 の横突起は骨折していた。Dr. にグローブを渡されて触ってみろと言われたので触ってみると本当に頸に綺麗な穴がぽっかりと開いていて、馬の蹴りの衝撃の強さが垣間見れた。頸を怪我しているため首を挙げることもできず、終始首を下げた状態だった。このような症例は非常に珍しいらしく、**Equine Surgery** の先生達だけでなく放射線科の先生達も集まってみんなで治療法を考えていた。結局今日は消毒のみの治療で終わり、明日以降にどのような治療を行うかは聞くことができなかった。明日に期待したい。また、留置針を入れていた際に疑問に思ったのは刺入の方向である。犬や猫では橈側皮静脈に留置を入れるのであれば遠位から近位にむけて刺入するはずであるが、近位から遠位にむけて刺入していた。理由を聞いたものの英語力のなさから理解できずに終わってしまった。

その後もたくさんの症例をみせていただいたが、朝から夕方まで患者がたえない所であった。アメリカでは馬をペットとして飼っている人も多く、家族で馬を連れてくるといった人もよく見られ、馬に関する症例数の違いはこういった文化の違いによって生じているんだと目で見て実感した。

ここまでは初日のクリニカルローテーションが滞りなく順調に行われたかのように書いたが、実際はそうではなく、言語の違いという大きな大きな壁に非常に苦しみ、自信を失ったそんな1日だった。なにか気になって質問しても、答えてくれる側が何をいっているのかさっぱりわからないということがほとんどだった。カーク先生やハナさんが、いかに分かり易いように話をしてくださっているかということに身に染みて感じる1日であった。

1日目の終了後にカーク先生に英語で苦戦していることを伝え、たくさんトライすれば2週間後には見違えるほどになっていると励まされ、本当にそうになっている事を祈りながら床に着く、そんな1日だった。

29日（火曜日）

今日もカーク先生の車に乗って7:30にドミトリーを出発。昨日に引き続き **Equine Surgery** にお世話になった。

ぶどう膜炎になってしまった馬の予防的眼球摘出手術を行うという事で、その見学に入った。眼球を摘出するという大きな手術にもかかわらず、鎮静と鎮痛のみで手術を行っていたことと、眼球を摘出する段階以外は全ての術式を先生が説明しながら学生が行っていたことには非常に驚いた。アメリカの獣医学生は合計8年通うそうだが、実際に獣医師として社会に出る前の段階から、そのように実際の症例で自分の手を動かして手術を経験できるということは、将来獣医師として社会に出た時に非常に大きな自信になるであろうし、有意義なものであると感じた。

そして4時ごろに全ての症例が終わったので、2日間のお礼を言って **Equine Surgery** 訪問が終わった。初日は英語が聞き取れず心が折れそうになったが、2日目は慣れもあってか昨日より色々スムーズに研修ができたと思う。

帰宅し、疲れもあったので仮眠をとっていた。すると頭をカチ割るような高く響く痛い音が部屋中に鳴り響き慌てて跳ね起きた。一瞬の間に換気扇が原因か！？電気のプロペラか！？と頭に浮かんだものの電源を速攻で切ったがその音は止まない。耳を塞ぎながら自室をでると階段の火災報知器のランプが点滅し、外に出ろ！と何度も繰り返していた。これはヤバイと思い靴を履くのも眼鏡をかけるのも忘れ

て廊下に出ると何人かでてきていて、外に出ようということになった。しかしそこで思い出したのである。あつ、同室の梁瀬君を起こすのを忘れた…。ドアを叩いて何とか梁瀬君を呼び出し、ついでに靴と眼鏡をとってとりあえず外に出た。すると外には同じ建物に住む学生達が外に避難してきており、たくさんの人集りができていた。寝ぼけながらでてきて、いきなり話しかけてきた男の学生さんは「もう朝かと思ったよ～、たまにあるんだよね誤作動。」と言っていた。その男の学生さんの隣で、いきなり話しかけてきたことにイラついたのか某H君が筑豊弁で「何いきなり話しかけてきとんちゃ！」と相手が日本語を知らないことをいいことに真横で悪口を言っていたことは内緒。数分後警報器が鳴り止み、無事何事もなく部屋に戻ることができた。旅にアクシデントはつきものとはよく言ったもので、こんなことが起こるとは予想打にもしていなかった。

その後はみんなで1つの部屋に集まって、お菓子を食べながらそれぞれの昨日今日のクリニカルローテーションを報告し、談笑の後部屋に戻って寝た。

30日（水曜日）

クリニカルローテーション3日目。**SA Rehabilitation** を訪問した。

今日は佐倉さん（英語ができる！）と一緒に訪問だったこともあって、昨日よりも安心してのぞめた。部屋に入って早々、とてもフレンドリーな職員の方々に出迎えられ、挨拶をしてお土産を渡した。ベッタアシスタントの方が渡した金平糖を見て、日本のお菓子は美しい！と喜んでくれていた。**Rehabilitation** 科では入院している動物を1日かけて様々な治療法や運度を用いてリハビリを行っていた。また、入院だけでなくリハビリを受けるために訪問してくる動物もいて、1日中途切れることなく治療をしていた。

リハビリ治療には、トレッドミルという大きな水槽の中に入ったランニングマシンで歩かせたりやプールの中を泳がせて運動させたり、バランス器具を用いた運動を行なったりと日本では見たことのないような器具や設備を用いて治療を行っていた。電気治療や衝撃波による治療、大きな酸素カプセルやレーザー治療など、患者ごとに必要な処置を選んで治療を行っていた。

Dr.drum が行なっている幹細胞の研究を少しみせてくれるということで付いていくと、部屋の中にセンサーの付いた道がある実験室に連れていかれた。そこでは犬の歩行時にそれぞれの脚にかかる圧力を測る装置があり、これによって幹細胞治療の効果をみていると言っていた。正直話が難しく、いまいち理解できなかったが、とりあえず何かスゴイ！

という印象を受けた。

何が原因で来る患者が多いのか聞くと、TPLO を行なった患者が 1 番多いということだった。確かに今日見た患者のほとんどが TPLO の患者だった。他の症例には、脛骨骨折の犬が 1 匹とハンセン 3 型のヘルニアになった犬が 1 匹いた。授業ではハンセン 1 型と 2 型しか習っていなかったため、ハンセン 3 型というものがあったことに驚いた。

SA Rehabilitation は症例数が多く、どの時間も何かしらの治療を行なっているので、訪問先としてオススメである。そして何より皆フレンドリーでよく話しかけてくれ、分からないことを聞くと丁寧に教えてくれるので今日も 1 日とても有意義な時間を過ごせた。

帰宅後、雨の降る中みんなで近くのフードコートにあるパンダエクスプレスという中華料理のお店にご飯を食べに行った。初日のトラウマもあり、少しビビりながら注文したが難なく注文できてホッとした。(ここでは土師君が色々やらかしたのでその件については土師君の日記を参照)

しかし、やはりアメリカ。難なく買えたと思っていたのに気付かぬところで再びトラブルが起きていた。僕は他の男子より小さいサイズのお皿で注文したはずなのに、みんなより多く払っていたのだ。そう、空港のマクドナルドに引き続き、再びボラれたのである。やはりアメリカは恐ろしい。少し隙を見せればボラれる。恐ろしい…笑(すみません、ただの僕の確認不足です。)

31 日 (木曜日)

今日も昨日に引き続き SA Rehabilitation を見学した。

今日は昨日よりもリハビリ件数が多く、色々な犬のリハビリを見ることができた。

中でも衝撃的だったのは、バーニーズマウンテンドッグのエルビス。日本ではほとんど見ることはないであろう超大型犬で、体重はなんと 50kg!! 自分の体重と同じくらいある犬を実際に見たのは初めてであったため衝撃的であった。そして今日は大型犬だけでなく小型犬もよく見る 1 日であった。ミニチュアダックスフントやジャックラッセルテリア、シーズーなど頸椎椎間板ヘルニアでヘミラミネクトミーを行なった子や TPLO を受けた子ばかりでリハビリの内容は大型犬のそれとあまり変わりはないかった。

大きい犬をずっと見ているとたまに来る小さな犬がいつもより小さく見えてより愛おしく感じた。

アメリカに来て 5 日目になってくると、少し余裕も出て来てアメリカ人のジョークにも笑えるようになって来た。「日本は犬も小さいし、部屋も小さ

いよね!」(余計なお世話だ!」「お土産だよ! (毛玉を渡される。) これを集めると子犬が産まれるんだよ!」(まじか!) SA Rehabilitation の方々は本当に気さくで親切な方ばかりであったので、とても過ごしやすかったし、とても勉強になった。

帰宅後、今日は近くのステーキのお店にお肉を食べに行った。初日のトラウマがあったため緊張しながらも教わった通りにお店に入り、無事に注文して The America と言わんばかりのステーキを食べた。会計の時にチップをどのように払うかで悩んだが、今回は誰に怒られるでもなく無事にレストランでの食事を成功させた! (お会計は席で行います。現金で払う時は言わないとお釣りが貰えない時があるので注意。合計金額のチップは 15% くらいの額を机の上に置いて帰ること。このときお札は三つ折りにして置いた方が良い。)

今日はたくさんの動物とじかに触れ合うことができたし、念願のアメリカンステーキも食べることが出来たので充実した 1 日だった。

1 日 (金曜日)

今日は Large Animal を訪問させていただいた。ここで見るものはとても新鮮なものばかりであった。まず最初に驚いたのは牛の大きさである。肉用牛の雄牛なのだが、とにかく大きい。普段実習などで見ている日本の雌牛の 2 倍はあろうかというほどの大きさ。去勢もされていないので少し荒々しく、近くでみているだけで圧倒された。そんな牛を大きな機械で挟み込み、横に倒して鎮静剤をうつことなく蹄の治療を行っていた。この牛を倒す大きな機械を目にするのは初めての経験であったので非常に驚き、衝撃的であった。体調不良で入院していたラクダや、前十字靭帯断裂の手術を行なった牛など日本ではあまり見ることもないような症例もいて非常に新鮮だった。テネシー大学の大動物科は入院、治療全てコンクリートの屋内で行われていて、天井も高く悪臭もしない。冷房も完備されていて患者も非常に過ごしやすそうにしていた。こういう所も規模が非常に大きなアメリカならではの特徴なんだろうなと思った。

学校終了後、今日は 1、2 年生の交流パーティーが学部長の家であるということで参加させていただいた。ついて早々みなが頭に浮かんだことは、デカイ…。の一言につきるであろう。森岡の計算ではあの日招かれていた客数はおよそ 200 人。全員来ていなかったとしても 150 人はいたと思われる。日本にパーティーするから家においてとって 200 人の人が入るような家があるだろうか。うちの実家に 200 人も人が入ったらおそらく二階の床が崩れ落ちるし、窒息する人すら現れるかもしれない

い。そんな巨大な学部長トンプソン氏の家で、メキシコ料理を食べ、ビールを飲み、庭にあったロープを登って遊び、学生とお話をし、と有意義な時間を堪能して帰宅した。1週間のなれない環境でのストレスから解放されたことと、お酒が入ったこともあり、帰りの車内はいつもの10倍騒がしかった。このあたりからであろう、カーク先生に今年の学生は”different type”だと思われたのは。

2日（土曜日）

休日1日目。今日は朝からノックスビル動物園に連れて行ってもらった。やはりそこはアメリカの動物園。規模が非常に大きかった。その後、地元の野球チーム、スモーキーズの試合を観戦するため、スモーキースタジアムへ。初めて来たアメリカの球場は日本のそれとは少し雰囲気の違い、とにかく明るく賑やかなところだった。球場ではお酒もたくさん売っていて、ここでもお酒を飲むにはパスポートが必要なのでお酒を飲みたい人は注意！ホットドッグとお酒を手にししてみんなでわいわい応援しながら観る野球はものすごく楽しかった。試合もスモーキーズが8回裏に逆転するという熱い展開で勝利し、最高の気分で行った球場を後にした。

3日（日曜日）

休日2日目。朝からスモーキーマウンテンにハイキングに出かけた。

スモーキーマウンテンはアメリカでも人気の観光スポットで、カナダからアメリカンにかけて縦断するアパラチア山脈の一角をなす、それはそれは景色の美しい場所である。

今日はカーク先生とハナさん、そしてハナさんの友達のレッキーさん（new face）が同行して下さりいつも以上に賑やかな車内であった。

スモーキーマウンテンにはかつてそこに住んでいた人たちが使っていた住居や教会、お墓があり、さらに昔ながらの電気を使用しないラバや水車を利用した農産物の加工などを観ることができて昔のアメリカ人の生活風景を学ぶことができた。（十和田という桃源郷のような場所であった）

アメリカではハイキングがポピュラーなレジャーなようで、多くの家族連れで賑わっていた。虫に刺されないように虫除けをして、長袖長ズボンで、とフル装備の我々日本人に対して、半袖半ズボン、時には上裸といった格好で山を歩くアメリカ人。こういう小さなところにも文化の違いを感じながらハイキングを楽しんだ。

途中の河で食べたサンドイッチは今まで食べたサンドイッチの中で1番美味しかった。

その後地元の大学生が集まるビアガーデンに連れ

ていってくださった。

そこにはたくさんの学生さんがいて、お酒を飲みながら語らい、時には卓球をし、時にはジェンガをし、時にはボードゲームをするといった感じで、賑やかでとても楽しい場所だった。ハナさんやレッキーさん、ハナさん彼氏や友達のグレイやシューマッハ先生、カーク先生の旦那さんまで登場し、すごく賑やかでアメリカのドラマか何かの世界に入り込んでしまったかのような感覚だった。こんなに多くの外国人と、ただお酒を飲んで楽しくお話をするという機会なんて、そうめったにない経験だと思う。本当に今回の研修では獣医学以外にも貴重な体験をたくさんさせていただいていると思うと色々と考えて手配してくださっているカーク先生には感謝の気持ちでいっぱいである。

4日（月曜日）

休日3日目。今日のメインイベントは待ちに待った川下り！！！！

今日もカーク先生の運転でOcoee Riverに向かった。行く道の車内で驚愕の事実が判明！先日モモだと思って買った果物が食べてみるといちじくだったという爆笑ネタを梁瀬君がやってのけたのであるが、なんとそのいちじく、やっぱりモモだった事が判明。僕のつたない文章力ではこの面白さは伝わらないと思われるので、詳しくは梁瀬君に直接聞いてほしい。

そしてついにラフティング！契約書にサインして、肖像権を奪われて、ボートを乗せたバスに乗り込みOcoee River上流に出発！

僕たちの船頭さんはとても陽気でサービス精神旺盛な方で、途中の激流スポットでは他のボートより多く、かつ激しい激流にのまれ、完全にボートが河に浸かっている時間すらあった。激しすぎて隣に乗っていた佐倉さんが3～4回流れ落ちて来たほどだった。激流に楽しませられ、広大な自然に心癒され、それはもう楽しい楽しい時間を過ごすことができた。

帰宅後、ウォールマートにみんなで買い物へ。実は今日初めてウォールマートに行ったのだが感想はというと広い一言に尽きる！食材、家電製品、衣類にテネシーグッズなんでもここに行けば大方の物は揃うといっても過言ではない。

明日からのクリニカルローテーションに向けて、しっかりリフレッシュできたというかしすぎたくらい楽しい休日で、本当にこんなに楽しんでいいのだろうか…？とたまに我に帰るくらいには楽しい3日間、色々とお手配してくださったカーク先生には本当に頭が上がらない。

5 日（火曜日）

クリニカルローテーション 6 日目。今日はエキゾチックの部屋にお邪魔した。入院患者にはカラスや禿鷹、リス、イタチ、亀、アヒルなど、本当に日本の動物病院では専門でやっていなければそうそう見れないであろう動物たちがたくさんいた。外来でくる動物の中には、ペットとして飼われているキツネやアヒル、鷹なども来ていて、Dr にどんな動物がよく来るのかと聞くと、「Everything.」と言われるくらいには多種多様の動物が来ていた。

衝撃的だったのは、左後脚にウジが湧いたペキンダッグ。視覚的に圧倒されている間に、いつのまにか注射を打たれていて、黒い袋の中にいれられたかと思うと口を縛られていた。一瞬何をしているんだ？と思ったが、聞いてみると安楽死だった。ペットとして飼育されていたペキンダッグで、理由は分からないがウジが湧いていたらしい。予後不良でこのままだと苦しめるだけということで安楽死したとのこと。アメリカの獣医科大学では、手術や処置だけでなく、こういった安楽死の作業も学生が行っている。日本とは教育体制そのものがやはり大きく違って、学生の段階で、つまりはまだ大学という守られた社会の中で、患者に触れてたくさんの経験を積み、獣医師として多くの経験を積むことができるこの制度は素晴らしいものだと思う。

6 日（水曜日）

クリニカルローテーション 7 日目。今日も昨日に引き続き Exotics を訪問した。今日は診察がない日で、ノックスビル動物園に爬虫類の定期検診に行くということで、一緒に同行させていただいた。先日ノックスビル動物園を訪れた時とは違って、今回は関係者入り口から“日本でも動物園の裏側なんてみたことない”と思いながら入った。

動物園では定期的にヘビとトカゲの超音波診断を行なっていて、これは卵詰まりを起こしていないかをみるためのものらしい。

また、世界に 200 匹しかいないという絶滅危惧種に認定されている“Bali Mynah”という鳥の赤ちゃんを見せてもらった。この赤ちゃんはノックスビル動物園で 11 日前に産まれたばかりだということで、非常にラッキーな体験ができた。

お昼になり、動物園へ行った組全員でメキシコ料理のお店へ行った。ここでまた、森岡はアメリカンマナーの心得その 5 を習得したのである。アメリカンマナーその 5. 飲み物は料理を頼むときに水であろうが何であろうが頼むべし！基本的に今まで行ったレストランでは言わないければ水は出てこない。なので先に水を頼んでから料理を頼むと巨大な水とともに大量の料理が運ばれて来る。今日は巨大なブ

リトーを食べたが、食べ終わったときに“リトルガイ！お前それ全部食ったのか！ビックリだぜ！”と賞賛（笑われた）された。案の定動物園への帰りの車は爆睡だった。午後からは動物園を自由に歩いてみて来ていいよということで、動物園を散歩した。この間はあまり天気も良くなかったせいか動物たちもあまり活発ではなかったが、今日は快晴だったので、多くの動物が外に出て来ていて、活発に活動していた。オスのライオンや虎、ゴリラにチンパンジーにマントヒヒ、多くの動物を見て心いやされて大学に戻った。戻ると病院では入院していた鷹の手術が行われていた。骨折の手術だったが、鳥の手術なんて初めて見たので衝撃的で見入ってしまった。そのあともカラスの話を聞いたり、釣針のひっかかったカミツキガメの処置をみたりと今日も症例がてんこ盛りな Exotics であった。

クリニカルローテーション終了後は先日注文していた先生達へのプレゼント用の写真をとりにウォルマートへ。旅にトラブルは付き物とはよく行ったもので、写真 1 枚頼むだけでもこんなトラブルが起きるか ... 来年写真を頼むようなことがある場合はみなさん気をつけてくださいね。我々は 18×12“cm”の写真をお願いだつもりでいたのだが、そう…店員さんが棚から出して来たのは巨大な写真。一瞬ハジ君と顔を見合わせてそんなはずはないよねと話をした後、店員さんに渡されたのは巨大な 18×12“inch”の写真。そう我々は日本の感覚のまま 18×12 とは“cm”だと思い込んで注文してしまったのである。アメリカが“inch”社会だったなんて…たしかに体重を測るときもポンドを使っていたし、単位が違うかもしれないということも容易に想像はつくはずだったのだが、写真を頼むということだけに集中しすぎていた我々は 7 人いて誰 1 人気がついていなかったのである。写真を持ち帰って、クリニカルローテーション終了後のみんなと爆笑したのはいい思い出である。

その後大学の敷地内にある岩にペイントに出かけた。岩にスプレーでペイントをするのだが、これがまた最高に楽しかった。組体操なんて小学生以来だなどといいながら 3 人やぐらを作って岩の上の方もペイントしたり、2 回くらいの高さはあるような岩の上に登ったり、みんなでワイワイしながら塗り終えたペイントザロックは今みたどんなアートよりも価値があって最高の物に見えた。そこにはここ 1 週間弱の思い出が全部凝縮されているようにすら思えた。

今日も 1 日本当に楽しくて、こんなに楽しくていいのかと何度もつぶやきながら帰宅した。

7日目（木曜日）

クリニカルローテーション8日目、今日は整形外科を訪問した。

行って早々、今日は手術も診察も何も予定がないと言われ、軟部外科を見学することに。軟部外科も今日は診察のみで、手術は何もなかった。PSS疑いのトイブードルが来て、レントゲンを撮り、シンチグラフィーを行うなどの検査をしていた。ちょうど前期にPSSや門脈シャントについて授業で勉強していたので、実際にその患者を見たり、検査を見たりするのは理解が深まりすごくいい勉強になった。

帰宅後、みんなでハナさんおすすめのピザ屋さん“Mellow Mushroom”へ！

初日に叩き込まれたアメリカンマナーを忠実に守り、ドヤ顔をしながら難なくピザを注文。僕達もすっかりアメリカ生活に慣れてきたなと少し得意になりながら、それはそれはおいしいアメリカ最後のピザを楽しんだ。個人的に椎茸ピザが絶品だった。

帰り際に男子一同はコンビニで本場のモンスターを購入し、徹夜モードで明日のプレゼン作りにはげんだのであった。

8日（金曜日）

クリニカルローテーション9日目、今日も昨日に引き続き整形外科へ。

午前中は門脈シャントと甲状腺摘出の手術を見学した。門脈シャントの手術については昨日検査を見学させていただいたトイブードルの手術であったことと、術前にシャント血管はアメロイドリングで塞ぐんだなど軽く説明をしてくださったためやることが理解できた。甲状腺摘出術の時は、2つのお立ち台に3人で乗って術野を覗くというギリギリの闘いを音楽がかかり明るい雰囲気の手術室の中で密かに繰り広げていたため、手術が全部終わった頃には腰が逝った。

みんなで昼食をとって、いよいよプレゼンテーション。昨年話では大学の先生や学生さんは誰も聴きに来ず、鎌田先生 **only** に向けたプレゼンテーションだったと聞いていたので、余裕をぶっこいていると、なんということでしょう、開始5分前くらいからぞろぞろと人が集まってくるではありませんか。みんなで“嘘だろ…”とガクブルしながらプレゼンテーション開始。トップバッターは佐倉さん、安定した見やすく分かりやすいプレゼンテーションでジャパニーズの実力を見せ付けてくれた。2番目に立石、さすが毒性期待のホープ☆持ち前の愛嬌と英語力で見事なプレゼンテーションを行なった。3番目に僕、徹夜でなんとか作りあげたプレゼンテーションと片言の英語を駆使してなんとプレゼンテ

ーションをした。ブーイングやいびきは聞こえて来なかったもので、何とか伝えたいことは伝わったのではないかなと思う。4番目に小出さん、流暢な英語でラクダの症例発表を徹底解説、聴いていて楽しかった。5番目に梁瀬、梁瀬は昨日の晩すごく頑張ってたので丁寧に分かりやすいプレゼンテーションを作っていたため本番でもとても分かりやすかった！手書きの手術説明も素晴らしかった。6番目に田中さん、1人だけ前々日にプレゼンテーションを完成させていた猛者。肝の座りっぷりは折り紙つきで、見事なプレゼンテーションを繰り広げた。そしてラストバッター我が土師、緊張のあまりプレゼンテーション中に舌打ちと威嚇的な口調を連発するも、時折入れるジョークが功を奏しアメリカ人から笑いをとった。内容も分かりやすくいいプレゼンテーションだった。こうして無事に僕たちの長いようで短かったテネシー大学でのクリニカルローテーションは終了したのである。

解放された気持ちと、もうこの校舎に来ることもないんだという寂しい気持ちの絢交じる中、学部長トンプソンさんと写真を撮ったり、大学内を散歩して写真を撮ったりしてテネシー大学での最後の時間を過ごした。

その後カーク先生にVOL SHOPに連れて行ってもらって買い物をし、初日に行き来していたテネシーの街中を“時間がない”と焦りながら全力で走った日本人集団は我々が初かもしれない。

そして今日の夜ご飯はカーク先生やシューマッハ先生、ハナさんと共に待ちに待った“肩幅ステーキ”のお店へ！地ビールもおいしいし、ステーキも最高、このような海外の地で偶然繋がりを持った人々と言葉の壁を超えて笑いあっているその時間は本当に価値あるものだった。

ハナさんやシューマッハ先生と最後の別れを惜しみつつ、ドミトリーに帰宅して、これまたテネシーでの最後の時間を惜しんだ。7人で部屋に集まって作業をしながら、何度“ああ～帰りたくないな～”と呟いたことか。最初は言葉も通じない場所であることかとも思ったが、今思い返すとそういうこともいい思い出の1つだと思う。本当にこの2週間は何もかもが刺激的で言葉では言い表しきれなかったさんのことを学び感じた2週間だった。

この研修に参加して良かったと心からそう思いながら眠りについた最終日だった。

【総括】

テネシー大学での2週間は寝ても覚めても刺激だらけで、学校でのクリニカルローテーションは非常に勉強になったし、私生活も楽しすぎることばか

りであった。学生というこの社会に出る前の時期に、自分の今まで知らなかった世界を見て感じる事ができたという体験は、今後の自分の進路選択を含めた多くのことに影響を与えてくれるであろう。そして、この2週間の思い出は今後一生忘れることはない、そう思える程に充実し楽しい研修だった。

【来年度夏季研修に参加される方々へ】

- ・お金は現金 300 ドル (100 ドル札はいらない)、クレジットカード (VISA であれば無双できる。)
- ・個人的なクリニカルローテーションのおすすめは大動物、リハビリ (1 日でいいかも)、エキゾ
- ・ハンガー、洗濯物を干す用ロープ、ピンチ、身体を洗うタオルは持っていくと良いかも。他の物はドミトリーにあるか近くのコンビニやドラッグストアで買えます。
- ・単位には気をつけてください。(inch や cm、kg や pound)
- ・レストランでのマナーやお金の払い方は予習していった方がいいかもしれません。

13121 梁瀬 将豪

8/26 (Sat)

アメリカ時間の夜に寝れるように、初日の飛行機内は寝すぎないようにする。意外と税関で何も質問されることなく通れた宿舎がとても広くて、ベッドもソファもふかふかで快適、生活用品も困らず買いにいきやすいダウントウンでタキシードとドレスをきたカップルがたくさんいて、今日は何かあるのかと聞いたがうまく聞き取れなかったのが悔しい。マックのハンバーガーやスタバの tall サイズは日本とほとんど変わらなかった。飛行機内の映画は最新のものばかりでかなり良い、洋画を英語できいて耳を慣らそうとするがそんな簡単に慣れなかった。ドル札は細かく 1 ドルとか持つと、チップの際に便利。100 ドル札は本当に使いにくいので持たない方がいい。レストランのマナーを注意してもらった。一つのテーブルに一人のウェイターがつくため、その人が来るまで呼ばずに待つ。必要ならアイコンタクトをし、ダメなら Excuse me あるいは小さく手をあげる。大きく振るのはマナー違反。席についてから水出しや注文取りなど含めてチップに関わるため。

8/27 (Sun)

朝、7 時に起きた。時差が体に慣れておらず、2 ～ 3 時間おきに起きてしまった。集合時間まで外に散歩にでかけた。レストランが多い。

午前は Kirk 先生にテネシー大学を案内してもらった。小動物の整形、放射線学、内視鏡、軟部外科や腫瘍学などから大動物 (馬が多い、ペットとしての豚、牛もいた。) のトレッドミル、レントゲン撮影機、ICU、酸素 BOX などを見た。内視鏡専用やリハビリ専用の部屋があったりと施設が十分に整っているところが日本と大きく違った。「昼食にメキシコ料理でタコスを食べ、モールやスーパーを案内してもらった。夜はサンドイッチを作って食べた。

食器洗浄機へ食器用洗剤を入れてしまい、気づいたら泡があふれていた。食器洗浄機用の洗剤は置いてあるため、それを使うか水のみで行うべきで、食器用洗剤は入れないよう。

8/28 (Mon)

初めてのローテーションは二人で行けたため、聞き取れない内容を確認めたり、わからないことがあっても相談できたので良かった。ただ一人で行った人はだいぶナーバスになっていたのも、皆もそうなると思う。今日は小動物のリハビリ科に行けて、初めて見るものがたくさんあったためとても有意義であった。一人で行った人より幾分か楽ではあったが、初めての環境にとっても疲れた。

8/29 (Tue)

リハビリ科は二日目になるとほとんどが見たことがあるため、初日ほどの驚きがなかった。行くならば一日でいいと思った。ハリケーンが近づいたり、雨が降ることがあるため折り畳みの傘があると良い。

8/30 (Wed)

初めて一人でローテーションに行くことになり、コミュニケーションの取り方にとっても苦労した。日本にいた時よりは耳が慣れてきていると思うが、まだまだ全然わからないので、相手がせっかく優しく接してくれているのに上手く返事ができないのがとてももどかしかった。一日終えて皆で食事に行った時の安心感が大きかった。

8/31 (Thu)

昨日と同じで整形外科を見に行っていて、今日は脛骨転移術、外側関節包輪状重曹術、肩関節の整復術、FHO を見れた。また初めてアメリカでのレントゲン撮影を見れた。テネシーの人は優しく接してくれるので、挨拶と自己紹介をしていけばわかりやすく教えてくれた。英語にどうしてもつまるところはあるが、それでも自分はコミュニケーションをとろうとする姿勢が大切だと思った。夜はステーキのレ

ストランに行った。前回の反省をいかし、会計はテーブルで一括に行った。現金の場合、お釣りは言わないと返ってこないものであった。かつチップは置いて帰っていけば大丈夫。

9/1(Fri)

今日は **Exotic** を見てきた。リスにミルクや菓をあげたり、モルモットの骨折治療やレントゲン撮影、鶏の治療や、カメの骨折治療など見た。野生動物がきたり、動物園の子がきたりして日本では全く見れない動物ばかりで面白かった。ローテーションで回る際、教授や学生にちゃんと挨拶してお土産を渡せば絶対優しくしてくれるので初めは頑張っほしい。

9/2(Sat)

今日は午前中に **Kirk** 先生や **Hana** さんと一緒に動物園へいった。動物園と大学が繋がって治療をしているため、タダで入ることができた。シューマッハ先生がチンパンジーとコミュニケーションをとっているのを見て、初めて本当にコミュニケーションをとっている場を見て驚いた。

9/3(Sun)

天気も晴れてピクニック日和だった。車で1時間以上かけて **National Park** へ出かけた。**Deen** 先生の家近くでもある。自然がとても豊かでまるで奥入瀬溪流に来ているようだった。ただ野生のシカや子熊を見ることができた。子熊を見れることは稀らしい。最古の建築士の家や教会を見た。教会で歌ってピアノを弾いているのを初めて見た。途中、車の扉を開けながら景色を見たり、**married pictures** を撮っている人がいた。川辺で昼食をとり、**Smokies mountain** に登った。

夜は **Beer Bar** でビールを飲みながら外人と話したり、テーブルゲーム、卓球、フリスビーなどで遊んだ。せっかくの機会なので積極的にしゃべりにいったらいった方が悔いがない。

9/4(Mon)

アメリカでは今日が勤労感謝の日なため祝日であった。今日は、川でラフティングをした。動物園や野球観戦、**National Park** も楽しかったが今日が一番楽しかった。快晴で景色も綺麗な上に、ガイドさんが面白い人でたくさんサービスをしてくれた。流れの速いところを降りる時の水飛沫や爽快感が、アトラクションのように楽しかった。船が半分ほど沈むくらい水が入るように遊んでくれて、初めは焦って日本では考えられないと思ったが、後になると凄く楽しかった。ガイドさんが木の葉を食べなが

ら **I like salad** と言っていたのは本当に面白かった。帰ってからは初めてのウォールマートへ行った。こちらへんで一番品揃えが良く、先生方へのお礼の物を買った。

9/5(Tue)

連休中は朝もゆっくりできていたため、久々の6:30 起きは眠かった。今日は **Internal Medicine** に行った。クッシング症候群に心不全、慢性肺炎を合併した症例や **T3-L3** 間の障害による病態を示す症例など、様々な症状が複合した症例が多かった。午前は自分が担当している患者の身体検査などを行いつつカルテを作成し、本日の処置を考え、先生にチェックしてもらう。次に二人のドクターと3人の生徒が一つの部屋で症例に対するミーティングを行っていた。どんな症状があるか、そこからどんな鑑別診断が挙がり、どんな検査をすべきかと今後の治療方針をそれぞれ話合っていた。午後はミーティングでまとめた検査を行いつつ、鑑別診断を除外し治療方針を絞って先生と考えていく。また、課題として出された症例内容についてどういう症状であったかを述べ、それに対して先生からどんなことを疑うべきか、どんな検査や薬が必要かと問うため、さらに生徒が応答していた。日本と大きく違って自分が症例を担当できるため、獣医師としての診療練習を積めるところがいいと思った。さらに自分なりに治療方針を考えて、専門の先生に意見してもらうことができるため、教育制度が十分に確立していると思った。ただアメリカの獣医大学は日本よりも難関で、最低でも8年間過ごさないといけないため、卒業する年齢も高くなる傾向がある。また近年では女性がほとんどで日本との違う点でもあった。

ローテーションは、**Kirk** 先生に頼んで変更することはできるがあまりやりすぎると先生も大変なので極力最低限にする。

9/6(Wed)

今日はローテーションを変更して頂き、**Pathology** へ行った。午前は血液塗抹や血球計算を行い、演習としての症例討論をした。白衣でスライドグラスの表を拭いた後、毛細管で血液を少量垂らし、30°の角度でスライドさせると綺麗に塗抹される。血球計算は日本と同様に百分比で求めた。症例討論は、初見の内容なのでおいていかれることが多かったが、アメリカの学生は知識が豊富で先生からの症例に沿った質問をされても、普通に答えていた。また、先生が質問すると閃いた順に皆が答えていた。

午後は、剖検で本日は犬、牛、鶏、子猫、ロバ、カメを行っていた。自分は犬の解剖を初めから手伝わせて頂き、眼球や精巣、副腎の摘出など色々行え

た。神経症状や呼吸器症状が主訴であったため、異常箇所は少なかったが全体の解剖を再び行えたのは大きかった。異常箇所は前頭洞の骨奇形、肺の表層異常、小腸内腔における糜爛状のものが見られた。その後はカメの解剖を見学し、甲羅内の構造や鳥と違って両側に卵管があることが発見であった。

帰宅してからウォールマートで買い物をしたが、JCBの使い勝手が悪いため、アメリカへ行く際にクレジットカードを作るなら、Visaをお勧めする。

9/7(Thu)

今日はSoft Tissueへ行き、粘液腺嚢胞でご飯が食べにくい子や、PSS疑いでエコー検査やシンチグラフィをしている子を見た。また、たまたま熊が来ることになり、熊のレントゲン撮影を見たり触ったりすることができた。テネシー大学でも珍しかったのかたくさんの学生や教授が来ていた。

9/8(Fri) ~ 9/10(Sun)

徹夜でPower Pointを作り、そのままローテーションへ行ったためなかなか眠かった。最後の日もSoft Tissueで昨日のPSSのシャント血管結紮術や甲状腺腫瘍摘出術を見れた。最後に手術がみれて良かった。午後の発表ではEqui Surgeryの人たちやPathologyの教授が来ていただき、なかなか緊張したなで行った。テネシーは基本的にローテーションを一人で回ったり、最終日に発表があることが他大と違うが、一人で話さないといけない経験や自分が学んだことをまとめる経験は大切だなと思った。Kirk先生や角田先生、Hanaさん、誕生日の二人にもサプライズができて良かった。帰りの荷造りも液体やバッテリーなど気を付けて、キャリーバックが重くても意外と見逃してくれたりした。シカゴを経由していて、シカゴ空港は大きくお土産やお店が豊富だったが物価は高かった。

同行教員

獣医衛生学研究室 准教授

角田 勤

今回は2度目のテネシー大訪問であった。宿泊施設は獣医学部の近くの寮から少し離れたボランティアホールに変わった。部屋はとても清潔で広く、調理器具も完備されており、各部屋に洗濯機と乾燥機も備え付けられていて至れり尽くせりだった。近くにはレストランや雑貨店もあるので基本的な生活は何も困らなかった。徒歩5分程のスタジアム前から無料の大学バスが5分おき位に出ており、大学との行き来も問題なかった。また、獣医の近くには前回

なかったウォールマートが出来ており、これ以上の環境はないのではと思う。

今回の訪問で最も嬉しかったことは、前回の訪問の際にお世話になったBrace先生とお会いできたことだ。先生はもう引退されていたが、わざわざ会いにきてくださった。北里大学と交流できたことはとてもよい思い出とおっしゃっていた。お会いできると知っていたら何か感謝の品でもお渡しできたのにといいそのことはとても残念であった。

二つ目に嬉しかったことは、後任のKirk先生もBrace先生と同じように親身になって我々の活動を支えてくださったことだ。Kirk先生がいらっしゃるのならこれからのテネシー大と北里大学との国際交流も安泰であることだろう。

なにはともあれ、学生さんが安全に研修を終了できてよかったと思う。

Dr. Kirk, Dr. Schumacher, Hana, and everyone in UTCVM,

I am grateful for your support. It's my pleasure to meet you. You taught me the fun of stay at UTCVM and Tennessee. Rafting was incredible! Students, doctors and staff of UTCVM were so kind, you gave me great experiments. Especially, I appreciated for students and doctors of Farm Animal, Equine Surgery, Equine Medicine, Pathology, Dr. Kirk, Dr. Schumacher and Hana. I was able to take a lot of unforgettable things that I've never had in Japan. Thanks to your kindness, my English skill and knowledge was improved. I'll never forget your hospitality. I'd like to meet you again and go back to Knoxville someday.

Thank you.

Yuri KOIDE

Dear Dr.Kirk and all of UTCVM

I really want to say 'Thank you' for the generous hospitality you showed us during our stay in Tennessee. I could spend very good and unforgettable days. Time flies, I thought I wanted to stay more. I enjoyed clinical rotations. I could see many interesting cases that I could not see in Japan. On weekend, we liked rafting, Smoky mountains, and zoo. In addition, dormitory we stayed for two weeks was very comfortable. And

Dr.Kirk took us to the university from dormitory every day. I cannot thank you enough. I will never forget this two weeks and I want to take advantage of this experience. Thank you very much.

Yumi Sakura

Dr.Kirk,

Tannk you very much for this wonderful two weeks in Tennessee.Thanks to you,we have learned so many things.I also thank Mr.Schumacher and other teachers.Thank you for attending us too,Hana.We will definitely return to Tennessee.Please take care until that time.

Yuki Tateishi

The two weeks that I spent in Tennessee are very precious to me. Even now two weeks have passed since I came back to Japan, I remembered the days I enjoyed by watching photos. Especially Dr. Kirk, Dr. Schumacher, and Hana were really kind to us in all. With this stay, I was more interested in veterinary medicine, clinical field, English and the United States than ever. I think that this experience will surely be important in my future. I want to study about veterinary medicine more and I want to become able to speak English more. And I also want to go to America again. I sincerely thank you.

Satomi TANAKA

Dear Dr.Kirk and all of UTCVM

Thank you so much for two weeks. Thanks to Dr.Kirk and the people at University of Tennessee, I was able to spend a very meaningful two weeks. In Tennessee, I was able to do a lot of experiences I could not do in Japan. There were lots of events, so I enjoyed it very much. I hope to take advantage of this experience and study hard for my future.

I hope to see you again when I will be a good Veterinarian.

Thank you!!!!

Takafumi HAJI

To Dr.Kirk & all of UTCVM

Everything was exciting and very interesting for two weeks at the University of Tennessee. And I got to learn a lot. I'm full of gratitude. I won't forget this summer for the rest of my life. I'll keep up with my English so that I'll be able to talk to you even more in our future. Thank you very much for two weeks.

Akihiro Morioka

Dear Dr.Kirk and Tennessee people

How are you? I'm fine. Thank you very much for two weeks. We really appreciate to you.

Despite being busy, Dr,Kirk picked us up everyday and brought us to a zoo, mountain and rafting on a holiday. So we learned various things and made many good things. Thank you so much. As an aside, We watched the interaction between you and your husband and We smiled.

We were happy that Mr.Schumacher and Hana came to see us so much.

I was various things very kindly in each department people, so I was very thankful.

I never forget the events in Tennessee. Thanks for Tennessee people.

CHANGHO YANG

Dear Dr. Kirk and all the members of UTCVM,

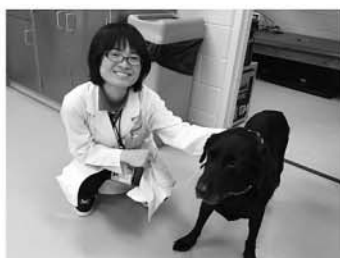
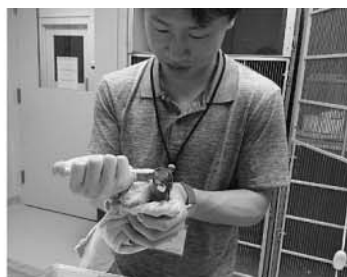
We appreciate being able to have had great experiences in Tennessee. We believe that our students never forget everything they saw and they will use these experiences for their lives. We wish your university many more successful years.

Thank you.

sutomu Kakuda





















北里大学 獣医学部 獣医学科 米国三大学夏季研修 2017

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana, <http://www.vet.purdue.edu>

出国 : 8/12 (土) 成田 16:00 発 UA 804

帰国 : 8/27 (日) 成田 15:30 着 UA 803

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia, <http://www.vet.uga.edu>

出国 : 8/12 (土) 成田 16:25 発 DL 296

帰国 : 8/27 (日) 成田 14:45 着 DL 295

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee, <http://www.vet.utk.edu>

出国 : 8/26 (土) 成田 11:05 発 AA8478

帰国 : 9/10 (日) 成田 15:55 着 AA153

学籍番号 : _____ 氏名 _____

Passport No. _____

Schedule 1 Purdue University

<http://www.vet.purdue.edu>



研修先の担当の先生：
Director of International Programs
Mr. William Smith II
wsmithi@purdue.edu



765-494-5780

研修期間の宿泊先：Purdue Village
50 Nimitz Drive
West Lafayette, IN 47906

出国：8/12（土） 成田 16:00 発 UA 804 帰国：8/27（日） 成田 1530 着 UA 803

参加者名簿（10名）

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
13005	浅川 晃士	KOJI ASAKAWA	獣医生理学
13019	岩月 照忠	TERUNARI IWATSUKI	大動物臨床学
13029	奥 美帆	MIHO OKU	獣医解剖学
13097	林 奈名子	NANAKO HAYASHI	獣医臨床繁殖学
13102	福澤 真由子	MAYUKO FUKUZAWA	獣医放射線学
13112	宮内 宏美	HIROMI MIYAUCHI	人獣共通感染症学
13116	森 賢佑	KENSUKE MORI	小動物第一内科学
13131	横家 舞	MAI YOKOYA	獣医薬理学
14503	草嶋 悠介	YUSUKE KUSAJIMA	獣医薬理学
14507	増子 隆康	TAKAYASU MASUKO	大動物臨床学

同行教員：富岡 美千子 MICHIKO TOMIOKA

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/12（土）	成田 16:00 → ワシントン DC 15:45	UA 804
	ワシントン DC 17:05 → インディアナポリス 18:56	UA 6193
8/26（土）	インディアナポリス 10:13 → ワシントン DC 11:50	UA 4824
	ワシントン DC 12:45 → 成田 15:30 <8/27（日）着>	UA 803

出国時の集合日時と場所：8/12（土）13:00
成田空港第1ターミナル／南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンター-D, E, Z 付近
http://www.narita-airport.jp/jp/t_info/UAL
(Tel : 03-6732-5011 <http://www.unitedairlines.co.jp/>)

Schedule 2 The University of Georgia

<http://www.vet.uga.edu>



THE UNIVERSITY OF GEORGIA
College of Veterinary Medicine

研修先の担当の先生 : Dr. Mary Hondalus (Associate Professor)

The University of Georgia College of Veterinary Medicine, Athens, GA 30602, USA

Tel : +1-706-542-8076 Fax : +1-706-542-5771 E-mail: hondalus@uga.edu

研修期間の宿泊先 : The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)

1197 South Lumpkin Street, Athens, GA 30602-3603

Tel : +1-706-542-2654 Fax: +1-706-542-2635

最終日 8/27 (金) -28(土) : Westin Atlanta Airport

4736 Best Road, Atlanta, GA 30337, USA

Hotel Front Desk: 1-404-762-7676

<http://www.westinatlantaairport.com>

出国 : 8/12 (土) 成田 16:525 発 DL 296 帰国 : 8/27 (日) 成田 14:45 着 DL 295

参加者名簿 (6名)

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
13018	今井 愛	MANAMI IMAI	獣医放射線学
13046	久保庭 清華	SAYAKA KUBONIWA	獣医病理学
13073	田村 彩	AYA TAMURA	小動物第二内科学
13083	中嶋 恒介	KOSUKE NAKAJIMA	実験動物学
13126	山崎 友紀子	YUKIKO YAMAZAKI	大動物臨床学
13133	渡邊 奈菜	NANA WATANABE	小動物第一外科学

同行教員 : 石野 寛和 HIROKAZU ISHINO

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/12 (土)	成田 16:25 → アトランタ 16:15	DL 296
8/26 (土)	アトランタ 11:53 → 成田 14:45 <8/27 (日) 着>	DL 295

出国時の集合日時と場所 : 8/12 (土) 13:30

成田空港第1ターミナル/北ウイング 4F デルタ航空チェックインカウンターA, B, C 付近

http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_north.html

(デルタ航空 Tel : 0570-07-7733/050-3850-8388 <http://www.delta.com/>)

Schedule 3 The University of Tennessee

<http://www.vet.utk.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. Claudia A. Kirk

(Professor, Department Head Small Animal Clinical Sciences)

University of Tennessee, College of Veterinary Medicine, PO Box 1071, Knoxville, TN 37901-1071, USA

Tel : +1-865-974-8387 Fax : +1-865-974-5554 E-mail: ckirk4@utk.edu

研修期間の宿泊先 (男性) : Volunteer Hall

1525 White Avenue, Knoxville, TN 37996, USA

Tel : +1-865-946-2566 (front desk)

研修期間の宿泊先 (女性) : Volunteer Condo

910 22nd Street, Knoxville, TN 37916, USA

Tel : なし

※宿泊施設での飲酒・喫煙は認められていません

出国: 8/26(土) 成田 11:05 発 AA8478 帰国: 9/10(日) 成田 15:55 着 AA153

参加者名簿 (7名)

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
13047	小出ゆり	YURI KOIDE	獣医臨床繁殖学
13056	佐倉由美	YUMI SAKURA	獣医病理学
13069	立石祐樹	YUKI TATEISHI	毒性学
13070	田中聖心	SATOMI TANAKA	人獣共通感染症学
13095	土師崇史	TAKAFUMI HAJI	小動物第二外科学
13117	森岡亮裕	AKIHIRO MORIOKA	獣医伝染病学
13121	梁瀬将豪	CHANGHO YANG	獣医放射線学

同行教員 : 角田 勤 TSUTOMU KAKUA

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/26 (土)	成田 11:05 → デトロイト 9:00	AA 8478
	デトロイト 12:58 → ノックスビル 16:04	AA 5835
9/9 (土)	ノックスビル 08:11 → シカゴ 09:02	AA 2965
	シカゴ 12:45 → 成田 15:55 <9/10 (日) 着>	AA 153

出国時の集合日時と場所 : 8/26 (土) 8:00

成田空港第2ターミナル3F JAL チェックインカウンターD, E 付近

http://www.narita-airport.jp/jp/t_info/AAL

(Tel : 03-4333-7675 <http://www.americanairlines.jp/>)

[illegible]

注意事項

1) 成田空港まで

成田空港ホームページ <http://www.narita-airport.jp/jp/index.html>

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。

何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。

目安の所要時間

JR：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分

成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。

京成電鉄：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。

特急約 75 分、料金 1030 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、乗り換えがあり、時間がかかりかかります。

第 2 ターミナル利用 → 空港第 2 ビル駅下車 第 1 ターミナル利用 → 成田空港駅（終点）下車
--

リムジンバス：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

2) 飛行機へのチェックイン

成田空港の各航空会社のカウンターで行います。

旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けます。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていくましょう。

これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

3) 荷物チェックリスト

手荷物

パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真 2 枚も準備しておくとう安心です）

航空券

現金／トラベラーズチェック

海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）

ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）

筆記用具

スリッパ（機内と宿舎内で便利）

クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）

その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）
一泊分の衣服（スーツケースと一緒に到着しなかった場合に重宝）

スーツケースなど

常備薬（解熱薬、虫さされ、防虫スプレー、胃腸薬等）

洗面用具（ボディソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、
歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）

洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）

デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）

衣類（圧縮袋を使うと便利）
ビニール袋（いろいろ便利）
ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）
目覚まし時計（遅刻しないように）

*眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！

- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用のトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいは TSA ロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。
http://www.narita-airport.jp/jp/dep_arr/step/t1_dep/index.html
http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou_06.html
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れないで、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

4) 報告書

学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙 5 枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータを提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。(報告書提出締切 9 月 30 (金)、同行教員まで)

5) 海外旅行保険

アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。

6) 国内連絡先

北里大学獣医学部

青森県十和田市東 23 番町 35-1 獣医生化学研究室

0176-23-4371 (内線 454)

担当者：折野 宏一 教授、 e-mail: orino@vmas.kitasato-u.ac.jp

Kitasato University,

School of Veterinary Medicine,

Higashi 23-35-1, Towada, Aomori 034-8628, JAPAN

Tel : +81-176-23-4371 Fax : +81-176-23-8703

Prof. Koichi Orino, e-mail: orino@vmas.kitasato-u.ac.jp

7) その他

パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めを書いておきましょう。出国審査官の前では混雑のため書けません。
- 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入しましょう。
その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしまいましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
- アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
- テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理して入れておきましょう。
- アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。

関連情報 <http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html>

お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express よりは VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもかもしれません。ただし、いずれにしても、最近の使用の際に 4 桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります）。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。
- チップについては、レストランでは 15%、タクシーでは 10%、ホテルではピローチップを毎朝 1 ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても 1 ドルで十分です。
- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒に置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より 1 時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安くて簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかけたい相手先の電話番号から最初の 0 をとったものを押します。また、いざという時のために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。

